

令和5年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)

# 介護福祉士養成校と実習施設が連携した実習のあり方に関する調査研究

## 報告書

令和6年3月



PwC コンサルティング合同会社



## はじめに

検討委員会 委員長 白井 孝子（東京福祉専門学校 副学校長）

介護実習においては、実習施設の実習指導者によって指導方法や指導の質に差が出ているといった課題や、養成校教員と実習指導者とで十分な連携が取れていない<sup>1</sup>といった課題が挙げられており、質の高い教育・学びの提供には、未だ改善の余地があると指摘されてきました。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により、実習先が施設系の場合で 40.5%、訪問介護事業所の場合で 19.7%に、「一部の日程を実習施設で実施できなかった」との報告<sup>2</sup>があるところ、このような場合にも教育の質を維持できるような実習に代わる演習または学内実習等の方法やその効果を明らかにした調査はこれまであまり見られていません。

そこで、本調査研究事業では、先行研究調査を踏まえて作成した調査票によるアンケート調査を実施し、介護実習における養成校及び実習施設における取組みの実態・課題を調査するとともに、これまでの新型コロナウイルス感染症の影響による演習または学内実習等の取組についても、実態の把握を試みました。さらに、アンケート調査においてヒアリング調査への協力が可能であると回答が得られた対象から、養成校3校及び当該養成校の実習施設である3施設を選定し、半構造化インタビューによるヒアリング調査を行い、養成校と実習施設との連携における好事例を抽出しました。

アンケート調査では、多くの養成校と実習施設において、双方の担当者が打合せや説明会等を通じて実習の目的・目標の共有に向けた調整を図っていることが明らかになりました。また、実習中においても、巡回指導等に実習生の個人特性、実習目標の達成状況等、様々な情報を共有しながら、利用者像の理解から介護過程の展開、コミュニケーションや根拠に基づく介護技術の実践まで、養成校と実習施設とで協力しながら体系的に学びを提供できていることが明らかになりました。

一方で、今後の検討が必要な事柄についても何点か明らかになったように思います。近年、外国人留学生の増加等を含む養成校における学生像の変化などがあり、社会人基礎力を含めた養成校での個別性を踏まえた指導を経たうえで、実習施設とも実習の目的や達成状況のすり合わせを行いながら実習を進めていくことが求められてきています。アンケート調査では、実習生の個別性を踏まえた実習施設の選定や実習指導等にも取り組んでいる養成校・実習施設の取組が明らかになりました。また、新カリキュラムの施行に伴って追加された「多職種協働の実践」、「地域における生活支援の実践」については、従来から存在する実習項目に比べると、学習の機会が十分に得られていない実態が明らかになりました。加えて、実習の評価については、養成校によって評価表や評価基準が異なるため、標準化した介護福祉士養成につながっていない可能性があるほか、複数の養成校から実習生を受け入れる実習施設にとって、書類の様式等を把握するために時間を要しているなどの実態も明らかとなりました。これらの課題に対しては、全国の養成校・実習施設で、更なる工夫・対応方針の検討をいただく必要があるほか、国や都道府県において、実習評価の標準化等に向けた対応や実習内容の充実に向けた議論を継続していく必要があると思われまます。

ヒアリング調査では、これらの課題に対して、現場での工夫により、一定の質の担保を図っている例が見られました。例えば、多職種協働、地域での生活支援の実践については、実習担当者と勤務形態を合わせ、実習担当者が出席する会議にはすべて出席し、その内容についても適宜フィードバックを通じて理解を深めていました。今後は、こういった実習における好事例が全国で共有され、各養成校・実習施設の取組につながり、更なる有益な取組が実践され、実習の質が引き上げられていくことが期待されることです。

さらに、アンケート調査では、新型コロナウイルス感染症の影響において、通常の実習で行うべき事柄のうち、実習に代わる演習または学内実習等でも行ったこと・行えなかったことも明らかになりました。今後、災害等の有事の事態において、教育・学びの質を落とさずどのように実習を継続していくか、具体的な方法論についての検討をしていく上での基礎資料となると思われまます。また、通常実習が困難な状況下においても、効果的な実習に取り組まれた養成校・実習施設の取組は、平時の介護実習においても重要な事項であり、全国の養成校・実習施設が参照されることを期待します。

既に介護実習に対応をされている養成校・実習施設の皆様方にとって、またこれから実習の受入れを考えている実習施設の皆様にとっても、本報告書が、「養成校と実習施設が連携したよりよい実習のあり方」をご検討される際の一助となることを期待しています。

1 福田 明・栗栖 照雄・渡邊 一平・横山 奈緒枝(2018). 介護実習指導者の「自信のなさ」に関する要因と改善に向けた課題の研究-面接調査結果のテキストマイニングによる分析を通じて-. 最新社会福祉学研究, 13, pp. 10

2 (公社)日本介護福祉士養成施設協会(2022). 介護福祉士養成課程における新型コロナウイルス感染症対策に関する調査研究事業報告書. 2020年全国生活協同組合連合会 こくみん共済 coop<全労済>助成事業, p. 21



# 目次

<b>0. 調査研究の概要</b>	<b>1</b>
1. 調査研究の背景と目的	1
2. 調査研究の方法	3
1) 検討委員会の設置・開催	3
2) 先行研究調査	4
3) アンケート調査の概要(調査設計)	4
4) 事例集の作成	7
<b>I. 介護実習にかかる先行研究調査結果</b>	<b>11</b>
1. 調査の対象とした資料	11
2. 先行研究の整理	12
<b>II. アンケート調査結果</b>	<b>15</b>
1. アンケート調査結果のまとめ	15
1) 養成校調査結果のまとめ	15
2) 実習施設調査結果のまとめ	19
2-1. 養成校調査の結果(詳細)	22
1) 養成校の基礎情報	22
2) 2022年度の実習に関する基礎情報	29
3) 実習の具体的取組、養成校と実習施設の連携	43
4) 代替実習の実態、実施した際に工夫した点	56
2-2. 実習施設調査の結果(詳細)	71
1) 施設・事業所の基礎情報	71
2) 2022年度の実習に関する基礎情報	79
3) 実習の具体的取組、養成校と実習施設の連携	84
4) 代替実習の実態、実施した際に工夫した点	91
5) 実習受入れにおけるメリット、困りごと	97
<b>III. 養成校と実習施設の連携にかかる事例集</b>	<b>101</b>
【事例 1-1】養成校で体系的に設置された会議体の活用により実習指導及び講義を充実させている取組	103
【事例 1-2】実習の要点の可視化により実習の質を担保している取組	105
【事例 1-3】施設の実習指導体制を整えて実習を受け入れている取組	106
【事例 1-4】実習以外でも養成校と実習施設とが連携を図っている取組	108
【事例 1-5】外国人の留学生への配慮を行い、介護の理解を深める実習指導を行っている取組	109
【事例 2-1】日ごろからの養成校と実習施設との密な連携により、実習指導が円滑に実施されている取組	111
【事例 2-2】実習担当者の業務に同行し、多職種協働も含めた実務を通じた実習指導 (OJT:ON THE JOB TRAINING)を行っている取組	112
【事例 2-3】実習報告会を通じ、養成校が地域の拠点となって現場の介護の質向上に寄与している取組	113
【事例 2-4】養成校の卒業生を介護現場でのリーダーとして育てるため、グループ形式の実習を 実施している取組	114
【事例 3-1】実習マニュアルの整備、説明会及び公開授業の開催により、 実習施設と実習目標の共有を行っている取組	115
【事例 3-2】実習施設を慎重に選定している取組	117
【事例 3-3】円滑な実習受入れ体制を構築し、実習の質を担保している取組	118
【事例 3-4】効果的な実習のあり方を養成校と実習施設双方で検討して実施した代替実習 (※新型コロナウイルスの影響による特例措置)の取組	120
【取組事例】アンケート調査自由記述より	122
<b>付属資料</b>	<b>131</b>
令和2年6月1日付文部科学省・厚生労働省通知(一部抜粋)	
介護実習に関するアンケート調査(調査票<養成校向け>)	
介護実習に関するアンケート調査(調査票<実習施設向け>)	



## 0. 調査研究の概要

### 1. 調査研究の背景と目的

介護人材の確保については、これまでの専門性や機能分化に乏しい「まんじゅう型」の状態から、多様な人材の参入を促し裾野を広げつつ、介護福祉士等による高度な専門性を担保する機能分化を実現する「富士山型」へと構造転換が進められている。また、「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」（厚生労働省、2017）では、「介護福祉士は介護現場の中核を担う役割」であることが明確に示され、かつこの役割を担うために必要な介護福祉士の機能や能力が協議された結果、「求められる介護福祉士像」が示されたところである<sup>3</sup>。

これらの検討の結果を受け、今後、求められる介護福祉士像に即した介護福祉士の養成を期待される介護福祉士養成課程においては、教育内容の見直しが行われ、2019年度から順次新カリキュラムが導入された。この新カリキュラムでは、新たに介護実習の「教育に含むべき次項」に①介護過程の実践的展開、②多職種協働の実践、③地域における生活支援の実践が明示され、「介護実習指導のためのガイドライン<sup>4</sup>」（日本介護福祉士会、2019）も作成されている。

しかしながら、介護実習においては、介護施設の実習指導者によって実習指導方法や実習指導の質に差が出ているといった課題や、実習指導者・養成校教員ともに業務に追われ、双方で十分な連携が取れておらず、実習の質が担保されていない<sup>5</sup>といった課題が挙げられており、質の高い教育・学びの提供について、未だ改善点があることがうかがえる。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、実習先が施設系の場合 40.5%、訪問介護事業所の場合 19.7%で「一部の日程を実習施設で実施できなかった」とされている<sup>6</sup>。新型コロナウイルス感染症の発生に伴う特例措置<sup>7</sup>として、実習施設等の代替が困難である場合、実状を踏まえ実習に代えて演習又は学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を修得することとして差し支えないとされており、実習施設での実習ができない場合も代替の演習又は校内実習等を実施すること（以下、代替実習\*という）により教育の質を維持できるよう創意工夫がされていると考えられるが、その実態や代替実習による効果等を明らかにした調査はこれまで見られない。

このため、本事業では、以下2点を目的とし、事業を実施した。

- 介護実習における実態の調査及び課題の整理
  - ・ 介護福祉士の養成施設や福祉系高校（以下、養成校という）と実習施設の連携について、養成校が行う実習準備や実習中の巡回指導の実態及び実習施設が行う受入れ準備や実習中の取組の実態等を調査する。
  - ・ 当該調査結果をもとに、養成校と実習施設の連携のあり方について検討を行う。
- 養成校・実習施設が参考にできる取組事例集の作成
  - ・ 養成校と実習施設の連携について、双方が参考にできるような好事例を取りまとめる。
  - ・ 今後、実習施設での実習が困難な状況（災害、感染症等）が生じた場合を想定し、代替実習での介護福祉士養成課程における教育・学びの質を担保するための工夫や効果的であった取組を収集し、事例集としてまとめる。

3 厚生労働省(2017),「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」,参照日:2023年3月28日,参照先:厚生労働省,[https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000179735.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000179735.pdf)

4 (公社)日本介護福祉士会(2019),「介護実習指導のためのガイドライン」,参照日:2023年3月28日,参照先:厚生労働省,<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000525326.pdf>

5 福田 明・栗栖 照雄・渡邊 一平・横山 奈緒枝(2018).介護実習指導者の「自信のなさ」に関する要因と改善に向けた課題の研究-面接調査結果のテキストマイニングによる分析を通じて-.最新社会福祉学研究, 13, pp.10

6 (公社)日本介護福祉士養成施設協会(2022).介護福祉士養成課程における新型コロナウイルス感染症対策に関する調査研究事業報告書.2020年全国生活協同組合連合会 こくみん共済 coop<全労済>助成事業, p.21

7 「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」(令和2年6月1日付け文部科学省・厚生労働省連名事務連絡)

### 【本調査研究における「代替実習」の定義】

本調査研究では、「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」(令和2年6月1日付け文部科学省・厚生労働省連名事務連絡)において、「新型コロナウイルス感染症の影響により、実習施設等の代替が困難である場合、実状を踏まえ実習に代えて演習又は学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を修得することとして差し支えないこと。その際、学校養成所等は学生等に対し、代替的な学修の趣旨や狙い、到達目標等について十分に説明するよう留意願いたいこと」とされたことにより、実習に代えて実施した演習又は学内実習等を「代替実習」と定義する。なお、代替実習は、新型コロナウイルス感染症の影響による特例措置であることに留意されたい。

### 【本報告書で使用する用語の定義】

用語	用語の意味や使用方法について
実習指導者 (指導責任者)	・ 養成校、実習施設ともに、実習を担当する教員・職員を取りまとめる責任者1名を指す用語として、本用語を使用している。 ・ 原則、介護福祉士実習指導者講習会の修了者である。
実習担当者	・ 実習施設の職員のうち、実習生を直接指導する職員のことを指す。 ・ 介護福祉士実習指導者講習会の修了の有無によらず、この表記を使用している。
実習生	・ 実習中の養成校の学生及び生徒のことを指す。
学生	・ 実習中か否かにかかわらず、養成施設(大学・専門学校)に所属する学生のことを指す。
生徒	・ 実習中か否かにかかわらず、福祉系高校に所属する生徒のことを指す。



## 2. 調査研究の方法

### 1) 検討委員会の設置・開催

当該分野に精通した有識者からなる検討委員会を設置し、その議論を踏まえて調査研究を進めた。  
なお、検討委員会は3回開催した。

#### 介護福祉士養成校と実習施設が連携した実習のあり方に関する調査研究 検討委員会 委員名簿

(50音順)

(検討委員会)

委員長 白井 孝子 東京福祉専門学校 副学校長  
木村 あい 神戸女子大学 健康福祉学部社会福祉学科 准教授  
真田 龍一 全国福祉高等学校長会 事務局長  
寺藤 美喜子 トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 教員  
時本 ゆかり 大阪人間科学大学 人間科学部 社会福祉学科 教授  
中野 朋和 日本介護福祉士会 副会長

(オブザーバー)

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室

(事務局)

PwC コンサルティング合同会社

安田 純子／岡田 泰治／福村 舞

表: 検討委員会 開催日程及び議題

回数	日程	議題
第1回	2023年8月29日(火) 10:00～12:00	○調査研究の目的・内容(認識の共有) ○アンケート調査票についてのディスカッション
第2回	2023年11月27日(月) 17:00～19:00	○アンケート結果に関するディスカッション ○事例集項目／事例集のためのヒアリング項目に関する ディスカッション
第3回	2024年1月23日(火) 17:00～19:00	○事業報告書(事例集含む)に関するディスカッション

## 2) 先行研究調査

本調査・研究事業を実施するにあたり、先行研究で明らかになっていることを確認し、介護実習における養成校・実習施設の指導上の課題を整理することとした。先行研究調査の結果は、以下「3) アンケート調査の概要(調査設計)」での調査票作成の基礎資料として活用した。

### (1) 先行研究調査の目的

介護実習においては、実習施設の実習担当者によって実習指導方法や実習指導の質に差が出ているといった課題や、実習担当者・養成校教員ともに業務に追われ、双方で十分な連携が取れておらず、実習の質が担保されていない<sup>8</sup>といった課題が挙げられており、質の高い教育・学びの提供について、未だ改善点があることがうかがえる。

本調査・研究事業を実施するにあたり、先行研究で明らかになっていることを確認し、介護実習における養成校・実習施設の指導上の課題を整理することとした。

表: 先行研究調査の目的

目的
介護実習における養成校・実習施設の指導上の課題を整理すること。

### (2) 先行研究の検索方法

介護福祉士養成課程における現行カリキュラムの基となる、社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会の報告書「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」(2017(平成29)年10月4日)の公表を踏まえ、2017年10月から2023年7月までに発表された国内文献を対象に、CiNiiを用いて、2023年7月6日に検索した。介護実習に関連する「介護」「実習」「指導」「課題」をキーワードにAND検索を行ったところ、計32件が該当した。

なお、該当文献数が少なかったため、査読の有無は問わず収集した。

表: 検索結果

検索キーワード	抽出期間	件数
介護 AND 実習 AND 指導 AND 課題	2017.10.01~2023.07.06	32件

## 3) アンケート調査の概要(調査設計)

### (1) 調査内容

養成校と実習施設の連携のあり方を明らかにするため、養成校・実習施設における実習の体制、具体的な取組について、全国の養成校及び当該養成校の実習施設を対象としたアンケート調査を実施した。

表: 主な調査項目

<b>【養成校調査】</b> I. 養成校の基礎情報 II. 2022年度の実習に関する基礎情報 III. 実習の具体的取組、養成校と実習施設の連携 IV. 代替実習の実態、実施した際に工夫した点
<b>【実習施設調査】</b> I. 施設・事業所の基礎情報 II. 2022年度の実習に関する基礎情報 III. 実習の具体的取組、養成校と実習施設の連携 IV. 代替実習の実態、実施した際に工夫した点 V. 実習受入れにおけるメリット、困りごと

8 福田 明・栗栖 照雄・渡邊 一平・横山 奈緒枝(2018). 介護実習指導者の「自信のなさ」に関する要因と改善に向けた課題の研究-面接調査結果のテキストマイニングによる分析を通じて-. 最新社会福祉学研究, 13, pp. 10

## (2)調査対象

### ① 養成校調査

日本介護福祉士養成施設協会の全会員施設 297 校(2023 年 8 月 1 日時点)及び全国福祉高等学校長会の会員校のうち、福祉系高校に該当する全 112 校(2023 年 8 月 1 日時点)を調査対象とした。

#### 《養成校調査 調査対象》

全国の養成校(悉皆) 409 校(うち養成施設 297 校、福祉系高校 112 校)

### ② 実習施設調査

「②実習施設調査」では、上記①養成校調査における調査対象の実習受入れ先となっている実習施設を調査対象とした。

そのため、まずは調査対象を得るため、全国の養成校(上記①養成校調査の調査対象)に対し、過去5年以内(2018 年度～2022 年度)に介護実習(ⅠまたはⅡ)の受入れ先となった施設・事業所※(最大10 施設・事業所)の情報を求める「プレ調査(養成校を対象とした実習受入れ先調査)」を実施した。

※老人福祉法上、介護保険法上、障害者総合支援法上の施設・事業所に限定

※日頃から意見交換など連携がとれている実習施設・事業所

※10 施設・事業所以上ある場合は、実習生が多い施設、かつ直近で受入れ実績のある施設・事業所の順に回答

#### 《プレ調査(養成校を対象とした実習受入れ先調査) 調査対象》

全国の養成校(悉皆) 409 校(うち養成施設 297 校、福祉系高校 112 校)

プレ調査で得られた実習施設 644 施設・事業所(重複なし)を「②実習施設調査」の調査対象とした。

#### 《実習施設調査 調査対象》

全国の実習施設(抽出) 644 施設・事業所

### (3)調査方法

#### ① 養成校調査

##### 《養成校調査 調査方法》

日本介護福祉士養成施設協会及び全国福祉高等学校長会の協力を得て、両団体から調査対象宛にメールで調査依頼状を送付いただき、WEB アンケート形式(オンライン調査)により調査票を回収した。

#### ② 実習施設調査

##### 《プレ調査(養成校を対象とした実習受入れ先調査) 調査方法》

日本介護福祉士養成施設協会及び全国福祉高等学校長会の協力を得て、両団体から調査対象宛てにメールで調査依頼状を送付いただき、WEB アンケート形式(オンライン調査)により調査票を回収した。

##### 《実習施設調査 調査方法》

弊社から、各施設・事業所宛にメールで調査依頼状を送付し、WEB アンケート形式(オンライン調査)により調査票を回収した。

### (4)調査期間

#### ① 養成校調査

##### 《養成校調査 調査期間》

2023(令和5)年9月19日発送、10月12日到着分までを有効票とした。(調査期間:24日間)

#### ② 実習施設調査

##### 《プレ調査(養成校を対象とした実習受入れ先調査) 調査期間》

2023(令和5)年8月7日発送、8月24日到着分までを有効票とした。(調査期間:18日間)

##### 《実習施設調査 調査期間》

2023(令和5)年9月19日発送、10月12日到着分までを有効票とした。(調査期間:24日間)

### (5)回収状況

#### ① 養成校調査

##### 《養成校調査 有効回答》

養成校 :146校(有効回答率:35.6%)  
— うち養成施設 84校(有効回答率:28.3%)  
— うち福祉系高校 62校(有効回答率:55.4%)

#### ② 実習施設調査

##### 《プレ調査(養成校を対象とした実習受入れ先調査) 有効回答》

養成校 :226校(有効回答率:55.2%)  
※無記名回答のため、養成施設/福祉系高校の区別は不明

##### 《実習施設調査 有効回答》

実習施設 :249施設・事業所(有効回答率:42.7%)  
※644施設・事業所のうち、メール不着となった61機関を除く583機関で計算

## 4) 事例集の作成

### (1) ヒアリング調査の実施

前述の「3) アンケート調査の概要(調査設計)」で記載したアンケート調査において、ヒアリング調査に協力可能と回答のあった養成校及び実習施設を対象に、有益な回答が得られた養成校3校及び当該養成校の実習施設である3施設を選定し、半構造化インタビューによるヒアリング調査を実施した。調査対象は、養成校向けでは実習を担当する教員における責任者、実習施設向けでは実習指導者(指導責任者)とした。ヒアリング時間はそれぞれ1時間30分ずつ、オンライン(ビデオ通話)で実施し(計6回)、事例集作成や検討委員会での議論で必要が生じた場合には、追加で確認のための聴き取りを行った。

表: 養成校向けヒアリング項目

- <実習にかかる教員体制>
  - ・ 実習担当教員人数
  - ・ 教員同士の実習内容における情報共有項目/内容/情報共有頻度
- <実習前対応>
  - ・ 評価表選定における工夫点
  - ・ 実習施設に対する実習意義/実習目的の伝達方法・伝達内容
  - ・ 学生に対する自己分析や実習目標等の指導方法・指導内容
  - ・ 実習先のマッチングに関する実施内容
  - ・ 実習前対応における実習施設職員との情報共有項目とその内容
- <実習中対応>
  - ・ 巡回指導時における、実習内容/実習目標の到達状況の確認方法
  - ・ 実習施設の実習指導担当者を行う実習の効果を高めるための方策の検討状況・検討内容
  - ・ 巡回指導時や帰校日を行う学生への個別指導の内容
  - ・ 実習中における実習施設職員との情報共有項目とその内容
- <実習後対応>
  - ・ 実習目標/実習課題の達成状況等を踏まえた学生の振り返り指導の内容
  - ・ 実習施設へ事後共有する実習結果の内容
- <代替実習対応>
  - ・ 代替実習の実施目的・実施状況(詳細)・対応内容
  - ・ 代替実習における実習効果の確認方法
  - ・ 代替実習における実習施設職員との情報共有項目とその内容
  - ・ 代替実習を行う上で必要となるツール(PC機材等々)
- <連携におけるメリット/課題>
  - ・ 日ごろからの実習施設との関係性の構築状況
    - 連携の体制
    - 連携している事柄
    - 連携によるメリット(对学校/对教員/对学生)
    - 実習施設職員との情報共有についての課題

表: 実習施設向けヒアリング項目

- <施設体制>
  - ・ 定員など(あらかじめ情報公表データを確認しておく)
- <実習受入れの目的>
  - ・ 実習受入れの目的
  - ・ 実習を受け入れる上での施設・事業所のメリット(職員教育等へのつながり等)
- <実習受入れの経緯>
  - ・ 当該学校の実習を受け入れることになった経緯
- <実習受入れ体制>
  - ・ 実習受入れ体制(配置、人員)
- <実習前対応>
  - ・ 実習受入れ全般にかかる準備(マニュアル作成等)
  - ・ 実習前に学生ごとに行う準備
  - ・ 実習前対応における養成校教員との情報共有項目とその内容
- <実習中対応>
  - ・ 実習中に学生が体験する内容とその指導内容・方法
  - ・ 実習中に養成校の教員を行う実習の効果を高めるための方策の検討状況・検討内容
  - ・ 実習中における養成校教員との情報共有項目とその内容
  - ・ 実習中における具体的な指導対応
    - 利用者の個性をどのように実習生に理解してもらっているか
    - ケアの根拠について、どのように実習生に理解してもらっているか
- <実習後対応>
  - ・ 実習評価に関する対応
- <代替実習対応>
  - ・ 代替実習の実施目的・実施状況(詳細)・対応内容
  - ・ 代替実習における実習効果の確認方法
  - ・ 代替実習における養成校教員との情報共有項目とその内容
- <連携におけるメリット/課題>
  - ・ 日ごろからの養成校との関係性の構築状況
    - 連携の体制
    - 連携している事柄
    - 連携によるメリット(対ご利用者/対施設/対職員)
    - 実習施設職員との情報共有についての課題

## (2)事例集の作成

ヒアリング内容から好事例を抽出し、事例集として取りまとめた。事例集作成後には、ヒアリング調査の対象となった養成校及び実習施設に確認を行い、完成させた。また、アンケート調査の自由記述で得られた取組についても、事例集に取りまとめ、2部構成とした。

なお、事例については、養成校及び実習施設双方の事例を1つの事例内に掲載しているケースもあることにご留意いただきたい。以下、各事例における養成校と実習施設の区分と該当番号を記載する。

**表:養成校へのヒアリング調査の対象施設**

No.	区分	事例区分												
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	3-4
1	養成校(大学)	○	○		○									
2	養成校(専門学校)						○		○	○				
3	養成校(福祉系高校)										○	○		○

**表:実習施設へのヒアリング調査の対象施設**

No.	区分	事例区分												
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	3-4
1	特別養護老人ホーム (養成校 No.1 の実習施設)	○		○	○	○								
2	特別養護老人ホーム (養成校 No.2 の実習施設)						○	○	○					
3	特別養護老人ホーム (養成校 No.3 の実習施設)										○		○	○

表:ヒアリング調査の事例 一覧

個別事例	属性		事例区分				掲載頁	
	養成校	実習施設	実習前	実習中	実習後	その他		
1-1	養成校で体系的に設置された会議体の活用により実習指導及び講義を充実させている取組	○ (大学)	○ (特養)	○	○			P103
1-2	実習の要点の可視化により実習の質を担保している取組	○ (大学)		○		○		P105
1-3	施設の実習指導体制を整えて実習を受け入れている取組		○ (特養)	○	○			P106
1-4	実習以外でも養成校と実習施設とが連携を図っている取組	○ (大学)	○ (特養)	○	○			P108
1-5	外国人の留学生への配慮を行い、介護の理解を深める実習指導を行っている取組		○ (特養)	○	○		○ (留学生対応)	P109
2-1	日ごろからの養成校と実習施設との密な連携により、実習指導が円滑に実施されている取組	○ (専門学校)	○ (特養)	○	○			P111
2-2	実習指導者の業務に同行し、多職種協働も含めた実務を通じた実習指導 (OJT : On the Job Training) を行っている取組		○ (特養)	○	○			P112
2-3	実習報告会を通じ、養成校が地域の拠点となって現場の介護の質向上に寄与している取組	○ (専門学校)	○ (特養)			○		P113
2-4	養成校の卒業生を介護現場でのリーダーとして育てるため、グループ形式の実習を実施している取組	○ (専門学校)		○	○		○ (育成指導)	P114
3-1	実習マニュアルの整備、説明会及び公開授業の開催により、実習施設と実習目標の共有を行っている取組	○ (福祉系高校)	○ (特養)	○				P115
3-2	実習施設を慎重に選定している取組	○ (福祉系高校)		○				P117
3-3	円滑な実習受入れ体制を構築し、実習の質を担保している取組		○ (特養)	○	○	○		P118
3-4	効果的な実習のあり方を養成校と実習施設双方で検討して実施した代替実習 (※新型コロナウイルス感染症の影響による特例措置) の取組	○ (福祉系高校)	○ (特養)	○	○	○	○ (代替実習)	P120





## I. 介護実習にかかる先行研究調査結果

### 1. 調査の対象とした資料

検索によって収集した 32 文献のうち、前述の目的「介護実習における養成校・実習施設の指導上の課題」について触れている論文は 14 件であった。また、これら論文以外に、関係団体等が取りまとめた報告書等も参考にし、計 22 件の資料を確認対象とした。

表：確認対象とした資料

No.	形態	タイトル	著者	出所	年
1	論文	介護福祉士養成における新カリキュラムに対応した介護実習指導者研修の現状と課題：『介護福祉士養成における効果的な介護実習のあり方に関する調査研究事業報告書』からの考察	牛田篤	同朋大学論叢 (108), 116-98, 2023-03	2023
2	論文	テキストマイニングによる介護実習指導者の属性分析から導く実習指導をめぐる課題	福田明	地域ケアリング企画編集委員会 編 24 (4), 82-85, 2022-04	2022
3	論文	介護福祉実習における指導マニュアル活用の現状と課題	河内佑美	人間福祉研究 人間福祉研究 20 2-6, 2022-03-31 広島文教大学人間福祉学会	2022
4	論文	介護実習指導者の属性からとらえる実習指導の課題	福田明	地域ケアリング企画編集委員会 編 23 (11), 48-51, 2021-10	2021
5	論文	介護実習指導者が感じる「自信のなさ」と実習指導の課題	福田明	地域ケアリング企画編集委員会 編 23 (10), 46-49, 2021-09	2021
6	論文	介護実習施設と介護福祉士養成施設との連携における現状—介護実習指導者と実習生、介護福祉士養成施設の専任教員との三者間連携の重要性—	久田貴幸 ほか	長崎国際大学教育基盤センター紀要 = The Journal of Nagasaki International University Center for Fundamental Education 4 19-35, 2021-04	2021
7	論文	ICT を用いた介護実習に関する一考察	村中典子 ほか	旭川大学短期大学部紀要 = The journal of Junior College, Asahikawa University 51 115-121, 2021-03-31	2021
8	論文	コロナ禍における介護福祉実習の学内実施の評価と課題	齋藤真木 ほか	松本短期大学研究紀要 31 49-61	2021
9	論文	介護現場のニーズにおける実習指導の検討と課題	服部優子 ほか	高田短期大学介護・福祉研究 (7) 11-18	2021
10	論文	介護職員の実習生に対する意識の構造 —アンケート調査の自由記述分析をもとに—	名定慎也	中国学園紀要 = Journal of Chugokugakuen 18 37-46	2019
11	論文	介護過程の教授方法に関する指導書の活用について：介護実習指導者への調査から見た現状と課題	平野啓介 ほか	旭川大学短期大学部紀要 = The journal of Junior College, Asahikawa University 49 27-35	2019
12	論文	施設実習での指導に関する意識調査：実習指導者から見た実習生の課題	岩本義浩 ほか	研究ジャーナル 3 (2), 81-90	2019
13	論文	介護実習指導者の「自信のなさ」に関する要因と改善に向けた課題の研究 —面接調査結果のテキストマイニングによる分析を通して—	福田明 ほか	YOKOYAMA 最新社会福祉学研究 13 1-13	2018
14	論文	本学における介護実習評価の現状と今後の課題；施設実習評価と自己評価の比較から	須江裕子	美作大学紀要 51 149-154	2018
15	報告書	「感染症の拡大や災害発生時における、持続的な社会福祉士養成教育の在り方に関する調査研究事業」実施報告書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	—	2022

No.	形態	タイトル	著者	出所	年
16	報告書	介護福祉士養成における効果的な介護実習のあり方に関する調査研究事業 報告書	日本介護福祉士会	—	2020
17	報告書	介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業 報告書	日本介護福祉士養成施設協会	—	2020
18	報告書	社会福祉士養成実習についての調査報告書	長野県社会福祉士会	—	2020
19	ガイドライン	介護実習指導のためのガイドライン	日本介護福祉士会	—	2019
20	手引き	介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き	日本介護福祉士養成施設協会	—	2018
21	報告書	看護実践能力の向上に寄与する看護教員・実習指導者の養成と継続教育に関する研究—V. 2018年度<教員調査>	奥 裕美	厚生労働省科学研究成果データベース 文献番号 201821009A	2018
22	報告書	看護実践能力の向上に寄与する看護教員・実習指導者の養成と継続教育に関する研究—VI. 2018年度<実習施設調査>	奥 裕美	厚生労働省科学研究成果データベース 文献番号 201821009A	2018

以下、上記資料の記載内容を述べるが、当該資料の参考文献の内容に関しても触れていることにご留意いただきたい。

## 2. 先行研究の整理

先行研究で明らかになっている介護実習における養成校・実習施設の指導上の課題を養成校・実習施設の区分で整理した。また、介護実習における全般的な課題とオンラインによる代替実習での課題を分けて整理した。

	養成校
介護実習における全般的な課題	<b>【指導体制】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>実習目的／実習意義の共有化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成校で策定する実習目的や実習意義が実習施設に伝わらず、養成校の求める実習内容が実習施設でできていない <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 対応策：指導書の内容理解が不十分な場合、養成校教員から実習指導者へ伝達の機会を設ける</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
	<b>【指導内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>社会人としての資質向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般常識や学力、社会性に欠ける実習生が見受けられる <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 対応策①：実習指導者や介護職員に、実習の場で学びながら、社会性を身につけさせていくという意識を持たせる</li> <li>➢ 対応策②：学校生活と共通していることが多いため、学校での課題を教員と実習指導者とで共有する</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>専門性の習得向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護福祉士としての専門性を意識し実習に取り組んでいるというより、介護職員としての業務遂行能力習得に終始している実習生が見受けられる <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 対応策：記載なし</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>知識と技術の統合</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成校で学んだ「専門的知識や技術を統合化する場が実習」である、という意識が希薄な実習生が見受けられる <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 対応策：記載なし</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

## 実習施設

### 介護実習における全般的な課題

#### 【指導体制】

##### ● 指導職員の確保

- 施設の職員自体が不足している
  - 対応策：限られた職員数で実習指導をどのように展開するかをテーマに、組織マネジメントの知識を援用する

##### ● 実習指導者の量的負担軽減

- 通常業務でも中心的な役割を担う場合が多く、実習指導との両立により負担が集中する
  - 対応策：実習指導者の資格保有者の育成（増員）  
資格保有者の育成（増員）により、一人の実習指導者にかかる負担を軽減させる

##### ● 実習指導者の質的負担軽減

- 多様な実習生、多様な養成校への対応が求められる
  - 対応策：記載なし

#### 【指導内容】

##### ● 指導内容の統一化

- 介護を学んできた背景の違う介護現場で、指導方法の統一ができていない。また、指導マニュアル未作成の実態がある
  - 対応策：養成校と連携し、指導マニュアルの内容について実習指導者と考案していく

##### ● 指導内容の質向上

- 実習の目的に沿った指導展開や学生の長所を活かす指導までできていない
  - 対応策：養成校と連携し、介護福祉の基本理念を用いた指導方法を問う機会を持つ

## 養成校

## 実習施設

### オンラインによる代替実習における課題

#### ● 利用者とのコミュニケーション機会の不足

- 実際の利用者に関わっていないため、実習生にコミュニケーション力が身につくづらい
  - 対応策：オンラインによる代替実習により単位取得した卒業生が介護現場で働く場合、現場での丁寧な新人教育を行う

#### ● 生活支援技術の実践機会の不足

- 排泄や入浴場面、夜間の様子等プライバシーへの配慮が必要な場面について口頭や文書での情報提供となり、実習生が理解を深めるまで至らない
  - 対応策：記載なし

#### ● 実習生の理解状況の把握

- オンラインでの質疑応答や書面情報で理解度を判断するため、実習生の理解状況の把握が難しい
- そのため、実習生に必要としていた情報を正確に与えることができない場合がある
  - 対応策：記載なし

#### ● 実習にかかる準備の負担増加

- オンライン実習特有の情報提供のための準備が必要。しかしながら、通常業務を行いながら準備時間を確保するのは難しく、時間外勤務での対応を行った施設が見受けられる
  - 対応策：記載なし



## II. アンケート調査結果

### 1. アンケート調査結果のまとめ

#### 1) 養成校調査結果のまとめ

##### (1) 学校の基礎情報

- 養成校の種別については「高等学校」が 42.5%、「専門学校」が 33.6%、「短期大学」が 11.0%、「大学」が 13.0%であった。〔P22〕
- 介護福祉士養成課程における全学生数を、それぞれの介護福祉士養成課程の修業年数で割り1学年平均の学生数を算出したところ、全体では、「10人以上20人未満」が 30.3%と最も多く、次いで「20人以上30人未満」が 25.5%であり、「平均」が 25.0人、「中央値」が 21.0人であった。〔P23〕
- 介護福祉士養成課程における留学生数を、それぞれの介護福祉士養成課程の修業年数で割り1学年平均の留学生数を算出したところ、「0人」が 46.4%、「1人以上10人未満」が 32.1%、「10人以上20人未満」が 10.7%、「20人以上」が 10.7%であり、「平均」が 5.8人、「中央値」が 0.5人であった。〔P24〕
- 専任教員数では、「3人以下」が 30.8%、「4-5人」が 46.6%、「6人以上」が 22.6%であり、「平均」が 5.4人、「中央値」が 4.0人であった。〔P24〕
  - ・ 専任教員における実習担当教員の割合は、「100%」が最も多く 47.9%であり、「平均」が 76.3%、「中央値」が 85.7%であった。
- その他教員数は、「0人」が 23.3%、「1人以上3人以下」が 39.0%、「4-5人」が 3.4%、「6人以上」が 34.2%であり、「平均」が 7.1人、「中央値」が 2.0人であった。〔P27〕
  - ・ その他教員における実習担当教員の割合は、「0%」が最も多く 67.9%であり、「平均」が 20.6%、「中央値」が 0.0%であった。
- 実習指導者（指導責任者）の設置状況は、「設置している」が 61.6%、「設置していない」が 32.2%、「実習担当教員は1名しかいない」が 6.2%であった。〔P28〕

##### (2) 2022年度の実習に関する基礎情報

- 履修者全体における通常実習のみを実施した履修者の割合（実習Ⅰ）は、「100%」が最も多く 59.4%、履修者全体における代替実習のみを実施した履修者の割合（実習Ⅰ）は、「0%」が最も多く 88.8%であった。〔P30-31〕
- 履修者全体における通常実習のみを実施した履修者の割合（実習Ⅱ）は、「100%」が最も多く 62.2%、履修者全体における代替実習のみを実施した履修者の割合（実習Ⅱ）は、「0%」が最も多く 90.9%であった。〔P32-33〕
- 実習Ⅰの対象サービスは、「通所介護」が 76.0%と最も多く、次いで「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が 69.9%、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」が 63.0%、「介護老人保健施設」が 62.3%と続いた。〔P35〕
- 実習Ⅱの対象サービスは、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が最も多く、次いで「介護老人保健施設」が続いた。〔P36〕
- 実習Ⅰのサービス別実習時間数は、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」及び「介護老人保健施設」の他、「通所介護」、「通所リハビリテーション」、「小規模多機能型居宅介護」での実習時間が長い割合が多く、「訪問介護」での実習時間が短い割合が高かった。〔P37〕
- 実習Ⅱのサービス別実習時間数は、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」、「介護老人保健施設」等の施設系サービスの他、「看護小規模多機能型居宅介護」、「障害者支援施設」等での実習において、実習時間が長い割合が高かった。〔P40〕

### (3)実習の具体的取組及び工夫

#### ① 実習前の取組

- 実習意義／実習目的の伝達のための工夫は、「打ち合わせ等の機会を設けたうえでの実習計画の説明、実習内容のすり合わせ」が最も多く、全体では 88.4%、養成施設では 86.9%、福祉系高校では 90.3%であった。〔P43〕
- 実習前の学生への対応は、「実習日誌作成にかかる指導・助言」、「学生が作成する実習目標立案への指導・助言」等の実習で使用する資料準備にかかることは概ね取り組まれていたが、「実習を行うにあたっての学生の自己分析への指導・助言」や「学生の実習前訪問の調整・準備」については、取り組んでいない養成校もみられた。〔P44〕
  - ・ 検討委員会では、近年の生徒・学生の多様化を鑑み、どのような学生でもしっかり実習できる環境を作ることが養成校の責任であるとの意見が挙げられた。
- 学生と実習施設とのマッチングにおいて重視する情報は、「学生の居住地と実習先住所との距離や交通手段」が最も多く、全体では 94.5%、養成施設では 97.6%、福祉系高校では 90.3%であった。〔P45〕
  - ・ 福祉系高校に比べ、養成施設では、概ねどの項目においても考慮されている割合が高かった。特に、「実習指導体制」においては 92.9%とほとんどの養成施設で重視されており、福祉系高校の 61.3%と比較すると、違いがみられる。
- 活用している実習評価表は、「学校独自で作成した評価表」が最も多く、全体では 97.3%、養成施設では 95.2%、福祉系高校では 100.0%であった。〔P47〕
  - ・ 検討委員会では、養成校ごとに実習評価表の様式や評価方法が異なることで、実習施設として対応に苦慮している実情があるといった意見が挙げられた。

#### ② 実習中の取組

- 実習にかかる教員体制は、「全学生に対し、複数人体制で対応」が 52.7%と最も多く、「学生 1 人に対し、担当教員は 1 名／学生複数に対し、担当教員は 1 名（教員の重複なし）」が 40.4%、「学生によっては複数人体制で対応」が 6.8%であった。〔P47〕
  - ・ 養成施設では、「学生 1 人に対し、担当教員は 1 名／学生複数に対し、担当教員は 1 名（教員の重複なし）」が 56.0%と最も多く、「全学生に対し、複数人体制で対応」が 35.7%、「学生によっては複数人体制で対応」が 8.3%であった。
  - ・ 福祉系高校では、「全学生に対し、複数人体制で対応」が 75.8%と最も多く、「学生 1 人に対し、担当教員は 1 名／学生複数に対し、担当教員は 1 名（教員の重複なし）」が 19.4%、「学生によっては複数人体制で対応」が 4.8%であった。
- 実習施設の実習指導者（指導責任者）との協議内容は、「介護現場でのコミュニケーション実践状況」が 93.2%と最も多く、次いで「介護過程の展開に関する実施状況」が 89.0%、「介護技術の実践状況」が 87.7%、「利用者像の理解状況（利用者の思いや希望を理解できているか）」が 86.3%と続いた。〔P49〕
  - ・ 養成施設では、「介護過程の展開に関する実施状況」が 95.2%と最も多く、次いで「介護現場でのコミュニケーション実践状況」が 94.0%、「利用者像の理解状況（利用者の思いや希望を理解できているか）」が 91.7%、「利用者を観察する視点の発揮状況」が 89.3%、「介護の根拠の理解状況」が 89.3%、「介護技術の実践状況」が 89.3%と続いた。
  - ・ 福祉系高校では、「介護現場でのコミュニケーション実践状況」が 91.9%と最も多く、次いで「介護技術の実践状況」が 85.5%、「介護過程の展開に関する実施状況」が 80.6%、「利用者像の理解状況（利用者の思いや希望を理解できているか）」が 79.0%と続いた。
- 巡回指導時における実習内容／実習目標の到達状況を踏まえた学生への指導項目は、「介護現場でのコミュニケーション実践状況」が 93.2%と最も高かった。〔P51〕

- ・ 養成施設では、「介護の根拠の理解状況」が 96.4%と最も多く、次いで、「利用者像の理解状況（利用者の思いや希望を理解できているか）」が 95.2%、「介護過程の展開に関する実施状況」が 95.2%、「介護現場でのコミュニケーション実践状況」が 94.0%、「利用者を観察する視点の発揮状況」が 94.0%と続いた。
  - ・ 福祉系高校では、「介護現場でのコミュニケーション実践状況」が 91.9%と最も多く、次いで「介護技術の実践状況」及び「利用者を観察する視点の発揮状況」が 83.9%、「介護福祉士の業務に対する姿勢の理解・実践状況」及び「利用者増の理解状況（利用者の思いや希望を理解できているか）」が 82.3%と続いた。
- 巡回指導の回数は、「実習先によらず週 1 回訪問」が 61.6%と最も多く、「実習先によらず週 2 回以上訪問」が 24.0%、「学生によっては訪問回数を決めている」が 9.6%、「実習先施設によっては訪問回数を決めている」が 4.8%であった。〔P52〕
- ・ 養成施設では、「実習先によらず週 1 回訪問」が 73.8%と最も多く、「学生によっては訪問回数を決めている」が 11.9%、「実習先によらず週 2 回以上訪問」が 10.7%、「実習先施設によっては訪問回数を決めている」が 3.6%であった。
  - ・ 福祉系高校では、「実習先によらず週 1 回訪問」が 45.2%と最も多く、「実習先によらず週 2 回以上訪問」が 41.9%、「実習先施設によっては訪問回数を決めている」が 6.5%、「学生によっては訪問回数を決めている」が 6.5%であった。
- 巡回指導 1 回あたりの実習施設の滞在時間は、「平均」が 66.1 分、「中央値」が 60.0 分であった。〔P53〕
- ・ 養成施設では、「平均」が 74.9 分、「中央値」が 60.0 分であった。
  - ・ 福祉系高校では、「平均」が 54.2 分、「中央値」が 40.0 分であった。
- 帰校日に行っている事柄は、「実習に関する個別指導を行う」が最も多く、次いで「グループワーク等で学生同士の学びあいの機会を設ける」が続いた。〔P53〕

### ③ 実習後の取組

- 実習後の振り返り時における学生の確認事項は、「実習そのものにおける反省点」が 95.9%と最も多く、次いで、「実習目標／実習課題の達成状況」が 93.8%、「実習施設の実習指導担当者からの助言・指導内容」が 89.0%、「実習目標／実習課題以外で新たに学んだこと」が 88.4%と続いた。〔P54〕
- ・ 「実習目標／実習課題の達成／未達成の理由」については、養成施設が 90.5%である一方、福祉系高校が 64.5%であった。

### (4) 代替実習を実施した際の工夫点

- 学内の教員・職員のみで行う代替実習（実習Ⅰ）は、「模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ供覧と解説、試問、レポート提出）」が 61.0%と最も多く、次いで「学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイ形式での介護技術の修得」が 50.0%、「介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業」が 41.1%と続いた。〔P56〕
- ・ 概ねどの項目においても、福祉系高校では、養成施設と比べてより取り組まれている傾向がみられた。
- 学内の教員・職員のみで行う代替実習（実習Ⅱ）は、「模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ供覧と解説、試問、レポート提出）」が 54.8%と最も多く、「介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業」が 48.6%、「学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイ形式での介護技術の修得」が 47.3%、「介護記録等を用いたケーススタディ」が 45.9%、「資料等で模擬的に利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定」が 41.1%と続いた。〔P57〕
- ・ 概ねどの項目においても、福祉系高校では、養成施設と比べてより取り組まれている傾向

がみられた。

- 実習施設への代替実習の協力依頼状況は、実習Ⅰでは、「あり」が 41.1%、「なし」が 58.9%、実習Ⅱでは、「あり」が 35.6%、「なし」が 64.4%であり、実習Ⅰのほうが実習施設に対する代替実習の依頼がされていた。〔P58〕
  - ・ 実習Ⅰ、実習Ⅱともに、福祉系高校では、養成施設と比べて実習施設に対して何らかの代替実習の協力依頼をしたことがある傾向がみられた。
- 協力依頼した代替実習の内容別での実習施設の協力有無（実習Ⅰ）は、「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」が最も依頼されており、かつ、実習施設の協力を得られていた。〔P59〕
- 協力依頼した代替実習の内容別での実習施設の協力有無（実習Ⅱ）は、「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」が最も依頼されており、かつ、実習施設の協力を得られていた。〔P62〕
  - ・ 検討委員会では、新型コロナウイルス感染症発生時に代替実習で行うことができた項目とそうでない項目が明確になったことで、今後同じような事態が発生した際、代替実習で達成することが難しい傾向のある事柄をどのように養成校で補っていくかが課題になるといった意見が挙げられた。
- 実習目標を達成するため最も効果があったと感じる形式（実習Ⅰ）は、「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」が最も多く、次いで「利用者とのオンラインによる交流」が続いた。〔P64〕
- 実習目標を達成するため最も効果があったと感じる形式（実習Ⅱ）は、「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」が最も多く 34.6%であった。〔P66〕
- 代替実習の効果は、全ての項目において、「通常の実習を上回る効果がみられた」が最も少ないが、3.0～7.5%で見られ、「通常実習と同等の効果がみられた」が 13.4～40.3%、「通常の実習と比べ、効果がみられなかった」が 19.0～58.2%となった。〔P67〕
  - ・ 検討委員会では、新型コロナウイルス感染症発生時におけるオンライン巡回指導では、実習生のモチベーションの維持が難しい実態があったとの意見が挙げられた。今後、オンラインで巡回指導を行うことに関しては、介護現場における ICT 活用の状況や学生の状況を鑑み、引き続き検討の余地があるとの意見も挙げられた。



## 2) 実習施設調査結果のまとめ

### (1) 施設・事業所の基礎情報

- 主たるサービス種別は、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が 57.8%と最も多く、「介護老人保健施設」が 16.1%、「障害者支援施設」が 6.8%、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」が 5.6%、「通所介護」が 3.6%、「小規模多機能型居宅介護」が 3.2%、「通所リハビリテーション」が 2.0%、「その他施設・事業所」が 2.0%、「特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、ケアハウス等）」が 1.6%、「訪問介護」が 1.2%、「養護老人ホーム」が 0.0%、「看護小規模多機能型居宅介護」が 0.0%であった。〔P71〕
- 経営主体は、「社会福祉法人」が 76.3%、「医療法人（財団・社団・特別・社会医療法人）」が 14.1%、「都道府県・市区町村／財団法人（公益・一般）」が 1.6%、「社団法人（公益・一般）」が 1.6%、「学校法人」が 0.0%、「特定非営利活動法人（NPO 法人）」が 0.8%、「営利法人（株式会社、有限会社、合名会社、合資会社、合同会社など）」が 4.0%であった。〔P72〕
- 職員能力開発・教育等の実践状況は、「外部研修への参加支援：参加費補助」が 81.5%と最も多く、「外部研修への参加支援：業務との時間調整」が 75.8%、「教育・研修計画の策定」が 74.2%、「施設・事業所内研修の充実（内容や頻度の充実）」が 73.0%と続いた。また「特にない」とした施設・事業所は 1.2%であった。〔P73〕
- 介護福祉士資格を持つ正規職員数は、「20 人以上 30 人未満」が最も多く 24.3%、次いで「10 人以上 20 人未満」と続き、「平均」が 25.3 人、「中央値」が 23.0 人であり、介護福祉士資格を持つ正規職員のうち、実習指導者講習会を終了した職員の割合は、「10%以上 20%未満」が最も多く 36.2%、次いで「10%未満（0%を除く）」が 30.5%と続き、「平均」が 14.6%、「中央値」が 11.5%であった。〔P74-75〕
- 介護福祉士資格を持たない正規職員数は、「10 人未満（0 人を除く）」が 56.8%と最も多く、次いで「10 人以上 20 人未満」が 21.0%と続き、「平均」が 7.1 人、「中央値」が 4.0 人であり、介護福祉士資格を持たない正規職員のうち、実習指導者講習会を終了した職員の割合は、「0%」が 95.1%とほとんどを占め、「平均」が 1.9%、「中央値」が 0.0%であった。〔P76-77〕
- 実習の受入れ目的は、「自施設・事業所における将来の人材確保」が 85.9%と最も多く、次いで「人材養成・人材育成」が 84.7%、「養成校との関係性構築」が 84.3%と続いた。〔P78〕
- 実習対応を業務として位置づけているか否かについては、「業務として位置付けている」が 90.4%、「業務として位置付けていない」が 9.6%であった。〔P78〕
- 実習担当者への処遇は、「残業などで業務外になると、業務外手当をつけている」が 53.8%と最も多く、次いで「実習以外の業務負担軽減をする等、勤務体制を調整している」が 36.1%と続いた。〔P79〕

### (2) 実習の受入れ状況(2022 年)

- 受入れた実習の種類は、「実習Ⅰのみ」が 19.7%、「実習Ⅱのみ」が 24.5%、「実習ⅠⅡ双方」が 46.6%、「2022 年は受け入れていない」が 9.2%であった。〔P79〕
- 実習受入れ学校数は、実習Ⅰ、実習Ⅱともに「1 校」が最も多かった。〔P80〕
- 学生 1 人を受け入れるにあたりかけている所要時間について、
  - ・ 受入れ前の準備時間は、実習Ⅰ、実習Ⅱともに「2 時間未満」が最も多かった。〔P81〕
  - ・ 受入れ中の 1 日あたりの指導時間は、実習Ⅰ、実習Ⅱともに「7 時間以上」が最も多かった。〔P82〕
  - ・ 評価等、受入れ終了後のフォローにかかる時間は、実習Ⅰ、実習Ⅱともに「2 時間未満」が最も多かった。〔P83〕

### (3) 実習の具体的取組及び工夫

#### ① 実習前の取組

○実習前準備は、「学生が参加する事前のオリエンテーション等を実施」が 83.9%と最も多く、次いで「学生の個別特性や、その対応について、養成校と協議」が 81.9%と続いた。〔P84〕

- ・ 検討委員会では、学生の特性が多様化してきているなか、学生の個別性について実習施設と学生本人が協議することを含め、事前協議の重要性を周知していくことが必要であるとの意見が挙げられた。

#### ② 実習中の取組

○実習を受け入れるにあたっての体制は、「実習指導担当者を複数体制化している」、「実習指導担当者内で、責任者を設置している」がそれぞれ 71.5%と最も多く、次いで「できるだけ毎日短時間でも、実習指導担当者による学生への指導時間を確保している」が 70.7%、「受入れマニュアルを整備している」が 69.9%、「実習受入れ担当者（マネジメント・調整、書類のやり取り）と実習指導の役割分担をしている」が 68.3%と続いた。〔P85〕

○実習において学生が体験する内容は、「利用者とのコミュニケーション」が 99.2%と最も多く、次いで「利用者への直接介護（状態像が軽い方）」が 94.8%と続いた。〔P86〕

- ・ 検討委員会では、2019年度からの養成課程への新カリキュラム導入によって追加された項目の中で、「多職種協働の実践」、「地域における生活支援の実践」に関する実習施設の実習時の指導が不足しているのではないかと意見が挙げられた。

○新型コロナウイルス感染症で実施が不可となった実習内容は、「施設・事業所内のイベント等企画への参加」が 34.1%と最も多く、次いで「施設・事業所内・法人施設の見学」が 24.9%、「利用者への直接介護（状態像が軽い方）」が 22.9%、「利用者とのコミュニケーション」が 22.1%と続いた。また、「特になし」は 48.6%であった。〔P87〕

○養成校教員の巡回指導における取組について、

- ・ 巡回指導における養成校教員との面談状況は、「毎回、必ず教員と面談する」が 49.8%、「ほとんどの場合、教員と面談する」が 29.3%、「教員と面談するときもあれば、しないときもある」が 18.1%、「ほとんどの場合、教員とは面談しない」が 2.4%、「教員と面談することはない」が 0.4%であった。〔P88〕
- ・ 巡回指導における養成校教員との面談項目は、「介護現場でのコミュニケーション実践状況」が 88.8%と最も多く、次いで「介護福祉士の業務に対する姿勢の理解・実践状況」が 76.3%、「介護技術の実践状況」が 72.7%と続いた。また「特に協議をしていない」は 1.2%であった。〔P89〕
- ・ 巡回指導における養成校教員との面談に、実習生が同席するかどうかは、「毎回、必ず実習生が同席する」が 57.0%、「ほとんどの場合、実習生が同席する」が 10.8%、「実習生が同席するときもあれば、しないときもある」が 15.3%、「ほとんどの場合、実習生は同席しない」が 10.4%、「実習生が同席することはない」が 6.4%であった。〔P90〕

#### ③ 実習後の取組

○実習評価における工夫は、客観性の担保のための方策や、外国人への配慮等の工夫が挙げられた。〔P90〕

### (4) 代替実習を実施した際の工夫点

○代替実習の実施状況は、実習Ⅰ、実習Ⅱともに、1割程度の施設・事業所にて、養成校と共同して代替実習を実施したことが「あり」であった。〔P91〕

○実施した代替実習の内容と実施形態（実習Ⅰ）は、「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」が最も実施されており、次いで「介護現場における利用者を観察

する視点の醸成を目的とする授業」が続いた。〔P92〕

- 実施した代替実習の内容と実施形態（実習Ⅱ）は、「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」が最も実施されており、次いで「介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業」が続いた。〔P93〕
- 実習目標を達成するため最も効果があったと感じる形式（実習Ⅰ）は、「利用者とのオンラインによる交流」が 19.4%と最も多く、次いで「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」、「模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ供覧と解説、試問、レポート提出）」、「介護記録等を用いたケーススタディ」がそれぞれ 16.1%と続いた。〔P94〕
- 実習目標を達成するため最も効果があったと感じる形式（実習Ⅱ）は、「利用者とのオンラインによる交流」が 34.5%と最も多く、次いで「模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ供覧と解説、試問、レポート提出）」、及び「介護記録等を用いたケーススタディ」が 13.8%と続いた。〔P95〕
- 代替実習の効果は、全ての項目において、「通常の実習を上回る効果がみられた」が最も少ないが、2.5～7.5%で見られ、「通常実習と同等の効果がみられた」が 7.5～35.0%、「通常の実習と比べ、効果がみられなかった」が 25.0～52.5%となった。〔P96〕
  - ・ 検討委員会では、効果の測定方法について、今回は十分な検証ができなかったが、どのように実習の効果を測定しているのかを確認していくことが重要ではないかといった意見が挙げられた。

#### **(5) 実習におけるメリット、困りごと**

- 実習を受け入れるメリットは、最新の介護技術の再確認、職員の意識の向上、将来的な人材の確保、利用者への好影響、新任職員育成方法への応用の 5 点が主なメリットとして挙げられた。〔P97〕
  - ・ 検討委員会では、実習受入れのメリットとして、施設が実習生を受け入れることで、閉鎖的な環境に外部の目が入り、施設／職員自身の業務の客観視につながるという点が挙げられた。
- 実習を受け入れるうえでの困りごとについて、
  - ・ 養成校に対する困りごとは、「特に困りごとはない」が 50.6%と最も多かったが、困りごとの中では、「学生への教育・指導が不十分」が 20.9%と最も多く、次いで「学生の個別特性や学生対応についての協議が十分でない」が 16.1%と続いた。〔P98〕
  - ・ 実習生に対する困りごとは、「自らの意見を発することが少ない」が 42.2%と最も多く、次いで「マナー（挨拶・時間管理・服装などの一般常識）が不十分」が 35.7%、「不明点があった場合、職員に質問する姿勢がない」が 32.9%、「自発的な学びの姿勢が感じられない」が 31.3%、と続いた。また、「特に困りごとはない」が 24.5%であった。〔P99〕

なお、自由記述で回答いただいた取組については、「Ⅱ. アンケート調査結果」においては概要を記載し、「Ⅲ. 養成校と実習施設の連携の事例集」に一部抜粋して記載しているため、参照されたい。

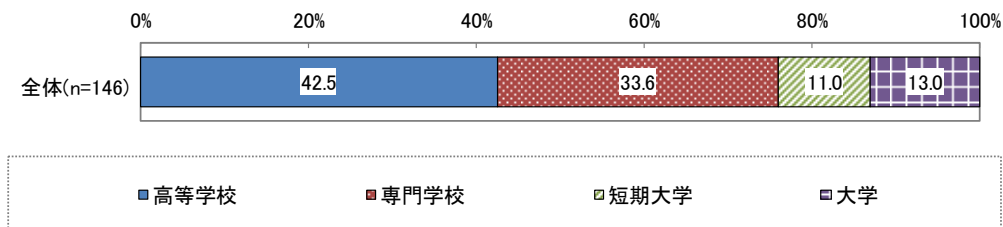
## 2-1. 養成校調査の結果(詳細)

### 1) 養成校の基礎情報

#### (1) 養成校の種別

問 22. 貴校の養成校の種別を教えてください。

- ・ 「高等学校」が42.5%、「専門学校」が33.6%、「短期大学」が11.0%、「大学」が13.0%であった。

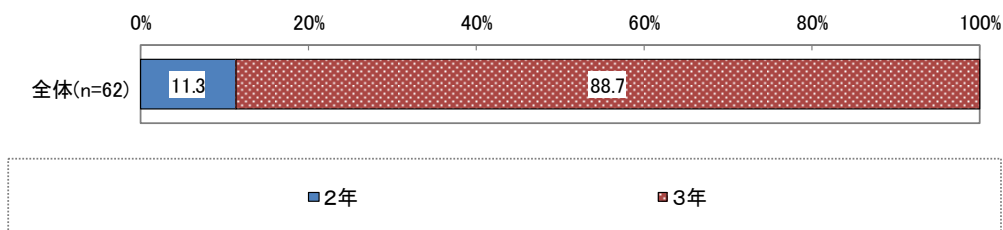


#### (2) 介護福祉士養成課程の修業年限

##### ① 福祉系高校の介護福祉士養成課程の修業年限

問 22-2. 【問 22 で「1. 高等学校」を選択した方】貴校の介護福祉士養成課程年数を教えてください。

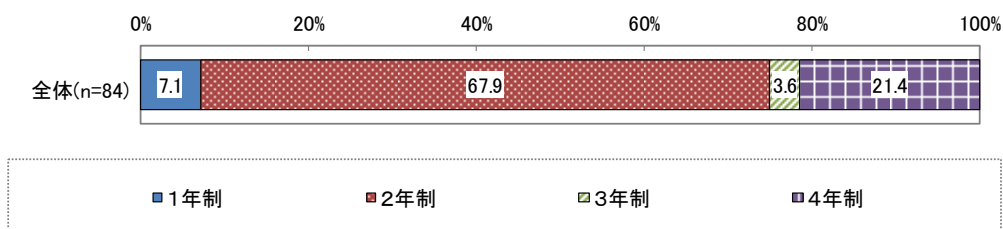
- ・ 「2年」が11.3%、「3年」が88.7%であった。



##### ② 養成施設の介護福祉士養成課程の修業年限

問 22-5. 【問 22 で「1. 高等学校」以外を選択した方】貴校の介護福祉士養成課程年数を教えてください。

- ・ 「1年制」が7.1%、「2年制」が67.9%、「3年制」が3.6%、「4年制」が21.4%であった。



※ 以下、「全体」、「養成施設」、「福祉系高校」の3軸でグラフを作成しており、内訳は以下のとおり。

養成施設	問 22 の選択肢が以下の養成校 2. 専門学校 3. 短期大学 4. 大学
福祉系高校	問 22 の選択肢が以下の養成校 1. 高等学校

### (3) 学生数

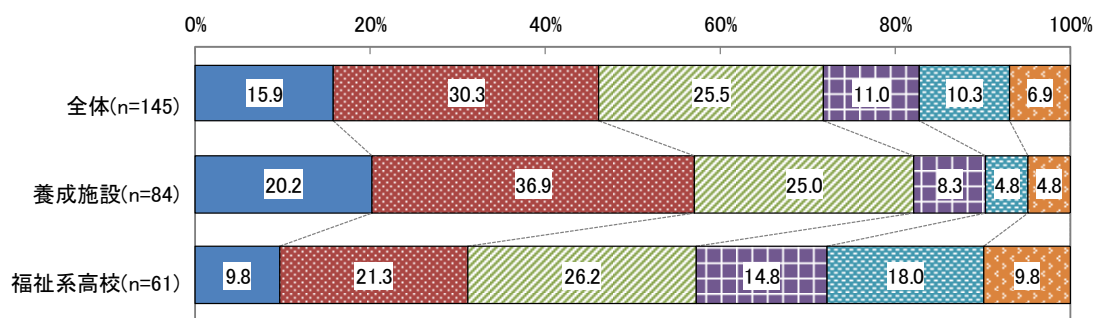
#### ① 1学年平均の学生数

問 22-3. 【問 22 で「1. 高等学校」を選択した方】貴校の介護福祉士養成課程における学生数を教えてください。(2023年9月1日時点)(全学年計、介護福祉養成課程のみ)

問 22-2. 【問 22 で「1. 高等学校」を選択した方】貴校の介護福祉士養成課程年数を教えてください。

問 22-5. 【問 22 で「1. 高等学校」以外を選択した方】貴校の介護福祉士養成課程年数を教えてください。

- ・ 介護福祉士養成課程における全学生数を、それぞれの介護福祉士養成課程の修業年数で割り、1学年平均の学生数を算出したところ、全体では、「10人以上20人未満」が30.3%と最も多く、次いで「20人以上30人未満」が25.5%であり、「平均」が25.0人、「中央値」が21.0人であった。
- ・ 養成施設では、「10人以上20人未満」が36.9%と最も多く、次いで「20人以上30人未満」が25.0%、「10人未満」が20.2%であり、「平均」が20.9人、「中央値」が17.5人であった。
- ・ 福祉系高校では、「20人以上30人未満」が26.2%と最も多く、次いで「10人以上20人未満」が21.3%、「40人以上50人未満」が18.0%であり、「平均」が30.7人、「中央値」が26.5人であった。



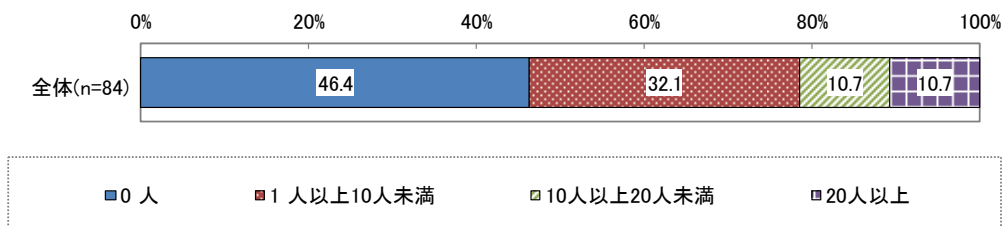
■ 10人未満 ■ 10人以上20人未満 ■ 20人以上30人未満 ■ 30人以上40人未満 ■ 40人以上50人未満 ■ 50人以上

	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	145	25.0	21.0	0.0	117.0
養成施設	84	20.9	17.5	2.5	81.0
福祉系高校	61	30.7	26.5	0.0	117.0

## ② 1学年平均の留学生数(養成施設のみ)

問 22-6.2. 【問 22 で「1. 高等学校」以外を選択した方】養成施設のみ留学生数(1学年平均)

- ・ 介護福祉士養成課程における全学年の留学生数を、それぞれの介護福祉士養成課程の修業年数で割り、1学年平均の留学生数を算出したところ、「0人」が46.4%、「1人以上10人未満」が32.1%、「10人以上20人未満」が10.7%、「20人以上」が10.7%であり、「平均」が5.8人、「中央値」が0.5人であった。



	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	84	5.8	0.5	0.0	46.0

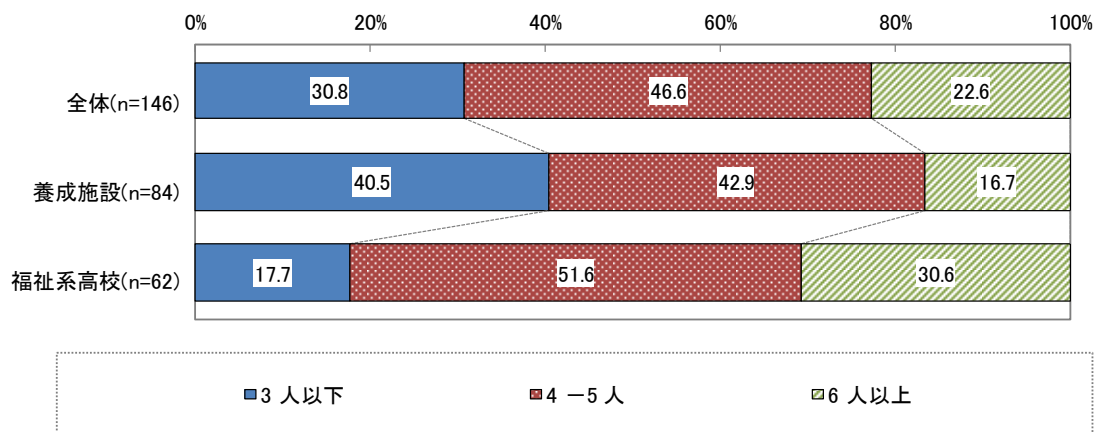
## (4) 教員数

### ① 専任教員

#### a. 専任教員数

問 23-1.1. 専任教員数: 貴校の教員数を教えてください。(2023年9月1日時点)

- ・ 全体では、「3人以下」が30.8%、「4-5人」が46.6%、「6人以上」が22.6%であり、「平均」が5.4人、「中央値」が4.0人であった。
- ・ 養成施設では、「3人以下」が40.5%、「4-5人」が42.9%、「6人以上」が16.7%であり、「平均」が4.7人、「中央値」が4.0人であった。
- ・ 福祉系高校では、「3人以下」が17.7%、「4-5人」が51.6%、「6人以上」が30.6%であり、「平均」が6.3人、「中央値」が5.0人であった。

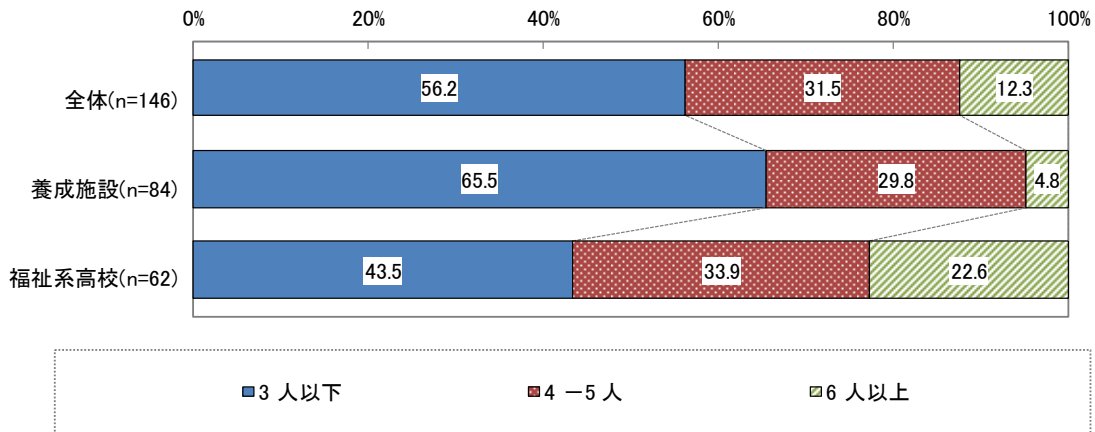


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	146	5.4	4.0	1.0	55.0
養成施設	84	4.7	4.0	1.0	33.0
福祉系高校	62	6.3	5.0	2.0	55.0

**b. 専任教員における実習担当教員の数**

問 23-1.2. うち実習担当者: 貴校の教員数を教えてください。(2023 年 9 月 1 日時点)

- ・ 全体では、「3 人以下」が 56.2%、「4 -5 人」が 31.5%、「6 人以上」が 12.3%であり、「平均」が 3.6 人、「中央値」が 3.0 人であった。
- ・ 養成施設では、「3 人以下」が 65.5%、「4 -5 人」が 29.8%、「6 人以上」が 4.8%であり、「平均」が 3.2 人、「中央値」が 3.0 人であった。
- ・ 福祉系高校では、「3 人以下」が 43.5%、「4 -5 人」が 33.9%、「6 人以上」が 22.6%であり、「平均」が 4.2 人、「中央値」が 4.0 人であった。

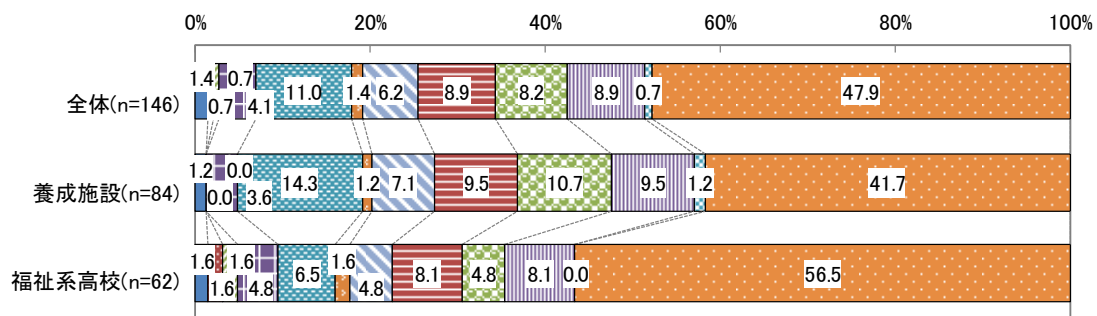


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	146	3.6	3.0	0.0	14.0
養成施設	84	3.2	3.0	0.0	9.0
福祉系高校	62	4.2	4.0	0.0	14.0

### c. 専任教員における実習担当教員の割合

#### 問 23-1.3. 専任教員における実習担当者の割合

- ・ 全体では、「100%」が最も多く 47.9%であり、「平均」が 76.3%、「中央値」が 85.7%であった。
- ・ 養成施設では、「100%」が最も多く 41.7%であり、「平均」が 74.5%、「中央値」が 80.0%であった。
- ・ 福祉系高校では、「100%」が最も多く 56.5%であり、「平均」が 78.6%、「中央値」が 100.0%であった。



■ 0%	■ 10% 未満(0%を除く)	■ 10% 以上20% 未満	■ 20% 以上30% 未満
■ 30% 以上40% 未満	■ 40% 以上50% 未満	■ 50% 以上60% 未満	■ 60% 以上70% 未満
■ 70% 以上80% 未満	■ 80% 以上90% 未満	■ 90% 以上100%未満	■ 100%

	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	146	76.3	85.7	0.0	100.0
養成施設	84	74.5	80.0	0.0	100.0
福祉系高校	62	78.6	100.0	0.0	100.0

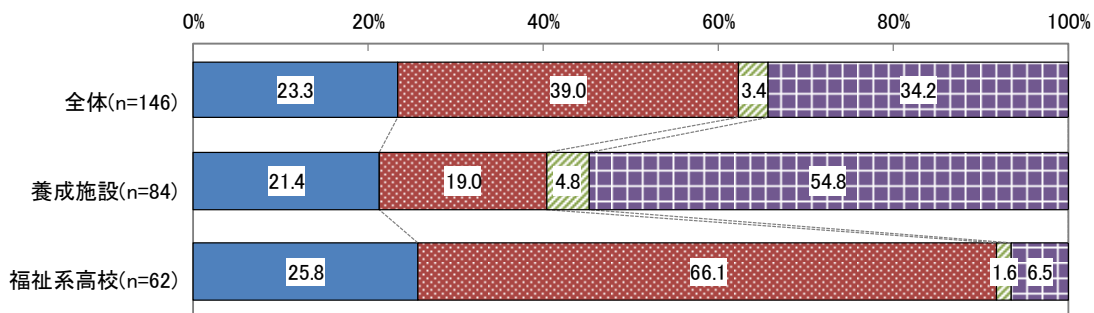


## ② その他教員

### a. 教員数

問 23-2.1. その他教員数: 貴校の教員数を教えてください。(2023年9月1日時点)

- ・ 全体では、「0人」が23.3%、「1人以上3人以下」が39.0%、「4-5人」が3.4%、「6人以上」が34.2%であり、「平均」が7.1人、「中央値」が2.0人であった。
- ・ 養成施設では、「0人」が21.4%、「1人以上3人以下」が19.0%、「4-5人」が4.8%、「6人以上」が54.8%であり、「平均」が10.2人、「中央値」が7.0人であった。
- ・ 福祉系高校では、「0人」が25.8%、「1人以上3人以下」が66.1%、「4-5人」が1.6%、「6人以上」が6.5%であり、「平均」が2.9人、「中央値」が1.0人であった。

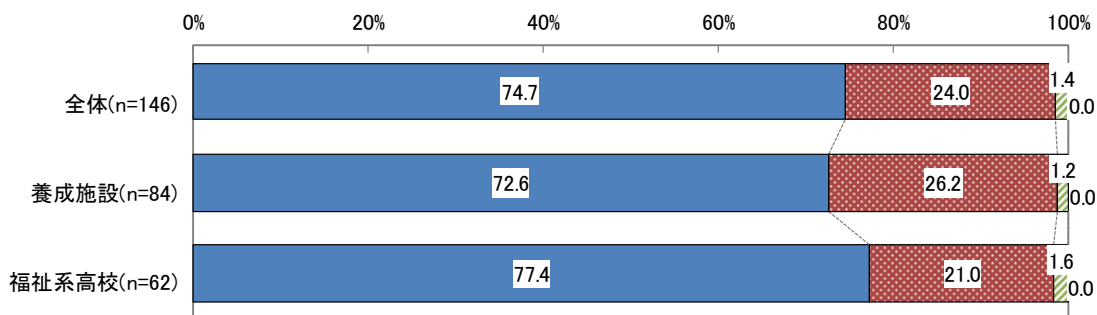


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	146	7.1	2.0	0.0	60.0
養成施設	84	10.2	7.0	0.0	52.0
福祉系高校	62	2.9	1.0	0.0	60.0

### b. その他教員における実習担当教員の数

問 23-2.2. うち実習担当者: 貴校の教員数を教えてください。(2023年9月1日時点)

- ・ 全体では、「0人」が74.7%と最も多く、「平均」が0.5人、「中央値」が0.0人であった。
- ・ 養成施設では、「0人」が72.6%と最も多く、「平均」が0.6人、「中央値」が0.0人であった。
- ・ 福祉系高校では、「0人」が77.4%と最も多く、「平均」が0.4人、「中央値」が0.0人であった。

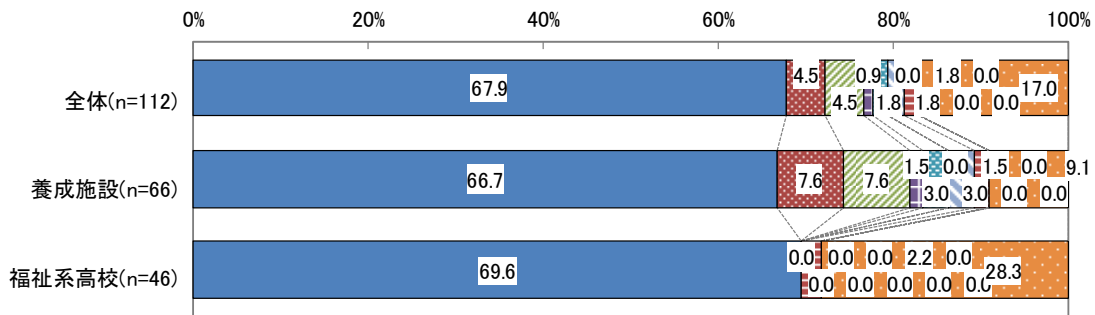


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	146	0.5	0.0	0.0	5.0
養成施設	84	0.6	0.0	0.0	5.0
福祉系高校	62	0.4	0.0	0.0	4.0

### c. その他教員における実習担当教員の割合

#### 問 23-2.3. その他教員数における実習担当者の割合

- ・ 全体では、「0%」が最も多く 67.9%であり、「平均」が 20.6%、「中央値」が 0.0%であった。
- ・ 養成施設では、「0%」が最も多く 66.7%であり、「平均」が 14.3%、「中央値」が 0.0%であった。
- ・ 福祉系高校では、「0%」が最も多く 69.6%であり、「平均」が 29.7%、「中央値」が 0.0%であった。

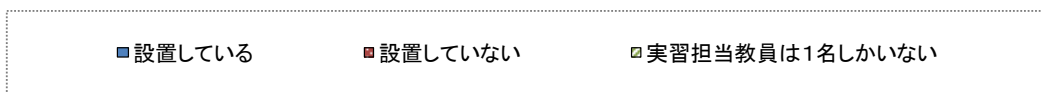
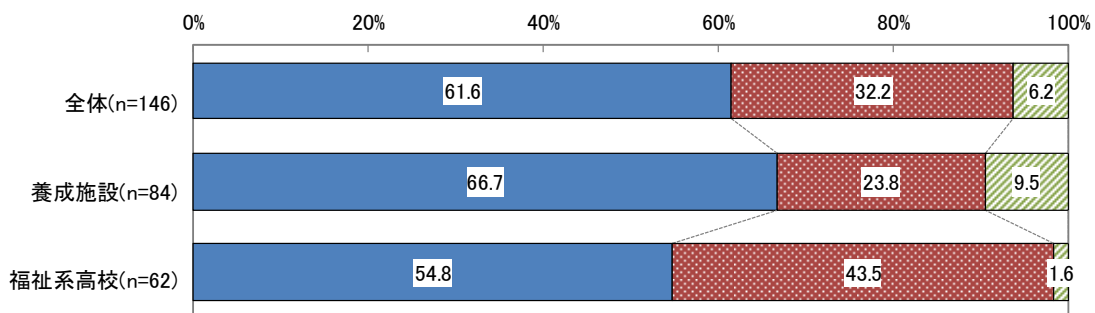


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	112	20.6	0.0	0.0	100.0
養成施設	66	14.3	0.0	0.0	100.0
福祉系高校	46	29.7	0.0	0.0	100.0

### (5) 実習指導者(指導責任者)の設置状況

#### 問 24. 実習における養成校内での実習指導責任者の設置状況を教えてください。

- ・ 全体では、「設置している」が 61.6%、「設置していない」が 32.2%、「実習担当教員は1名しかいない」が 6.2%であった。
- ・ 養成施設では、「設置している」が 66.7%、「設置していない」が 23.8%、「実習担当教員は1名しかいない」が 9.5%であった。
- ・ 福祉系高校では、「設置している」が 54.8%、「設置していない」が 43.5%、「実習担当教員は1名しかいない」が 1.6%であった。



## 2)2022 年度の実習に関する基礎情報

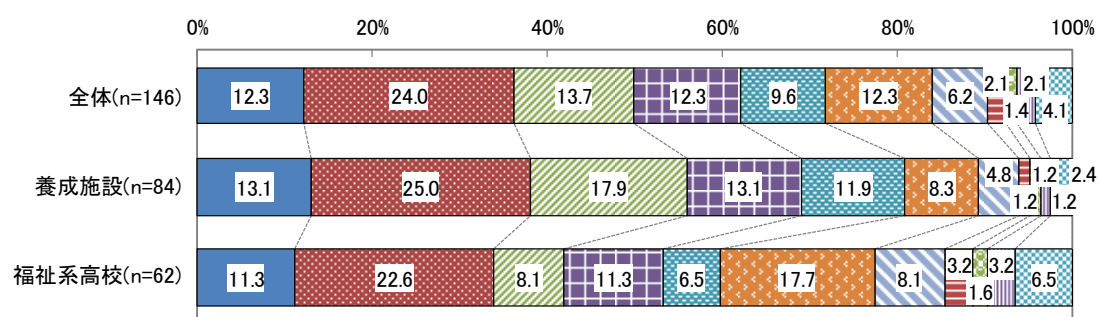
### (1)履修者数

#### ① 実習 I の履修者

##### a. 履修者全数

問 1.1.1. 実習の履修者数:実習 I\_2022 年度1年間における、貴校の実習の履修者数を教えてください。

- ・ 全体では、「10人以上20人未満」が最も多く24.0%、次いで「20人以上30人未満」が13.7%、「30人以上40人未満」が12.3%、「50人以上60人未満」が12.3%と続き、「平均」が35.9人、「中央値」が29.5人であった。
- ・ 養成施設では、「10人以上20人未満」が最も多く25.0%、次いで「20人以上30人未満」が17.9%と続き、「平均」が31.8人、「中央値」が25.0人であった。
- ・ 福祉系高校では、「10人以上20人未満」が22.6%、次いで「50人以上60人未満」が17.7%と続き、「平均」が41.4人、「中央値」が35.5人であった。



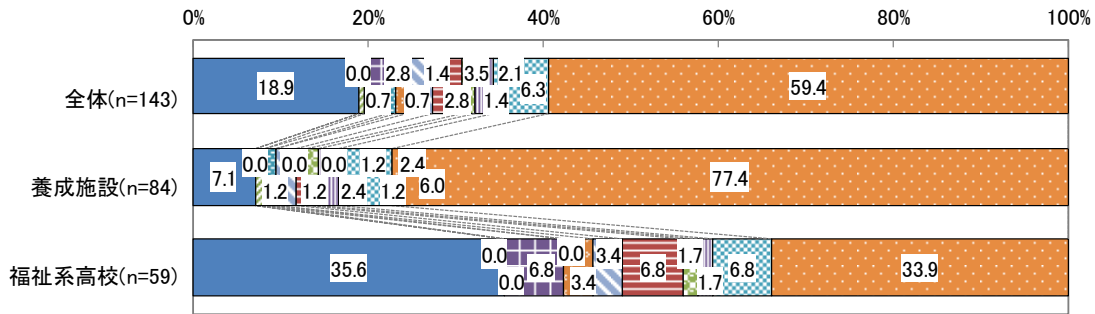
10人未満
  10人以上20人未満
  20人以上30人未満
  30人以上40人未満
  40人以上50人未満
  50人以上60人未満
  60人以上70人未満
  70人以上80人未満
  80人以上90人未満
  90人以上100人未満
  100人以上

	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	146	35.9	29.5	0.0	133.0
養成施設	84	31.8	25.0	2.0	133.0
福祉系高校	62	41.4	35.5	0.0	118.0

b. 履修者全体における通常実習のみを実施した履修者の割合(実習Ⅰ)

問 1.1.5. 【実習Ⅰ】実習の履修者数における通常実習のみの実施者数の割合

- ・ 全体では、「100%」が最も多く 59.4%であり、「平均」が 73.5%、「中央値」が 100.0%であった。
- ・ 養成施設では、「100%」が 77.4%であり、「平均」が 88.5%、「中央値」が 100.0%であった。
- ・ 福祉系高校では、「0%」が最も多く 35.6%であり、「平均」が 52.3%、「中央値」が 60.0%であった。



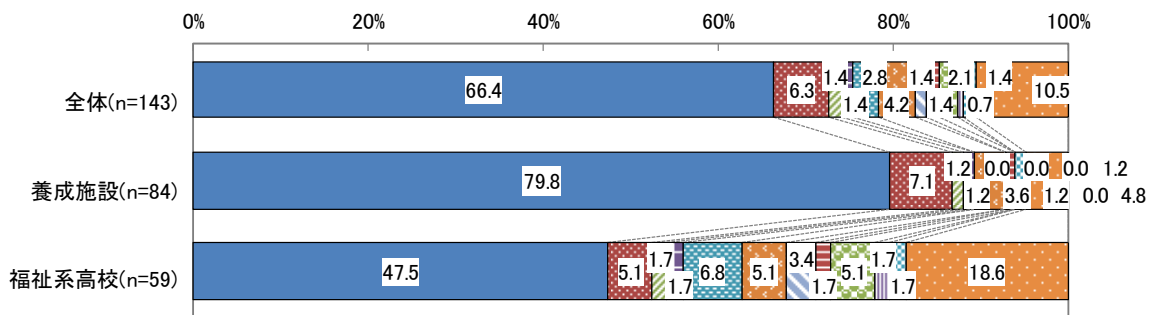
■ 0%	■ 10% 未満(0%を除く)	■ 10% 以上20% 未満	■ 20% 以上30% 未満
■ 30% 以上40% 未満	■ 40% 以上50% 未満	■ 50% 以上60% 未満	■ 60% 以上70% 未満
■ 70% 以上80% 未満	■ 80% 以上90% 未満	■ 90% 以上100%未満	■ 100%

	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	143	73.5	100.0	0.0	100.0
養成施設	84	88.5	100.0	0.0	100.0
福祉系高校	59	52.3	60.0	0.0	100.0

c. 履修者全体における通常実習と代替実習の双方を実施した履修者の割合(実習Ⅰ)

問 1.1.6. 【実習Ⅰ】実習の履修者数における通常実習と代替実習の双方の実施者数の割合

- ・ 全体では、「0%」が最も多く 66.4%であり、「平均」が 19.4%、「中央値」が 0.0%であった。
- ・ 養成施設では、「0%」が 79.8%であり、「平均」が 9.0%、「中央値」が 0.0%であった。
- ・ 福祉系高校では、「0%」が最も多く 47.5%である一方、「100%」も 18.6%と二極化の傾向があり、「平均」が 34.1%、「中央値」が 6.7%であった。



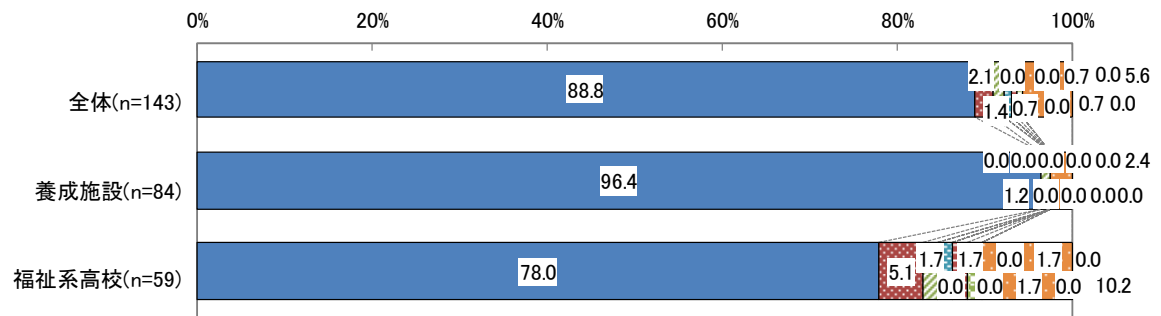
■ 0%	■ 10% 未満(0%を除く)	■ 10% 以上20% 未満	■ 20% 以上30% 未満
■ 30% 以上40% 未満	■ 40% 以上50% 未満	■ 50% 以上60% 未満	■ 60% 以上70% 未満
■ 70% 以上80% 未満	■ 80% 以上90% 未満	■ 90% 以上100%未満	■ 100%

	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	143	19.4	0.0	0.0	100.0
養成施設	84	9.0	0.0	0.0	100.0
福祉系高校	59	34.1	6.7	0.0	100.0

d. 履修者全体における代替実習のみを実施した履修者の割合(実習 I)

問 1.1.7. 【実習 I】実習の履修者数における代替実習のみの実施者数の割合

・ 「0%」が最も多く、全体で88.8%、養成施設で96.4%、福祉系高校で78.0%であった。



■ 0%     
 ■ 10% 未満(0%を除く)     
 ■ 10% 以上20% 未満     
 ■ 20% 以上30% 未満  
■ 30% 以上40% 未満     
 ■ 40% 以上50% 未満     
 ■ 50% 以上60% 未満     
 ■ 60% 以上70% 未満  
■ 70% 以上80% 未満     
 ■ 80% 以上90% 未満     
 ■ 90% 以上100%未満     
 ■ 100%

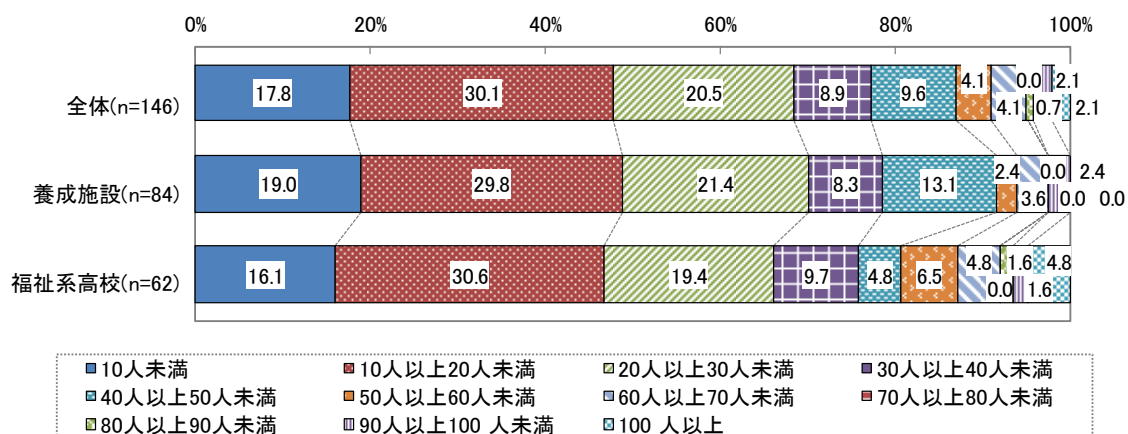
	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	143	7.1	0.0	0.0	100.0
養成施設	84	2.5	0.0	0.0	100.0
福祉系高校	59	13.6	0.0	0.0	100.0

## ② 実習Ⅱの履修者

### a. 履修者全数(実習Ⅱ)

問 1.2.1. 実習の履修者数:実習Ⅱ\_2022 年度1年間における、貴校の実習の履修者数を教えてください。

- ・ 全体では、「10人以上20人未満」が最も多く30.1%、次いで「20人以上30人未満」が20.5%、「10人未満」が17.8%と続き、「平均」が27.6人、「中央値」が21.0人であった。
- ・ 養成施設では、「10人以上20人未満」が最も多く29.8%、次いで「20人以上30人未満」が21.4%、「10人未満」が19.0%と続き、「平均」が25.8人、「中央値」が21.5人であった。
- ・ 福祉系高校では、「10人以上20人未満」が最も多く30.6%、次いで「20人以上30人未満」が19.4%、「10人未満」が16.1%と続き、「平均」が30.2人、「中央値」が20.5人であった。

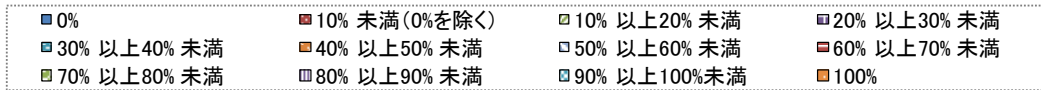
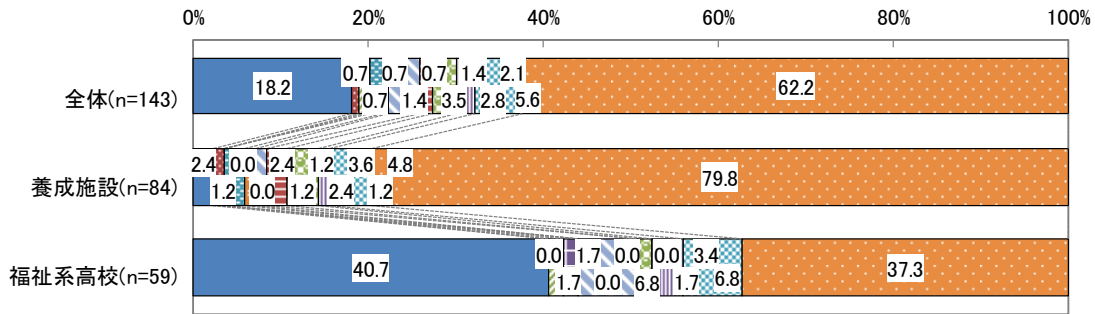


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	146	27.6	21.0	0.0	108.0
養成施設	84	25.8	21.5	2.0	99.0
福祉系高校	62	30.2	20.5	0.0	108.0

b. 履修者全体における通常実習のみを実施した履修者の割合(実習Ⅱ)

問 1.2.5. 【実習Ⅱ】実習の履修者数における通常実習のみの実施者数の割合

- ・ 全体では、「100%」が最も多く 62.2%であり、「平均」が 75.3%、「中央値」が 100.0%であった。
- ・ 養成施設では、「100%」が 79.8%であり、「平均」が 91.6%、「中央値」が 100.0%であった。
- ・ 福祉系高校では、「0%」が 40.7%、「100%」が 37.3%と二極化の傾向があり、「平均」が 52.0%、「中央値」が 58.3%であった。

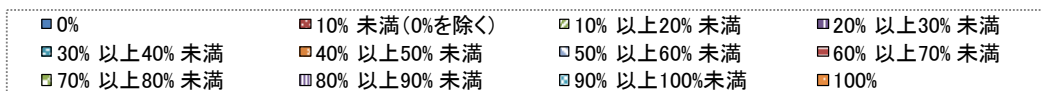
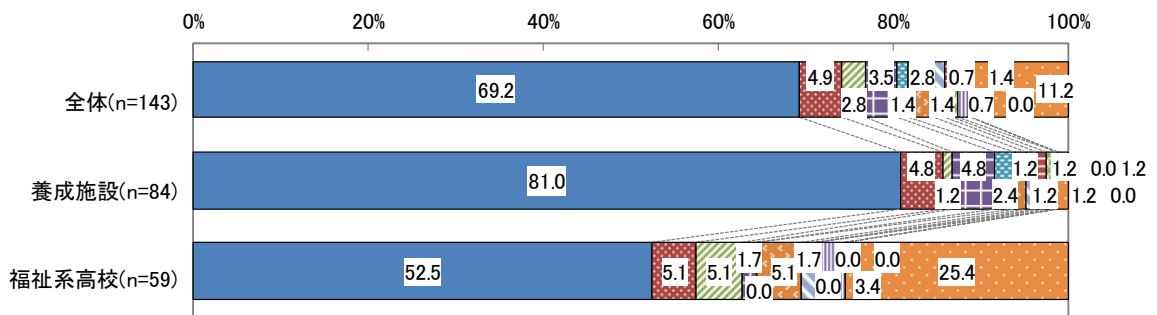


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	143	75.3	100.0	0.0	100.0
養成施設	84	91.6	100.0	0.0	100.0
福祉系高校	59	52.0	58.3	0.0	100.0

c. 履修者全体における通常実習と代替実習の双方を実施した履修者の割合(実習Ⅱ)

問 1.2.6. 【実習Ⅱ】実習の履修者数における通常実習と代替実習の双方の実施者数の割合

- ・ 全体では、「0%」が最も多く 69.2%であり、「平均」が 17.2%、「中央値」が 0.0%であった。
- ・ 養成施設では、「0%」が 81.0%であり、「平均」が 6.3%、「中央値」が 0.0%であった。
- ・ 福祉系高校では、「0%」が最も多く 52.5%である一方、「100%」も 25.4%と二極化の傾向があり、「平均」が 32.8%、「中央値」が 0.0%であった。

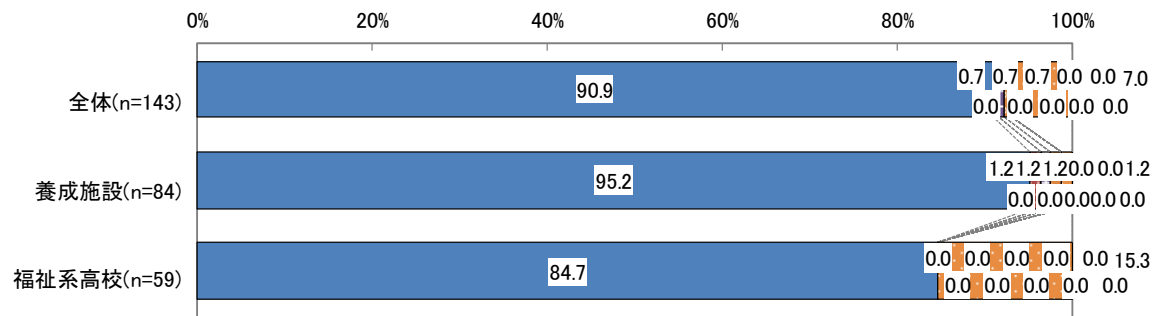


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	143	17.2	0.0	0.0	100.0
養成施設	84	6.3	0.0	0.0	100.0
福祉系高校	59	32.8	0.0	0.0	100.0

d. 履修者全体における代替実習のみを実施した履修者の割合(実習Ⅱ)

問 1.2.7. 【実習Ⅱ】実習の履修者数における代替実習のみの実施者数の割合

・ 「0%」が最も多く、全体で90.9%、養成施設で95.2%、福祉系高校で84.7%であった。



■ 0%      ■ 10% 未満(0%を除く)      ■ 10% 以上20% 未満      ■ 20% 以上30% 未満  
 ■ 30% 以上40% 未満      ■ 40% 以上50% 未満      ■ 50% 以上60% 未満      ■ 60% 以上70% 未満  
 ■ 70% 以上80% 未満      ■ 80% 以上90% 未満      ■ 90% 以上100%未満      ■ 100%

	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	143	7.5	0.0	0.0	100.0
養成施設	84	2.1	0.0	0.0	100.0
福祉系高校	59	15.3	0.0	0.0	100.0

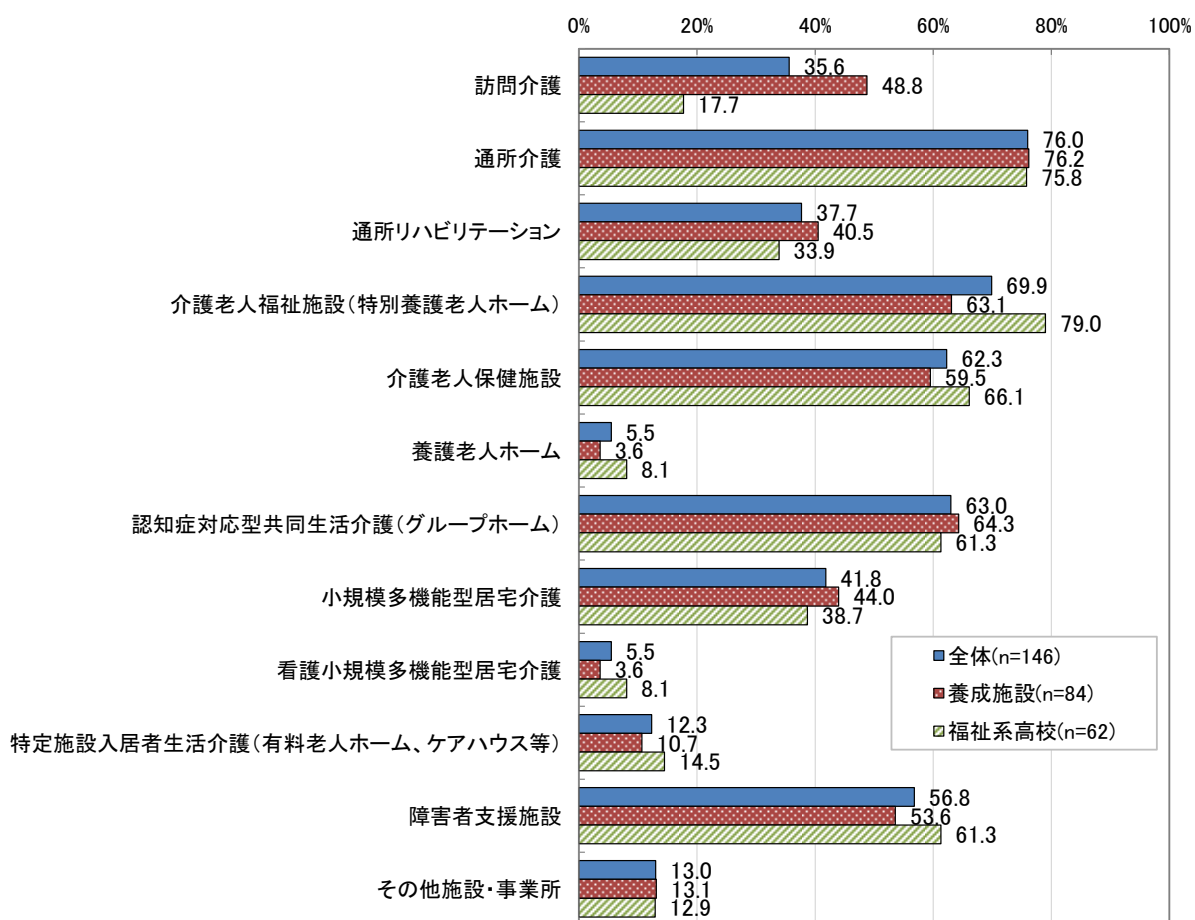


## (2) 実習の対象サービス

### ① 実習 I の対象サービス

問 2.1. 実習 I :2022 年度の1年間で、貴校の実習先となった実習施設のサービス種別すべてを教えてください。(複数選択)

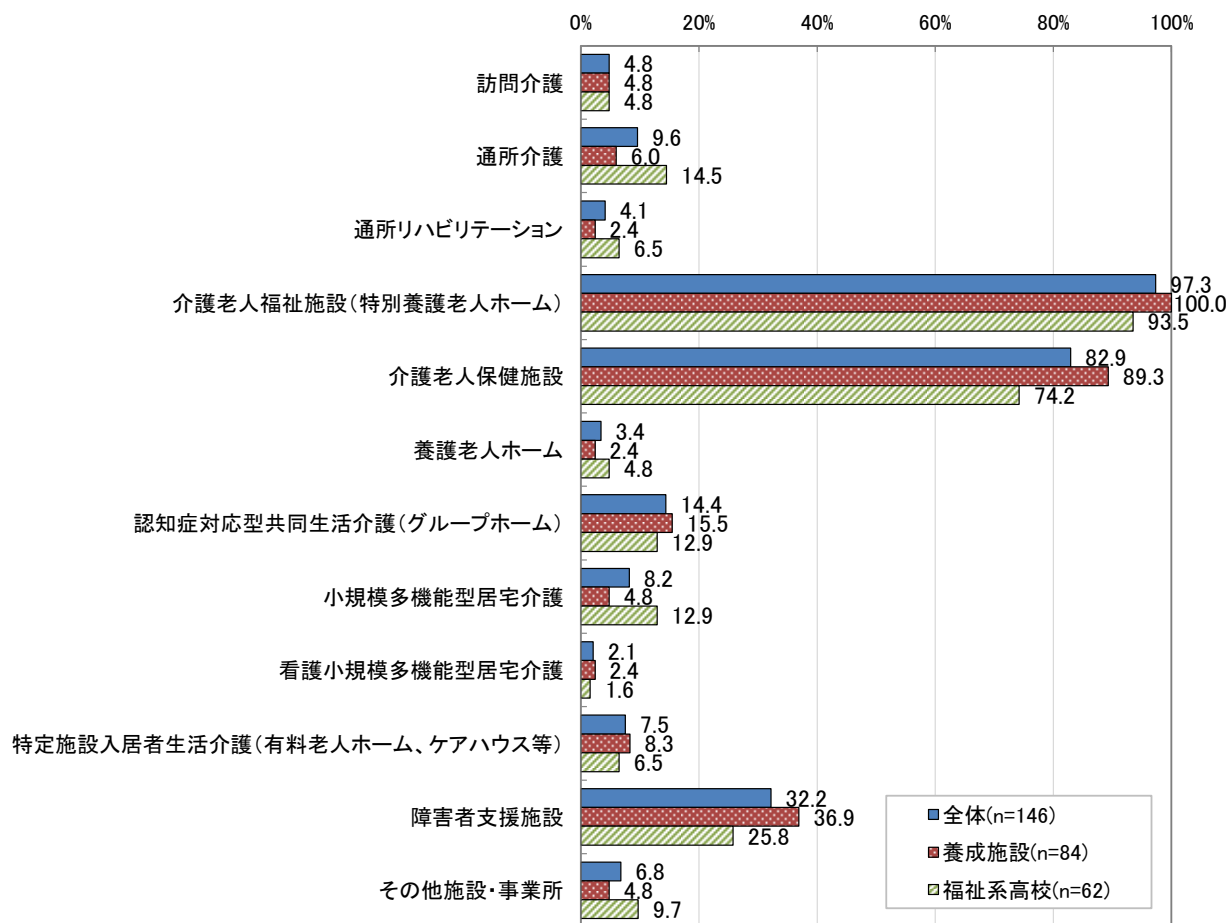
- ・ 全体では、「通所介護」が76.0%と最も多く、次いで「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が69.9%、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」が63.0%、「介護老人保健施設」が62.3%と続いた。
- ・ 養成施設では、「通所介護」が76.2%と最も多く、次いで「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」が64.3%、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が63.1%と続いた。
- ・ 福祉系高校では、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が79.0%と最も多く、次いで「通所介護」が75.8%と続いた。



## ② 実習Ⅱの対象サービス

問 2.2. 実習Ⅱ：2022年度の1年間で、貴校の実習先となった実習施設のサービス種別すべてを教えてください。(複数選択)

- ・ 「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が最も多く、次いで「介護老人保健施設」が続いた。
- ・ 「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」は、全体では97.3%、養成施設では100.0%、福祉系高校では93.5%であった。
- ・ 「介護老人保健施設」は、全体では82.9%、養成施設では89.3%、福祉系高校では74.2%であった。



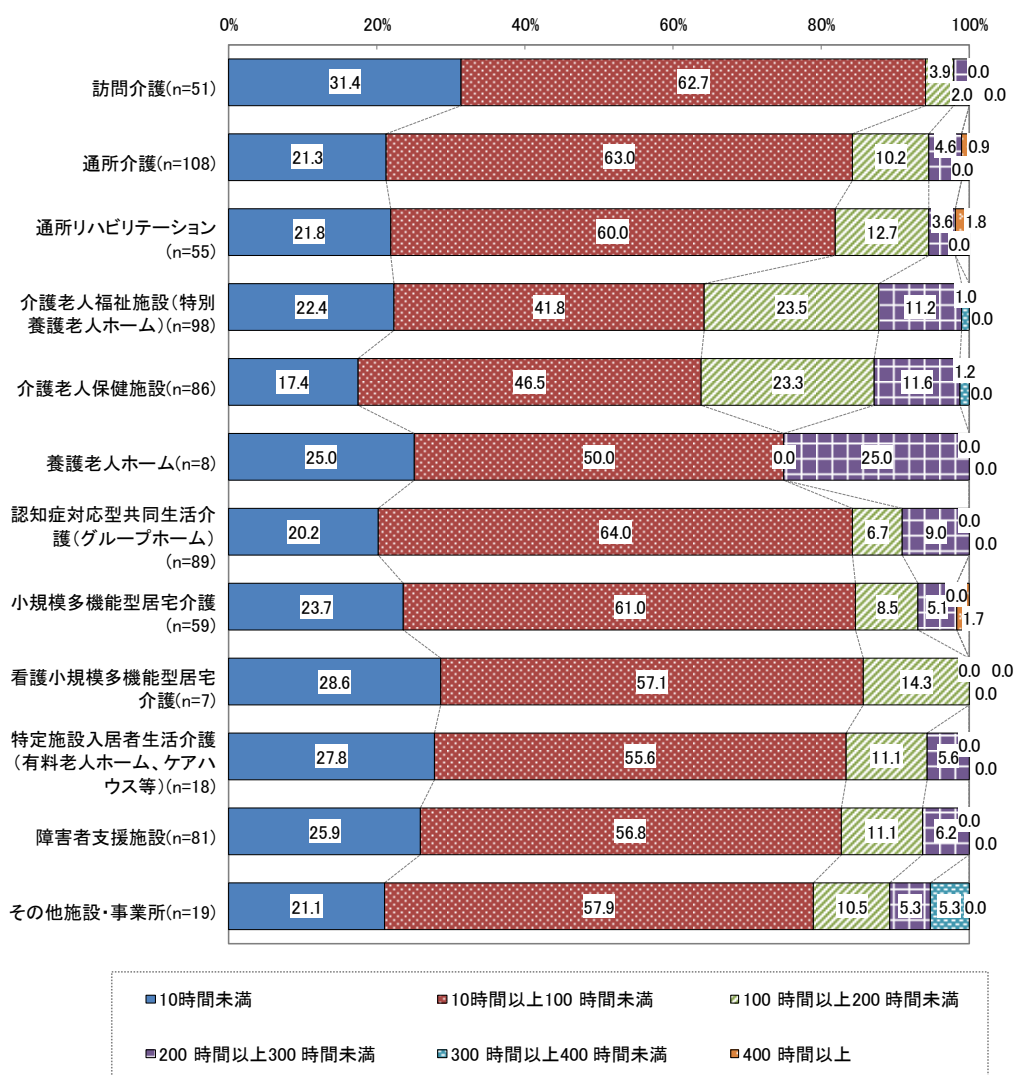
### (3) サービス別実習時間数

#### ① 実習 I のサービス別実習時間数

問 2-1.1. 実習 I 前問で回答した実習施設における、貴校の実習におけるサービス種別ごとの学生 1 人当たりの実習時間数を教えてください。

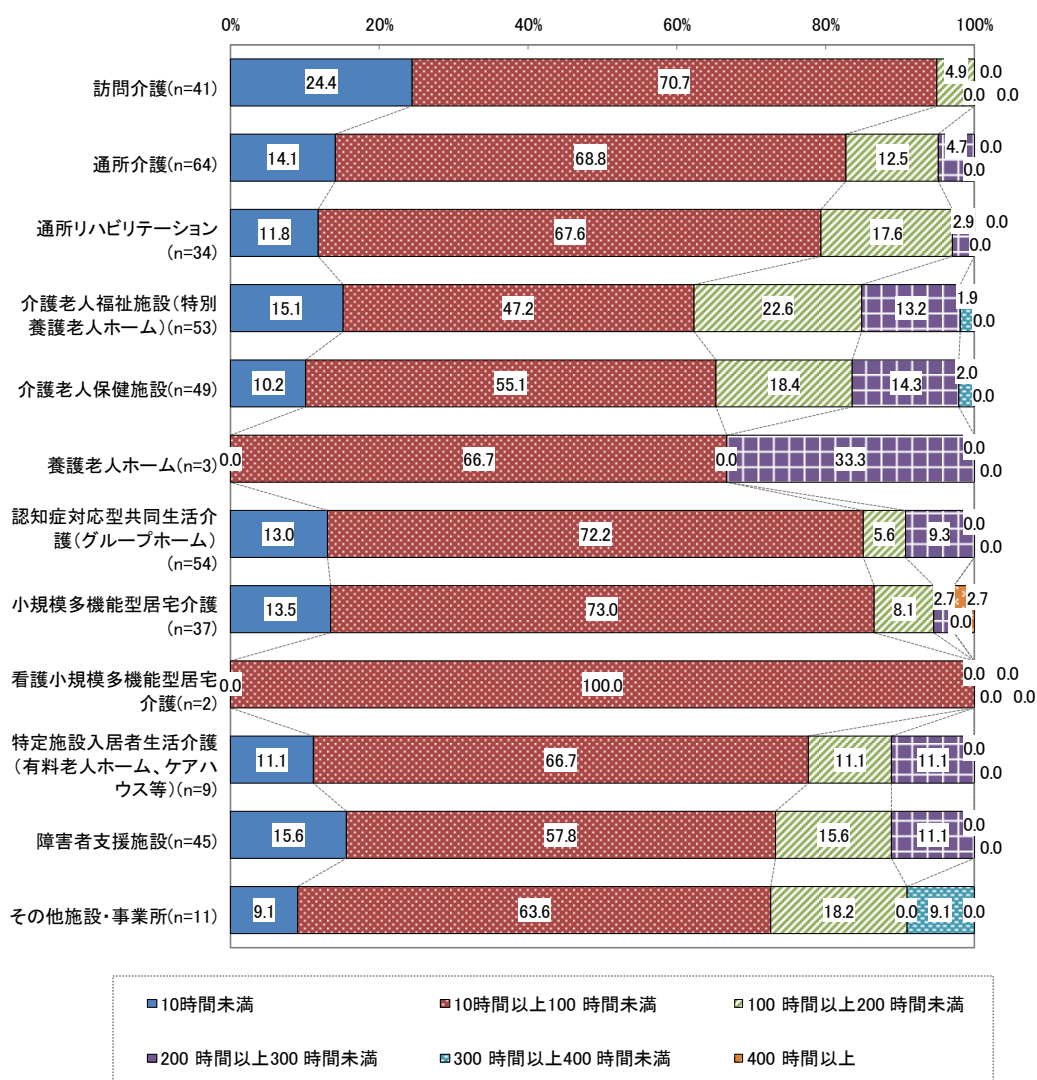
- 「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」及び「介護老人保健施設」の他、「通所介護」、「通所リハビリテーション」、「小規模多機能型居宅介護」での実習時間が長い割合が多く、「訪問介護」での実習時間が短い割合が高かった。

<全体>



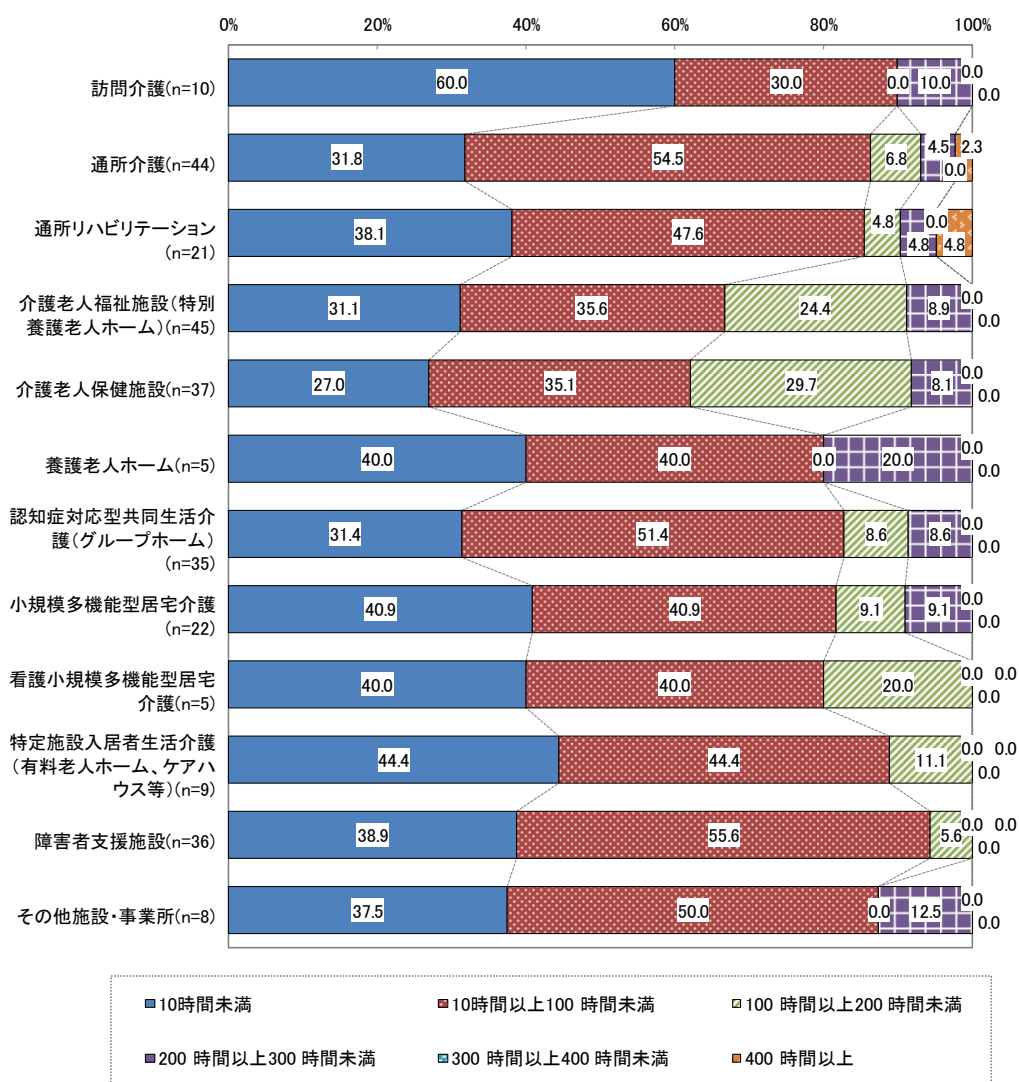
	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
訪問介護	51	31.0	18.0	4.0	216.0
通所介護	108	61.8	40.0	6.0	750.0
通所リハビリテーション	55	65.7	35.0	6.0	750.0
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	98	90.7	80.0	3.0	300.0
介護老人保健施設	86	92.8	80.0	2.0	300.0
養護老人ホーム	8	92.1	35.5	8.0	281.0
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	89	67.5	40.0	6.0	281.0
小規模多機能型居宅介護	59	67.3	40.0	2.0	400.0
看護小規模多機能型居宅介護	7	64.2	64.0	7.5	132.0
特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム、ケアハウス等)	18	54.4	31.0	8.0	270.0
障害者支援施設	81	61.7	40.0	4.0	272.0
その他施設・事業所	19	63.0	40.0	6.0	300.0

< 養成施設 >



	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
訪問介護	41	27.6	21.0	4.0	136.0
通所介護	64	59.6	40.0	7.5	272.0
通所リハビリテーション	34	59.4	40.0	8.0	270.0
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	53	103.6	88.0	7.0	300.0
介護老人保健施設	49	102.8	80.0	8.0	300.0
養護老人ホーム	3	126.0	80.0	26.0	272.0
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	54	72.1	44.0	7.0	272.0
小規模多機能型居宅介護	37	74.2	64.0	7.0	400.0
看護小規模多機能型居宅介護	2	94.0	94.0	92.0	96.0
特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム、ケアハウス等)	9	71.1	40.0	8.0	270.0
障害者支援施設	45	81.6	64.0	7.0	272.0
その他施設・事業所	11	71.9	40.0	8.0	300.0

<福祉系高校>



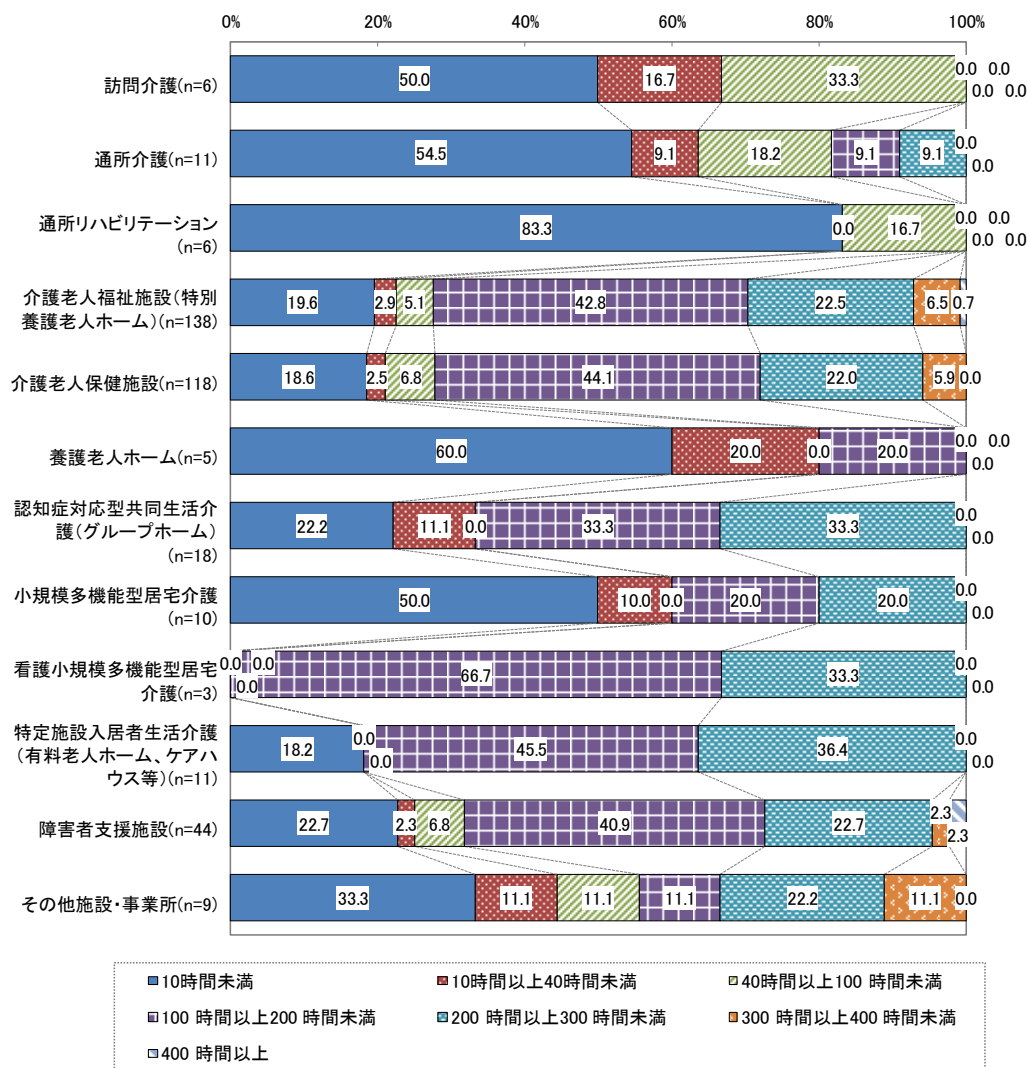
	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
訪問介護	10	44.7	8.0	8.0	216.0
通所介護	44	65.0	36.0	6.0	750.0
通所リハビリテーション	21	76.0	30.0	6.0	750.0
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	45	75.4	67.5	3.0	281.0
介護老人保健施設	37	79.5	70.0	2.0	281.0
養護老人ホーム	5	71.8	16.0	8.0	281.0
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	35	60.4	40.0	6.0	281.0
小規模多機能型居宅介護	22	55.6	35.0	2.0	225.0
看護小規模多機能型居宅介護	5	52.3	50.0	7.5	132.0
特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム、ケアハウス等)	9	37.7	30.0	8.0	132.0
障害者支援施設	36	36.8	32.5	4.0	160.0
その他施設・事業所	8	50.9	25.0	6.0	216.0

## ② 実習Ⅱのサービス別実習時間数

問 2-1.2. 実習Ⅱ 前問で回答した実習施設における、貴校の実習におけるサービス種別ごとの学生1人当たりの実習時間数を教えてください。

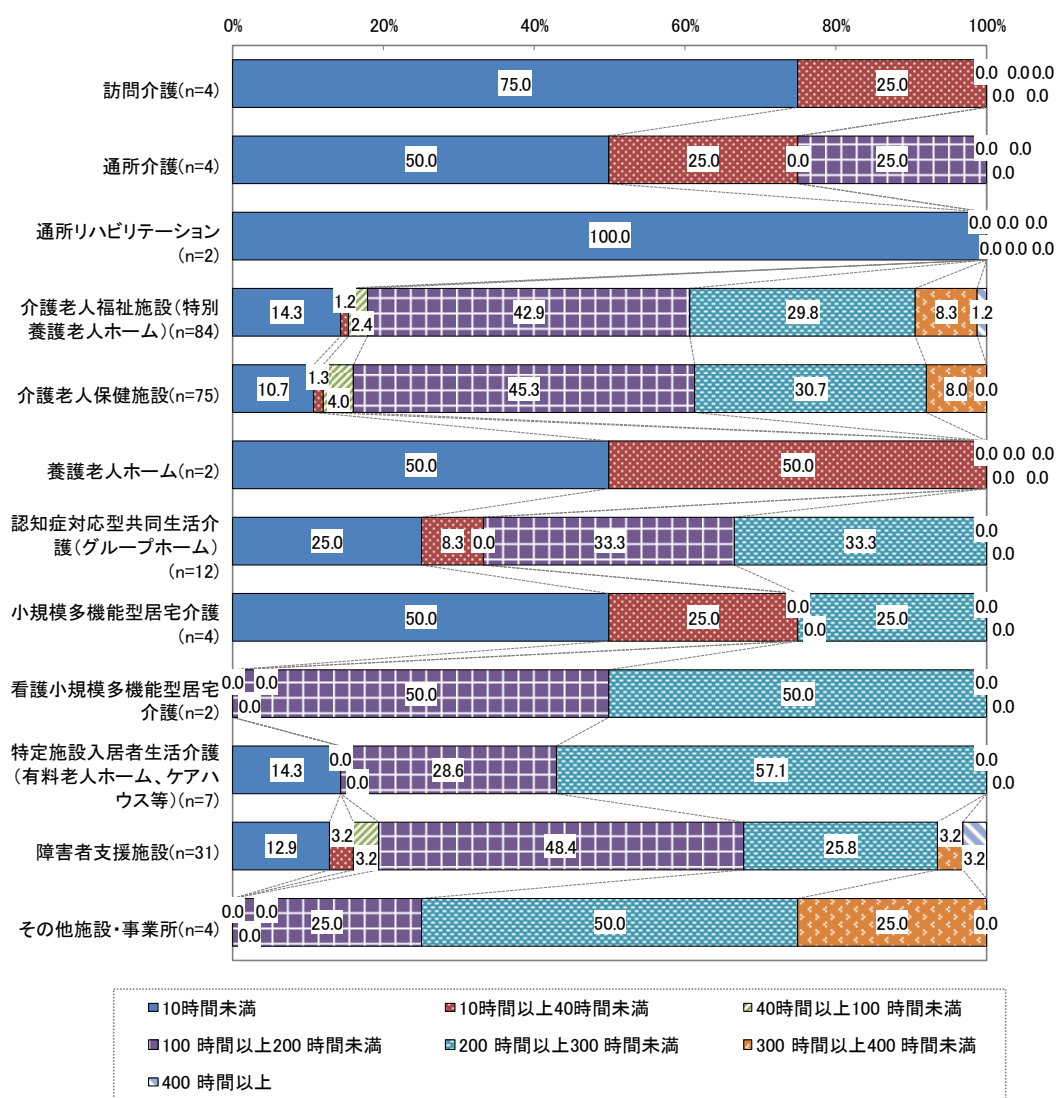
- 「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」、「介護老人保健施設」等の施設系サービスの他、「看護小規模多機能型居宅介護」、「障害者支援施設」等での実習において、実習時間が長い割合が高かった。

<全体>



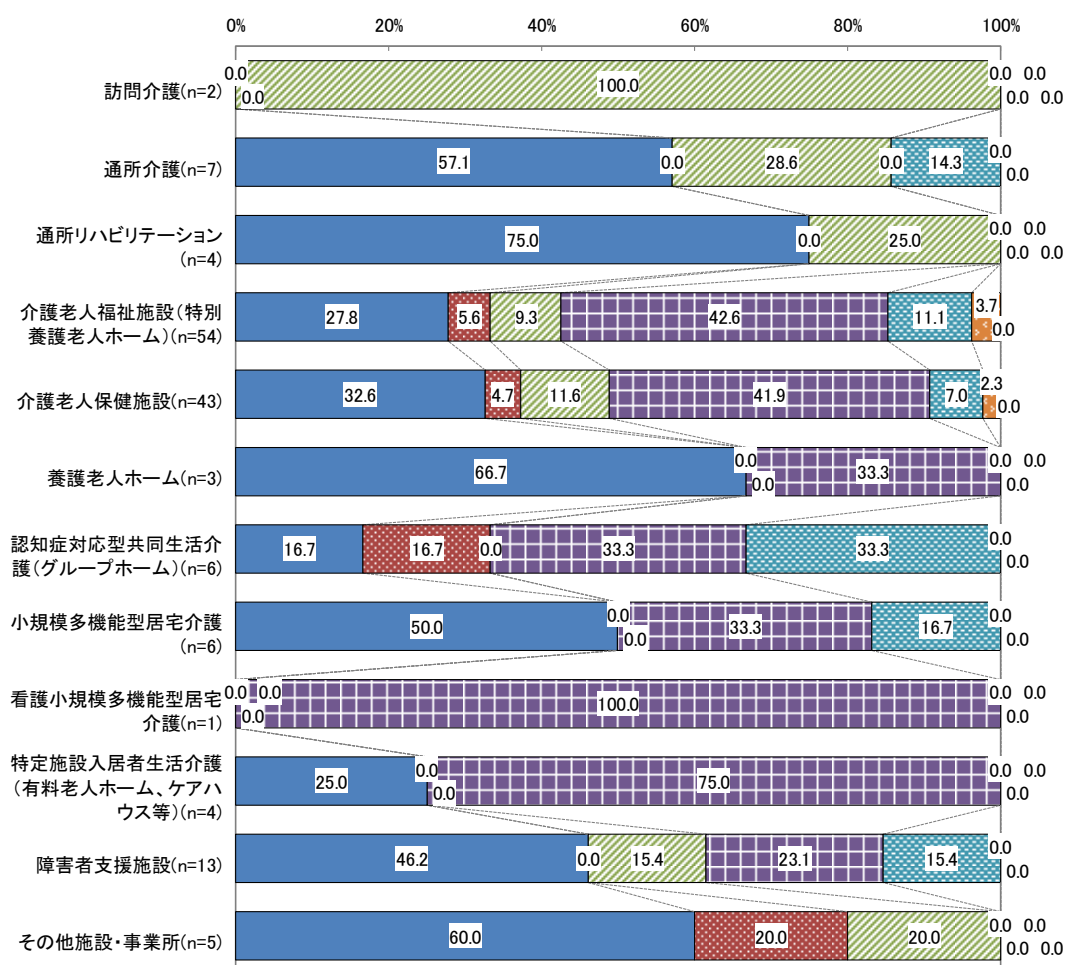
サービス種別	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
訪問介護	6	22.7	12.0	8.0	56.0
通所介護	11	51.7	9.0	8.0	288.0
通所リハビリテーション	6	16.0	8.0	8.0	56.0
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	138	154.9	176.0	6.0	440.0
介護老人保健施設	118	150.7	175.0	6.0	378.0
養護老人ホーム	5	46.9	8.0	7.5	175.0
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	18	142.4	177.5	7.5	288.0
小規模多機能型居宅介護	10	74.0	10.0	6.0	216.0
看護小規模多機能型居宅介護	3	166.7	152.0	132.0	216.0
特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム、ケアハウス等)	11	166.1	189.0	8.0	296.0
障害者支援施設	44	148.0	176.0	7.0	440.0
その他施設・事業所	9	123.0	75.0	6.6	315.0

< 養成施設 >



	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
訪問介護	4	10.0	8.0	8.0	16.0
通所介護	4	38.0	12.0	8.0	120.0
通所リハビリテーション	2	8.0	8.0	8.0	8.0
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	84	179.7	184.0	7.0	440.0
介護老人保健施設	75	180.1	184.0	7.5	378.0
養護老人ホーム	2	21.8	21.8	7.5	36.0
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	12	144.3	182.0	7.5	266.0
小規模多機能型居宅介護	4	60.9	10.0	7.5	216.0
看護小規模多機能型居宅介護	2	184.0	184.0	152.0	216.0
特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム、ケアハウス等)	7	192.1	216.0	8.0	296.0
障害者支援施設	31	172.3	184.0	7.0	440.0
その他施設・事業所	4	250.0	248.0	189.0	315.0

<福祉系高校>



■ 10時間未満     
 ■ 10時間以上40時間未満     
 ■ 40時間以上100時間未満  
■ 100時間以上200時間未満     
 ■ 200時間以上300時間未満     
 ■ 300時間以上400時間未満  
□ 400時間以上

	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
訪問介護	2	48.0	48.0	40.0	56.0
通所介護	7	59.6	9.0	8.0	288.0
通所リハビリテーション	4	20.0	8.0	8.0	56.0
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	54	116.4	122.8	6.0	392.0
介護老人保健施設	43	99.4	104.0	6.0	324.0
養護老人ホーム	3	63.7	8.0	8.0	175.0
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	6	138.5	153.5	8.0	288.0
小規模多機能型居宅介護	6	82.7	67.0	6.0	216.0
看護小規模多機能型居宅介護	1	132.0	132.0	132.0	132.0
特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム、ケアハウス等)	4	120.5	141.0	8.0	192.0
障害者支援施設	13	90.1	56.0	8.0	288.0
その他施設・事業所	5	21.3	8.0	6.6	75.0



### 3) 実習の具体的取組、養成校と実習施設の連携

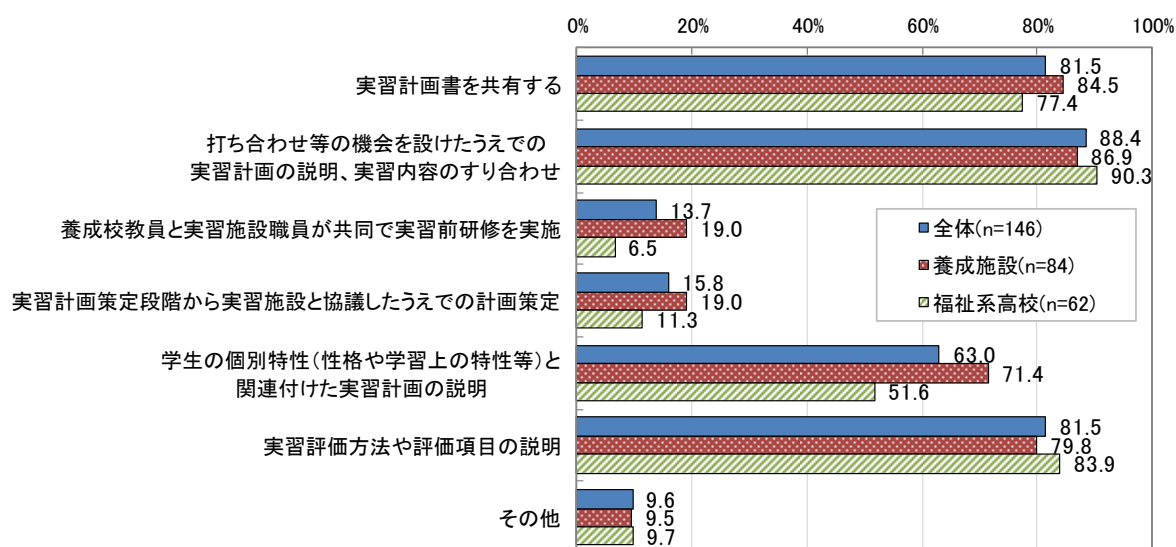
※ 以下、実習の具体的取組については、2022 年度に期間を限定せず、これまでに行っていた実習全般について伺っています

#### (1) 実習前の取組

##### ① 実習意義・実習目的の伝達のための工夫

問 3. 実習前、実習施設に対し、実習意義／実習目的を伝達するためにどのような対応をしているかを教えてください。(複数選択)

- ・ 「打ち合わせ等の機会を設けたうえでの実習計画の説明、実習内容のすり合わせ」、「実習計画書を共有する」、「実習評価方法や評価項目の説明」が多かった。



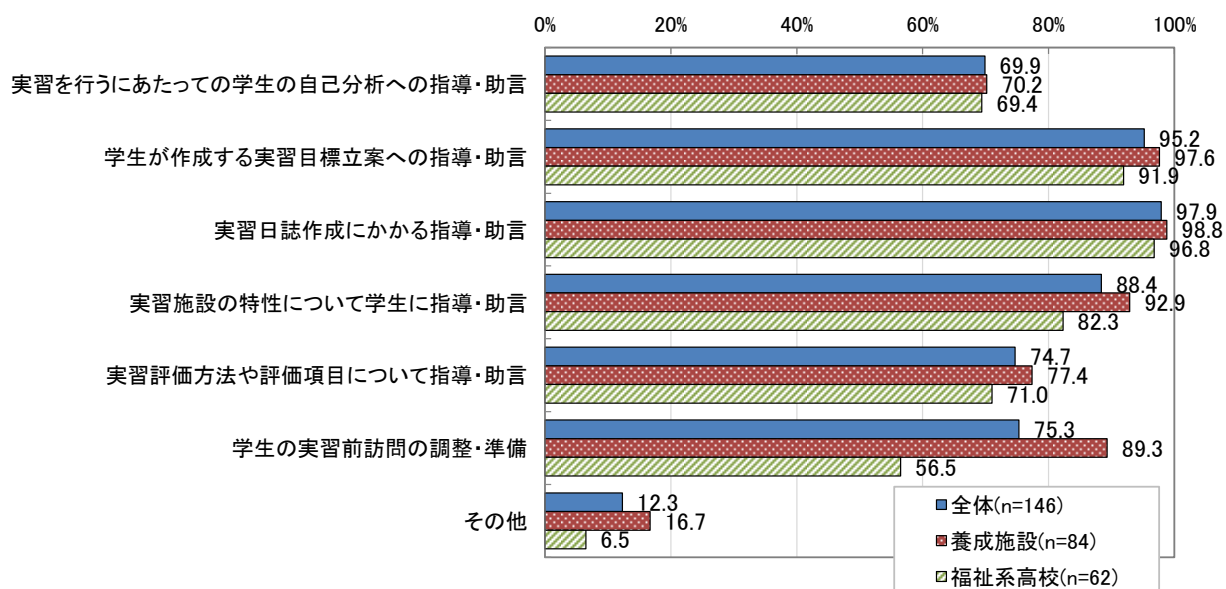
問 3-1. 【実習 I II 全般】前問で回答した実習施設への対応について、対応内容を詳しく教えてください。(自由記述)

- ・ 多くの養成校において、実習開始前に、実習担当教員と実習施設の実習指導者（指導責任者）の二者で事前に打合せを行っていた。
- ・ 特に丁寧に事前準備を行っている事例では、実習計画の共通理解を図るために、学年ごとに実習生、実習担当教員と実習施設の実習指導者（指導責任者）が一堂に会した説明会を実施している養成校があった。
- ・ 実習施設に対し、実習指導者（指導責任者）、実習担当者以外の介護職員（フロアスタッフ）にも共通理解の周知依頼をしている養成校もあった。
- ・ 養成校が実習施設にあらかじめ伝達する事項としては、介護実習の目的や目標、実習評価基準、介護過程の展開における実施課題、過去の好事例に加え、実習生の性格やこれまでの経験、得意分野・不得意分野などが挙げられた。

## ② 実習前の学生への対応

問 4. 実習前、学生に対し、教員がどのような対応をしているかを教えてください。(複数選択)

- 「実習日誌作成にかかる指導・助言」、「学生が作成する実習目標立案への指導・助言」等の実習で使用する資料準備にかかることは概ね取り組まれていたが、「実習を行うにあたっての学生の自己分析への指導・助言」、「実習評価方法や評価項目についての指導・助言」、「学生の実習前訪問の調整・準備」については、取り組んでいない養成校もみられた。

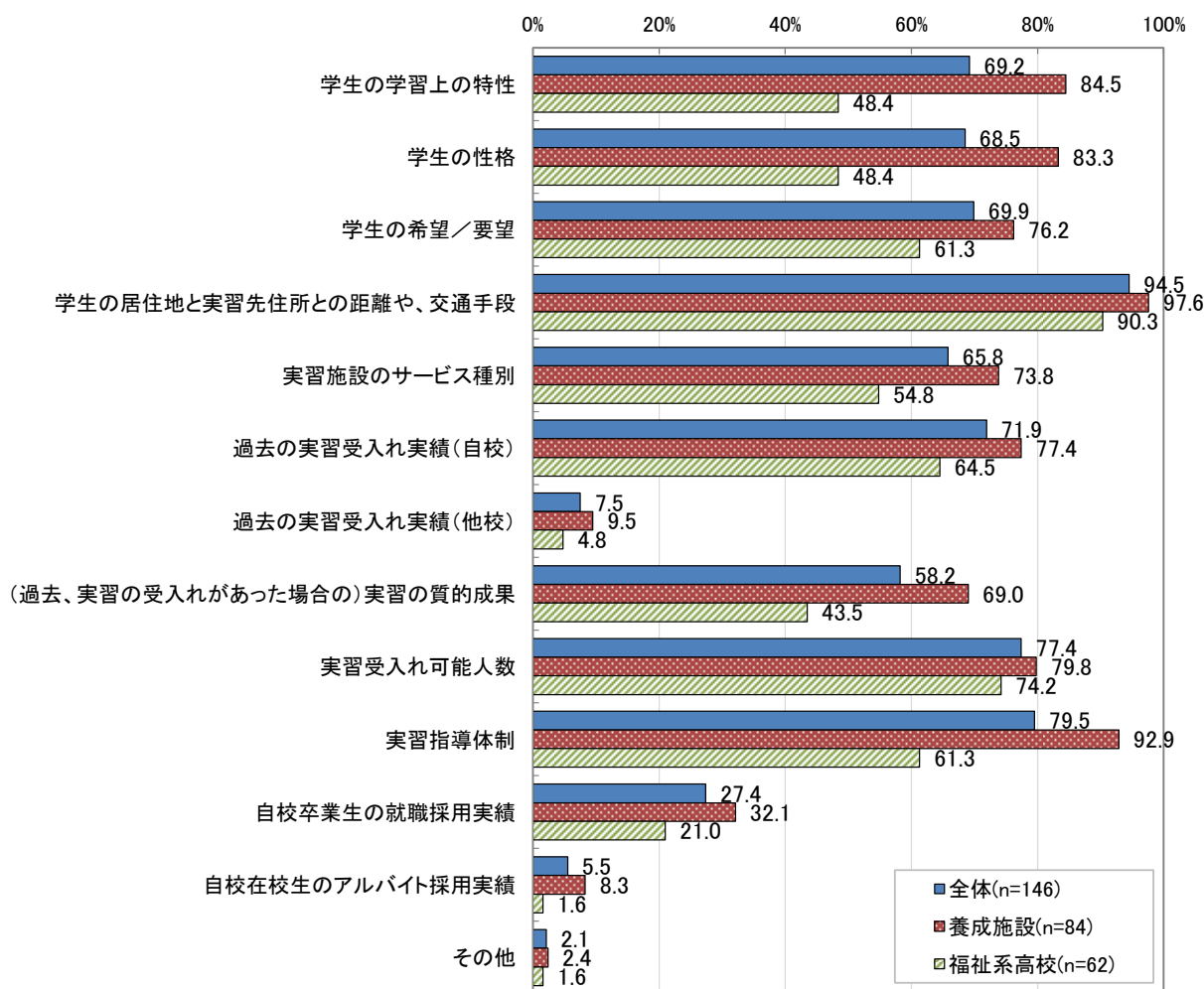


### ③ 学生と実習施設とのマッチングにおいて重視する情報

#### a. 重視する情報

問 5. 教員が学生の実習先を決定する際、実習先と学生のマッチング状況を考慮する上で重視する情報を教えてください。(複数選択)

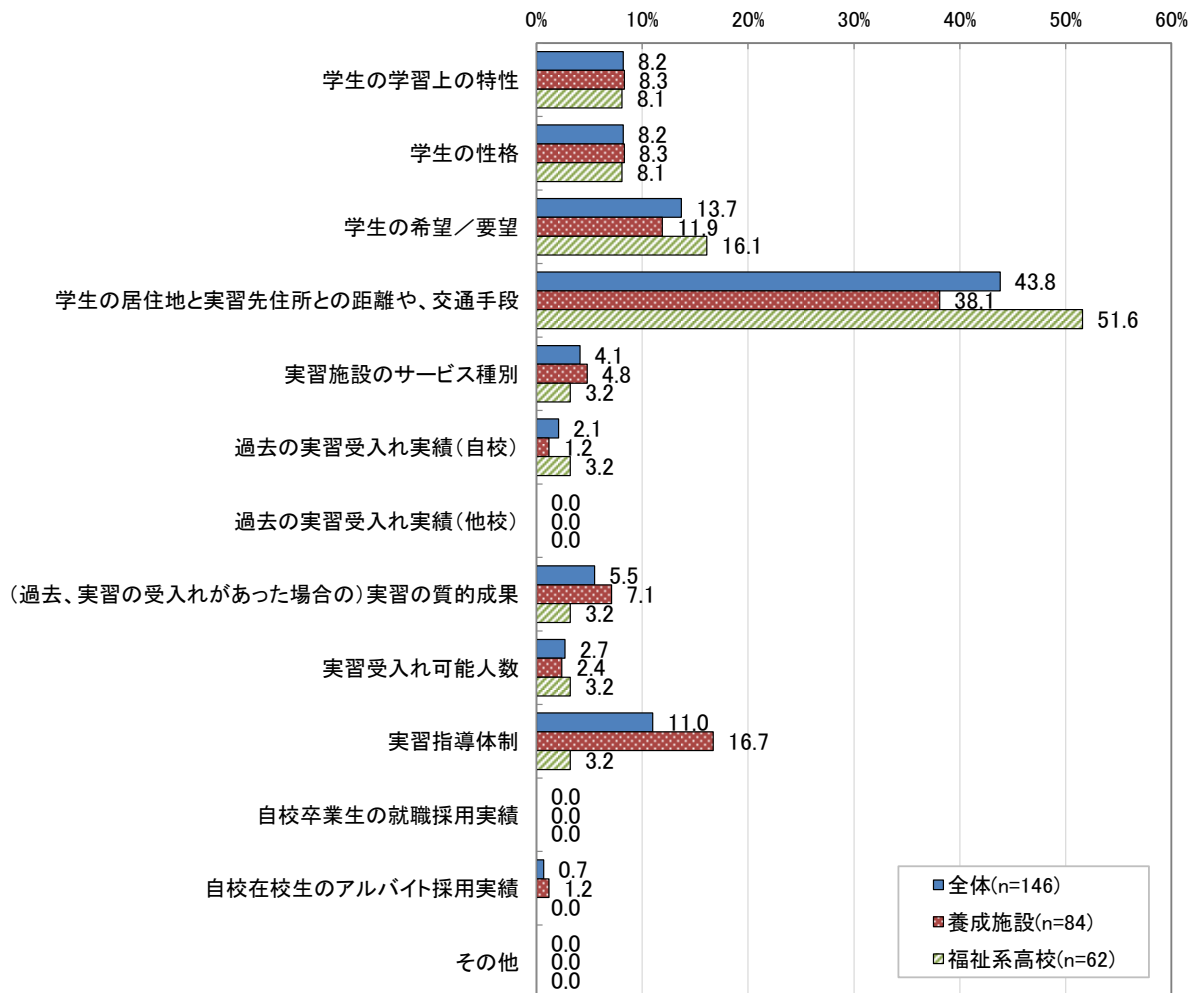
- ・ 「学生の居住地と実習先住所との距離や交通手段」が最も多く、全体では94.5%、養成施設では97.6%、福祉系高校では90.3%であった。
- ・ 福祉系高校に比べ、養成施設では、概ねどの項目においても考慮されている割合が高かった。特に、「実習指導体制」においては92.9%とほとんどの養成施設で重視されており、福祉系高校の61.3%と比較すると、違いがみられる。「学生の学習上の特性」「学生の性格」についても、差が見られた。



## b. 最も重視する情報

問 6.1. 前問で回答した実習先と学生のマッチング状況を考慮する上で重視する情報について、最も重視する事柄を教えてください。

- ・ 「学生の居住地と実習先住所との距離や、交通手段」が最も多く、全体では 43.8%、養成施設では 38.1%、福祉系高校では 51.6%であった。



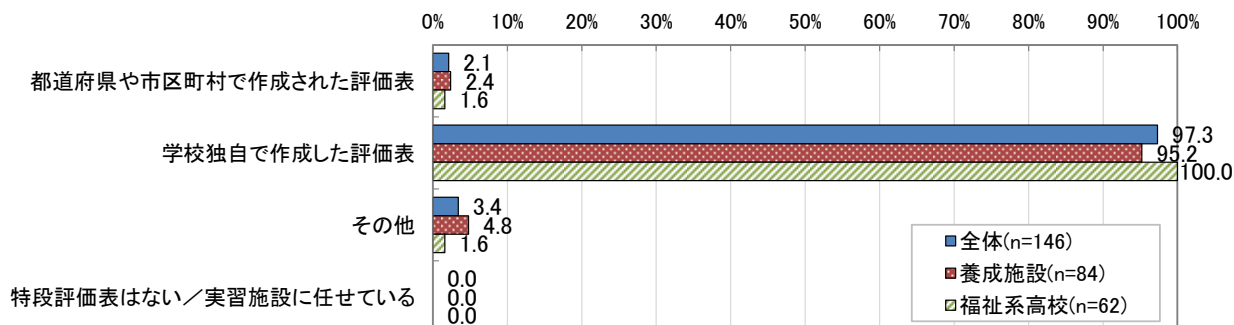
問 6.2. 前問で回答した実習先と学生のマッチング状況を考慮する上で重視する情報について、最も重視する事柄を考慮したうえでの実習先選定における工夫点を教えてください。(自由記述)

- ・ 過去の実習生への指導内容や指導に対する実習生の反応を鑑み、実習生の性格等にあった実習施設や実習指導者(指導責任者)を選定する工夫が多く、養成校で見られた。
- ・ 就職希望先と実習先を一致させている事例や既に実習生の性格や行動を理解しているアルバイト先を実習先としている事例もあった。
- ・ 高校生の場合は、実習施設までの移動距離や公共交通機関の利用、保護者の送迎の有無などを考慮している場合が多く見られた。
- ・ 経済的な観点では、実習施設への交通費をクラス全員の徴収金から折半している事例や定期券範囲内の施設を選定する事例も見られた。
- ・ 実習指導体制がしっかりしていると、どのようなタイプの学生についても柔軟に指導してもらえるため、施設の指導体制を最も重視するといった回答も見られた。

#### ④ 活用している実習評価表

問 7. 実習評価を行う際の評価表について、どのようなものを活用しているかを教えてください。(複数選択)

- ・ 「学校独自で作成した評価表」が最も多く、全体では97.3%、養成施設では95.2%、福祉系高校では100.0%であった。

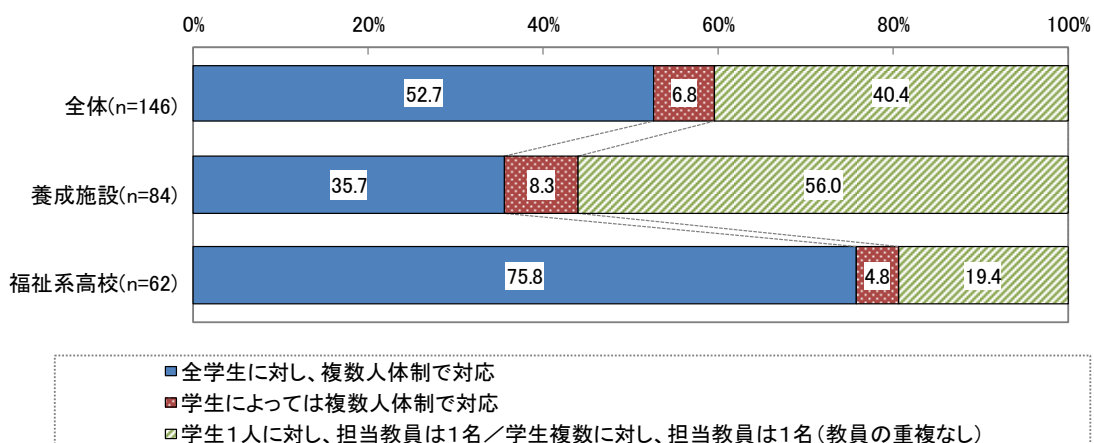


#### (2) 実習中の取組

##### ① 実習にかかる教員体制

問 8. 実習中の学生を指導するにあたり、関わる教員数について、最もあてはまる形態を教えてください。

- ・ 全体では、「全学生に対し、複数人体制で対応」が52.7%と最も多く、「学生1人に対し、担当教員は1名／学生複数に対し、担当教員は1名（教員の重複なし）」が40.4%、「学生によっては複数人体制で対応」が6.8%であった。
- ・ 養成施設では、「学生1人に対し、担当教員は1名／学生複数に対し、担当教員は1名（教員の重複なし）」が56.0%と最も多く、「全学生に対し、複数人体制で対応」が35.7%、「学生によっては複数人体制で対応」が8.3%であった。
- ・ 福祉系高校では、「全学生に対し、複数人体制で対応」が75.8%と最も多く、「学生1人に対し、担当教員は1名／学生複数に対し、担当教員は1名（教員の重複なし）」が19.4%、「学生によっては複数人体制で対応」が4.8%であった。



問 9. 【実習 I II 全般】実習中の教員体制における貴校での体制構築の工夫点を教えてください。

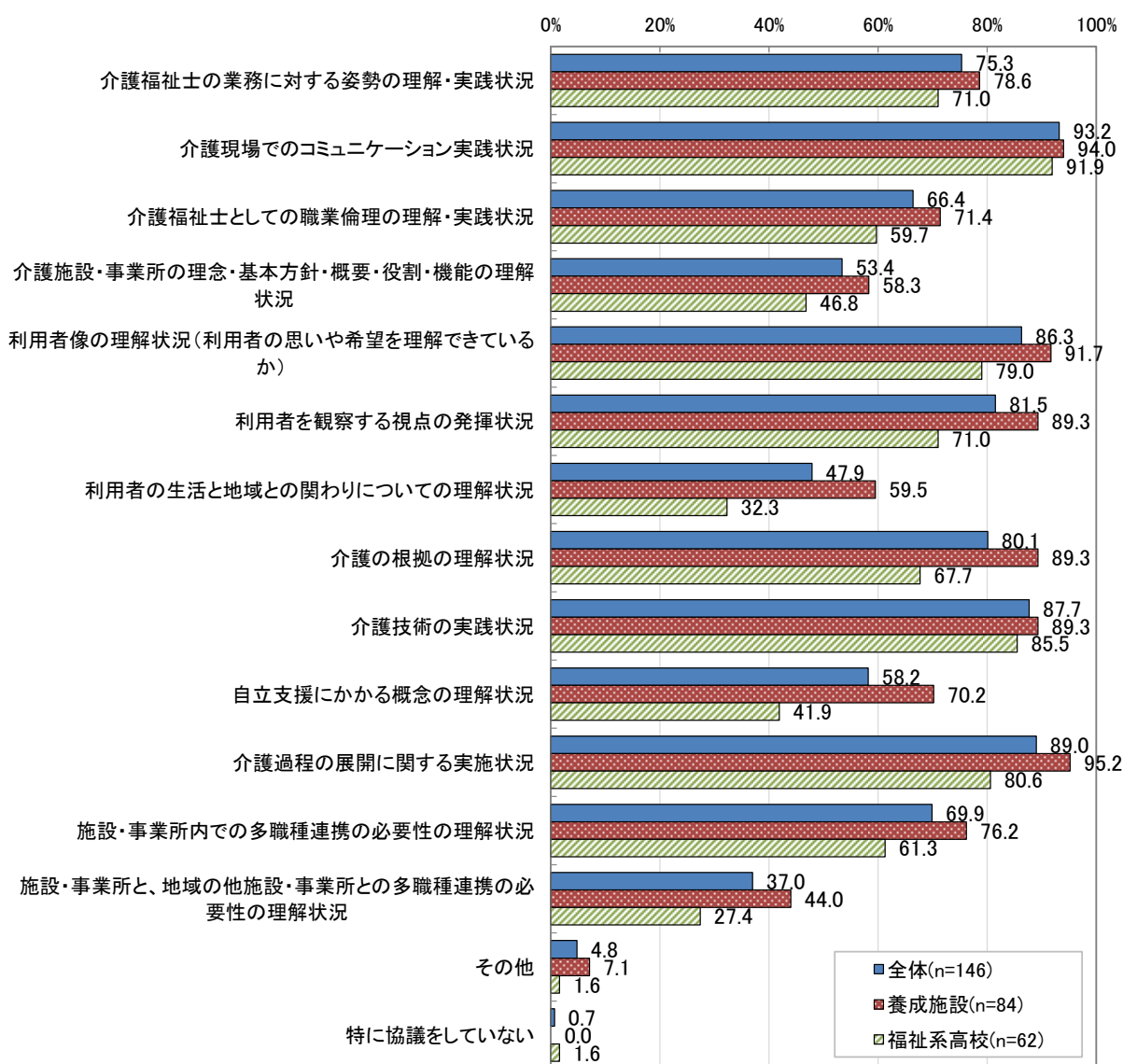
(自由記述)

- ・ 学年全体を学科教員全員で指導する体制を採っている事例、実習施設が広範囲に所在するため、実習施設の所在地ごとや施設ごとに指導する体制を採っている事例、一貫した指導となるよう実習生ごと 1 教員の担任制としている事例などが見られた。
- ・ 学年全体を学科教員全員で指導している福祉系高校の事例では、定期的な学科会議を開催し、生徒や実習の状況に関する情報を共有する機会としていた。
- ・ トラブルが発生した場合や特別な配慮が必要な実習生には、複数名で対応したり、専任教員を付けたっていた。

## ② 実習施設の実習指導者(指導責任者)との協議内容

問 10. 巡回指導時、実習内容／実習目標の到達状況に関し、実習施設の実習指導担当者とのような項目について協議するかを教えてください。(複数選択)

- ・ 全体では、「介護現場でのコミュニケーション実践状況」が93.2%と最も多く、次いで「介護過程の展開に関する実施状況」が89.0%、「介護技術の実践状況」が87.7%、「利用者像の理解状況（利用者の思いや希望を理解できているか）」が86.3%と続いた。
- ・ 養成施設では、「介護過程の展開に関する実施状況」が95.2%と最も多く、次いで「介護現場でのコミュニケーション実践状況」が94.0%、「利用者像の理解状況（利用者の思いや希望を理解できているか）」が91.7%、「利用者を観察する視点の発揮状況」、「介護の根拠の理解状況」、「介護技術の実践状況」が89.3%と続いた。
- ・ 福祉系高校では、「介護現場でのコミュニケーション実践状況」が91.9%と最も多く、次いで「介護技術の実践状況」が85.5%、「介護過程の展開に関する実施状況」が80.6%、「利用者像の理解状況（利用者の思いや希望を理解できているか）」が79.0%と続いた。



問 11. 【実習ⅠⅡ全般】実習期間中の実習指導担当者との協議に関し、実習の質を高めるために、どのような工夫をしているかを教えてください。(自由記述)

- ・ 実習中の様子を養成校の実習担当教員が実習指導者（指導責任者）から詳細に伺い、実習生の実践状況等に合わせ、その後の実習内容などを調整する事例が多く見られた。
- ・ 実習生のモチベーションの維持のために、中間反省会、最終反省会以外のカンファレンスや個別での振り返りの時間を設けるよう依頼している事例が多く見られた。
- ・ 多職種連携や地域との関わり等の理解について、介護職の実習担当者以外にも、他職種の職員等から説明の機会を確保してもらうよう依頼しているケースが見られた。
- ・ 生活支援技術の実践について、見学を中心に行うティーチングの期間、職員の見守りのなか実践するコーチングの期間、一人で実践する独り立ちの期間など、段階的に生活支援技術の実践ができるように依頼している事例が見られた。
- ・ 介護技術については、手順を教えるだけでなく、根拠とともに伝えるよう依頼している事例も見られた。

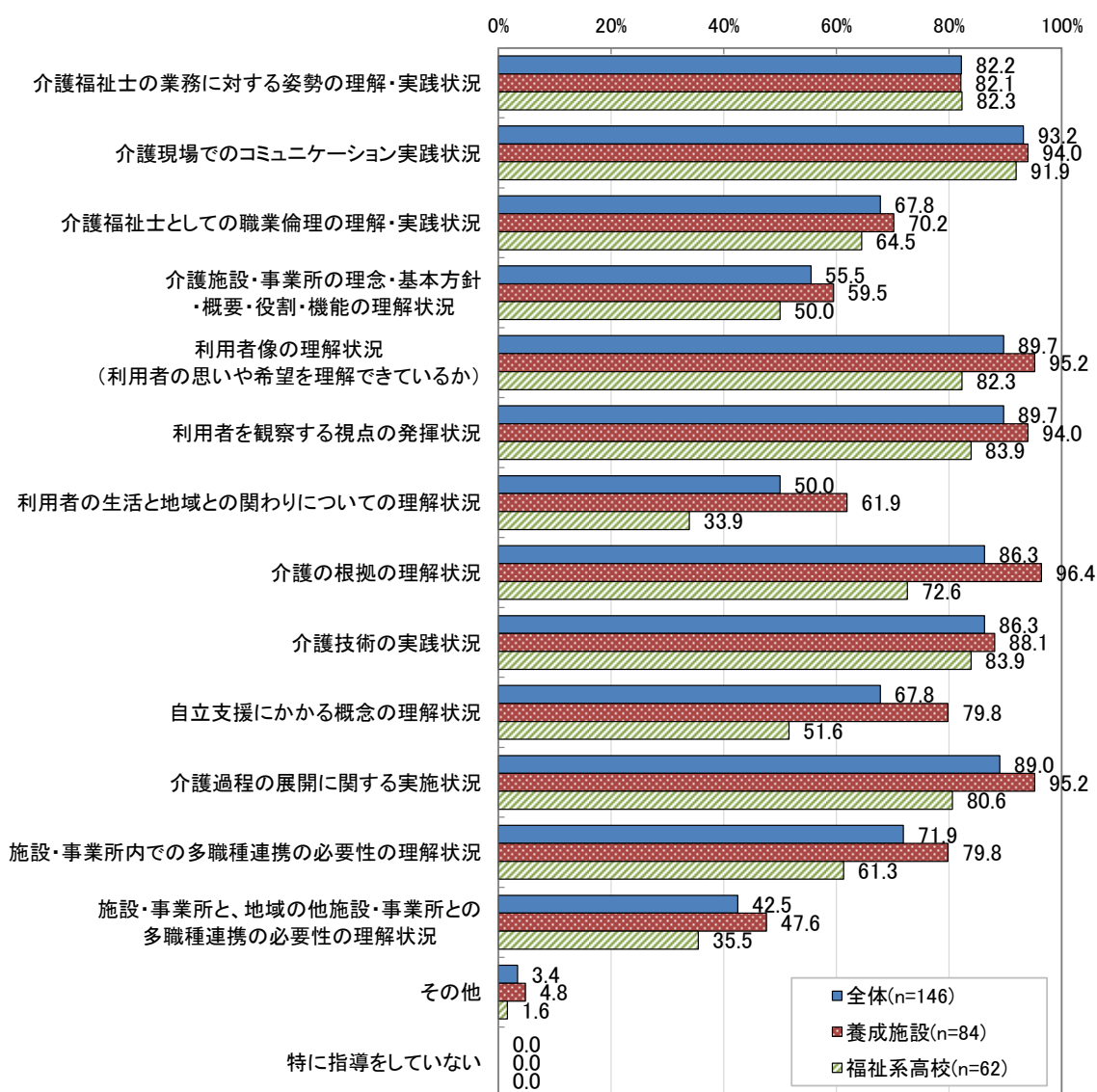


### ③ 巡回指導・帰校日の取組

#### a. 巡回指導における実習内容・実習目標の到達状況を踏まえた学生への指導項目

問 12. 巡回指導時、実習内容／実習目標の到達状況のうち、どのような項目について学生へ指導するかを教えてください。(複数選択)

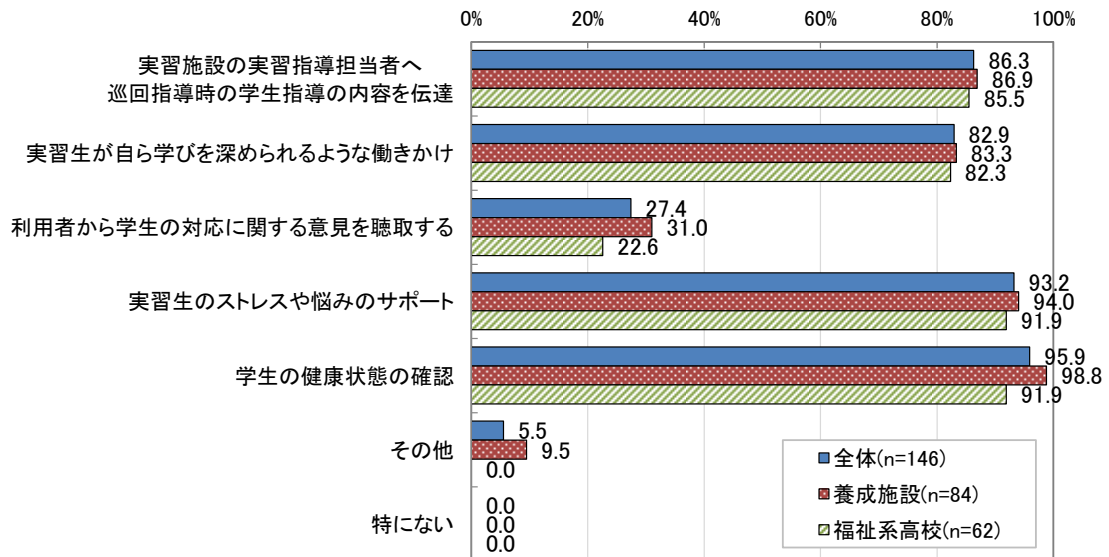
- ・ 全体では、「介護現場でのコミュニケーション実践状況」が93.2%と最も高かった。
- ・ 養成施設では、「介護の根拠の理解状況」が96.4%と最も多く、次いで、「利用者像の理解状況（利用者の思いや希望を理解できているか）」、「介護過程の展開に関する実施状況」が95.2%、「介護現場でのコミュニケーション実践状況」、「利用者を観察する視点の発揮状況」が94.0%と続いた。
- ・ 福祉系高校では、「介護現場でのコミュニケーション実践状況」が91.9%と最も多く、次いで「介護技術の実践状況」及び「利用者を観察する視点の発揮状況」が83.9%、「介護福祉士の業務に対する姿勢の理解・実践状況」及び「利用者増の理解状況（利用者の思いや希望を理解できているか）」が82.3%と続いた。



b. a.以外に行う巡回指導における学生への指導項目

問 13. 巡回指導時、問 11 及び問 12 の回答以外に教員が行っていることを教えてください。(複数選択)

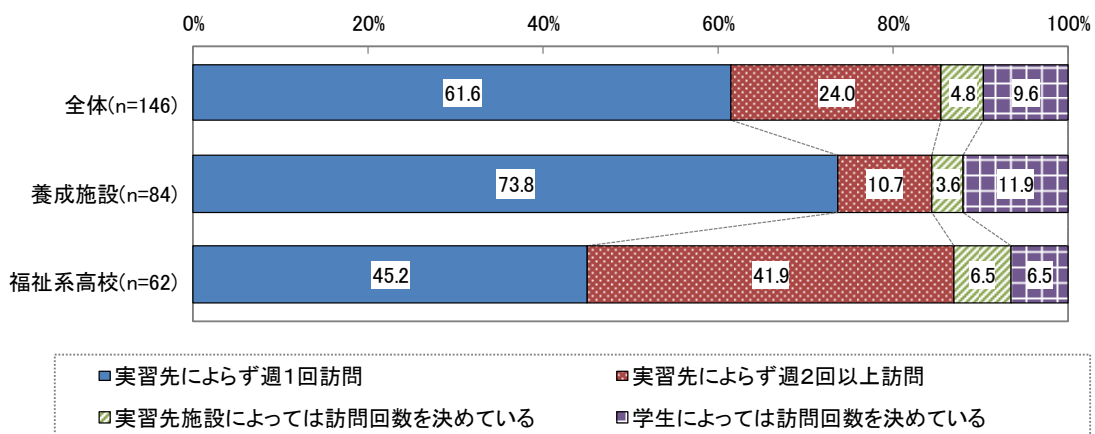
- ・ 「学生の健康状態の確認」、「実習生のストレスや悩みのサポート」が同程度で高かった。



c. 巡回指導の回数

問 14. 貴校における平均的な巡回指導回数を教えてください。

- ・ 全体では、「実習先によらず週 1 回訪問」が 61.6%と最も多く、「実習先によらず週 2 回以上訪問」が 24.0%、「学生によっては訪問回数を決めている」が 9.6%、「実習先施設によっては訪問回数を決めている」が 4.8%であった。
- ・ 養成施設では、「実習先によらず週 1 回訪問」が 73.8%と最も多く、「学生によっては訪問回数を決めている」が 11.9%、「実習先によらず週 2 回以上訪問」が 10.7%、「実習先施設によっては訪問回数を決めている」が 3.6%であった。
- ・ 福祉系高校では、「実習先によらず週 1 回訪問」が 45.2%と最も多く、「実習先によらず週 2 回以上訪問」が 41.9%、「実習先施設によっては訪問回数を決めている」が 6.5%、「学生によっては訪問回数を決めている」が 6.5%であった。



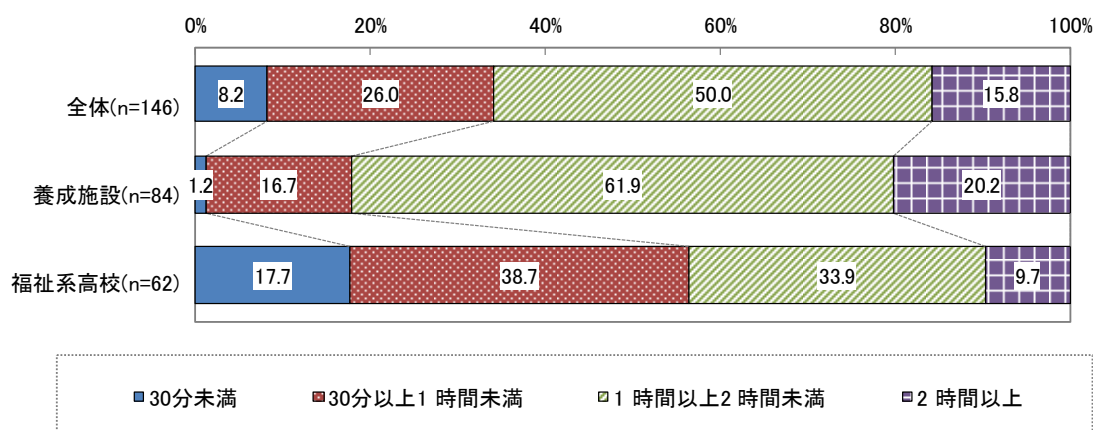
問 14-1. 【実習ⅠⅡ全般】通常より訪問回数を増やすことになったケースがあった場合、その理由と、追加の訪問時に対応している内容を教えてください。(自由記述)

- ・ 実習生の実習計画に対する進捗、メンタルヘルスを含めた健康状態、欠席を記録上で確認し、追加の指導が必要と思われる学生や、実習指導者（指導責任者）から「積極性がない」「コミュニケーションが図れていない」という連絡を受けた場合に、訪問回数を増やしている事例が見られた。
- ・ 訪問回数を増やした場合、実習指導者（指導責任者）との2者面談、場合によっては本人を交えた3者面談を実施していた。

d. 巡回指導の1施設・1週間あたりの滞在時間

問 15. 貴校における、1施設／1週間あたりの巡回指導時の平均的な実習施設滞在時間(教員の滞在時間)を教えてください。

- ・ 全体では、「平均」が66.1分、「中央値」が60.0分であった。
- ・ 養成施設では、「平均」が74.9分、「中央値」が60.0分であった。
- ・ 福祉系高校では、「平均」が54.2分、「中央値」が40.0分であった。

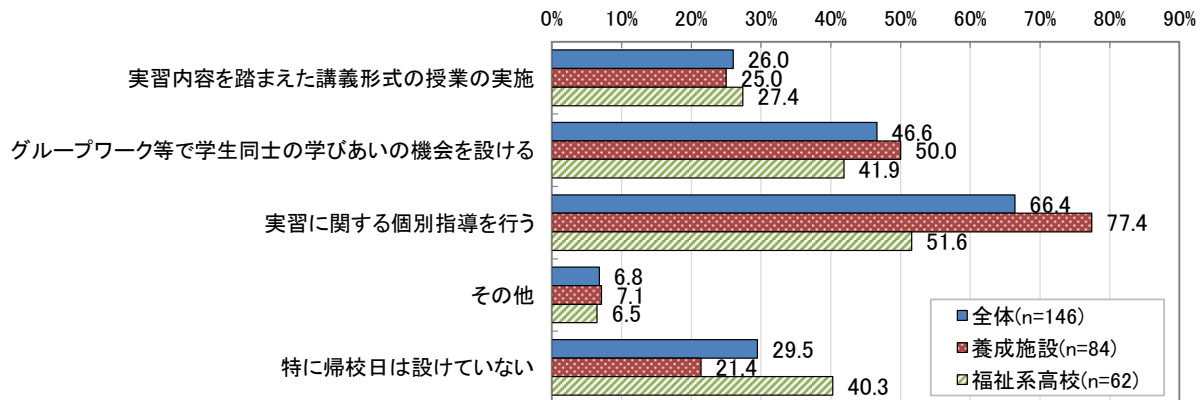


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	146	66.1	60.0	15.0	240.0
養成施設	84	74.9	60.0	20.0	200.0
福祉系高校	62	54.2	40.0	15.0	240.0

### e. 帰校日に行っている実習指導

問 16. 実習中の学生の帰校日に行っていることを教えてください。(複数選択)

- 「実習に関する個別指導を行う」が最も多く、次いで「グループワーク等で学生同士の学びあいの機会を設ける」が続いた。

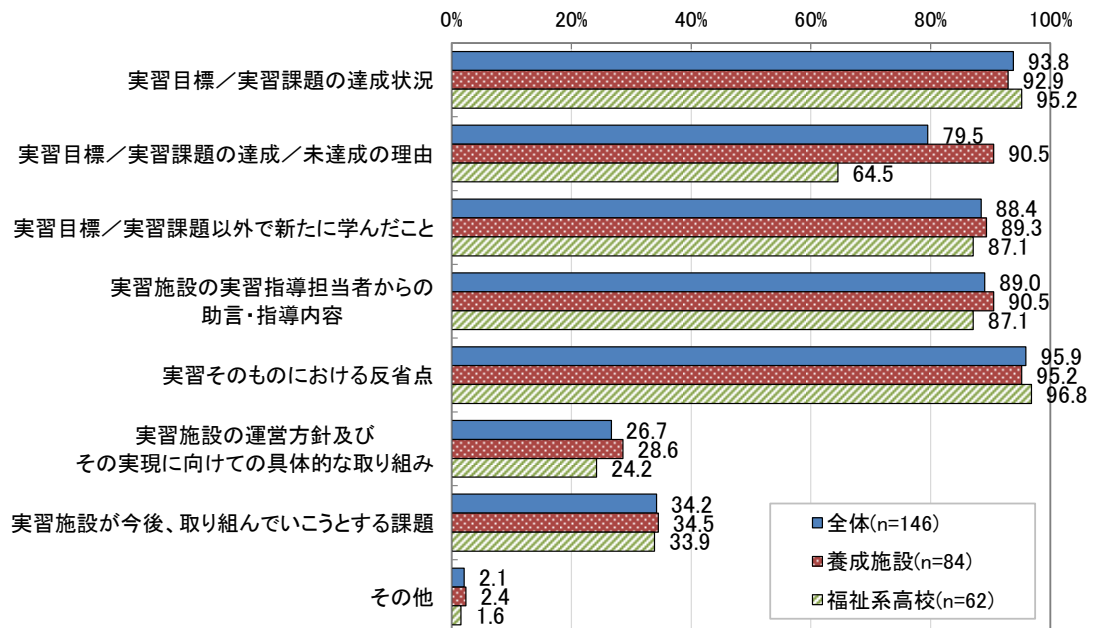


### (3) 実習後の取組

#### ① 実習の振り返りで学生が確認すべき事項

問 17. 実習後に学内で実習の振り返りを行う際、学生が確認することとなっている項目を教えてください。(複数選択)

- 全体では、「実習そのものにおける反省点」が95.9%と最も多く、次いで、「実習目標／実習課題の達成状況」が93.8%、「実習施設の実習指導担当者からの助言・指導内容」が89.0%、「実習目標／実習課題以外で新たに学んだこと」が88.4%と続いた。
- 「実習目標／実習課題の達成／未達成の理由」については、養成施設が90.5%である一方、福祉系高校が64.5%であった。



## ② 実習の振り返り授業での工夫

問 18. 【実習 I II 全般】実習の振り返り授業等を行う際の実践上の工夫点を教えてください。(自由記述)

- ・ 多くの養成校では、実習生一人ひとりが実習の振り返りを行い、実習での個人的経験や考察をまとめた後に報告会を実施することで、全体での学びの共有を行っていた。
- ・ 報告会については、上級生から下級生への伝達効果、自身の実習施設以外の様子を伝える効果があり、また、在学期間中、複数年継続して実習に行くため、言語化しておくことで、過去・現在・未来と自身の成長を評価できるようにする効果が期待されていた。
- ・ その他、養成校によっては、教員との個別面談で振り返りを行う事例や、KJ法を活用し、付箋に実習での出来事や思い等を自由に書き、付箋をグループ化し、改善した方がよい内容については、今後の対応や取組を考えさせているケースも見られた。

#### 4) 代替実習の実態、実施した際に工夫した点

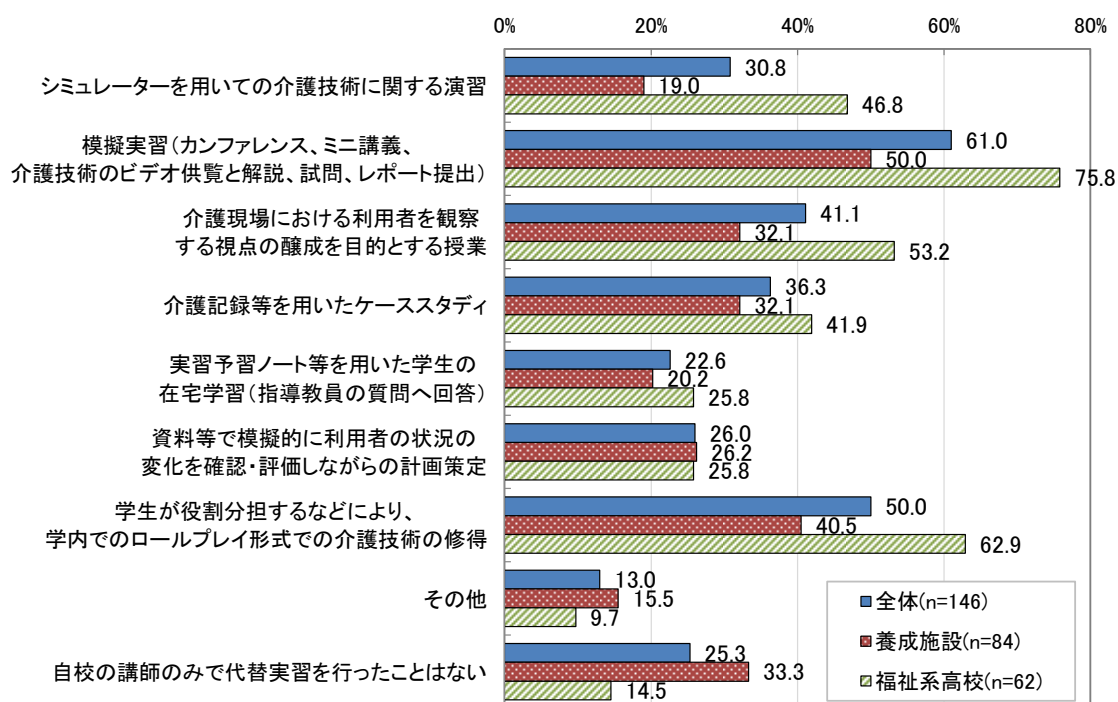
※ 以下、代替実習については、2022 年度に期間を限定せず、これまでに行っていた代替実習全般について伺っています

##### (1) 学内の教員のみで行う代替実習の取組

###### ① 学内の教員のみで行う代替実習(実習Ⅰ)

問 19.1. 実習Ⅰ:実習について、自校の教員・職員のみによる代替実習を行った場合、その実施内容を教えてください。(複数選択)

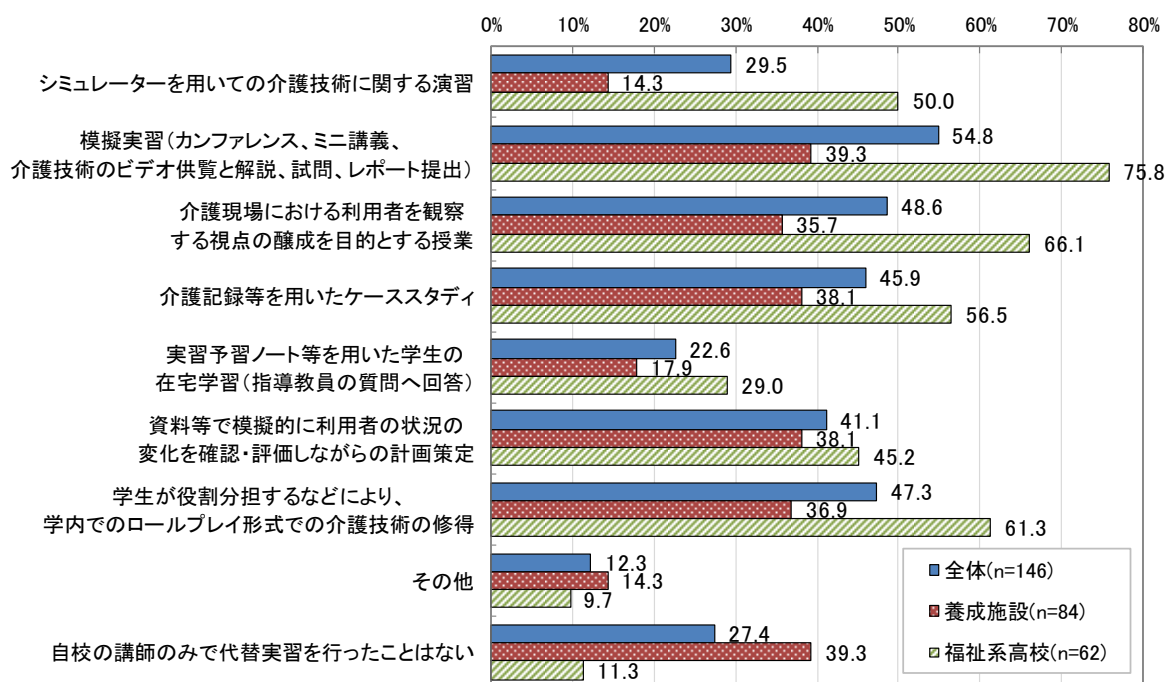
- 全体では、「模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ供覧と解説、試問、レポート提出）」が 61.0%と最も多く、次いで「学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイ形式での介護技術の修得」が 50.0%、「介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業」が 41.1%と続いた。
- 概ねどの項目においても、養成施設と比べて、より福祉系高校で取り組まれている傾向がみられた。



## ② 学内の教員のみで行う代替実習(実習Ⅱ)

問 19.2. 実習Ⅱ:実習について、自校の教員・職員のみによる代替実習を行った場合、その実施内容を教えてください。(複数選択)

- 全体では、「模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ供覧と解説、試問、レポート提出）」が 54.8%と最も多く、「介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業」が 48.6%、「学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイ形式での介護技術の修得」が 47.3%、「介護記録等を用いたケーススタディ」が 45.9%、「資料等で模擬的に利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定」が 41.1%と続いた。
- 概ねどの項目においても、福祉系高校では、養成施設と比べてより取り組まれている傾向がみられた。



## (2) 実習施設が養成校の協力を得て行う代替実習

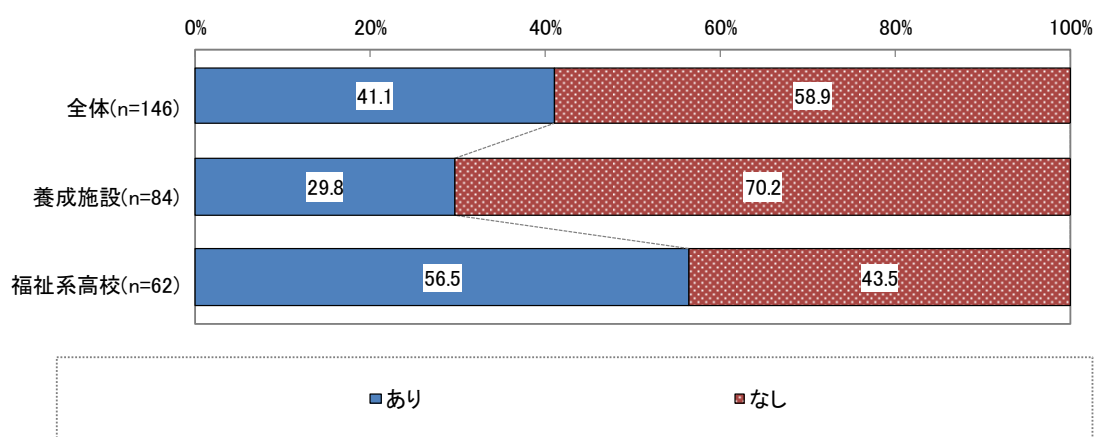
### ① 実習施設への代替実習の協力依頼状況

問 20.1. 実習Ⅰ：これまで、実習施設に対し、何らかの代替実習の協力依頼をしたことがあるかについて教えてください。

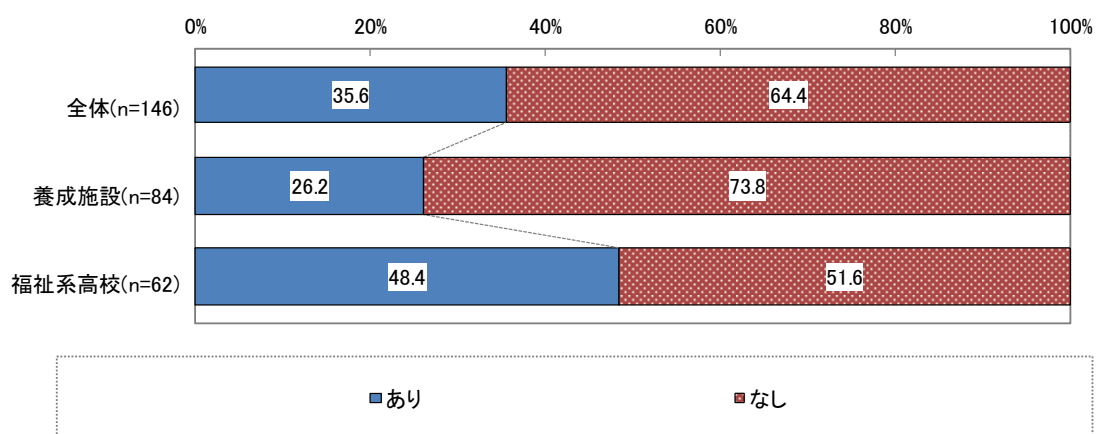
問 20.2. 実習Ⅱ：これまで、実習施設に対し、何らかの代替実習の協力依頼をしたことがあるかについて教えてください。

- ・ 実習Ⅰでは、「あり」が41.1%、「なし」が58.9%、実習Ⅱでは、「あり」が35.6%、「なし」が64.4%であり、実習Ⅱより実習Ⅰにおいて、実習施設への協力依頼がされていた。
- ・ 実習Ⅰ、実習Ⅱともに、養成施設より福祉系高校において、実習施設への協力依頼がされていた。

#### <実習Ⅰ>



#### <実習Ⅱ>





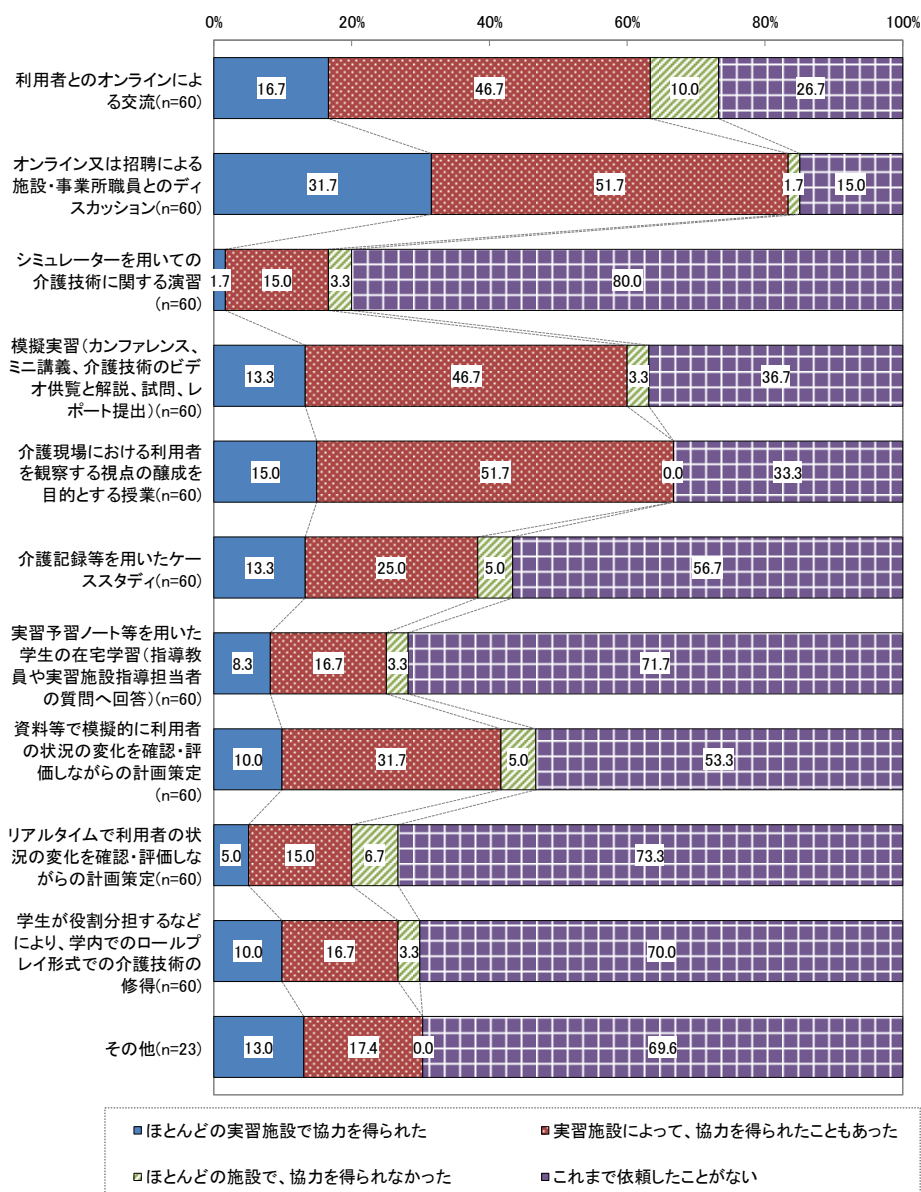
## ② 協力依頼した代替実習の内容と実習施設の承諾状況

### a. 協力依頼した代替実習の内容と実習施設の承諾状況(実習Ⅰ)

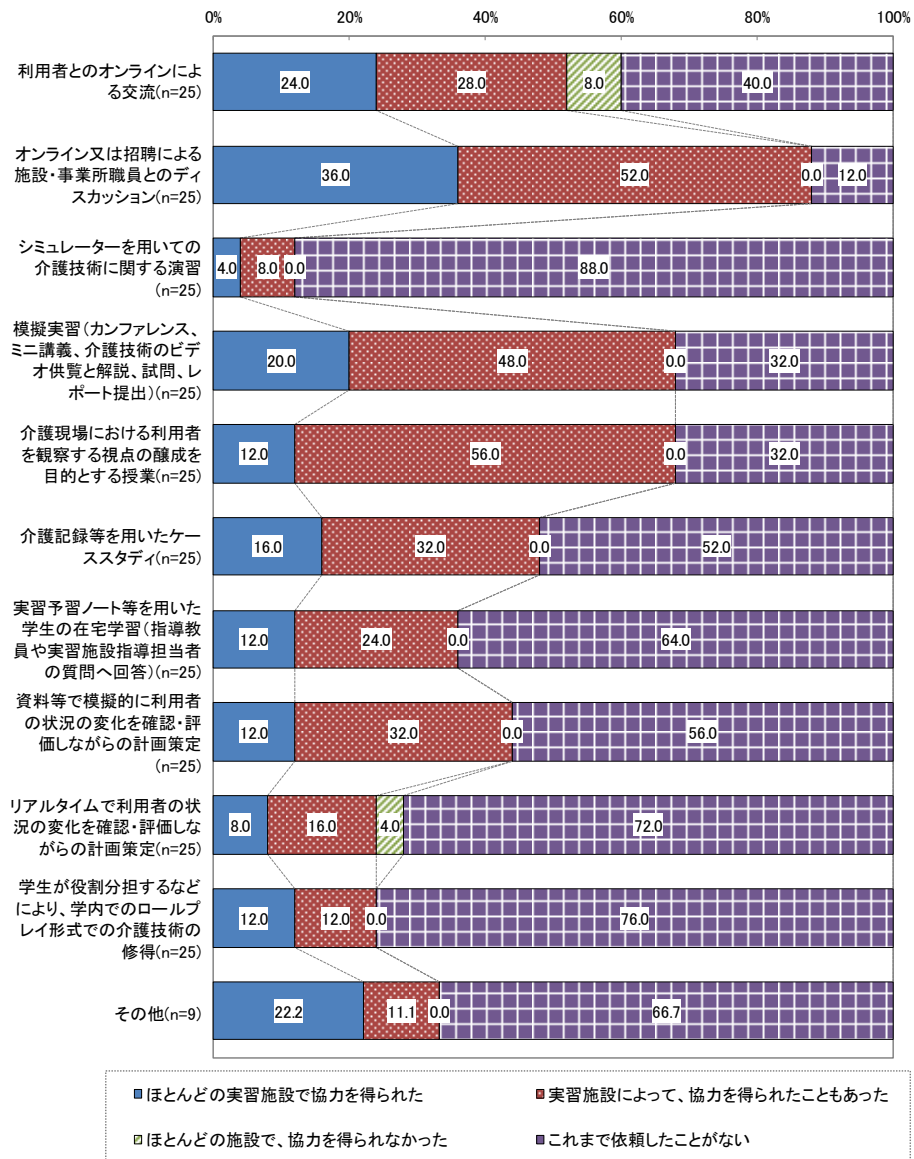
問 20-1.1. 【問 20.1 実習Ⅰで「1. あり」を選択した方】下記の代替実習(実習Ⅰ)の内容について、実習先に何らかの協力を依頼したか、また、そのとき協力いただけたかについて教えてください。

- ・ 全体では、最も協力依頼されていたのは、「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」(85.0%)であり、実習施設の協力も得られていた。
- ・ 続いて、「利用者とのオンラインによる交流」、「介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業」、「模擬実習(カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ供覧と解説、試問、レポート提出)」での協力依頼が多かった。
- ・ 「シミュレーターを用いての介護技術に関する演習」の協力依頼は20.0%と低かった。
- ・ 全ての項目において、「ほとんどの実習施設で協力を得られた」のは1.7~31.7%、15.0~51.7%で「実習施設によって、協力を得られたこともあった」としており、「ほとんどの施設で、協力を得られなかった」のは0.0~10.0%であった。

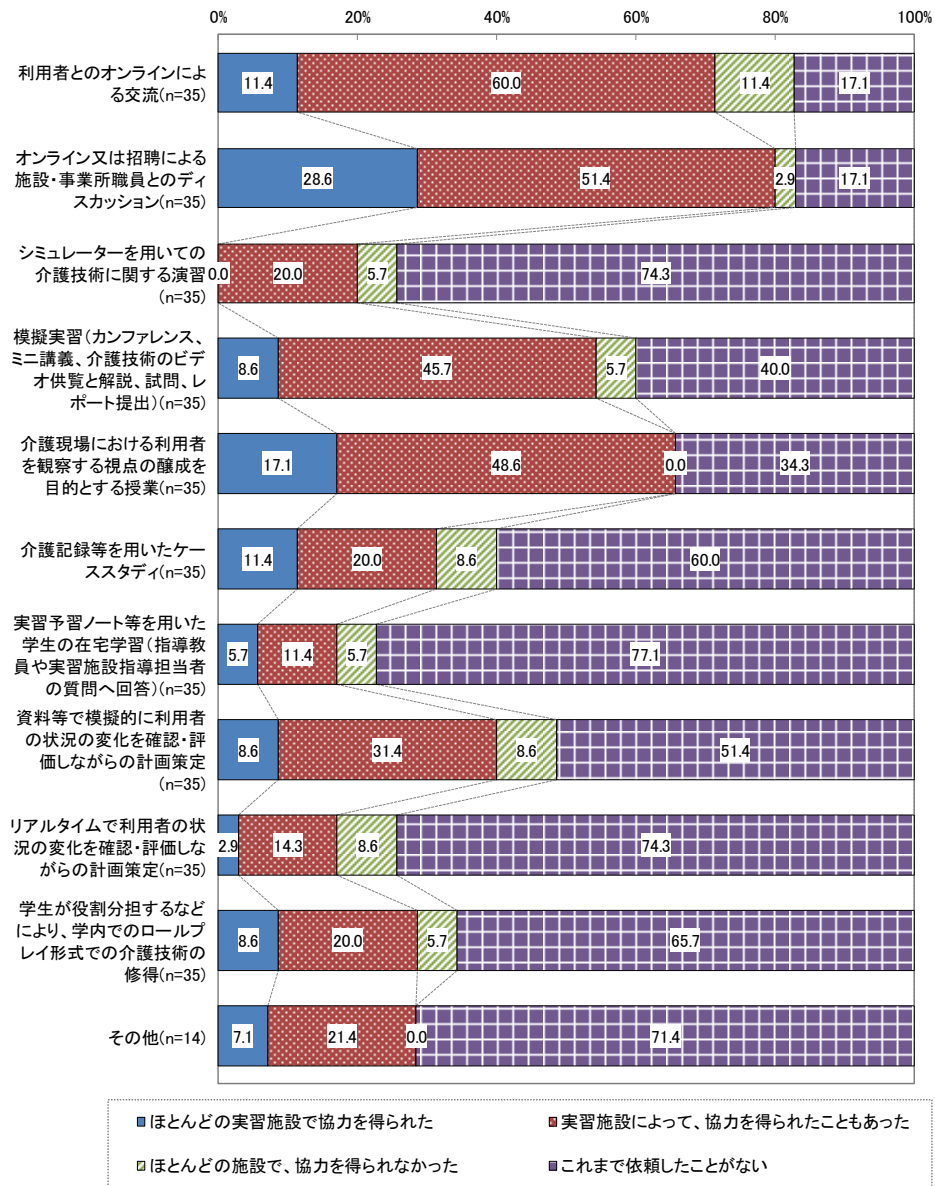
<全体>



< 養成施設 >



<福祉系高校>

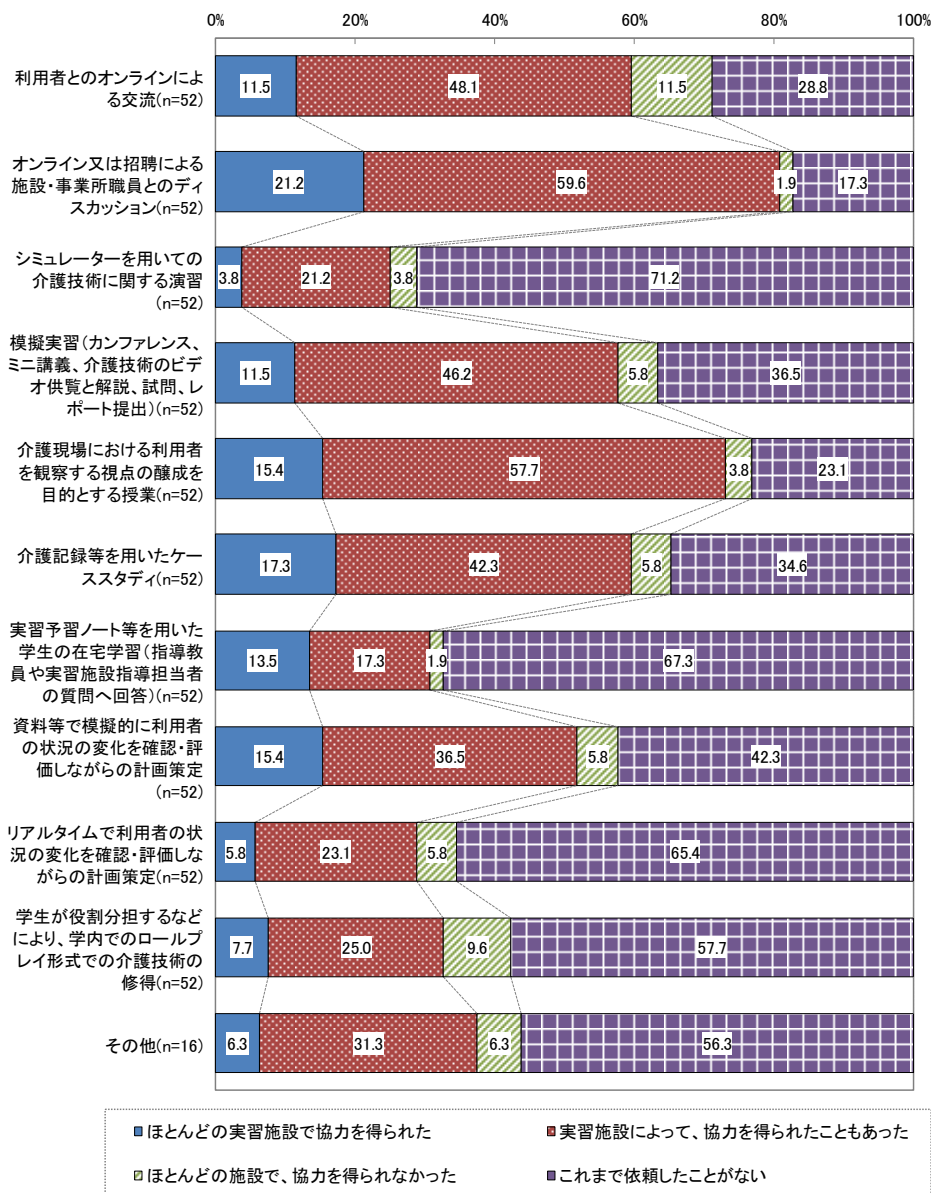


## b. 協力依頼した代替実習の内容と実習施設の承諾状況(実習Ⅱ)

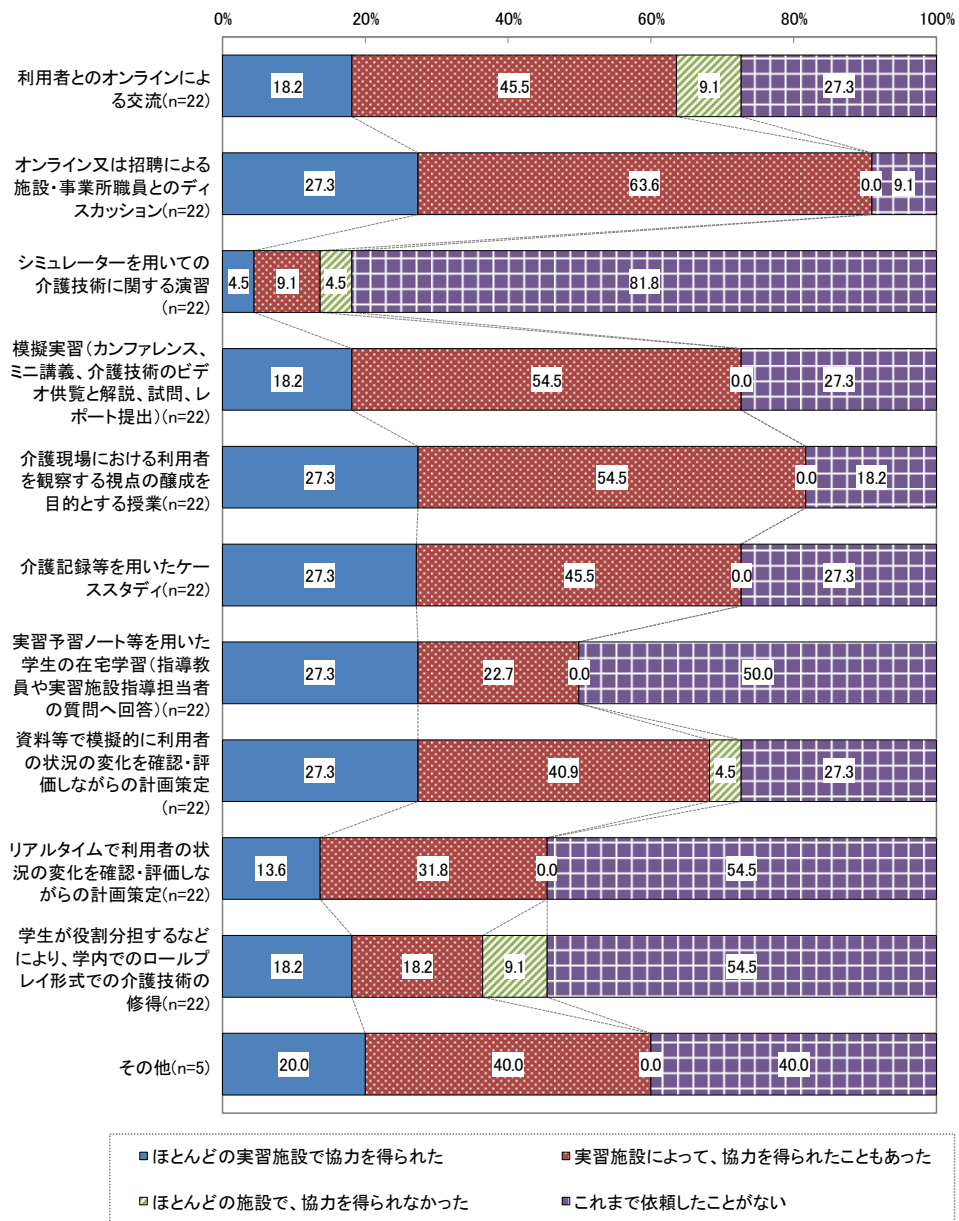
問 20-4. 【問 20.2 実習Ⅱで「1. あり」を選択した方】下記の代替実習(実習Ⅱ)の内容について、実習先に何らかの協力を依頼したか、また、そのとき協力いただけたかについて教えてください。

- ・ 全体では、最も協力依頼されていたのは、「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」であり(82.7%)、かつ、実習施設の協力を得られていた。
- ・ 続いて、「利用者とのオンラインによる交流」、「介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業」、「介護記録等を用いたケーススタディ」、「模擬実習(カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ供覧と解説、試問、レポート提出)」、「資料等で模擬的に利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定」での協力依頼が多かった。
- ・ 「シミュレーターを用いての介護技術に関する演習」の協力依頼は28.8%と低かった。
- ・ 全ての項目において、「ほとんどの実習施設で協力を得られた」のは3.8~21.2%、17.3~59.6%で「実習施設によって、協力を得られたこともあった」としており、「ほとんどの施設で、協力を得られなかった」のは1.9~11.5%であった。

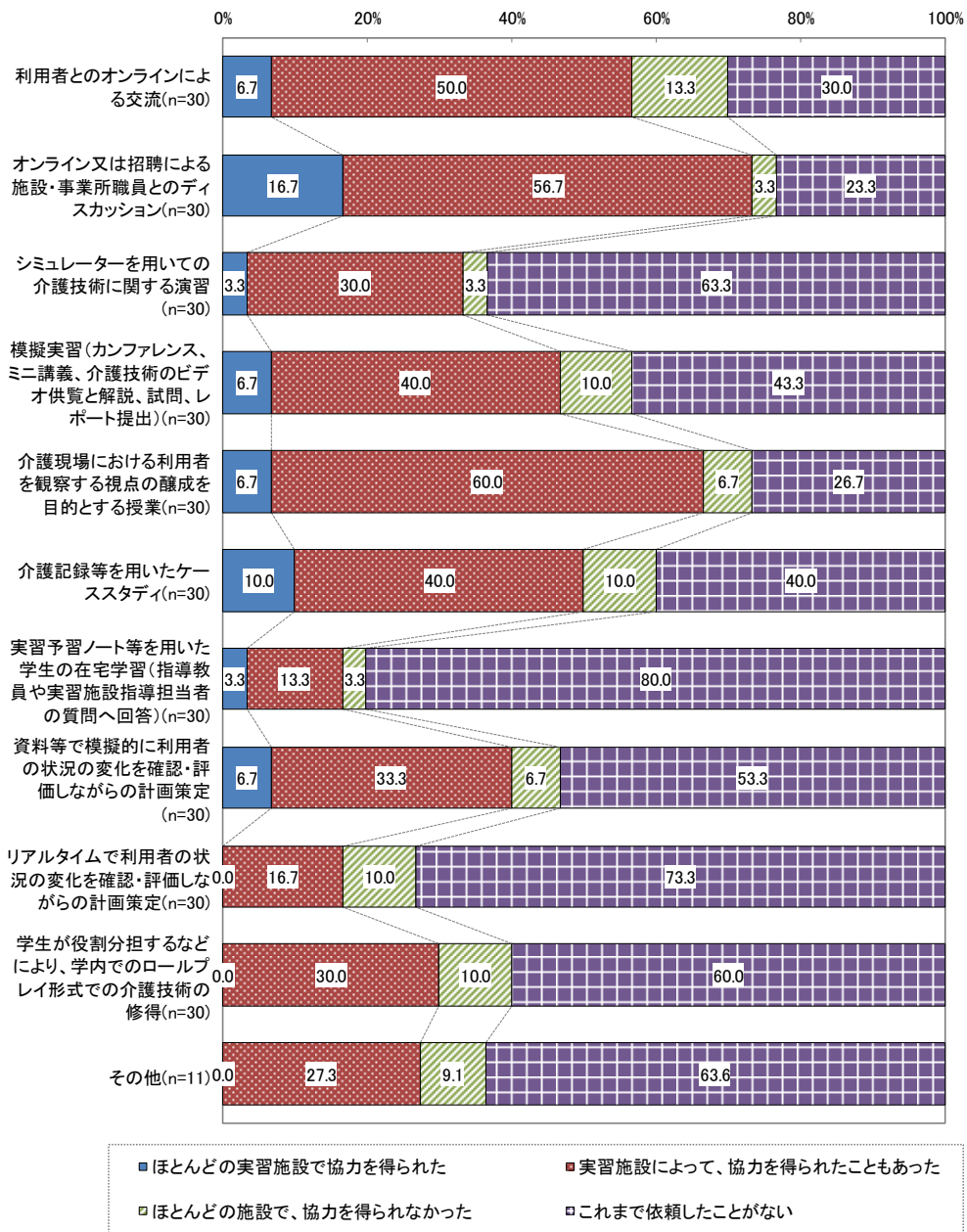
<全体>



< 養成施設 >



<福祉系高校>

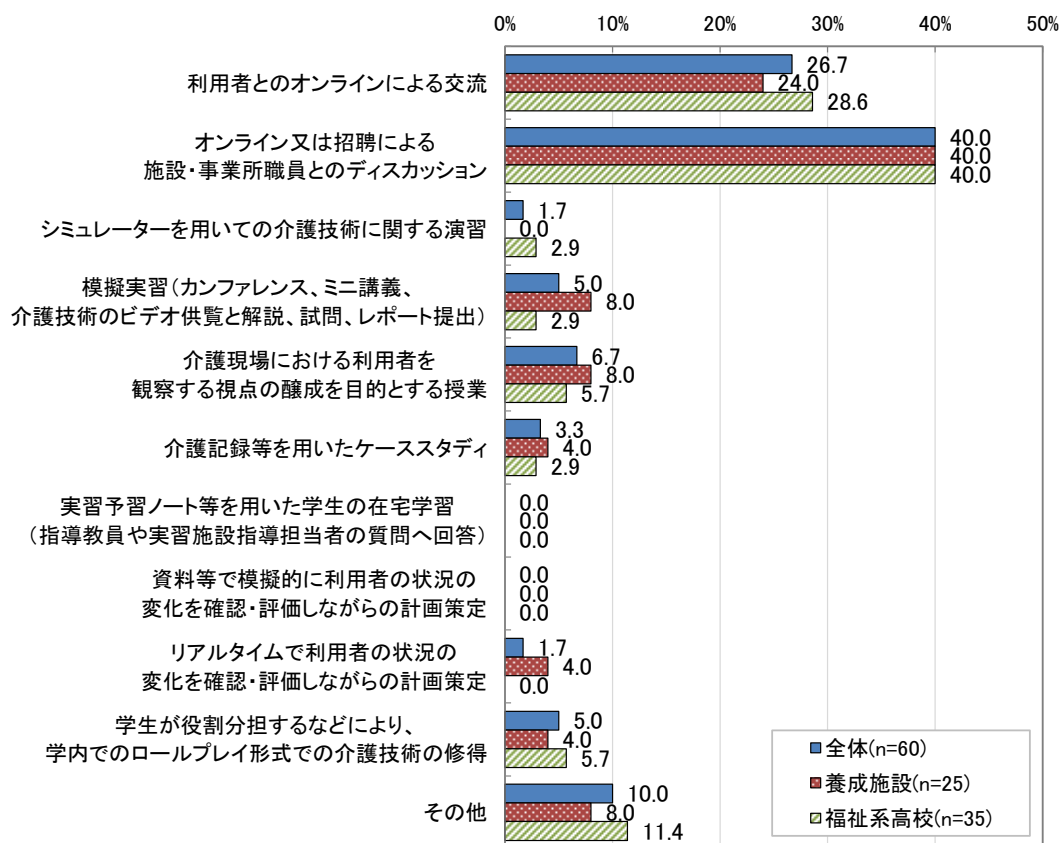


③ 実習目標を達成するため最も効果があったと感じる代替実習

a. 実習目標を達成するため最も効果があったと感じる代替実習(実習 I)

問 20-2. 【問 20.1 実習 I で「1. あり」を選択した方】前問で回答いただいた代替実習内容(実習 I)の中で、実習目標を達成するため最も効果があったと感じる形式を教えてください。

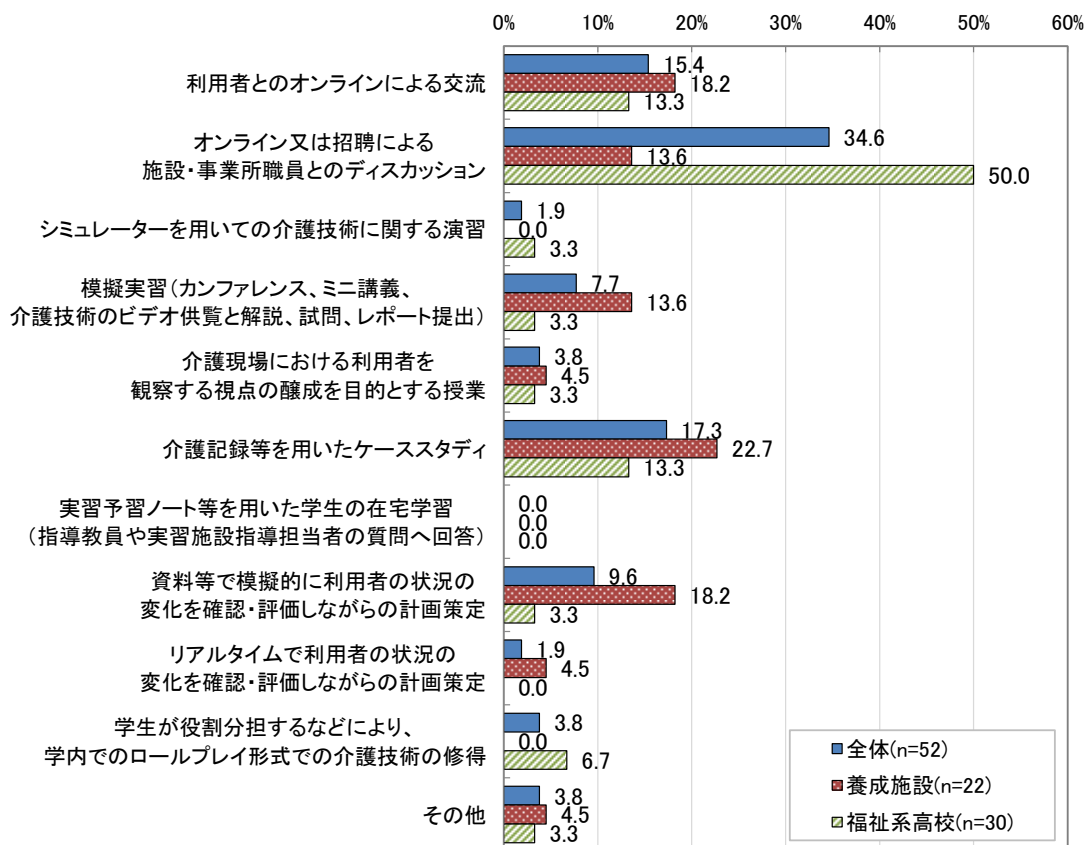
・ 「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」が最も多く、次いで「利用者とのオンラインによる交流」が続いた。



**b. 実習目標を達成するため最も効果があったと感じる代替実習(実習Ⅱ)**

問 20-5.【問 20.2 実習Ⅱで「1. あり」を選択した方】前問で回答いただいた代替実習内容(実習Ⅱ)の中で、実習目標を達成するため最も効果があったと感じる形式を教えてください。

- ・ 全体では、「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」が最も多く34.6%であった。
- ・ 養成施設では、「介護記録を用いたケーススタディ」が最も多く22.7%、次いで「利用者とのオンラインによる交流」及び「資料等で模擬的に利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定」がそれぞれ18.2%と続いた。
- ・ 福祉系高校は、「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」が最も多く50.0%であった。



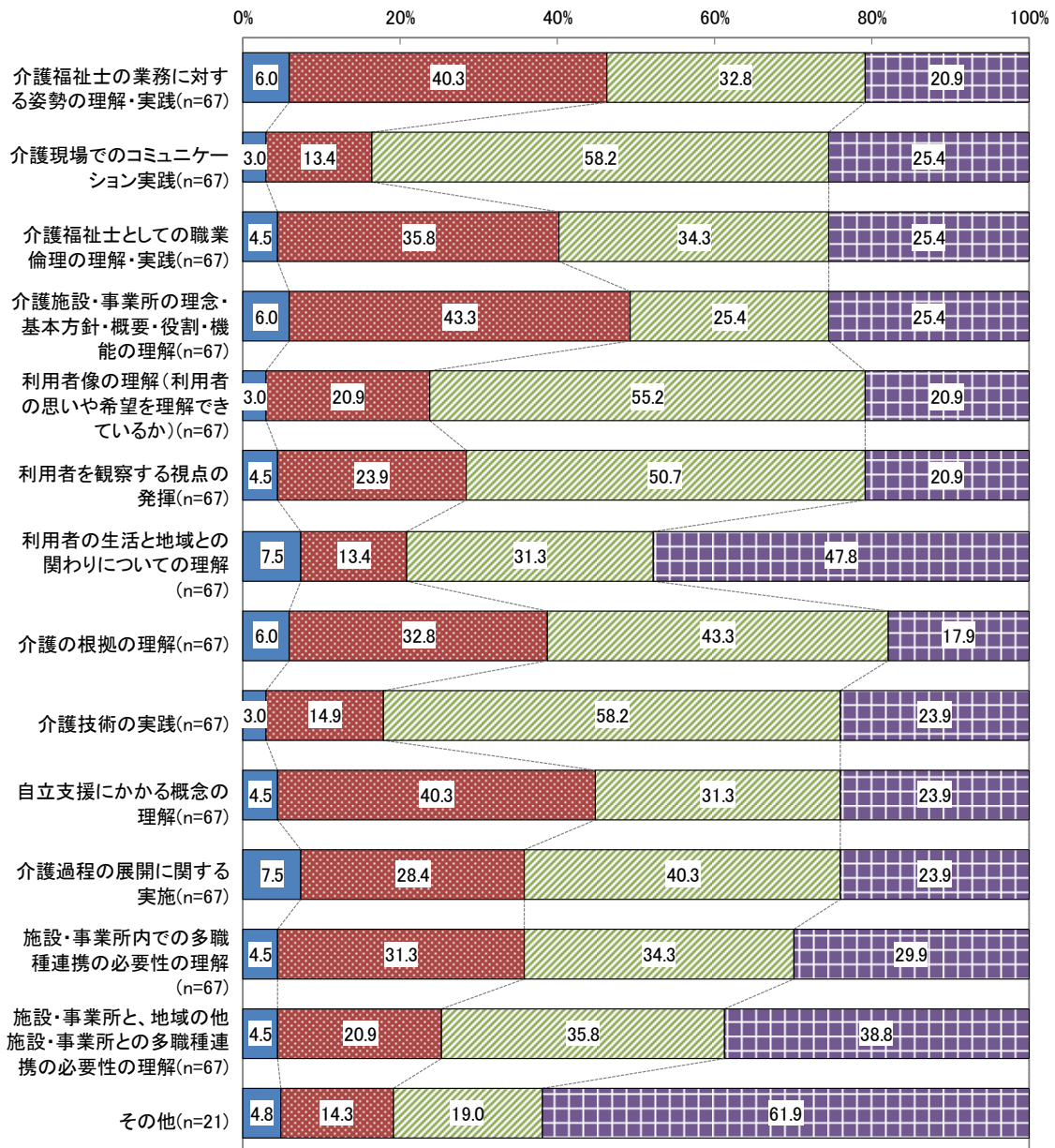


#### ④ 通常の実習に対する代替実習の効果

問 21.1. 【問 20.1 実習 I / 問 20.2 実習 II どちらかもしくは両方で「1. あり」を選択した方】実習 I、II いずれか、もしくは双方の通常の実習の効果と代替実習の効果とを比べ、その差を教えてください。

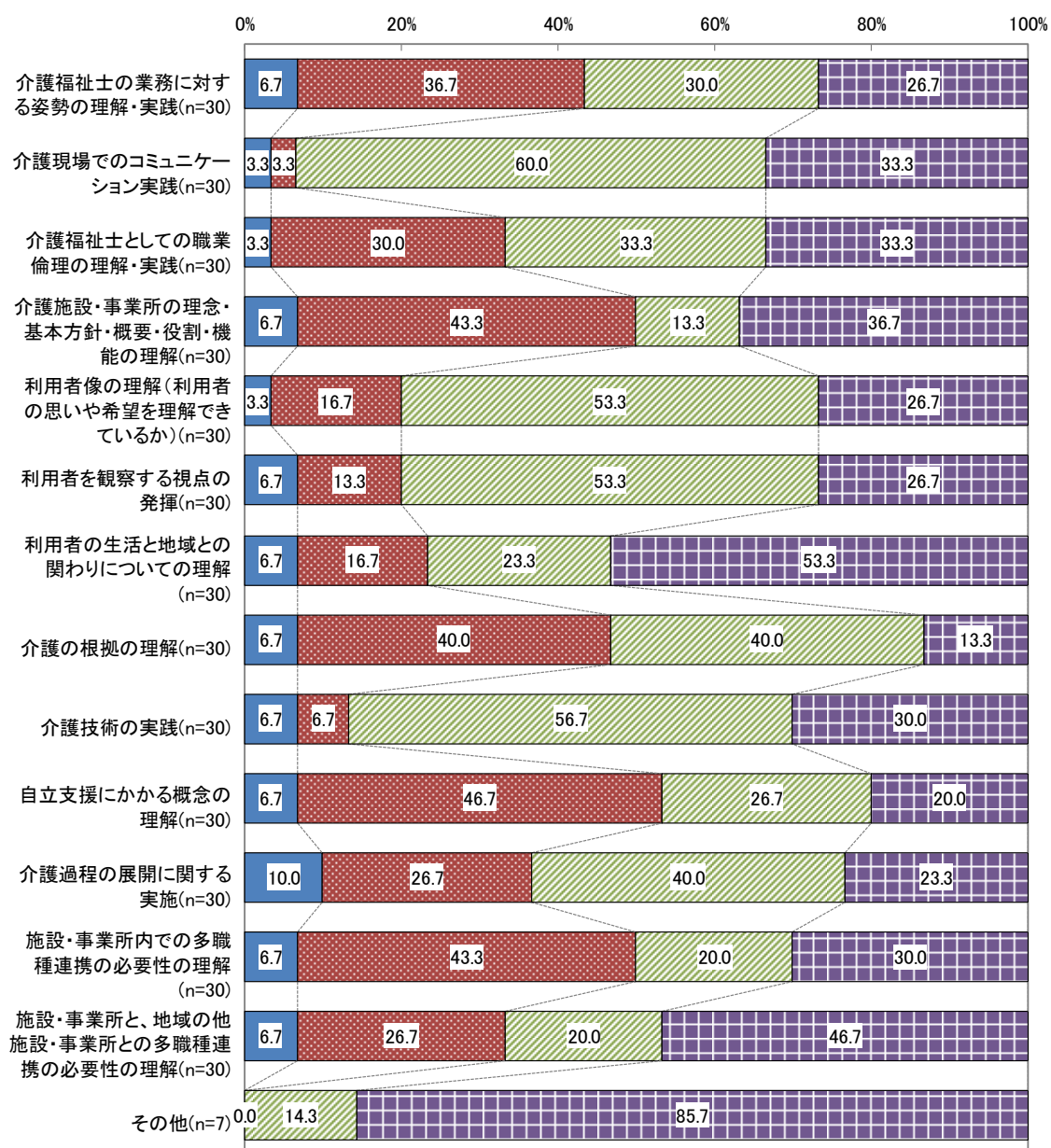
- ・ 全体では、全ての項目において、「通常の実習を上回る効果がみられた」が最も少ないが、3.0～7.5%で見られ、「通常実習と同等の効果がみられた」が 13.4～40.3%、「通常の実習と比べ、効果がみられなかった」が 19.0～58.2%となった。
- ・ 「介護福祉士の業務に対する姿勢の理解・実践」、「介護福祉士としての職業倫理の理解・実践」、「介護施設・事業所の理念・基本方針・概要・役割・機能の理解」、「自立支援にかかる概念の理解」「施設・事業所内での多職種連携の必要性の理解」「その他」において、通常実習を上回る効果または同等の効果がみられる傾向にあった。
- ・ 「介護現場でのコミュニケーション実践」、「利用者像の理解（利用者の思いや希望を理解できているか）」、「利用者を観察する視点の発揮」、「介護技術の実践」において、「通常の実習と比べ、効果がみられなかった」とする傾向が強かった。
- ・ なお、すべての項目において「効果の確認そのものができなかった」が約 20%以上で見られた。

<全体>



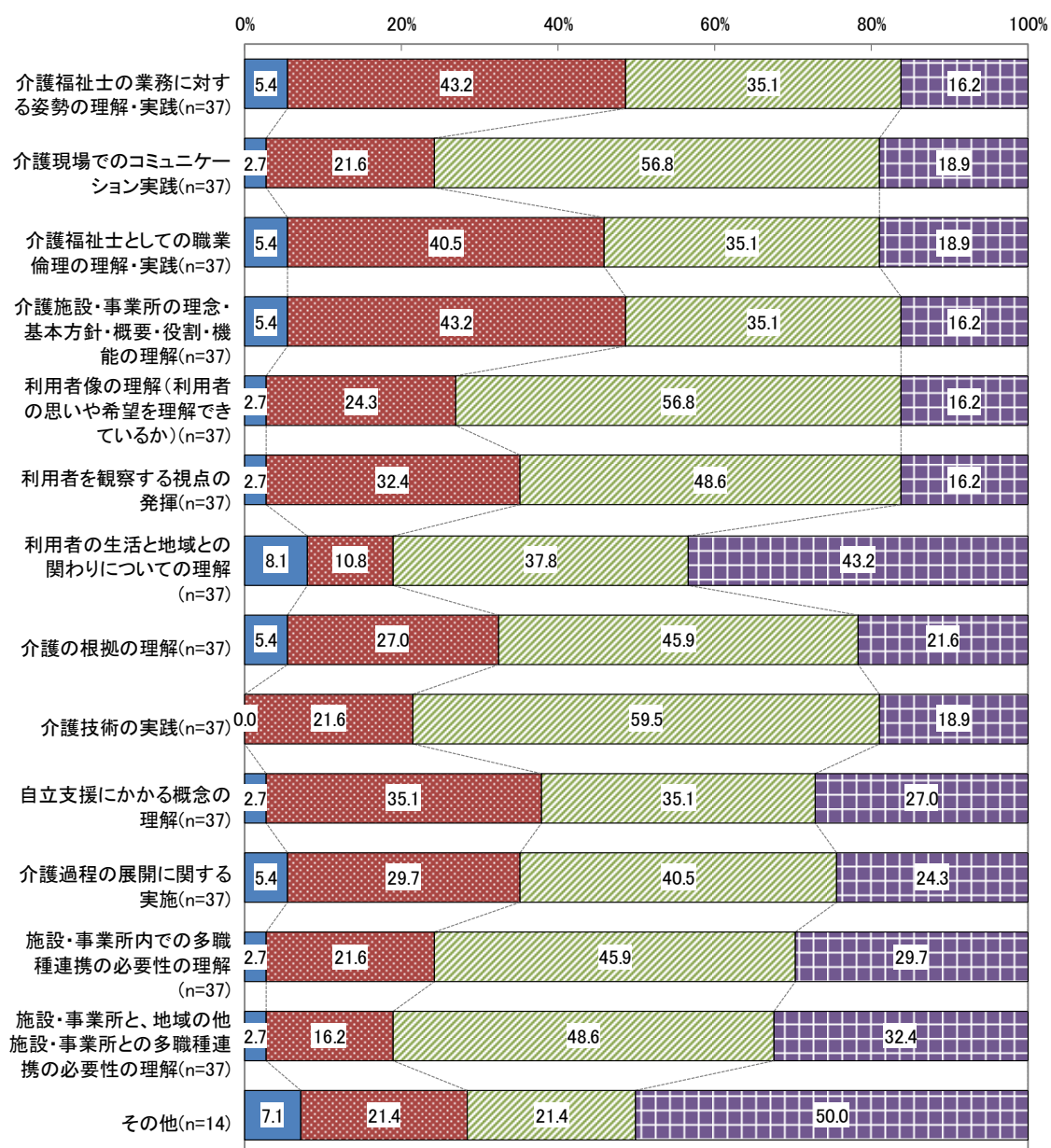
■ [+](通常実習を上回る効果がみられた)      ■ 同等(通常実習と同等の効果がみられた)  
 ■ [-](通常実習と比べ、効果がみられなかった)      ■ 確認不可(効果の確認そのものができなかった)

< 養成施設 >



■ [+](通常実習を上回る効果がみられた)      ■ 同等(通常実習と同等の効果がみられた)  
 ■ [-](通常実習と比べ、効果がみられなかった)      ■ 確認不可(効果の確認そのものができなかった)

<福祉系高校>



■ [+] (通常実習を上回る効果がみられた)      ■ 同等 (通常実習と同等の効果がみられた)  
 ■ [-] (通常実習と比べ、効果がみられなかった)      ■ 確認不可 (効果の確認そのものができなかった)

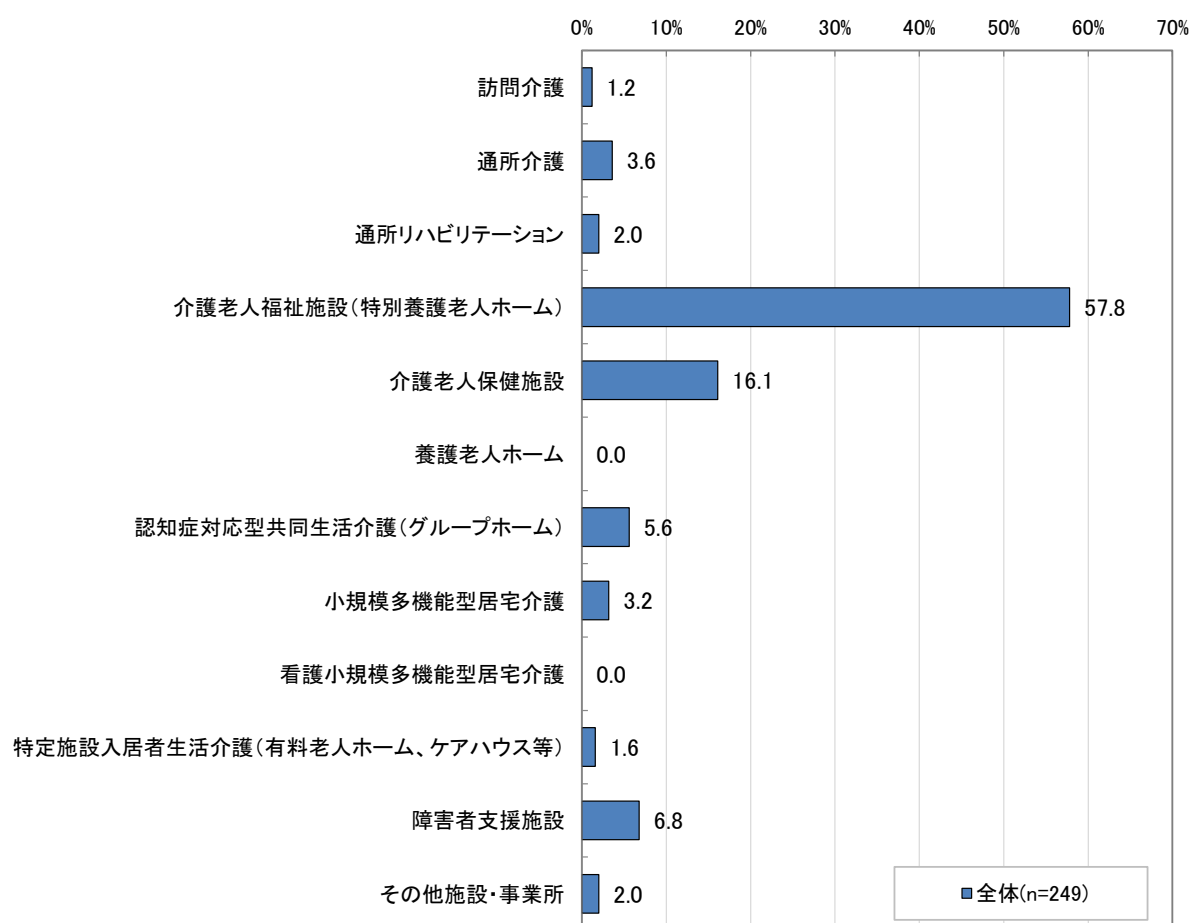
## 2-2. 実習施設調査の結果(詳細)

### 1) 施設・事業所の基礎情報

#### (1) 主たるサービス種別

問 22. 貴施設・事業所のサービス種別を教えてください。

- ・ 「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が 57.8%と最も多く、「介護老人保健施設」が 16.1%、「障害者支援施設」が 6.8%、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」が 5.6%、「通所介護」が 3.6%、「小規模多機能型居宅介護」が 3.2%、「通所リハビリテーション」が 2.0%、「その他施設・事業所」が 2.0%、「特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、ケアハウス等）」が 1.6%、「訪問介護」が 1.2%、「養護老人ホーム」、「看護小規模多機能型居宅介護」が 0.0%であった。



※以下、「全体」、「施設／居住系」、「居宅系」の3軸でグラフを作成しており、内訳は以下のとおり

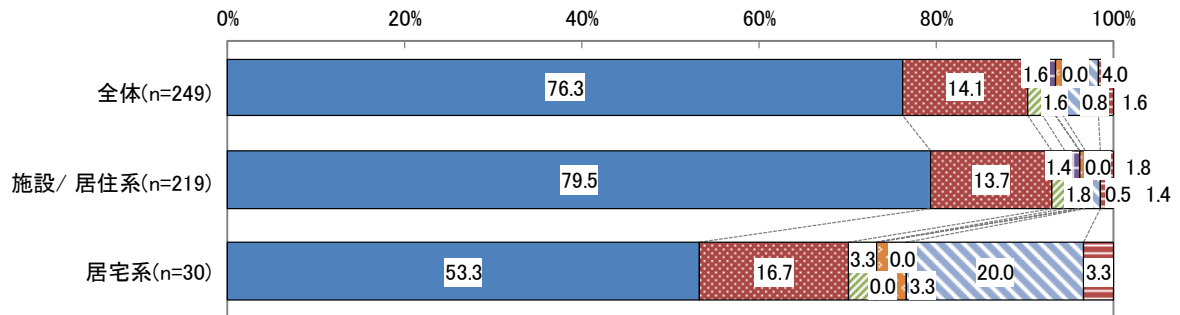
※居宅系についてはn数が少ない(n=30)ため、以下、「全体」についてコメントのみ掲載する

施設／居住系	問 22 の選択肢が以下の施設・事業所 4. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） 5. 介護老人保健施設 6. 養護老人ホーム 7. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） 10. 特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、ケアハウス等） 11. 障害者支援施設
居宅系	問 22 の選択肢が以下の施設・事業所 1. 訪問介護 2. 通所介護 3. 通所リハビリテーション 8. 小規模多機能型居宅介護 9. 看護小規模多機能型居宅介護 12. その他施設・事業所

## (2) 経営主体

問 21. 貴施設・事業所の経営主体を教えてください。

- 全体では、「社会福祉法人」が 76.3%、「医療法人（財団・社団・特別・社会医療法人）」が 14.1%、「都道府県・市区町村／財団法人（公益・一般）」が 1.6%、「社団法人（公益・一般）」が 1.6%、「学校法人」が 0.0%、「特定非営利活動法人（NPO 法人）」が 0.8%、「営利法人（株式会社、有限会社、合名会社、合資会社、合同会社など）」が 4.0%であった。

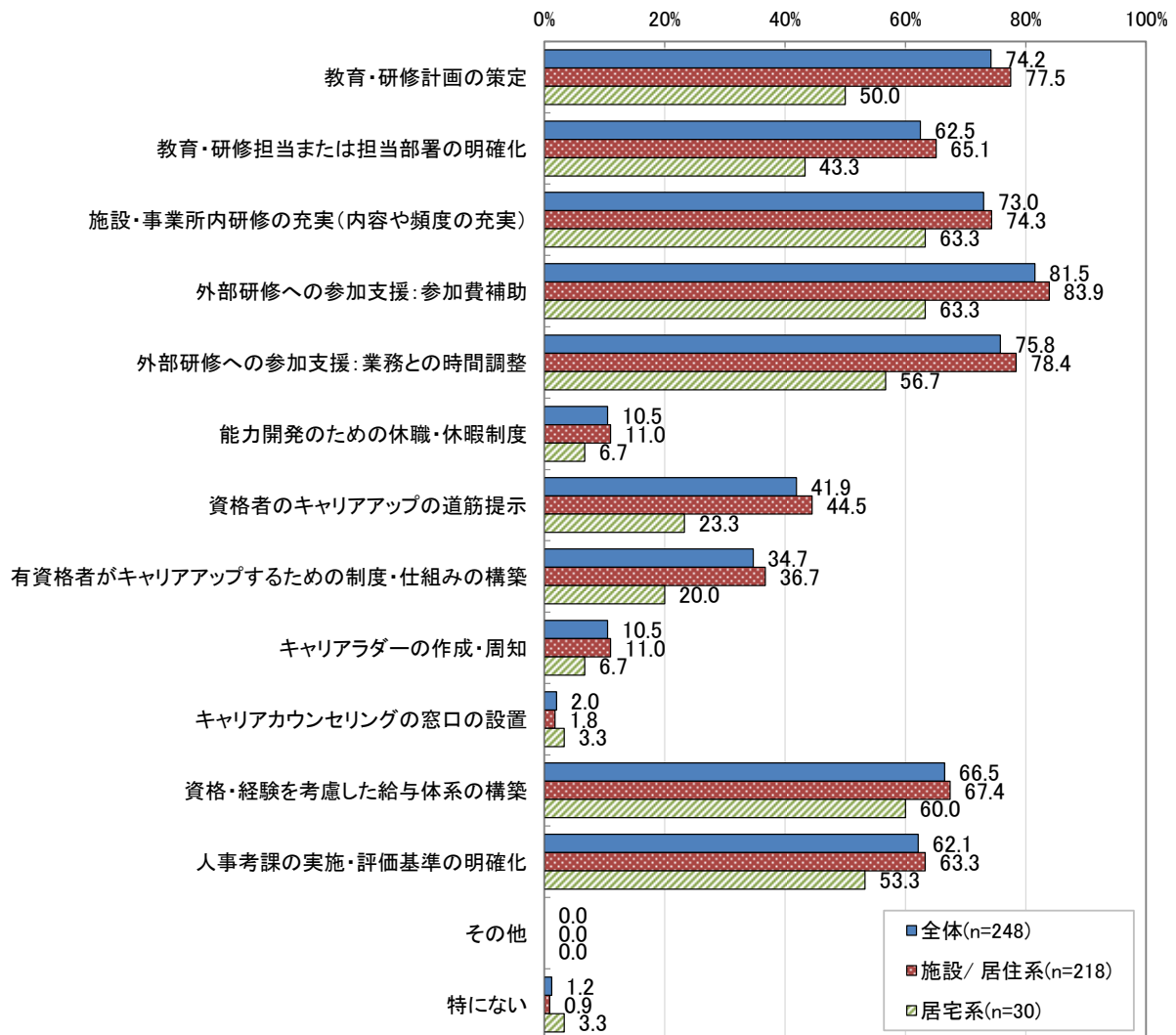


- 社会福祉法人
- 医療法人(財団・社団・特別・社会医療法人)
- 都道府県・市区町村／財団法人(公益・一般)
- 社団法人(公益・一般)
- 学校法人
- 特定非営利活動法人(NPO 法人)
- 営利法人(株式会社、有限会社、合名会社、合資会社、合同会社など)
- その他

### (3)職員の能力開発・教育等の実施状況

問 23. 貴施設・事業所／貴法人における職員能力開発・教育等の実践状況を教えてください。(複数選択)

・ 全体では、「外部研修への参加支援：参加費補助」が81.5%と最も多く、「外部研修への参加支援：業務との時間調整」が75.8%、「教育・研修計画の策定」が74.2%、「施設・事業所内研修の充実（内容や頻度の充実）」が73.0%と続いた。「特にない」とした施設・事業所は1.2%であった。



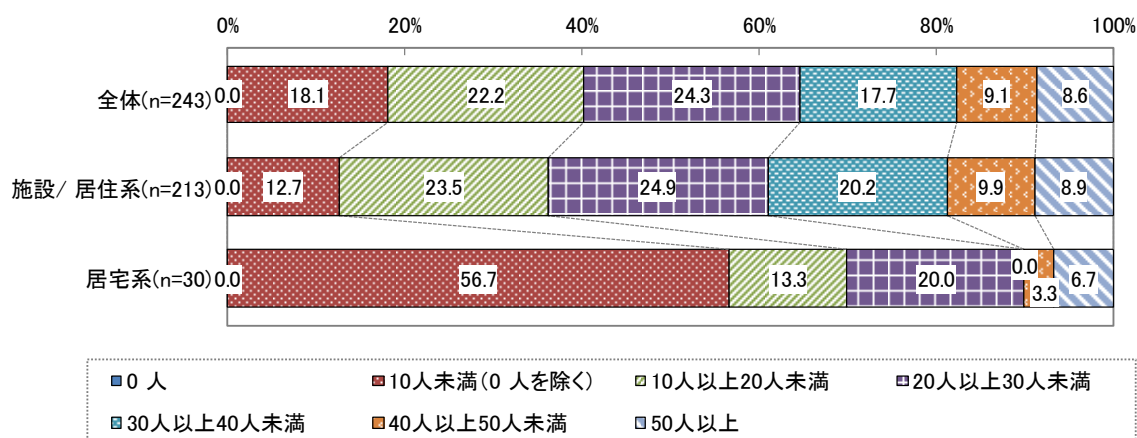
#### (4)職員数

##### ① 介護福祉士資格を持つ正規職員

##### a. 介護福祉士資格を持つ正規職員数

問 24.1.1. 介護福祉士資格を持つ正規職員数: 貴施設・事業所の職員数を教えてください。(2023年9月1日時点)

・ 全体では、「20人以上30人未満」が最も多く24.3%、次いで「10人以上20人未満」と続き、「平均」が25.3人、「中央値」が23.0人であった。

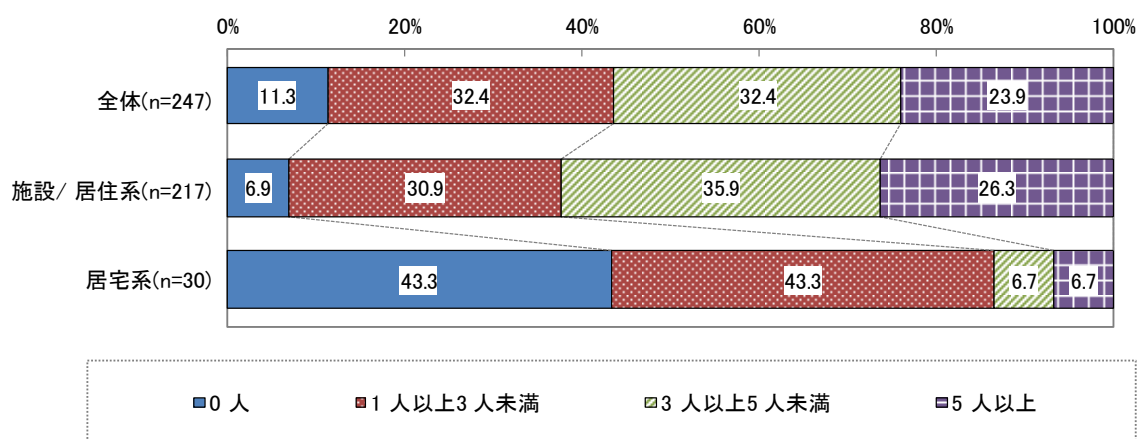


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	243	25.3	23.0	1.0	98.0
施設/ 居住系	213	26.7	24.0	1.0	98.0
居住系	30	15.1	8.0	1.0	75.0

##### b. 介護福祉士資格を持つ正規職員のうち、実習指導者講習会修了者数

問 24.1.2. うち実習指導者講習会修了者数: 貴施設・事業所の職員数を教えてください。(2023年9月1日時点)

・ 全体では、「1人以上3人未満」、「3人以上5人未満」が32.4%と最も多く、「平均」が3.2人、「中央値」が3.0人であった。



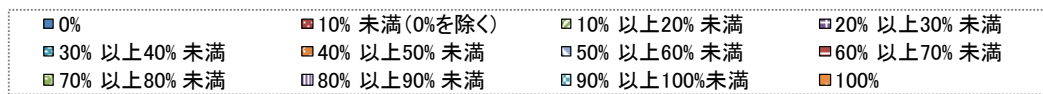
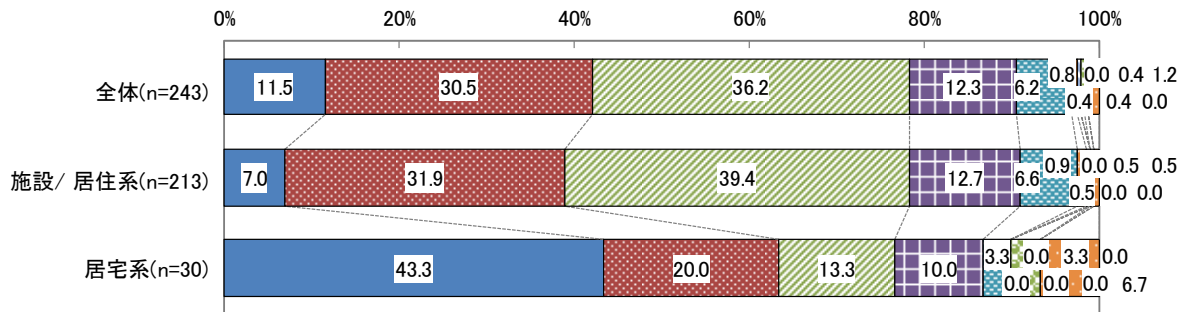
	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	247	3.2	3.0	0.0	14.0
施設/ 居住系	217	3.4	3.0	0.0	14.0
居住系	30	1.3	1.0	0.0	7.0



c. 介護福祉士資格を持つ正規職員のうち、実習指導者講習会修了者の割合

問 24.1.3. 介護福祉士を持つ正規職員のうち実習指導者講習会修了者の割合

- 全体では、「10% 以上 20% 未満」が最も多く 36.2%、次いで「10% 未満 (0%を除く)」が 30.5%と続き、「平均」が 14.6%、「中央値」が 11.5%であった。



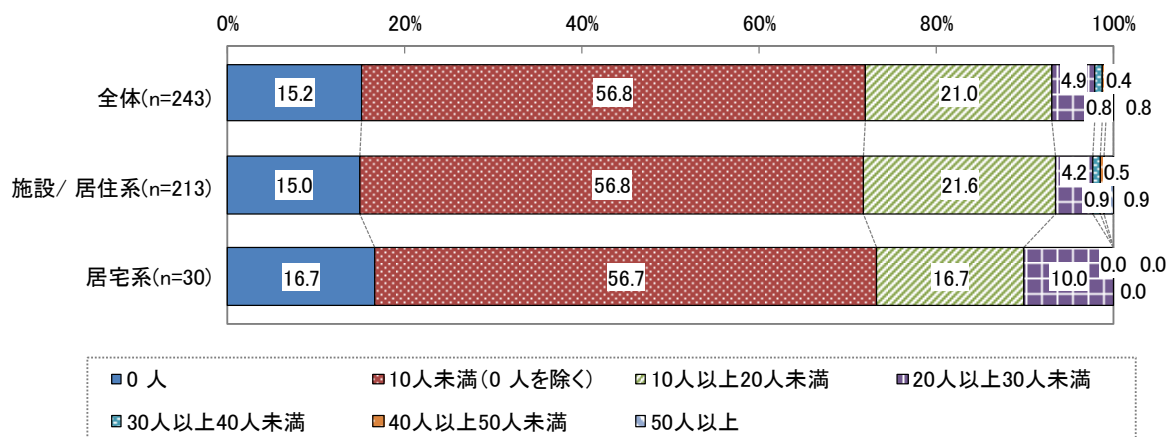
	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	243	14.6	11.5	0.0	100.0
施設/ 居住系	213	14.4	12.5	0.0	100.0
居宅系	30	15.7	4.2	0.0	100.0

## ② 介護福祉士資格を持たない正規職員

### a. 介護福祉士資格を持たない正規職員数

問 24.2.1. 介護福祉士資格を持たない正規職員数: 貴施設・事業所の職員数を教えてください。(2023年9月1日時点)

- 全体では、「10人未満(0人を除く)」が56.8%と最も多く、次いで「10人以上20人未満」が21.0%と続き、「平均」が7.1人、「中央値」が4.0人であった。

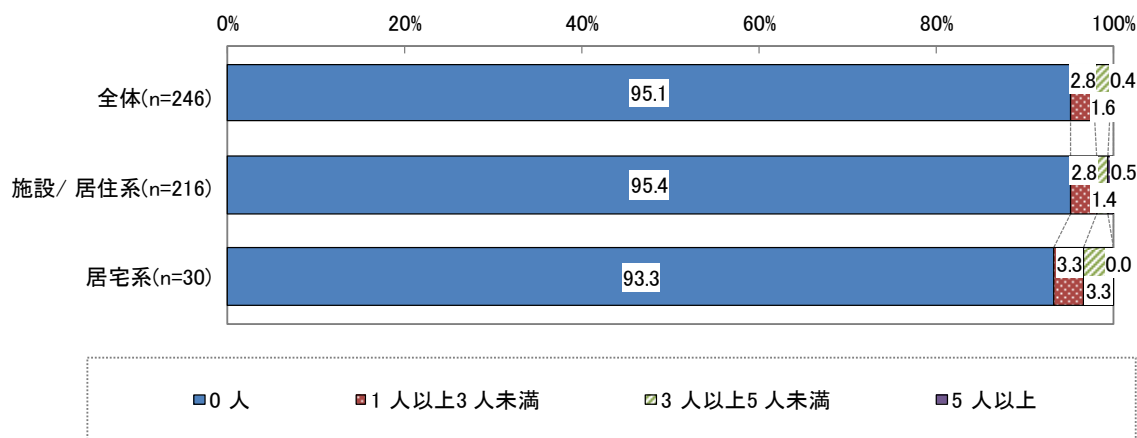


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	243	7.1	4.0	0.0	74.0
施設/ 居住系	213	7.2	4.0	0.0	74.0
居宅系	30	6.2	3.0	0.0	26.0

### b. 介護福祉士資格を持たない正規職員のうち、実習指導者講習会修了者数

問 24.2.2. うち実習指導者講習会修了者数: 貴施設・事業所の職員数を教えてください。(2023年9月1日時点)

- 全体では、「0人」が95.1%とほとんどを占め、「平均」が0.1人、「中央値」が0.0人であった。

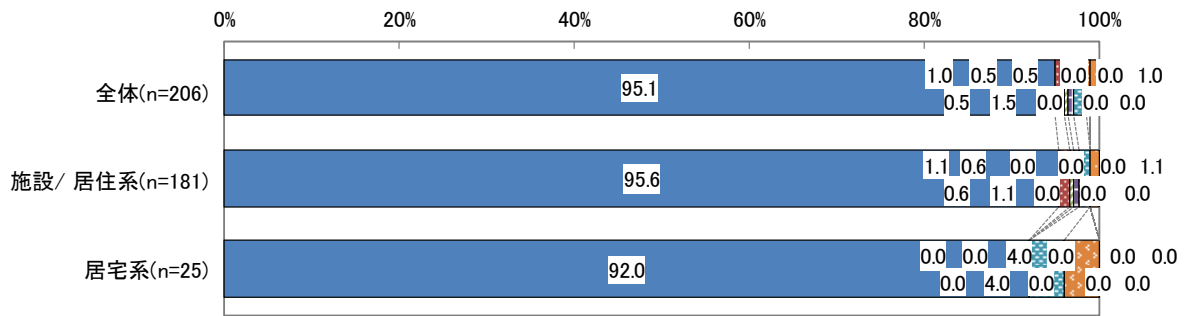


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	246	0.1	0.0	0.0	7.0
施設/ 居住系	216	0.1	0.0	0.0	7.0
居宅系	30	0.2	0.0	0.0	3.0

c. 介護福祉士資格を持たない正規職員のうち、実習指導者講習会修了者の割合

問 24.2.3. 介護福祉士を持たない正規職員のうち実習指導者講習会修了者の割合

・ 全体では、「0%」が95.1%とほとんどを占め、「平均」が1.9%、「中央値」が0.0%であった。



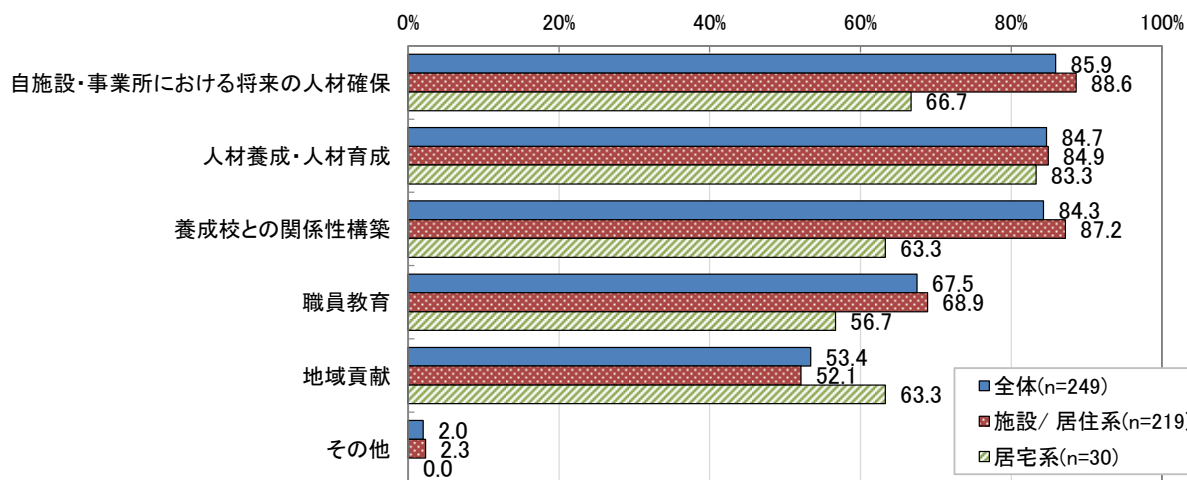
0%
  10% 未満(0%を除く)
  10% 以上20% 未満
  20% 以上30% 未満
  30% 以上40% 未満
  40% 以上50% 未満
  50% 以上60% 未満
  60% 以上70% 未満
  70% 以上80% 未満
  80% 以上90% 未満
  90% 以上100% 未満
  100%

	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	206	1.9	0.0	0.0	100.0
施設/居住系	181	1.8	0.0	0.0	100.0
居宅系	25	3.1	0.0	0.0	40.0

## (5) 実習の受入れ目的

問 2. 貴施設・事業所が養成校（介護福祉士養成施設及び福祉系高校）からの実習を受け入れている目的を教えてください。（複数選択）

- 全体では、「自施設・事業所における将来の人材確保」が 85.9%と最も多く、次いで「人材養成・人材育成」が 84.7%、「養成校との関係性構築」が 84.3%と続いた。

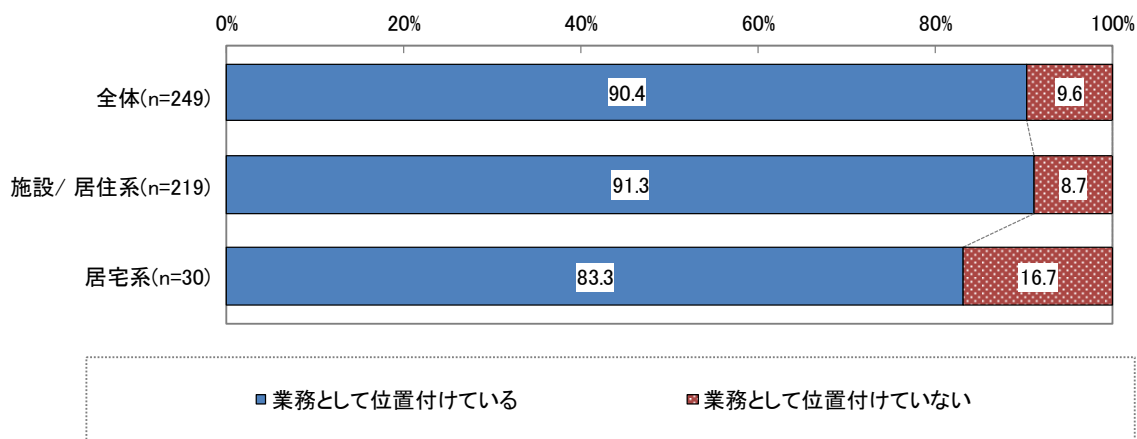


## (6) 実習担当者の処遇等

### ① 実習対応の業務上の位置づけ

問 9. 貴施設・事業所にて、実習に関する実習指導担当者の対応を業務として位置付けているかについて教えてください。

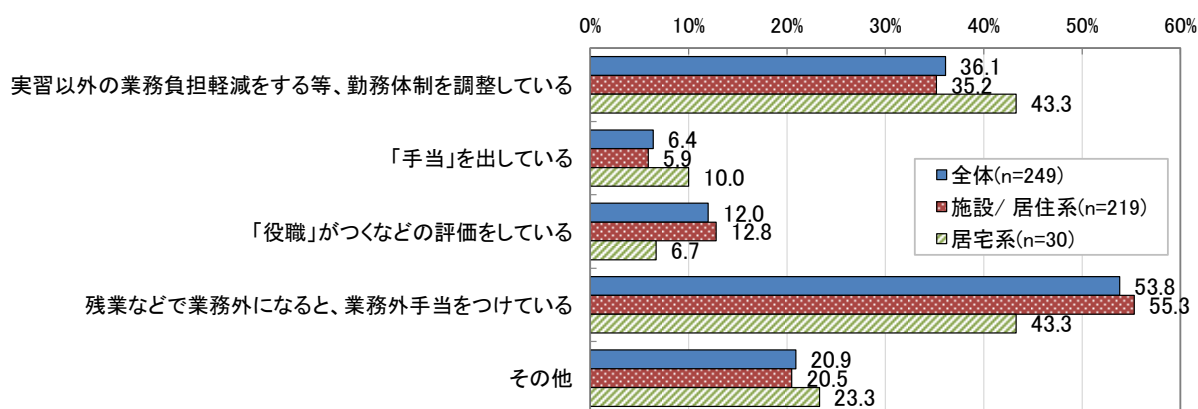
- 全体では、「業務として位置付けている」が 90.4%、「業務として位置付けていない」が 9.6%であった。



## ② 実習担当者への処遇

問 10. 貴施設・事業所における実習担当者に対する処遇について教えてください。(複数選択)

- 全体では、「残業などで業務外になると、業務外手当をつけている」が 53.8%と最も多く、次いで「実習以外の業務負担軽減をする等、勤務体制を調整している」が 36.1%と続いた。



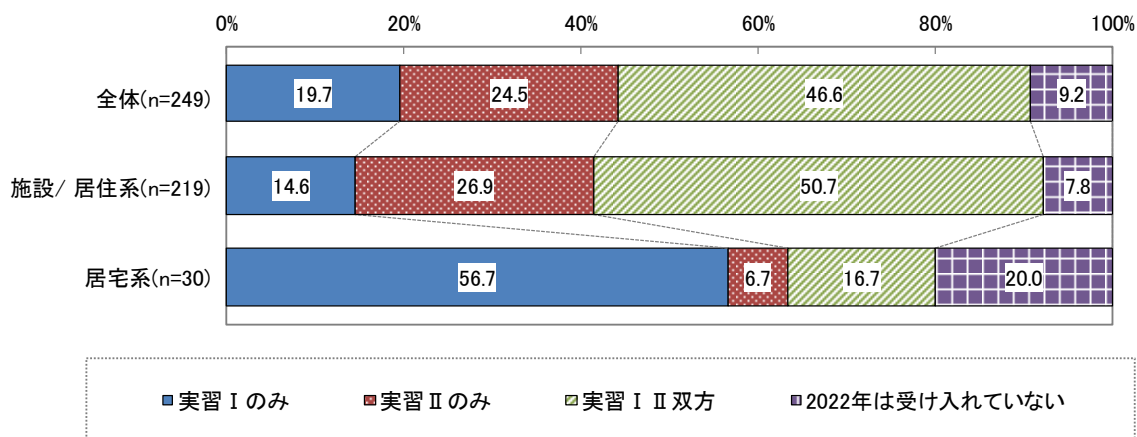
## 2)2022 年度の実習に関する基礎情報

### (1)実習の受入れ状況(2022 年)

#### ① 受入れた実習の種類

問 1. 2022 年度1年間で受け入れた養成校(介護福祉士養成施設及び福祉系高校)からの実習について、あてはまるものを教えてください。(複数選択)

- 全体では、「実習Ⅰのみ」が 19.7%、「実習Ⅱのみ」が 24.5%、「実習ⅠⅡ双方」が 46.6%、「2022 年は受け入れていない」が 9.2%であった。



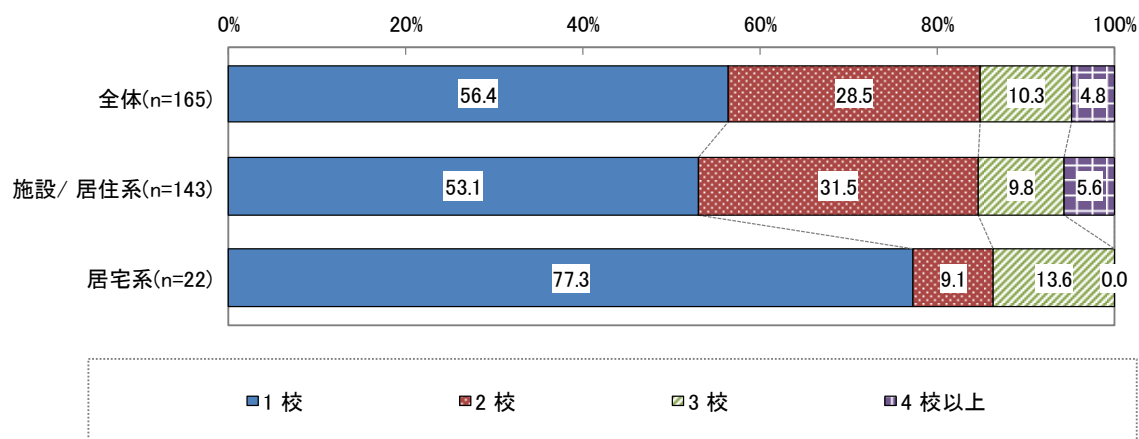
## ② 実習受入れ学校数

問 1-1.1. 【問1で「1. 実習Ⅰ」を選択した方】2022 年度1年間の実習受入れ学校総数:実習Ⅰについて、以下の情報を教えてください。

問 1-2.1. 【問1で「2. 実習Ⅱ」を選択した方】2022 年度1年間の実習受入れ学校総数:実習Ⅱについて、以下の情報を教えてください。

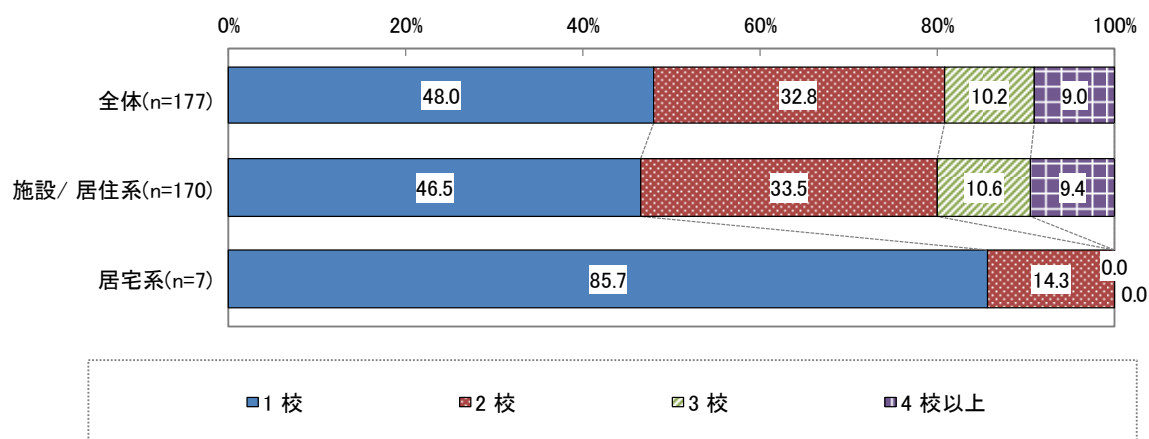
- ・ 実習Ⅰ、実習Ⅱともに「1校」が最も多かった。

### <実習Ⅰ>



	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	165	1.7	1.0	1.0	9.0
施設/居住系	143	1.8	1.0	1.0	9.0
居宅系	22	1.4	1.0	1.0	3.0

### <実習Ⅱ>



	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	177	1.9	2.0	1.0	9.0
施設/居住系	170	2.0	2.0	1.0	9.0
居宅系	7	1.1	1.0	1.0	2.0

### ③ 実習生 1 人を受け入れるための所要時間

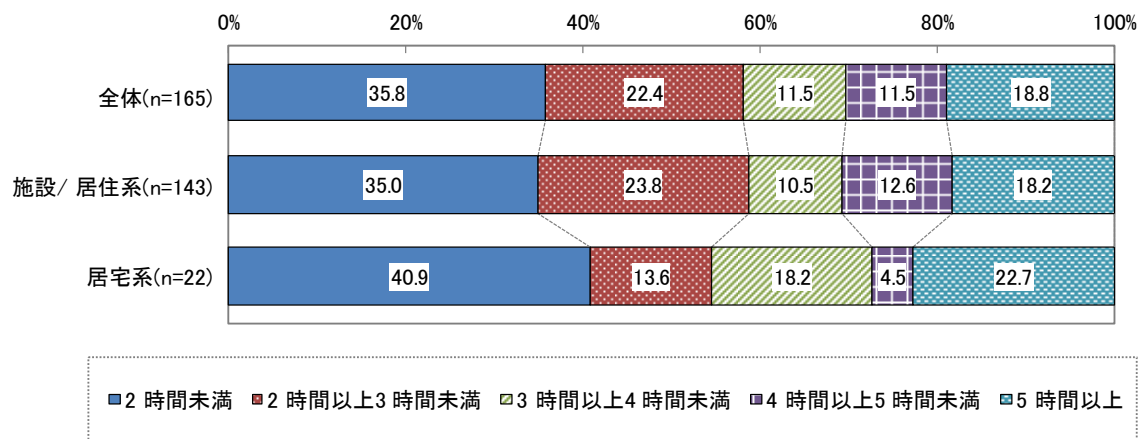
#### a. 受入れ前の準備時間

問 1-1.2. 【問1で「1. 実習 I」を選択した方】受入れ前の準備時間(合計): 学生 1 人を受け入れるにあたりかけている所要時間\_実習 I について、以下の情報を教えてください。

問 1-2.2. 【問1で「2. 実習 II」を選択した方】受入れ前の準備時間(合計): 学生 1 人を受け入れるにあたりかけている所要時間\_実習 II について、以下の情報を教えてください。

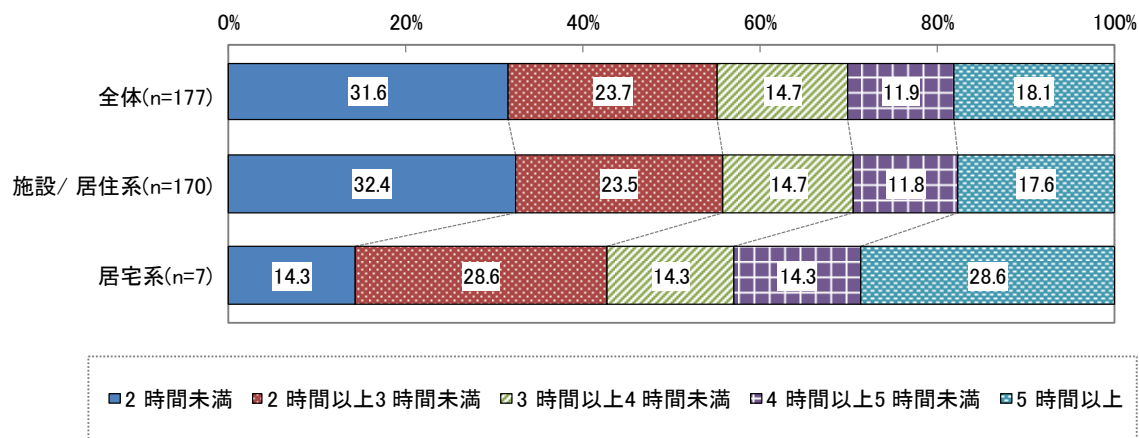
・ 実習 I、実習 II ともに「2 時間未満」が最も多かった。

#### <実習 I>



	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	165	6.1	2.0	0.0	240.0
施設/ 居住系	143	6.1	2.0	0.3	240.0
居宅系	22	6.4	2.0	0.0	80.0

#### <実習 II>



	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	177	5.4	2.0	0.3	220.0
施設/ 居住系	170	5.4	2.0	0.3	220.0
居宅系	7	4.4	3.0	1.5	10.0

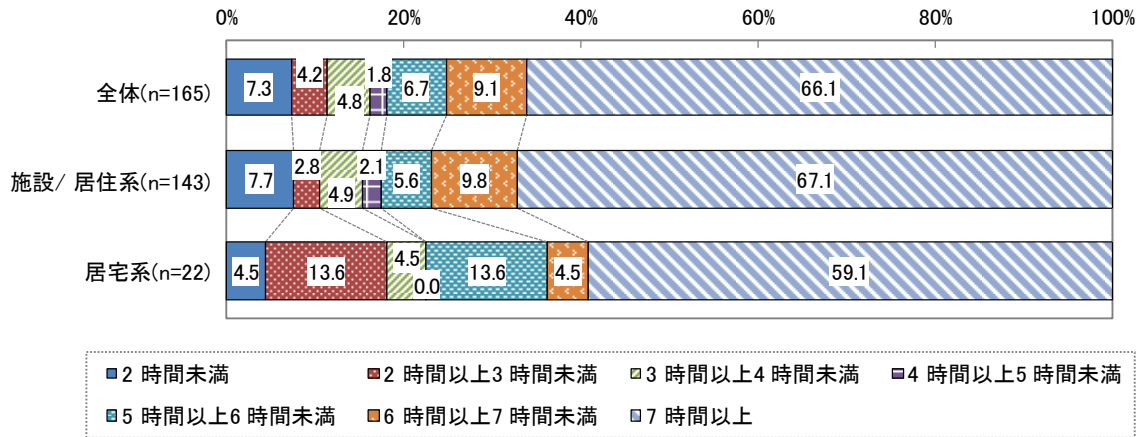
**b. 受入れ中の1日あたりの指導時間**

問 1-1.3. 【問1で「1. 実習Ⅰ」を選択した方】受入れ中の1日あたりの指導時間:学生1人を受け入れるにあたりかけている所要時間\_実習Ⅰについて、以下の情報を教えてください。

問 1-2.3. 【問1で「2. 実習Ⅱ」を選択した方】受入れ中の1日あたりの指導時間:学生1人を受け入れるにあたりかけている所要時間\_実習Ⅱについて、以下の情報を教えてください。

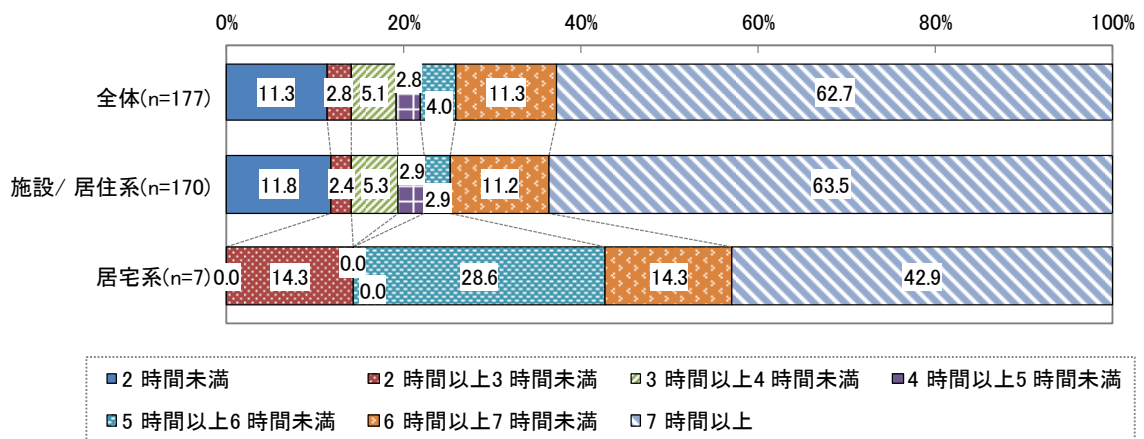
・ 実習Ⅰ、実習Ⅱともに「7 時間以上」が最も多かった。

<実習Ⅰ>



	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	165	6.4	7.5	0.5	8.5
施設/ 居住系	143	6.4	7.5	0.5	8.5
居宅系	22	6.0	7.3	1.0	8.0

<実習Ⅱ>



	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	177	6.2	7.0	0.5	9.0
施設/ 居住系	170	6.2	7.0	0.5	9.0
居宅系	7	5.9	6.0	2.0	8.0



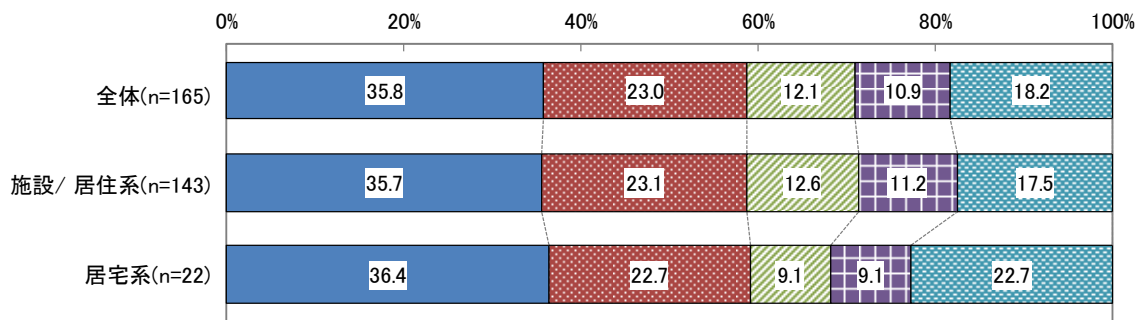
c. 評価等、受入れ終了後のフォローのための所要時間

問1-1.4.【問1で「1. 実習Ⅰ」を選択した方】評価等、受入れ終了後のフォローにかかる時間(合計):学生1人を受け入れるにあたりかけている所要時間\_実習Ⅰについて、以下の情報を教えてください。

問1-2.4.【問1で「2. 実習Ⅱ」を選択した方】評価等、受入れ終了後のフォローにかかる時間(合計):学生1人を受け入れるにあたりかけている所要時間\_実習Ⅱについて、以下の情報を教えてください。

・ 全体では、実習Ⅰ実習Ⅱともに「2時間未満」が最も多かった。

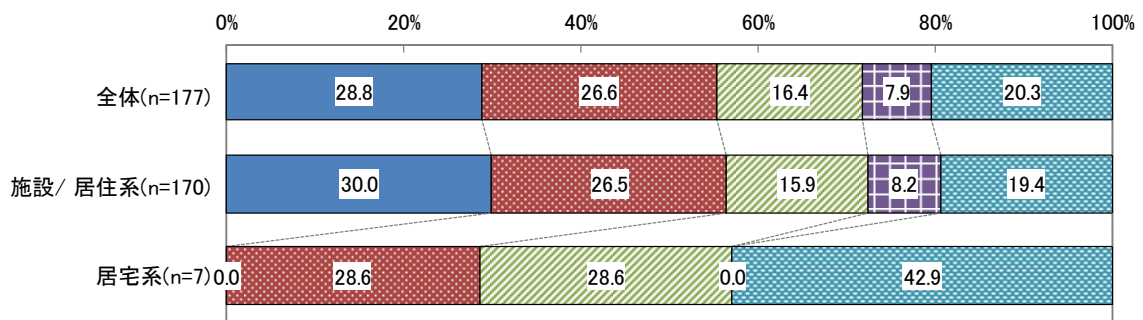
<実習Ⅰ>



■ 2時間未満 ■ 2時間以上3時間未満 ■ 3時間以上4時間未満 ■ 4時間以上5時間未満 ■ 5時間以上

	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	165	4.7	2.0	0.0	240.0
施設/ 居住系	143	5.0	2.0	0.5	240.0
居宅系	22	3.1	2.0	0.0	10.0

<実習Ⅱ>



■ 2時間未満 ■ 2時間以上3時間未満 ■ 3時間以上4時間未満 ■ 4時間以上5時間未満 ■ 5時間以上

	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	177	3.8	2.0	0.5	56.0
施設/ 居住系	170	3.8	2.0	0.5	56.0
居宅系	7	4.1	3.0	2.0	8.0

### 3) 実習の具体的取組、養成校と実習施設の連携

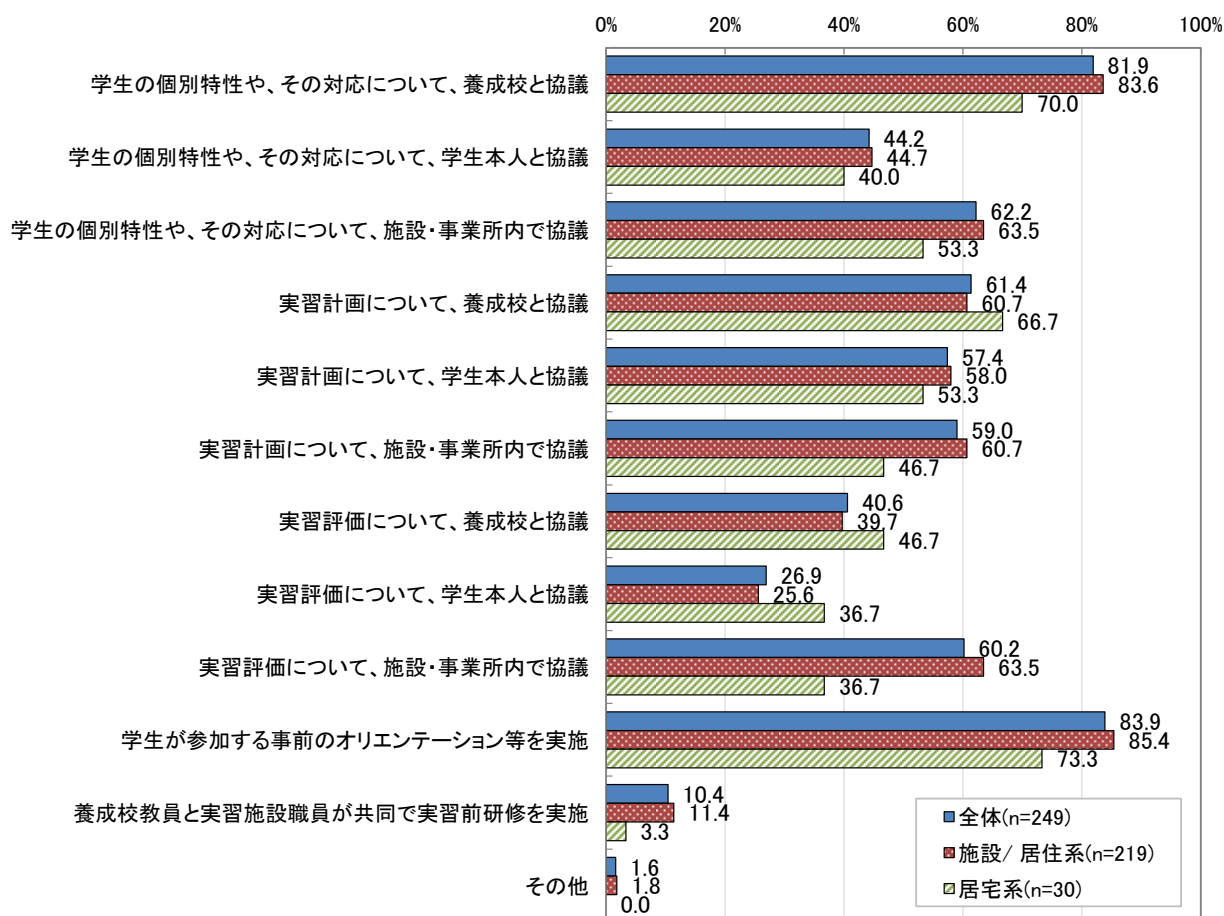
※ 以下、実習の具体的取組については、2022 年度に期間を限定せず、これまでに行っていた実習全般について伺っています

#### (1) 実習前の取組

##### ① 実習前準備

問 3. 実習前、施設・事業所内でどのような対応を行っているかを教えてください。(複数選択)

- 全体では、「学生が参加する事前のオリエンテーション等を実施」が 83.9%と最も多く、次いで「学生の個別特性や、その対応について、養成校と協議」が 81.9%と続いた。



##### ② 実習の効果を高めるための実習前準備における工夫

問 4. 【実習 I II 全般】前問で回答した項目のうち、実習前に行う養成校との連携について、実習の効果を高めるため、具体的にどのような工夫をしているかを教えてください。(自由記述)

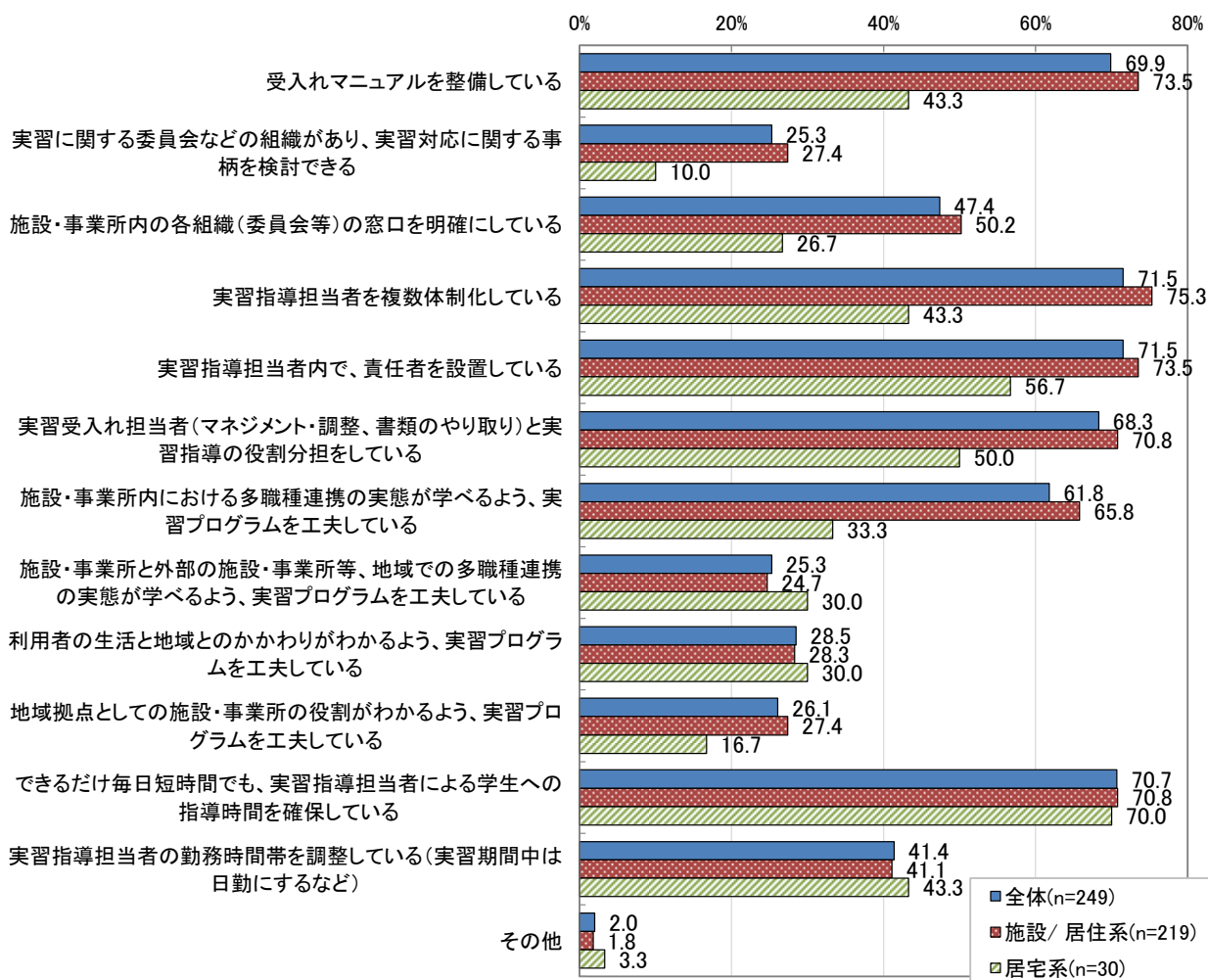
- 養成校から発行される「実習要綱」と施設独自で作成している「実習予定表」の整合性を図り、現場で実習指導に当たる職員（実習担当者）にも目的や実習予定を周知することで、共通認識に基づいた実習指導を行えるようにしていた。
- 実習が2回目以降の場合は、前回の実習評価で挙げた課題を事前に実習施設に共有し、期待する指導とアプローチについて事前協議を行う事例も見られた。
- 実習生の養成校での生活・学習態度に加え、外国人等の場合の宗教上の注意点や語学力などの特徴について、丁寧に事前共有している事例も見られた。
- 実習生一人ひとりの情報を基に、その日の実習を担当する実習担当者をどの職員にするか、配属ユニットをどこにするかなどを協議して決定していた。

## (2) 実習中の取組

### ① 実習の受入れ体制

問 5. 貴施設・事業所において、実習を受け入れるにあたってどのような体制をとっているかを教えてください。(複数選択)

- 全体では、「実習指導担当者を複数体制化している」及び「実習指導担当者内で、責任者を設置している」が71.5%と最も多く、次いで「できるだけ毎日短時間でも、実習指導担当者による学生への指導時間を確保している」が70.7%、「受入れマニュアルを整備している」が69.9%、「実習受入れ担当者（マネジメント・調整、書類のやり取り）と実習指導の役割分担をしている」が68.3%、と続いた。



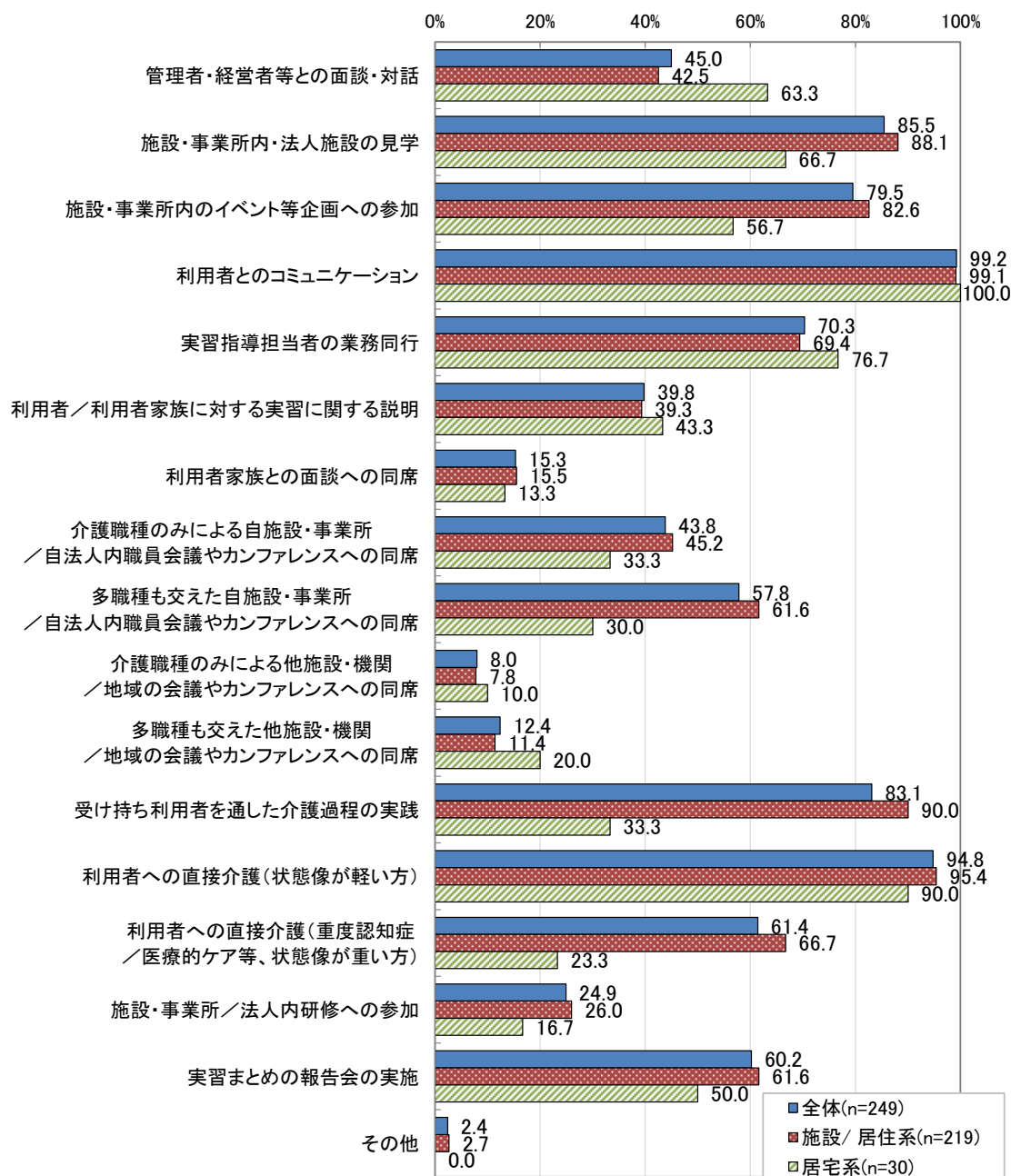
問 6. 【実習 I II 全般】前問で回答した実習を受け入れるにあたっての体制の工夫について、実習の効果を高めるため、具体的にどのような工夫をしているかを教えてください。(自由記述)

- 必ず介護福祉士資格を持つ職員が技術指導を行うことにしていると回答した事例、専任の指導者を付け、実習生がいつでも相談できるよう工夫をしているといった事例が多く見られた。
- 他部署、他職種(看護師・栄養士・PT・OT等のリハビリ職・相談員等)から見た介護福祉士に求めることや役割をそれぞれの責任者から伝える機会を設けている事例、多職種連携の実践や地域との関わりを経験させるべく、相談業務や看護業務など他職種と連携して仕事をする場面に同席させる事例、地域のイベントと一緒に参加し、地域と施設の関わりを伝えるよう工夫している事例があった。

## ② 実習において学生が体験する内容

問 7. 貴施設・事業所での実習において、学生が体験する内容を教えてください。(複数選択)

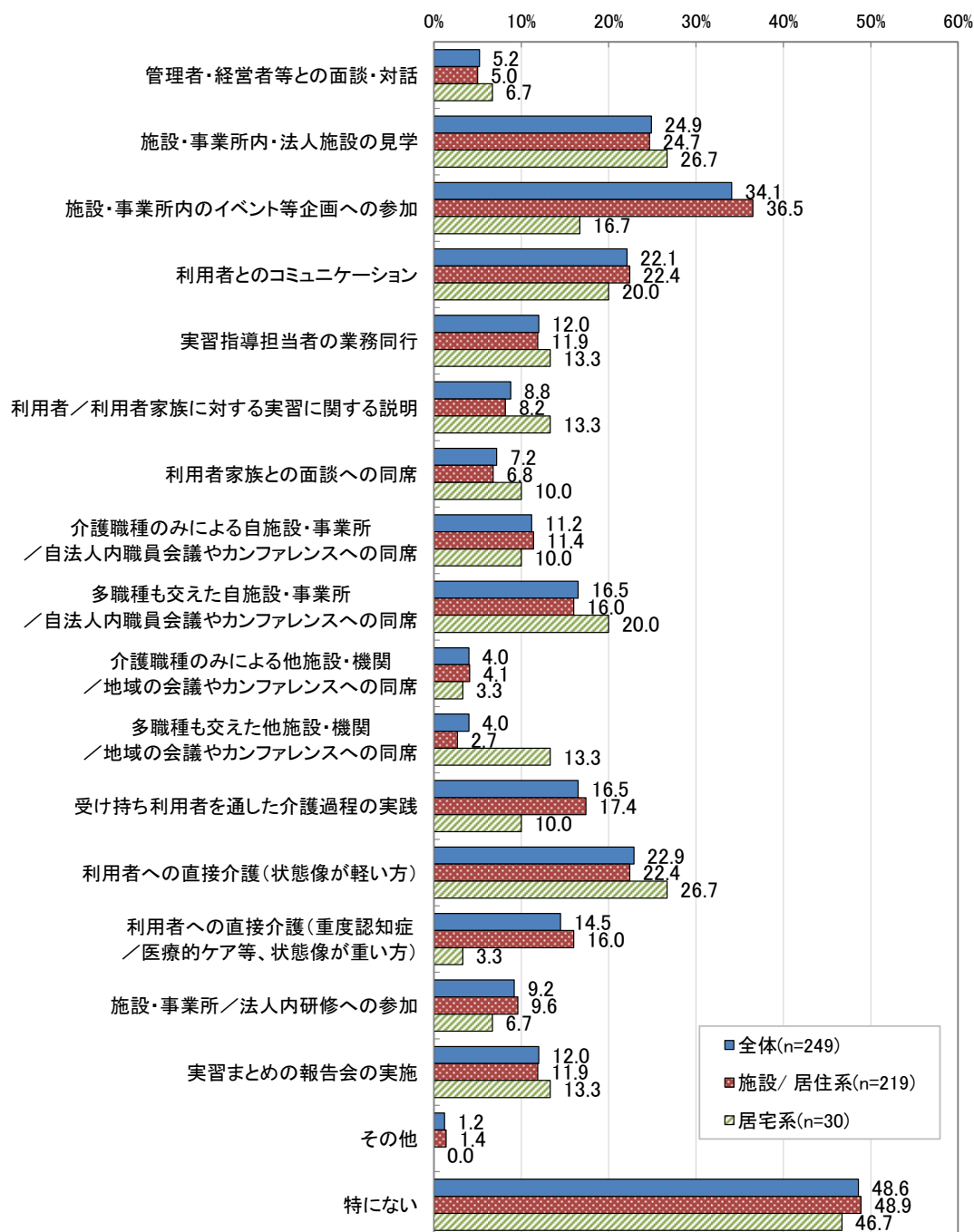
- ・ 全体では、「利用者とのコミュニケーション」が99.2%と最も多く、次いで「利用者への直接介護(状態像が軽い方)」が94.8%と続いた。
- ・ 「利用者家族との面談への同席」「他施設・機関/地域の会議やカンファレンスへの同席」については、体験させていない傾向がみられた。



### ③ 新型コロナウイルス感染症による影響で実施不可となった実習内容

問 8. 前問で回答した項目のうち、新型コロナウイルス感染症による影響で、実施不可となった内容、または実施制限を余儀なくされた内容があれば、教えてください。(複数選択)

- 全体では、「施設・事業所内のイベント等企画への参加」が34.1%と最も多く、次いで「施設・事業所内・法人施設の見学」が24.9%、「利用者への直接介護(状態像が軽い方)」が22.9%、「利用者とのコミュニケーション」が22.1%と続いた。また、「特にない」は48.6%であった。

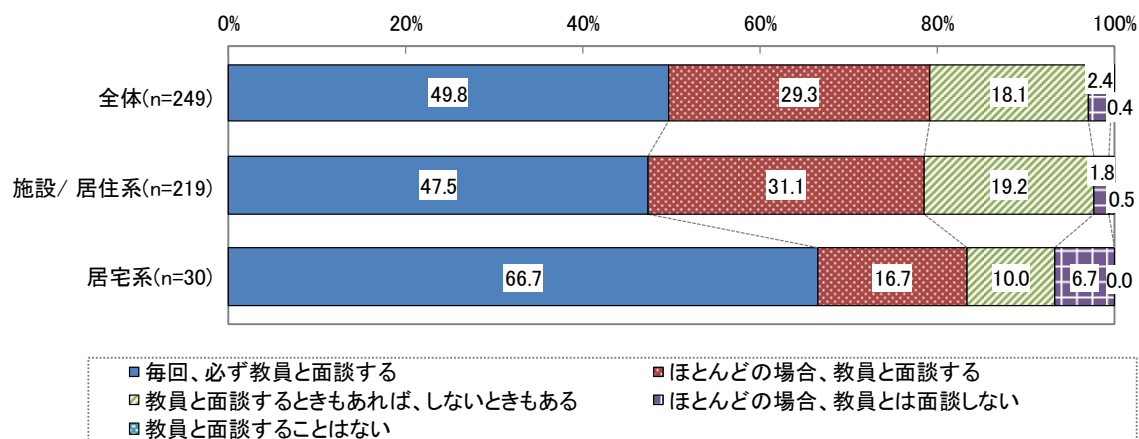


#### ④ 養成校の実習担当教員の巡回指導における取組

##### a. 巡回指導における養成校の実習担当教員との面談状況

問 11. 養成校教員の巡回指導時における、教員との面談状況を教えてください。

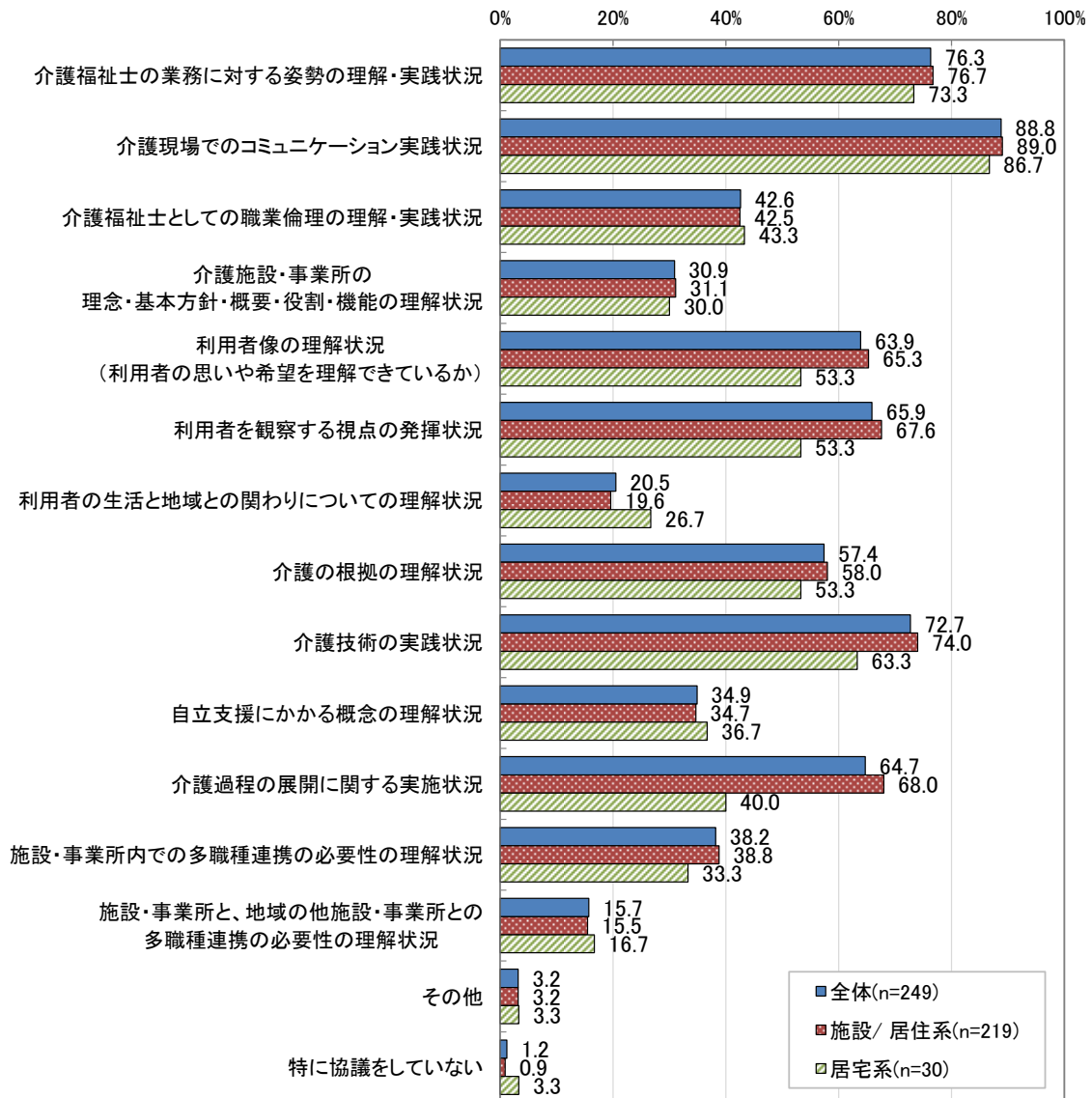
- 全体では、「毎回、必ず教員と面談する」が 49.8%、「ほとんどの場合、教員と面談する」が 29.3%、「教員と面談するときもあれば、しないときもある」が 18.1%、「ほとんどの場合、教員とは面談しない」が 2.4%、「教員と面談することはない」が 0.4%であった。



b. 巡回指導における養成校教員との協議項目

問 12. 巡回指導時に、実習内容／実習目標の到達状況に関し、教員とどのような項目について協議するかを教えてください。(複数選択)

・ 全体では、「介護現場でのコミュニケーション実践状況」が88.8%と最も多く、次いで「介護福祉士の業務に対する姿勢の理解・実践状況」が76.3%、「介護技術の実践状況」が72.7%と続いた。また「特に協議をしていない」は1.2%であった。



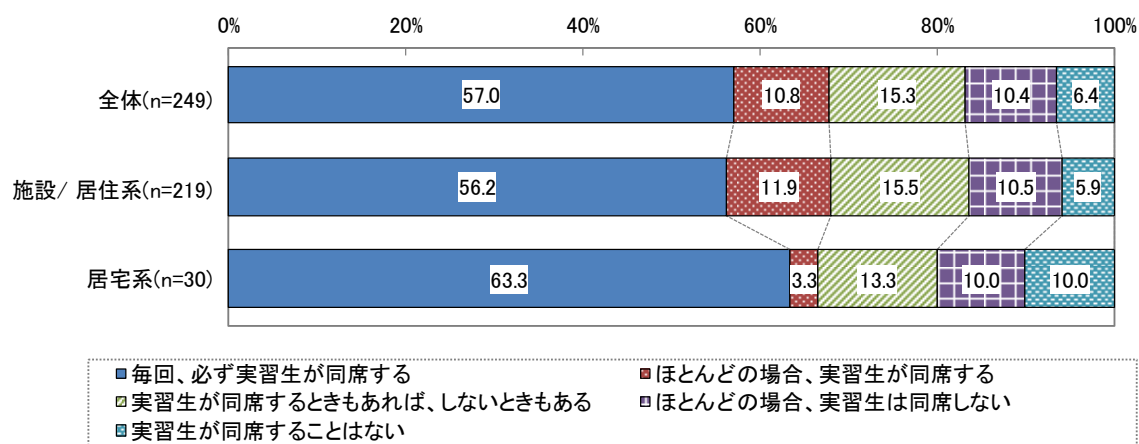
問 13. 【実習 I II 全般】巡回指導時の教員との面談に際し、実習の効果を高めるため、具体的にどのような工夫をしているかを教えてください。(自由記述)

- ・ 実習生の学校での様子を伺い、それを踏まえて実習生一人ひとりの到達レベルや悩み等に対して教員との共通認識を持ちながら対応している事例、施設と学校での指導に差がないよう、指導したい点について共有し、学校ではどのように指導しているのか確認しているケースが多く見られた。
- ・ すべてを実習施設の実習指導者（指導責任者）から指導するのではなく、場合によっては養成校の実習担当教員から指導してもらえよう依頼するなど、実習指導者（指導責任者）と養成校の実習担当教員が実習状況を詳細に共有しながら、「実習生にとって効果的な指導は何か」を常に考えているといった事例が見られた。
- ・ 「実習生」対「教員」の面談と「職員」対「教員」の面談とに分けて実施するなど、出席者を変えて面談を実施することで実習生の本音を引き出し、実習の効果を高めるよう工夫している事例が多数見られた。

c. 巡回指導における養成校の実習担当教員との面談への実習生の同席

問 14. 養成校教員の巡回指導時における教員との面談について、実習生が同席することとなっているかを教えてください。

- ・ 全体では、「毎回、必ず実習生が同席する」が 57.0%、「ほとんどの場合、実習生が同席する」が 10.8%、「実習生が同席するときもあれば、しないときもある」が 15.3%、「ほとんどの場合、実習生は同席しない」が 10.4%、「実習生が同席することはない」が 6.4%であった。



(3) 実習後の取組

① 実習評価における工夫

問 15. 【実習 I II 全般】実習の評価をするうえでの工夫点を、具体的に教えてください。(自由記述)

- ・ 客観性を担保するため、評価基準を用いること、複数人で評価を行うこと、様々な立場の職員が評価を行うこと、現場での評価を全体の管理者が再評価すること、さらに利用者の評価も取り入れるといった様々な工夫が行われていた。
- ・ 外国人への配慮では、文章力は評価対象から外して評価するよう留意している事例も見られた。
- ・ 実習生一人ひとりの実習初期・中期・後期での変容を確認し、成長過程を評価している事例が見られた。
- ・ 評価の心がけとして、将来の介護を担う人材であることを念頭に置いて評価すること、改善すべき点と良い点の割合が3対7程度となるよう意識している、といった事例が見られた。



#### 4) 代替実習の実態、実施した際に工夫した点

※ 以下、代替実習については、2020年度に期間を限定せず、これまで一般的に行っていた代替実習について伺っています

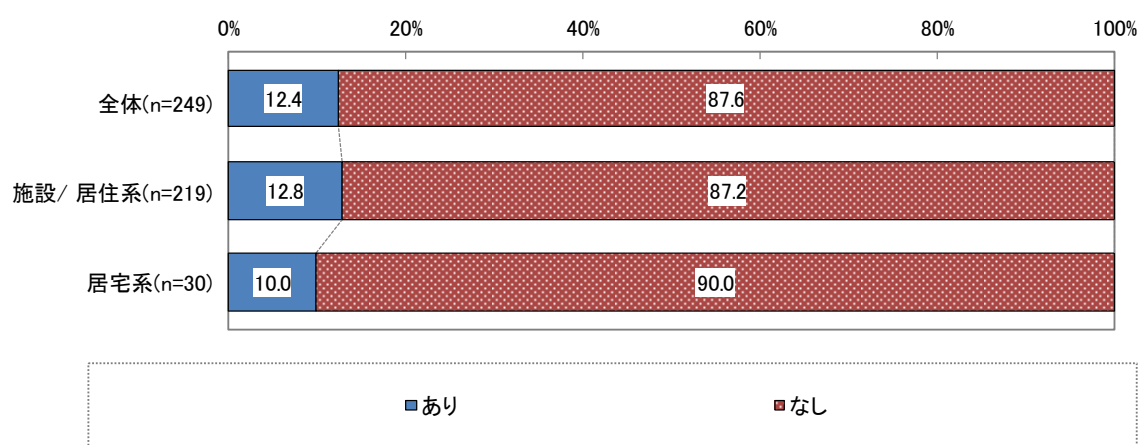
##### (1) 代替実習の実施状況

問 16.1. 実習Ⅰ：これまで、実習生を受け入れる立場で、養成校と共同して代替実習を実施したことがあるかを教えてください。

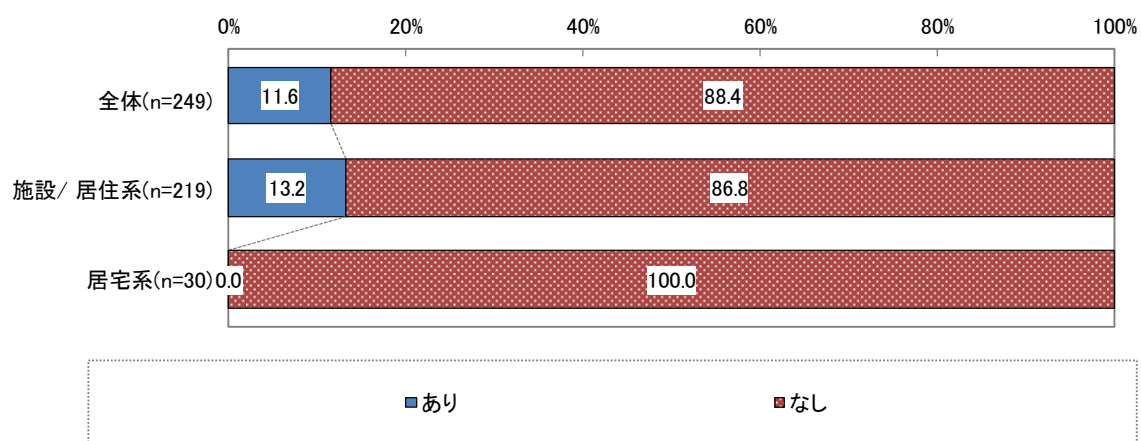
問 16.2. 実習Ⅱ：これまで、実習生を受け入れる立場で、養成校と共同して代替実習を実施したことがあるかを教えてください。

- ・ 実習Ⅰ、実習Ⅱともに、10%程度の施設・事業所において、養成校と共同して代替実習を実施したことが「あり」であった。

##### <実習Ⅰ>



##### <実習Ⅱ>



## (2)実施した代替実習

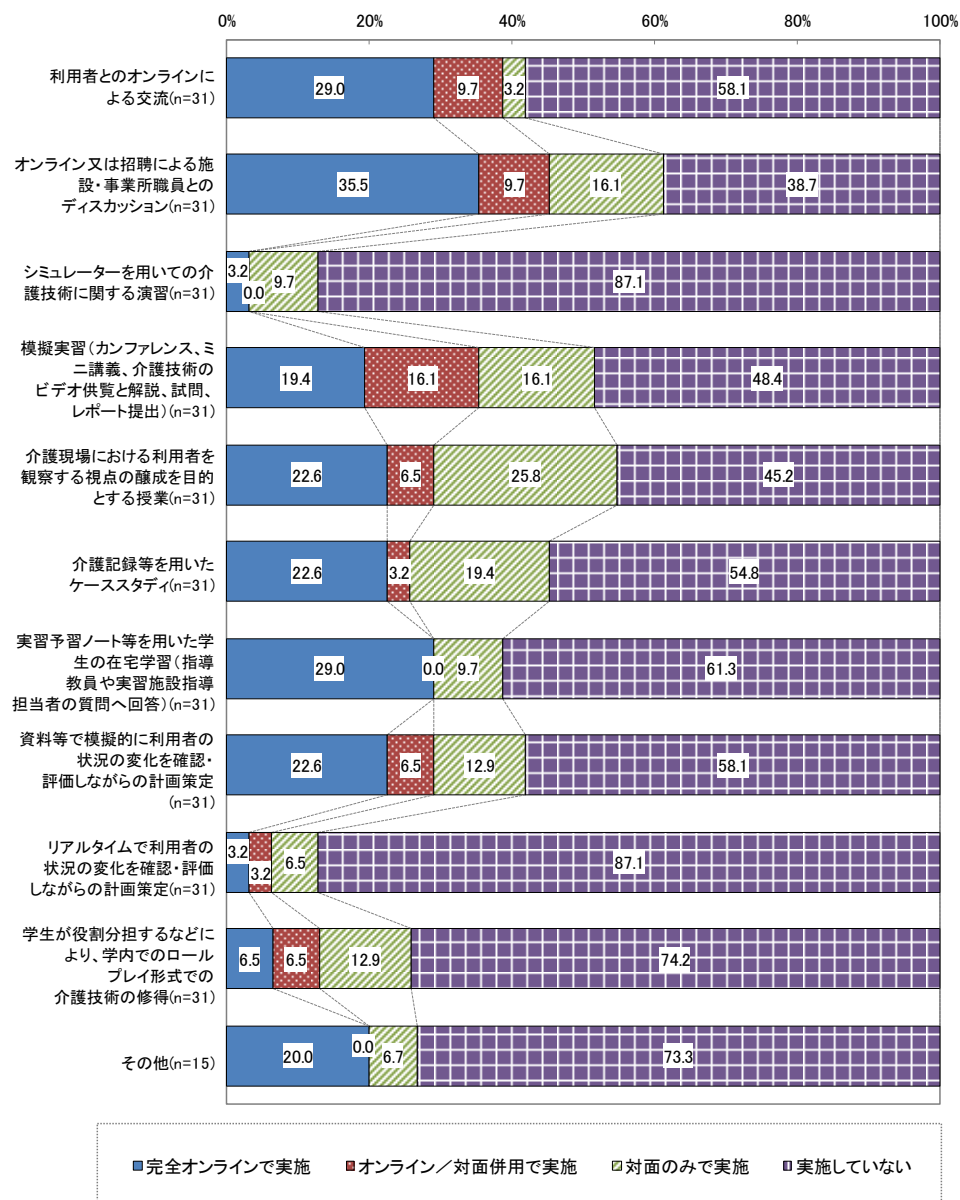
### ① 実施した代替実習(実習 I)

問 16-1.【問 16.1 実習 I で「1. あり」を選択した方】実施した代替実習(実習 I)について、具体的な対応内容と対応方法が、どのような内容であったかを教えてください。

- 全体では、「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」が最も実施されており、次いで「介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業」、「模擬実習(カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ供覧と解説、試問、レポート提出)」が続いた。
- 「シミュレーターを用いての介護技術に関する演習」、「リアルタイムで利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定」を除き、全ての代替実習において「完全オンラインで実施」、「オンライン/対面併用で実施」が過半数を占めていたが、「介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業」では「対面のみで実施」されている割合が最も高かった

<全体>

※「居宅系」が n=3 のため「施設/ 居住系」、「居宅系」のグラフは割愛する



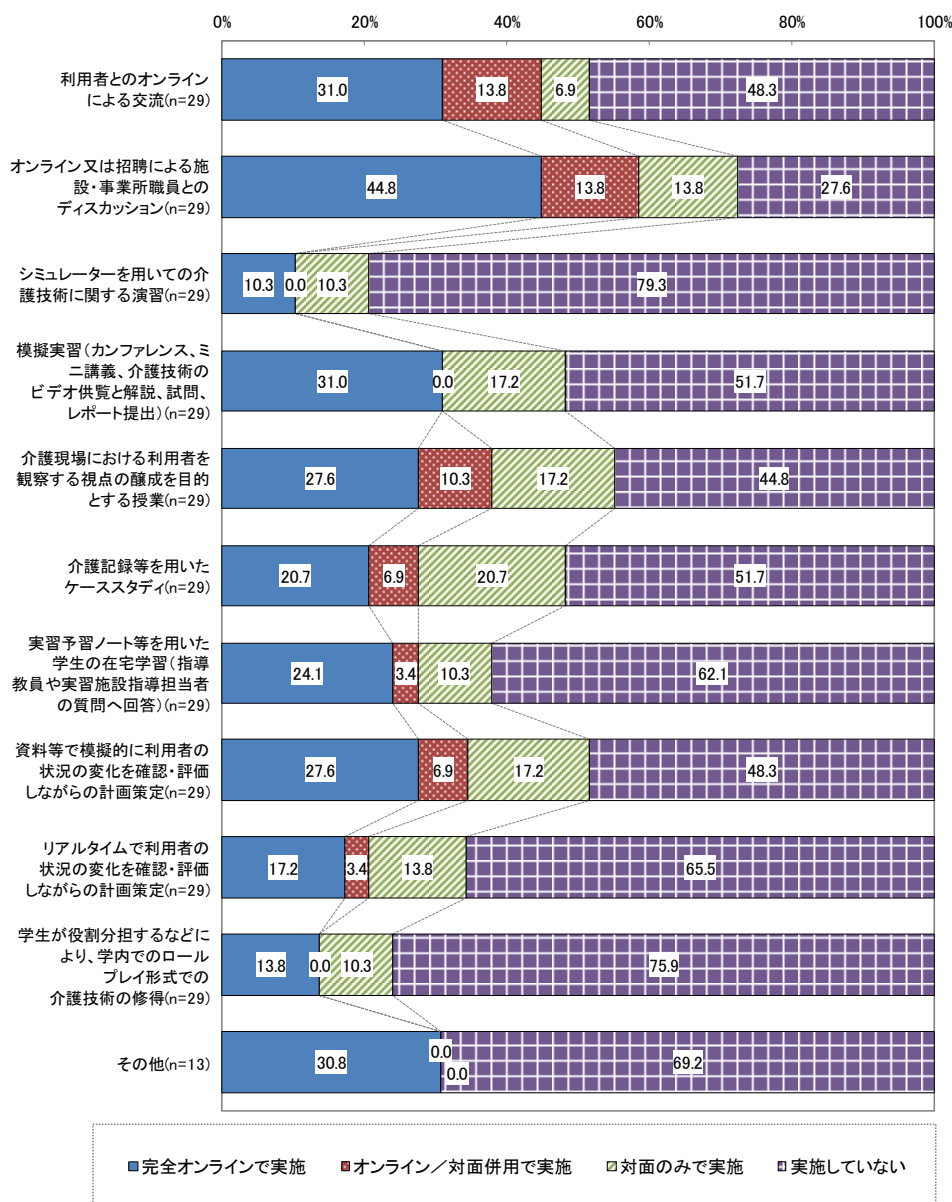
## ② 実施した代替実習(実習Ⅱ)

問 16-4.【問 16.2 実習Ⅱで「1. あり」を選択した方】実施した代替実習(実習Ⅱ)について、具体的な対応内容と対応方法が、どのような内容であったかを教えてください。

- 全体では、「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」が最も実施されており、次いで「介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業」、「利用者とのオンラインによる交流」、「資料等で模擬的に利用者の状の変化を確認・評価しながらの計画策定」が続いた。
- 「シミュレーターを用いての介護技術に関する演習」において「オンライン/対面併用で実施」が0.0%、「完全オンラインで実施」と「対面のみで実施」がいずれも10.3%であったのを除き、全ての代替実習において「完全オンラインで実施」、「オンライン/対面併用で実施」が過半数を占めていた。「介護記録等を用いたケーススタディ」では「対面のみで実施」されている割合が高かった。

<全体>

※「居宅系」がn=0のため「施設/ 居住系」、「居宅系」のグラフは割愛する

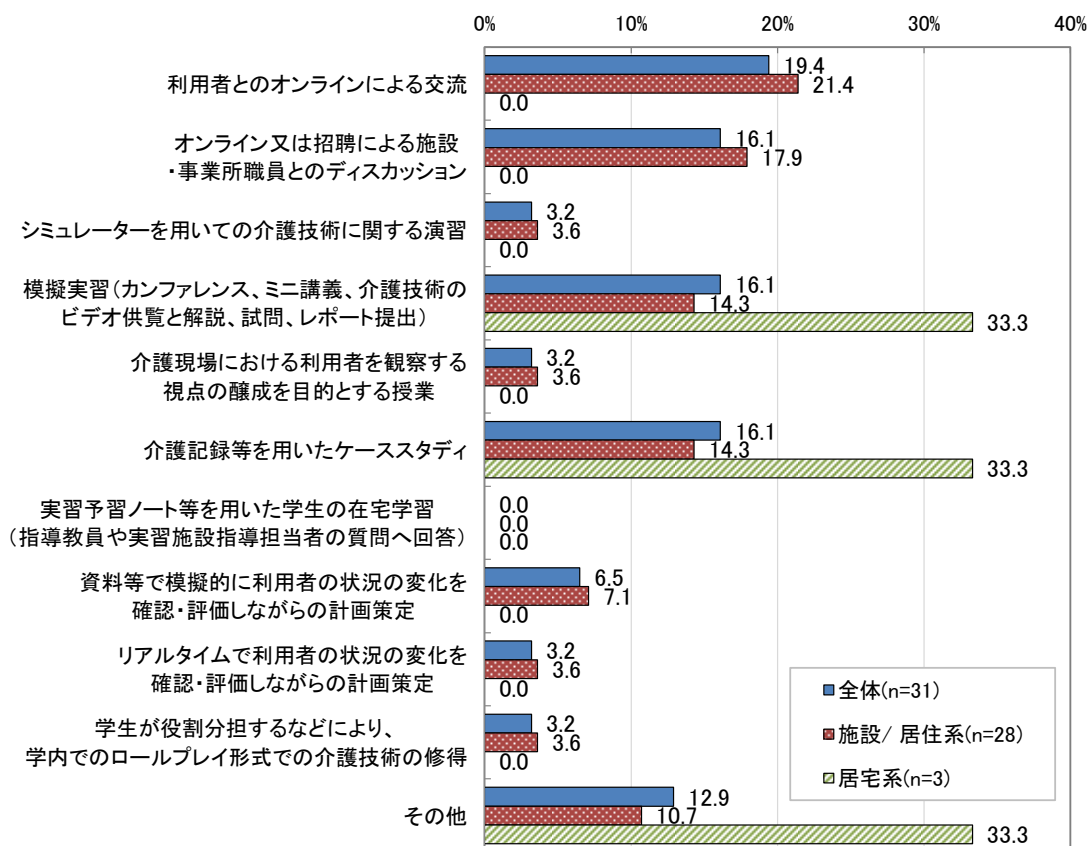


### (3) 実習目標を達成するため最も効果があったと感じる代替実習

#### ① 実習目標を達成するため最も効果があったと感じる代替実習(実習 I)

問 16-2. 【問 16.1 実習 I で「1. あり」を選択した方】前問で回答いただいた代替実習(実習 I)の形式の中で、実習目標を達成するため最も効果があったと感じる形式を教えてください。

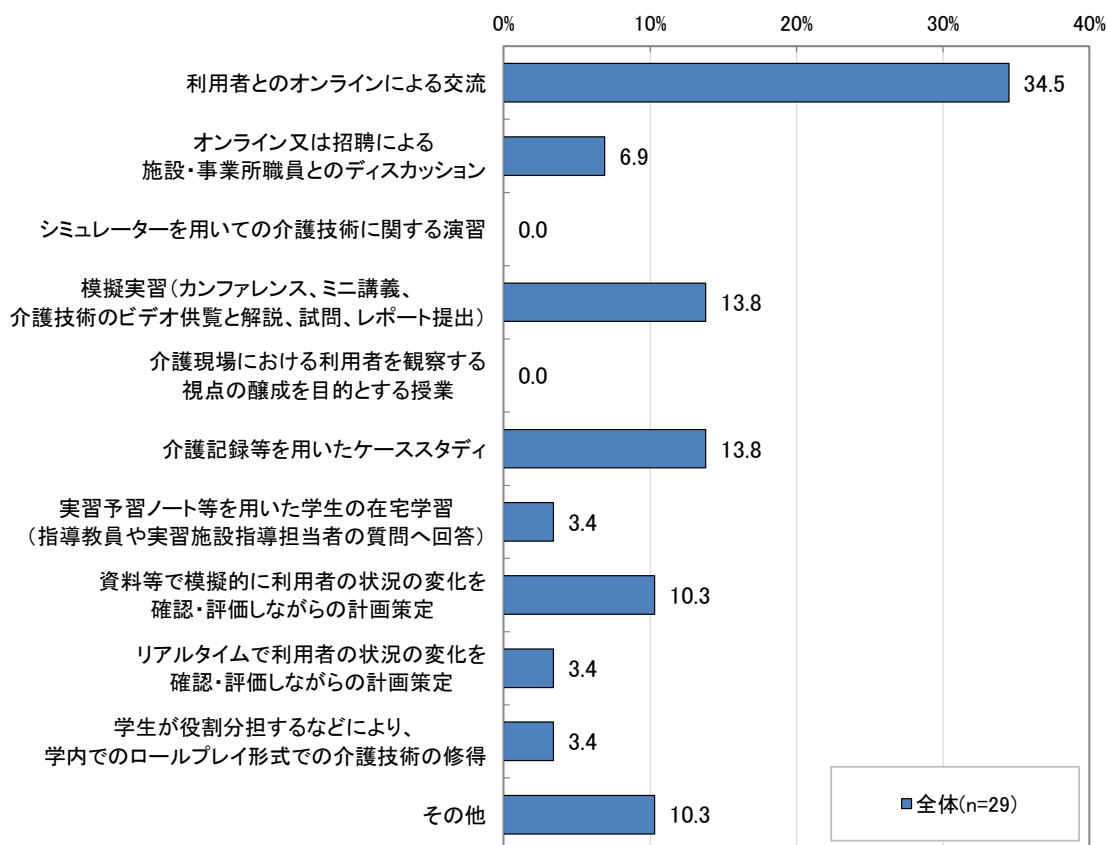
- 全体では、「利用者とのオンラインによる交流」が 19.4%と最も多く、次いで「オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション」、「模擬実習(カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ供覧と解説、試問、レポート提出)」、「介護記録等を用いたケーススタディ」がそれぞれ 16.1%で続いた。



② 実習目標を達成するため最も効果があったと感じる代替実習(実習Ⅱ)

問 16-5.【問 16.2 実習Ⅱで「1. あり」を選択した方】前問で回答いただいた代替実習(実習Ⅱ)の形式の中で、実習目標を達成するため最も効果があったと感じる形式を教えてください。

- 全体では、「利用者とのオンラインによる交流」が 34.5%と最も多く、次いで「模擬実習(カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ供覧と解説、試問、レポート提出)」、「介護記録等を用いたケーススタディ」が 13.8%で続いた。



※「居宅系」が n=0 のため「施設/ 居住系」、「居宅系」のグラフは割愛する

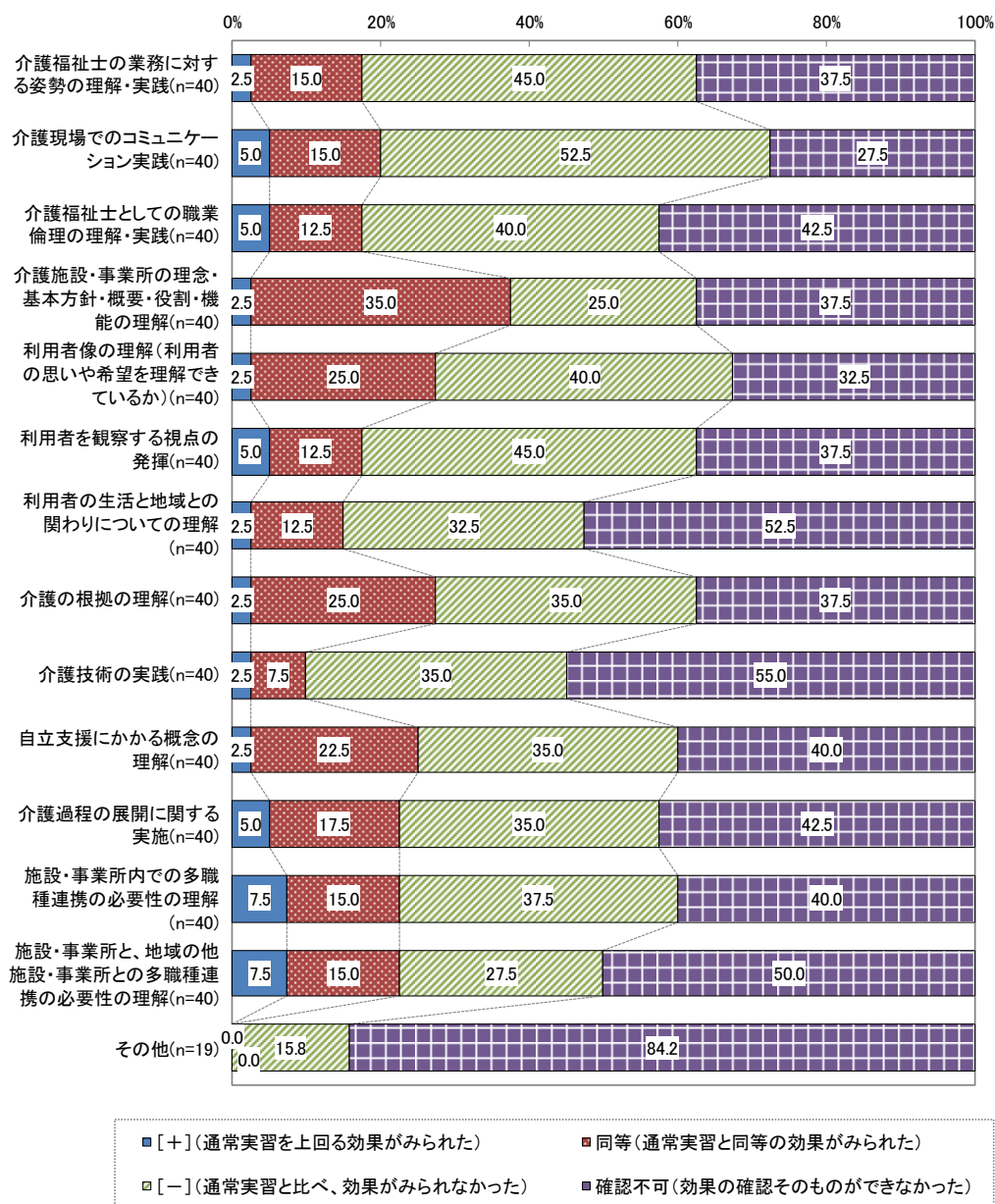
#### (4) 通常の介護実習に対する代替実習の効果

問 17. 【問 16.1 実習Ⅰ／問 16.2 実習Ⅱどちらかもしくは両方で「1. あり」を選択した方】実習Ⅰ、Ⅱいずれか、もしくは双方の通常の介護実習の効果と代替実習の効果比べ、その差を教えてください。

- ・ 全体では、全ての項目において、「通常の実習を上回る効果がみられた」が最も少ないが、2.5～7.5%で見られ、「通常実習と同等の効果がみられた」が7.5～35.0%、「通常の実習と比べ、効果が見られなかった」が25.0～52.5%となった。
- ・ 「介護施設・事業所の理念・基本方針・概要・役割・機能の理解」において、通常実習を上回る効果または同等の効果がみられる傾向にあったが、その他では、「通常の実習と比べ、効果が見られなかった」とする傾向が使った。
- ・ なお、全ての項目において「効果の確認そのものができなかった」が27.5～55.0%で見られた。

<全体>

※「居宅系」がn=3のため「施設/ 居住系」、「居宅系」のグラフは割愛する



## 5)実習受入れにおけるメリット、困りごと

### (1)実習を受け入れるメリット

問 18. 【実習 I II 全般】実習を受け入れた際の貴施設・事業所におけるメリットがあれば、具体的に教えてください。(自由記述)

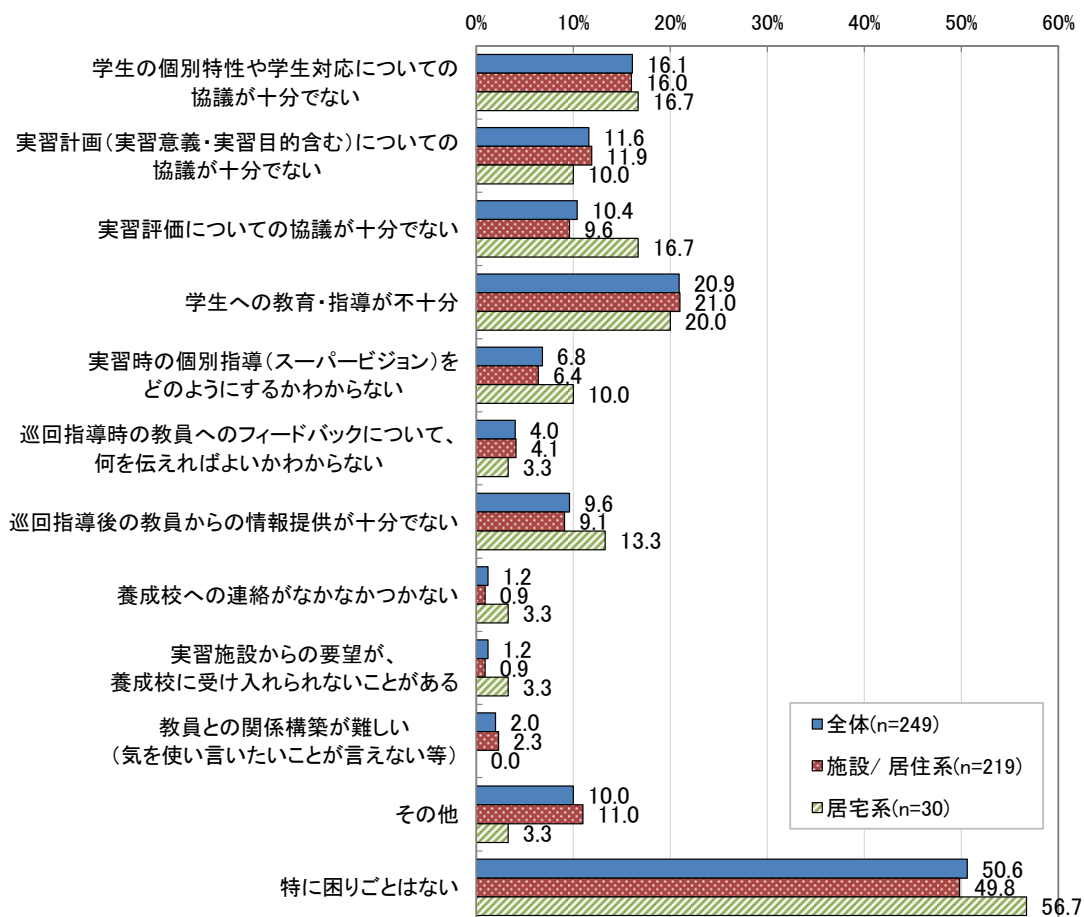
- ・ 主なメリットとして、「最新の介護技術の再確認」、「職員の意識の向上」、「将来的な人材の確保」、「利用者への好影響」、「新任職員育成方法への応用」の5点が挙げられていた。
- ・ 「最新の介護技術の再確認」については、実習の受入れが施設職員の介護に関する考え方や技術を再確認する場となっており、養成校での介護技術の指導から新しい情報を収集できること、施設での支援方法について、実習生の指導のために言語化することで、気づきが得られることもあった。
- ・ 「職員の意識の向上」については、改めて利用者ケアの初心に戻ることが多くあり、職員にとって良い刺激となっていた。
- ・ 「将来的な人材の確保」については、実習生が施設の方針等に共感し、就職につながっているケースがあった。
- ・ 「利用者への好影響」については、介護を学ぶ実習生が来ることで利用者が喜んで生き生きとしていること、普段と異なる利用者の反応があり、認知症ケアに繋がるメリットが挙げられた。
- ・ 「新任職員育成方法への応用」については、実習生の受入れのためのマニュアルを作成したことにより、新任職員育成マニュアルの作成にも至り、新任職員への統一した指導が可能になったことや施設職員の指導力向上につながっており、新人職員の指導に反映できているといったメリットが挙げられた。

## (2) 実習受入れでの困りごと

### ① 養成校に対する困りごと

問 19. 実習を受け入れる上での養成校に対する困りごとについて、該当するものを教えてください。  
(複数選択)

- 全体では、「特に困りごとはない」が 50.6%と最も多かったが、困りごとの中では、「学生への教育・指導が不十分」が 20.9%と最も多く、次いで「学生の個別特性や学生対応についての協議が十分でない」が 16.1%と続いた。

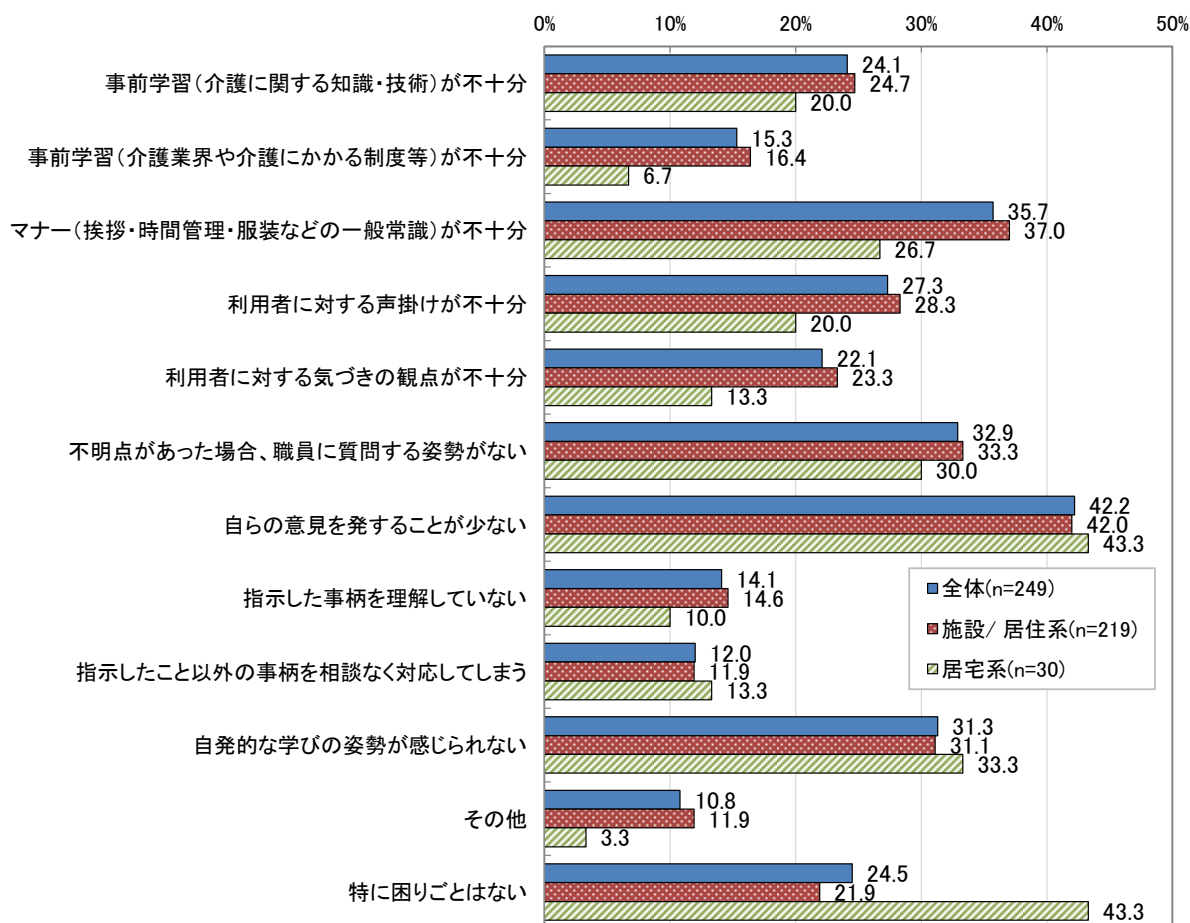




## ② 実習生に対する困りごと

問 20. 実習を受け入れる上での実習生に対する困りごとについて、該当するものを教えてください。  
(複数選択)

- 全体では、「自らの意見を発することが少ない」が42.2%と最も多く、次いで「マナー（挨拶・時間管理・服装などの一般常識）が不十分」が35.7%、「不明点があった場合、職員に質問する姿勢がない」が32.9%、「自発的な学びの姿勢が感じられない」が31.3%と続いた。また、「特に困りごとはない」が24.5%であった。





### Ⅲ. 養成校と実習施設の連携にかかる事例集

本事例集については、本調査研究のアンケート調査において、ヒアリング調査に協力可能と回答のあった養成校及び実習施設を対象に、有益な回答が得られた養成校3校、及び当該養成校の実習施設である3施設を選定し、半構造化インタビューによるヒアリング調査を実施し、ヒアリング内容から好事例を抽出し、事例集として取りまとめた。また、アンケート調査の自由記述から得られた取組についても取りまとめ、2部構成としている。

以下、ヒアリングを行った養成校3校及び当該養成校の実習施設である3施設の基礎情報を記載する。

該当事例 No.	学校の特性	実習施設の特性
事例 1-1～1-5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4年制大学</li> <li>・ 学生数 80 名（全体定員、介護福祉士養成課程のみの人数）</li> <li>・ 専任教員 4 名、その他実習巡回非常勤教員 4 名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別養護老人ホーム</li> <li>・ 定員 72 名</li> <li>・ 看護職員 4 名、介護職員 28 名（うち介護福祉士 16 名、うち実習指導者講習会修了者 8 名）</li> </ul>
事例 2-1～2-4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門学校（2 年制）</li> <li>・ 学生数 80 名（全体定員、介護福祉士養成課程のみの人数）</li> <li>・ 専任教員 3 名、その他教員 20 名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別養護老人ホーム</li> <li>・ 定員 80 名</li> <li>・ 看護職員 5 名、介護職員 33 名（うち介護福祉士 31 名、うち実習指導者講習会修了者 4 名）</li> </ul>
事例 3-1～3-4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉系高校</li> <li>・ 生徒数 120 名（全体定員、介護福祉士養成課程のみの人数）</li> <li>・ 専任教員 8 名、その他教員 0 名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別養護老人ホーム</li> <li>・ 定員 100 名</li> <li>・ 看護職員 3 名、介護職員 55 名（うち介護福祉士 30 名、うち実習指導者講習会修了者 1 名）</li> </ul>

#### 【本事例で使用する用語について】

用語	用語の意味や使用方法について
実習指導者 （指導責任者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成校、実習施設ともに、実習を担当する教員・職員を取りまとめる責任者 1 名を指す用語として、本用語を使用している。</li> <li>・ 原則、介護福祉士実習指導者講習会の修了者である。</li> </ul>
実習担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習施設の職員のうち、実習生を直接指導する職員のことを指す。</li> <li>・ 介護福祉士実習指導者講習会の修了の有無によらず、この表記を使用している。</li> </ul>
実習生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習中の養成校の学生及び生徒のことを指す。</li> </ul>
学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習中か否かにかかわらず、養成施設（大学・専門学校）に所属する学生のことを指す。</li> </ul>
生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習中か否かにかかわらず、福祉系高校に所属する生徒のことを指す。</li> </ul>

表:事例の概要

個別事例	属性		事例区分				掲載頁	
	養成校	実習施設	実習前	実習中	実習後	その他		
1-1	養成校で体系的に設置された会議体の活用により実習指導及び講義を充実させている取組	○ (大学)	○ (特養)	○	○			P103
1-2	実習の要点の可視化により実習の質を担保している取組	○ (大学)		○		○		P105
1-3	施設の実習指導体制を整えて実習を受け入れている取組		○ (特養)	○	○			P106
1-4	実習以外でも養成校と実習施設とが連携を図っている取組	○ (大学)	○ (特養)	○	○			P108
1-5	外国人の留学生への配慮を行い、介護の理解を深める実習指導を行っている取組		○ (特養)	○	○		○ (留学生対応)	P109
2-1	日ごろからの養成校と実習施設との密な連携により、実習指導が円滑に実施されている取組	○ (専門学校)	○ (特養)	○	○			P111
2-2	実習指導者の業務に同行し、多職種協働も含めた実務を通じた実習指導 (OJT : On the Job Training) を行っている取組		○ (特養)	○	○			P112
2-3	実習報告会を通じ、養成校が地域の拠点となって現場の介護の質向上に寄与している取組	○ (専門学校)	○ (特養)			○		P113
2-4	養成校の卒業生を介護現場でのリーダーとして育てるため、グループ形式の実習を実施している取組	○ (専門学校)		○	○		○ (育成指導)	P114
3-1	実習マニュアルの整備、説明会及び公開授業の開催により、実習施設と実習目標の共有を行っている取組	○ (福祉系高校)	○ (特養)	○				P115
3-2	実習施設を慎重に選定している取組	○ (福祉系高校)		○				P117
3-3	円滑な実習受入れ体制を構築し、実習の質を担保している取組		○ (特養)	○	○	○		P118
3-4	効果的な実習のあり方を養成校と実習施設双方で検討して実施した代替実習 (※新型コロナウイルス感染症の影響による特例措置) の取組	○ (福祉系高校)	○ (特養)	○	○	○	○ (代替実習)	P120

## 【事例 1-1】養成校で体系的に設置された会議体の活用により実習指導及び講義を充実させている取組

### 1) 実習にかかる会議体の設置と運営

介護実習の各科目「実習指導Ⅰ」～「実習指導Ⅳ」<sup>(表1)</sup>には責任者として統括する専任教員を置き、専任教員を中心に、実習の準備や振り返り、授業項目の設定について議論が行われている。

すべての介護実習は「介護福祉実習部会」が取りまとめている。当該養成校には、「社会福祉実習部会」等のその他実習部会が設けられており、これらすべてを取りまとめる「福祉実習委員会」が上位組織として体系的に位置づけられている。

「介護福祉実習部会」では、通常月 1 回、会議が開催されている。会議参加者は、各実習指導責任者と専任教員全員である。議題は、学生の学習意欲、実習に向かうための準備、実習施設の決定、介護実習の教育内容と実習指導の連携教育、実習のまとめ等、実習にかかる全てを取り扱う。必要に応じて、緊急事態等の場合には、臨時会議を別途開催することとしている。

上位組織の「福祉実習委員会」では、全学的な方針、課題の共有が行われるだけでなく、それぞれの「実習部会」の実習の課題なども議論され、全学的な組織体系に位置付けられた会議体を効率的に活用し、実習の質を高める方策が検討できている。このように、他の養成課程の実習との連携も図れる体制となっているため、例えば、新型コロナウイルス感染症向けのワクチン接種の対応等、迅速な対応が必要な際も、全学的に情報共有を図りながら対応方針を決定することができている。

図 1 実習にかかる全学的な組織体系

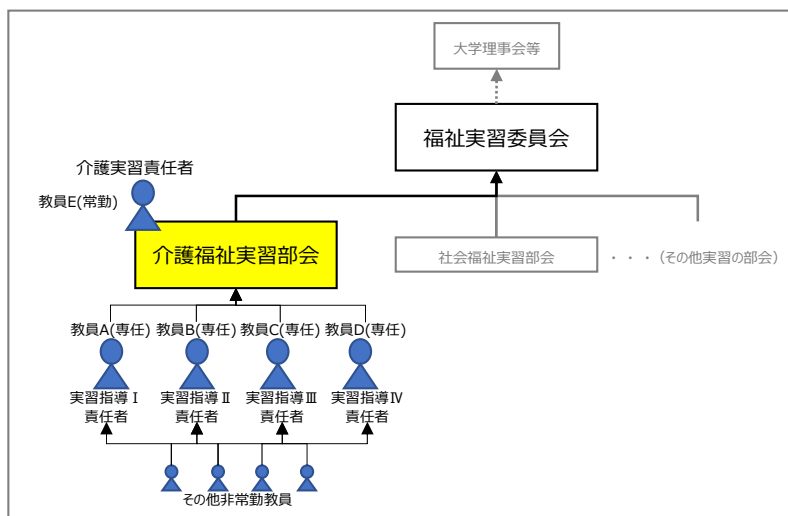


表 1 実習カリキュラム

実習名	介護実習Ⅰ・①	介護実習Ⅰ・②	介護実習Ⅰ・③	介護実習Ⅱ・①	介護実習Ⅱ・②
科目名	実習指導Ⅰ	実習指導Ⅱ		実習指導Ⅲ	実習指導Ⅳ
実習時期	1年後期	2年前期	2年前期	2年後期	3年前期
実習時間	48時間	40時間	28時間	168時間	168時間
対象サービス	入所施設・通所事業所	認知症グループホーム等	訪問介護	入所施設	入所施設
目的	様々な生活の場における利用者とそれに応じた多様なサービスを理解する。			受け持ち利用者の介護過程を通して、利用者の個別性に応じた介護が展開できる能力を養う。	

### 2) 会議体を活用した実習指導及び講義の充実

「介護福祉実習部会」で講義内容等の協議を行う際は、特に、学生が介護過程の展開にかかる理解不足とならないよう、講義の内容や方法等、どのように学生に学んでもらうかを議論する。専任教員全員での会議を設置し、最低月1回、必要に応じて臨時で複数回の議論ができるため、実施内容を会議体にて振り返り、改善点の発見をし、再度実践、その結果をチェックするといった **PDCA サイクル**を回しながら、実習の質を高めることができる。

またある時、学生が実習目標を立てる際、近視眼的になりやすく、作業の遂行のみになってしまいがちであるという課題が部会で議論された。議論の結果、介護過程を踏まえ、実習で確認すべき視点を膨らませる部分が総じて弱い点が指摘されたため、視点を膨らませられるよう、学生同士でディスカッションを行い、教員が学生の議論が深まるようサポートをしていくことができるような授業を行うこととした。

「実習指導Ⅰ」～「実習指導Ⅳ」において、実習前に実習施設職員をゲストスピーカーに招いた講義を行っている。テーマは、介護福祉実習部会でその都度学生の課題を議論したうえで決定しており、それぞれの実習前に各1回ずつ講義が行われる。

直近では、近年、介護現場では医療処置や看取りの利用者に関わる機会が増えていることから、看取りをテーマに、施設でどのような対応が求められるか、その中で利用者の尊厳をどのように保つかに触れ、実習施設の職員に講義をいただいた。依頼を受けた実習施設では、養成校教員と講義内容のすり合わせを行い、資料を作成する。実習施設にとっても、講義で日ごろの学生の様子を実際に確認することができ、実習開始前に学生のイメージを持つことに役立っている。

## 【事例 1-2】 実習の要点の可視化により実習の質を担保している取組

### 1) 実習生に対する、実習の目的・実習目標・学習課題・留意点の可視化(見える化)

#### (1) 実習目的・目標・学習課題の見える化と学生への理解の徹底

実習のすべての科目(「実習指導Ⅰ」～「実習指導Ⅳ」)において、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーに基づいた実習の目的、目標、学習課題が設定されており、学習課題に対する留意点も明確にされている。また、学生がこれらを熟読したうえで理解が難しい内容については、介護総合演習の授業において、学生同士でディスカッションが行われて、実習前の準備として実習に対する理解を助けている。

これらの規定は、実習施設にも共有されており、実習施設の実習受入れマニュアルにも反映されている。規定の充実は、施設の実習生受入れマニュアルのブラッシュアップにも役立っている。

表 2 実習要項の一部抜粋・改変

介護実習Ⅱの目的・実習目標	
<p>&lt;目的&gt; 受け持ち利用者の介護過程を通して、利用者の個別性に応じた介護が展開できる能力を養う。</p> <p>&lt;実習目標&gt; ※複数ある目標の中の1つを掲載 施設・事業所における多職種の業務と役割を知り、さらに連携・協働の方法を理解する。</p>	
学習課題 ※上記実習目標に則したもの	留意点
(1) 利用者を支えるチームの一員としての役割を理解する。	① 施設で働く職員の職種と役割を理解するために申し送り、ケアカンファレンスに参加する。 ② 職員と共に行動し、利用者を支えるチーム体制を知り、チームの一員として支援していることを理解する。
(2) 個々の利用者の生活場面において多職種の役割や連携を理解する。	① 関連職種とその役割を理解する。 ② 1人の利用者を通して多職種との連携を理解する。
(3) 医療との密接な連携のもと行われる業務を知る。	① 介護福祉士による血圧測定、ストマパウチ交換、爪切り等の見学をする。
(4) 介護福祉士が行う医療的ケア(喀痰吸引等)を知る。	① 痰の吸引や経管栄養の一連の支援の流れを職員の指導のもと見学し、(指示書の確認と緊急時の連絡方法、対象者の状態、実施前後の観察、安全・安楽、実施後の記録について)整理する。 ② 痰の吸引や経管栄養実施における医療との連携について知る。
(5) ターミナルケアの支援について知る。	① 施設のターミナルケアの方針を聞き、自己の死生観を考える機会とする。 ② ターミナルケアに関わる機会があれば、積極的に申し出る。 ③ ターミナルケアに関わる多職種や家族との連携、連絡の方法を知り、チームアプローチについて知る。

#### 2) 実習施設及び教員間に対する、実習評価の可視化(見える化)

実習施設に対しては、実習要項に規定されている実習の目的・目標、学習課題、学生の留意点の内容に則した評価表を作成して、実習の評価を依頼している。

実習Ⅰについては、実習施設からの評価のみで実習生の評価を行うが、実習Ⅱについては、実習施設の評価のみでなく、学生の成長の推移を踏まえた評価ができるよう、通常授業も指導し、実習の巡回指導も行っている養成校教員による評価を全体評価の20%程度とし、実習生の成績に加味している。

養成校では、実習指導者では評価できない成長の観点について、教員による評価を行っている。この際、複数の実習施設で行われた実習を評価するため、教員間の評価にバラツキが出ないように、教員全員で調整をしながら綿密に評価を確認していくこととしている。また、あらかじめ、実習における学生の留意点までの詳細な項目を作成しているため、各項目に沿った学生の自己評価、実習担当者の評価が明確になり、安定した評価につながっている。

表 3 養成校の教員が行う評価項目

養成校教員の評価項目 (実習Ⅱ)
① カンファレンスに向けての資料の準備や段取り、当日の役割を果たすことができた(カンファレンスの準備と参加姿勢)
② 実習担当教員から指示された介護過程の課題が遂行できた
③ 実習全体を通して、実習担当教員の指導・助言を受け真面目に取り組む姿勢がみられた
④ 提出書類について指示通りの期日を守ることができた

## 【事例 1-3】施設の実習指導体制を整えて実習を受け入れている取組

### 1) 法人としての実習の受入れに対する考えの浸透

経営主体である法人は、地域貢献に力を入れており、施設としても介護業界の質向上に寄与できるよう、一丸となって実習受入れに積極的に取り組んでいる。原則として、予定に組み込める実習はすべて受け入れており、年間を通じて、介護福祉士、社会福祉士、管理栄養士の実習を受け入れている。

人材確保を目的として実習を受け入れているわけではないものの、毎年3～4名程度の養成校新卒の就職があり、うち1～2名が当該施設で実習を経験した者となっている。また、実習担当者の士気が実習生に伝わることで、実習生に就職先として選ばれるケースがよくあることや、実習を経て、実習生の成長を感じる事が実習担当者のモチベーションになっている。こういった取組をしている当該施設のことを良いと思って就職した人材が、職員の士気を上げるような雰囲気づくりを積極的に行い、良い循環になって施設全体に伝わっている。

### 2) 実習を統括する体制整備

すべての実習の統括は、施設の専門職全員を取りまとめている施設課長が行い、介護福祉士の実習受入れの実習指導者(指導責任者)も兼務している。実習指導者(指導責任者)を中心とし、実習担当者全員で、実習の目的を共有し、受け入れ体制を整えている。

介護スタッフ 25 名のうち、介護福祉士は 15 名(専門学校卒7名、大卒7名、実務者ルート1名)、うち実習指導者講習会を終了した者が 6 名(全員、養成校出身者)となっている。毎日、1 名の実習生に実習指導者講習会修了者である 6 名の職員のいずれか 1 名を配置している。実習生を担当する職員は、介護福祉士、常勤であることを前提に、ケアの根拠が伝えられる者、学生の気持ち理解できる者を中心に選定する。指導ができる職員の確保にも取り組んでおり、実習指導者講習会へ毎年 1 名を輩出するようにしている。

### 3) 養成校の実習マニュアルの確認及び施設の実習マニュアルの整備

養成校が実習マニュアルを策定している場合には、実習指導者(指導責任者)が熟読し、養成校の実習に関する意向等を理解する。

実習施設でも養成校のマニュアルを参考にして、施設職員向けに実習受入れマニュアルを作成している。特に、具体的な実習目標や実習内容など、どのような目的で実習を行うかについては、職員にも徹底するため、複数の養成校のマニュアルを参照しながら、職員向けマニュアルに入れ込んでいる。

また、実習生向けにも、実習を行う上での心構え等を記載したマニュアル<sup>(表 4)</sup>を作成している。当該施設での実習を行うにあたって、あらかじめ認識しておくべきことを施設側で整理し、取りまとめている。例えば、毎朝、実習を開始する前に、その日の目標や行動計画を確認することにしているが、施設としては、実習生自ら実施したいことを述べられることが重要と考えており、実習生向けのマニュアルにも当該内容を記載<sup>(表 5)</sup>、あらかじめ実習生に伝達している。

表 4 実習生向けマニュアル

実習生向けマニュアルの掲載項目	内容
法人理念等	法人理念、サービスの目標 等
基本的なお願いごと	自立支援の考えを前提にケアを行っている点、時間管理、事故防止、ケアの実践、守秘義務、感染対策、1日の目標設定、身だしなみ、申し送り 等
実習記録の書き方の留意点	記録の基本的な書き方(利用者の氏名を明示しない等)、担当職員名の記載、記録時間、実習日誌の提出に際しての注意事項 等
実習概要	実習期間と内容、服装、持参物、実習中の通常の1日のスケジュール、感染症予防対策 等



表 5 実習生向けマニュアルより抜粋

目標についての記載	
1 日の目標を考えてきてください。	
担当のスタッフに目標・目標設定の理由を自分の言葉で伝えられるようにしましょう。	
1 日 1 つの目標でなく複数決めておきましょう。	
目標を達成するために自分がどう行動するか具体的に考え、伝えてください。	
例「1 日の利用者の過ごし方を理解する」⇒具体的に「スタッフについて行動する」	
	「フロアでコミュニケーションをとる」など

#### 4)実習中の指導体制

##### (1)実習施設における指導体制

2フロアあり、それぞれのフロアで人数が偏らないように実習生を配置している。当日の担当者は、施設職員の性別、年齢、性格等と実習生の性格等を踏まえ、実習指導者(指導責任者)が決定する。実習中は、原則 OJT 体制とし、職員と実習生は 1 対 1 で実習に取り組むこととなっている。実習指導者(指導責任者)が指導の統括をしており、1 日のうち何回か各フロアを巡回し、職員や実習生に声をかけながら、何か問題が起こっていないかの確認をとっている。

朝一の朝礼・申し送りでは、当日担当する実習担当者が、自己紹介をするとともに、実習生の当日の行動目標、行動計画を確認することとなっている。実習生には、難しく考えず、自身の実施したいことを計画すればよいと伝えているが、「なんでもいい(特に実施したいことを明示しないこと)」だけは認めないとしており、実習生が行動目標、行動計画を立てられない場合、実習担当者から実習指導者(指導責任者)に報告することとしており、報告があれば、実習指導者(指導責任者)が個別で指導している。

表 6 実習中の 1 日の流れ

タイムスケジュール	
9:00-	実習生はフロアに移動して、朝礼・申し送り(目標、行動計画の確認)
9:30-	始業
13:00-	昼休憩
14:00-	午後の実習開始
16:15-	引継ぎ 引継ぎ後記録(記録記載時間は 1 時間確保) ※その日の業務のフィードバックも、ここで行う
18:00	終了

##### (2)実習中における養成校教員との連携

実習施設から養成校教員への連絡は、基本的に電子メール又は電話で行う。また、決まりはないが、養成校教員が気にしているだろうと考え、実習初日には、実習終了後に必ずその日の実習生の様子を養成校教員にメールで報告することとしている。

巡回指導では、まず教員と実習指導者(指導責任者)との 2 者で目標の進捗状況や実習生の気になる点、施設として指導の足りないところ等を確認する。そのあと、実習生が実習指導者(指導責任者)に気を遣うことなく、教員に相談等ができるよう、実習指導者(指導責任者)が席を外して、教員と実習生のみで実習の振り返りを行う。

学生への直接のフィードバック、教員への学生のフィードバックについては、良い点を積極的に教員に伝達できるよう心がけており、特に素晴らしいと感じたエピソードについては、即時、養成校の教員に電話で伝えることもある。例えば、「担当する利用者のみでなく、他の利用者にも配慮した声掛けができるなど、視野の広い対応ができていた」、「ベッドメイキング等の単純な作業についても、積極的に取り組んでいた」など、学生の様子を電話で報告していた。実習指導者(指導責任者)は、実習生の良さを教員・実習生ともに認識し、実習生の良い点を伸ばして行ってほしいと考えている。

養成校教員も、学生の状況をこまめに伝達してもらえるため、「考える力はあるため、質問をしてあげてほしい」といった個々の学生の特性を踏まえた指導方法なども依頼しやすいと感じていた。

## 【事例 1-4】実習以外でも養成校と実習施設とが連携を図っている取組

### 1) 講義外で行う学生の理解を深める取組

前述のとおり、実習前に、実習施設の職員による講義が授業に組み込まれているが(事例 1-1:P103-104)、実習カリキュラムが始まる前段階においても、介護施設のイメージが付きやすくなるよう、実習施設の協力を得て、学生が介護施設を訪問し、利用者と交流する機会(以下、交流会という)を設けている。交流会では、学生が限られた時間で利用者とのコミュニケーションを取ることができるよう、コミュニケーションを体験する取組を行い、合わせて、学生に対し、施設職員が施設の概要説明等を行っている。

1年次の学生による施設訪問の際には、若手職員の指導能力・説明能力を研鑽することを目的に、介護福祉士資格を保持する職員のうち、若手を選定し、指導を担当してもらうこととしており、施設職員にとっても、若手のうちから、人前で話す、説明できる役割を得て、自己成長の機会となっている。

このほかに、障害のある利用者に学校を訪問してもらい、学生と会食をしながら交流する場や、福祉用具(介護ロボット含む)を活用する意義を知るため、学生が施設を訪問し、実際に福祉用具を使用する機会等、学生が実習前に施設や利用者の実際を知る場や機会を積極的に作るようにしている。

また、すべての実習を終えた3年生が、最終実習で担当した介護過程の展開を、事例研究としてまとめる授業(介護過程Ⅳ)を設けている。当該授業は、発表会形式の授業としており、実習区分Ⅰ・Ⅱに関係なく、すべての実習指導者に参加を依頼している。実習区分Ⅰの実習指導者からは、総仕上げともいえる段階の介護の過程や思考過程がわかり、実習指導に参考になるとの感想をいただいている。

## 【事例 1-5】外国人の留学生への配慮を行い、介護の理解を深める実習指導を行っている取組

※ 本事例は、事例 1 の実習施設の事例であるが、対する事例 1 の大学には留学生の在籍がなく、本事例は、当該実習施設が実習を受け入れている別の養成校（専門学校）との連携における事例である。

### 1) 日本語能力への配慮

#### (1) 実習受入れの準備

養成校において外国人留学生（以下、留学生という）を受け入れる際は、日本語を含めた学力検査の成績等を勘案して審査し、責任を持って、十分な支援や指導を行えるよう、必要な体制を整備していることが前提であるが、当該実習施設においても、実習受入れ前に、実習記録での文章作成が可能であるかなど、留学生の日本語能力を確認している。意思疎通が難しい場合には、実習指導者（指導責任者）と留学生との振り返りにおいても、留学生がどのような経験をしたのか、詳細が把握できず、実習担当者として実習内容を判断することが難しい。本事例では、当該実習施設に留学生の受入れを依頼した養成校にはヒアリングできていないが、養成校が実習の受入れを依頼する際には、実習の質を担保するため、留学生の日本語能力を踏まえて、養成校でも必要な支援を行うなどの配慮が必要であることが示唆された。

#### (2) 実習中の指導

会話での意思の疎通ができる場合でも、実習記録の作成は苦手とする留学生が多い。留学生は、実習記録の作成や職員との会話で分からない言葉があった場合、その都度、スマートフォン等にインストールされた日本語変換アプリケーション（以下、アプリという）で調べ、内容を理解している。ただし、当該施設では、原則、実習中はスマートフォンの使用を禁止しているため、留学生には実習前に予めアプリの使用有無を確認し、同時期に実習している他学生に対し、言葉を調べるためスマートフォンを使用する留学生の存在を予め伝達している。

また、実習施設でも外国人が雇用されているため、外国人の職員が実習生と実習担当者の仲介をすることもある。

実習記録は、留学生、日本人学生の別にかかわらず、「誰が」「どうした」のか、主語と述語の関係性が明確でない記録が散見される。実習担当者が記録を読んでその内容を理解できなかった場合には、聞き取りによって事実を確認するようにしている。そうして実習担当者が事実を理解できた場合には、実習担当者が記録を修正して留学生に提示し、留学生が修正内容の理解ができたかどうかの確認を丁寧に行うこととしている。聞き取っても事実がわからない場合には、実習生に初めから書き直してもらうこととしている。この場合、「自分以外の他の職員が読んででも理解できる記録」を作成できるまで、時間がかかっても、根気強く対応している。

### 2) 文化の違いへの配慮

文化が異なるため、態度やマナーに関しては都度指導が必要であるが、留学生に悪気はなく、説明をすれば理解してもらえらるため、気づいた点は「日本ではこうする」と具体的に伝えるようにしている。例えば、利用者の前で、留学生が頼杖を突いたり、足を組んだりした場合には、日本ではその行動はマナー違反で、失礼に当たることを説明した。

文化の違いからも、通常の実習指導以上に指導時間の確保が必要である。細かいニュアンスなどを言葉で丁寧に確認しながら指導していく必要があり、実習担当者のみに対応を任せるのではなく、定期的に実習指導者（指導責任者）も指導状況を確認し、実習担当者をサポートできる体制を確保しておくことが重要である。

### 3) 介護への理解を深める指導

実習生は、留学生、日本人学生の別にかかわらず、利用者のいつもと違った変化に気づくことはできていても、介護の在り方に関して十分な理解ができていない。例えば、歩行器を使って施設内を自由に歩き回る利用者の行動を危険だと考えた留学生が、椅子に誘導して、着席しているよう仕向けたため、利用者が怒ってしまった。留学生の行動は、利用者の行動を不必要に制限しており、良いケアには結びつかない

いことを指導した。

留学生への指導では、日本語の問題や文化の違いから、個別に、丁寧な指導が求められ、限られた実習時間の中で伝えたいことをすべて説明することが難しいこともあり、重要な点を取捨選択して伝えるよう心掛けている。このとき、重要な点の判断基準は、留学生、日本人学生ともに変わらず、“利用者にとって良いケア”と言えるかどうかである。

当該実習指導者(指導責任者)は、利用者のいる現場でしか、根拠に基づいた介護は説明できないと考え、利用者の生活を支える“介護の魅力”を伝え続けている。

## 【事例 2-1】日ごろからの養成校と実習施設との密な連携により、実習指導が円滑に実施されている取組

表 7 実習体系(概要)

学年	実習	実習目標	実習対象サービス	実習日数	実習時期
1年	I	利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認を行う。	通所介護	10日	9月
			認知症グループホーム等	10日	1月
障害者支援施設等	10日		7月		
訪問介護	2日		8-9月		
2年	II	一つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践する。	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設	25日	10-11月

### 1) 養成校と実習施設との連携体制

#### (1) 養成校の体制

養成校では、実習に関する教員体制として、専任教員 3 名を基本とし、状況に応じて非常勤の実習指導担当者を付ける体制をとっている。各教員が複数のグループを担当する。

#### (2) 実習施設の体制

養成校と運営法人が同一であり、現状、当該養成校 1 校のみから実習 II の実習生を受け入れている。当該養成校の一部の学生のアルバイト先にもなっている。

介護課長が実習指導者(指導責任者)であり、実習の全体を統括している。その下に介護主任が配置され、各実習担当者のとりまとめを行っている。具体の指導は、各ユニットに所属する常勤職員(8 名程度)が実習担当者となり対応している。常勤職員の半数が当該養成校の卒業生であり、出身校の実習の仕組みをよく理解しているという理由から、実習担当者は養成校出身者を配置するようにしている。

### 2) 実習中における多角的視点からの指導・連携体制

原則、週 1 回の巡回指導において養成校教員と実習指導者(指導責任者)が実習の進捗を確認しているが、養成校教員は当該養成校の卒業生である実習担当者にも声をかけ、実習生の様子をヒアリングすることができている。養成校教員は実習指導者(指導責任者)、実習担当者、実習生本人から、多角的に実習の状況を把握することができている。また、卒業生が実習担当者になるケースが多く、実習中の学生の気持ちを十分理解している職員が多いことから、実習への取り組み方についてフォローが必要な学生についても安心して預けることができている。

巡回指導以外でも、養成校と施設でインターネット上のコミュニケーションツールを使用し、個人情報に該当しない情報に限り、実習中の学生の様子等を即時即応で情報交換している。教員と実習生においても、日ごろからチャット機能を活用して、状況を確認し合っている。

### 3) 実習外における養成校と実習施設の交流

年間を通し、養成校と施設で月 1 回の定例会議を設けており、実習生の情報や、アルバイトをしている学生の情報等、日ごろから学生の情報やケアの実践に関する情報等を共有している。実習に関しても、実習生の課題や実習の質の評価等、実習施設と円滑に議論することができている。新型コロナウイルス感染症の発生の際も、養成校は実習指導の実施方法について実習施設に相談しながら検討することができた。

また、1 年次の学生が施設でボランティア形式での交流を持っているほか、施設と養成校が共同で実施する介護職の腰痛防止を目的に、福祉機器を活用したケアの研修を養成校と実習施設が共同で実施し、研修には学生も参加するなど、実習生が、施設の様子を実習前から理解できる機会を積極的に作っている。

## 【事例 2-2】実習担当者の業務に同行し、多職種協働も含めた実務を通じた実習指導(OJT:On the Job Training)を行っている取組

### 1)実習受入れ体制

利用者の生活や介護施設の全体像を理解してもらうため、原則として、実習担当者の実務に実習生が同行する、OJTでの指導を行っている。実習生は、担当の実習担当者と同じ、早番、遅番、夜勤のいずれかの勤務体系で実習を行う。

### 2)OJT の指導内容

実習生は、担当の実習担当者と同じ勤務体系で全ての業務に同行することとなるため、利用者の状態像の把握から、看護職員等他職種とのアセスメント等、施設の介護職員の実務を網羅的に経験することとなる。実習担当者は、実習生が業務の流れの中で利用者の状態の変化に気づくことができているか等、声掛けや記録上で確認していく。

利用者の状態の変化等があり、ケアプランを変更する場合、看護職員、ケアマネジャーや生活相談員とのカンファレンス、家族への説明など、一連の業務を実習生が体験する。利用者の状態の変化への気づきから始まる、一連のケアプラン変更の流れを実習生も一緒に経験することで、施設内の多職種協働のあり方を学ぶことができている。また、施設内の多職種連携の会議だけでなく、法人全体の会議にも参加しており、地域における多職種連携のあり方も学ぶことができている。

OJT 形式のため、実習生がただ見ただけで理解できない状況も多く存在する。指導は、実習生の疑問、質問があって初めて成り立つ側面もあるため、予め、実習生にも積極的に気になるところは実習担当者に声をかけて質問するよう伝達している。また、多職種参加の会議出席後は必ず一定の振り返り時間を設け、実習生にとって理解が難しかった内容を確認している。このように、実習担当者から意識的に質問の場を設けることで、実習生が気軽に質問しやすい雰囲気づくりを心がけている。

また、実習生が利用者への対応をした際など、実習担当者から積極的にフィードバックをするよう心がけている。反応の少ない実習生についても、実習担当者が気づいたことや、実習生の気になったことを丁寧に確認し、それを実習担当者の実習生との会話に結びつけていくことで、学生の自主性を引き出すよう工夫している。

## 【事例 2-3】実習報告会を通じ、養成校が地域の拠点となって現場の介護の質向上に寄与している取組

### 1) 実習報告会の開催形式

実習の報告会は、参加者を養成校と実習施設の実習関係者に限っておらず、広く卒業生にも開かれた行事として、養成校において対面で開催される。実習施設の関係者にはできる限りの参加を依頼して事前に周知し、実習施設からの来校時間に合わせ、当該施設の実習生の発表が行われるようプログラムを調整している。発表は、実習グループ単位で、質疑応答も含めて1グループあたり30分～40分程度で行っている。

実習施設では、養成校から報告会開催の連絡を受け、実習指導者(指導責任者)、その他の役職者や実習担当者だけでなく、他のスタッフにも参加の希望を確認して、なるべく希望者全員が参加できるよう勤務を調整するようにしている。

### 2) 養成校が担う地域のケアの拠点としての役割

実習報告会はなるべくオープンな場とし、関係者皆で構築していくスタンスを大切にしている。養成校が自ら施設に出向き、かつ施設からも養成校に訪問してもらうことで、養成校が地域のケアの拠点となる必要があると考えている。

このような開催形式とすることで、実習生にとっては、他施設の担当者や卒業生からもフィードバックをもらえるため、就職しても通用する経験となって、自信につながり、また、広く関係者から自身の体験へのコメントをもらうことで、自己肯定感を高めることにつながっている。

実習施設の実習関係者にとっては、実習報告会での発表を通じて学生の学びを確認することにより、どのような指導が効果的であったのか振り返ることができ、実習施設の教育力強化につながっている。その他施設の参加者にとっては、初心を思い出し、日頃の業務におけるモチベーションアップにもつながっている。実習報告会で得られた新しい視点や学びを施設に持ち帰り、施設内で他職員に共有することで普及して、地域のケアの質向上が期待される。学びを持ち帰って施設職員に伝えないといけないと感じることで参加者の成長にもつながっている

卒業生にも開かれた報告会にすることで、卒業生が実際に働いてみて行き詰った場合にも、実習報告会に参加し、原点に立ち返ることのできる場となっている。

## 【事例 2-4】養成校の卒業生を介護現場でのリーダーとして育てるため、グループ形式の実習を実施している取組

### 1) 実習グループでのリーダー育成

当該養成校では、「養成校の卒業生が、介護現場でリーダーの役割を果たすべき」という考えに基づき、実習でのリーダーシップ育成に取り組んでいる。複数回ある実習で、原則、実習生を2～3人のグループにして、実習施設に送り出している。グループは、実習ごとに組み換えされ、リーダーとサブリーダーを設置している。リーダー、サブリーダーは、教員への実習進捗の報告なども担当する。報告会の司会や日程の調整についても、社会人としての基礎力を養う場として、学生が担当している。

また、実習生が現場で先輩職員を見て、リーダー像を育むことも教育の一環として大変重要と認識しているため、実習施設の選定基準でも、実習担当者のリーダーシップを重視している。

表 8 実習体系

年次	実習施設
1年	通所介護（10日間）、認知症グループホーム／小規模多機能型施設（10日間）
2年	障害児・者施設（10日間）、訪問介護（2日間）、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、重症心身障害児・者施設（25日間）

### 2) 実習以外での社会人基礎力・リーダーシップを育むための取組

当該養成校では、実習以外でも、日ごろの校内活動等を含め、卒業までにすべての学生が何らかのリーダーの役割を経験することとしている。

介護総合演習の授業の一環で、1年生 2年生がグループを作り、介護施設に模擬実習に赴く授業を行っている。開催時期は、年度初めの5月、ゴールデンウィーク明けとしている。2年生が1年生のチューター役となり、施設と訪問の調整を行う。施設での実習記録の記載や、学校に戻ってからの発表会の資料作成の準備など、2年生が主導し、1年生と共に原則学生のみで行うこととしている。教員は指導以外では極力関与しないようにしている。このような過程を学生に任せることで、学生側も説明力・交渉力を付けることができるとともに、養成校としても職員の負担軽減を図ることができている。

日頃から、地域の敬老会等の地域行事においても、学生が企画運営（企画書作成を含む）できるよう、教員が調整、支援等を行っている。実習中や、卒業後に就職する施設等の行事などで同様に、社会性を発揮して活動することが求められるため、その予行演習の位置づけである。

### 3) グループを活用した人材育成

実習では、グループ内の複数名の実習生で同じ利用者を担当することとしているため、利用者のアセスメントをする際、学生同士の意見交換の時間を確保するようにしている。実習生それぞれの考えの違いなどを話し合うことで、利用者の理解が深まるだけでなく、アセスメントの視点を養うこともできている。

また、学生の中には、自己肯定感が低く、入学当初は社会人基礎力やリーダーシップを発揮することができない学生も存在する。教員が学生へのサポートを行うだけでなく、グループ内で他学生からのサポートを得られるよう、サポートの方法等についても指導している。学生が、利用者とうまく関係が築けないなど課題を抱えたり、記録がうまく作成できないときは、教員からも本人に直接指導を行いつつ、グループ内で他学生がどのように当該学生をサポートできるか、という視点でも教員が学生たちへのサポートを行っている。

学生が、「誰かの助けがないとやっていけないことがあると感じる」、「一人ではうまくいかないことも周りに助けられてうまくいく経験をする」、「自ら心を開き、変わる経験をする」ような経験ができるのも実習ならではの学びと考えている。対人援助の人材を育成するにあたり、グループメンバー間で助け合い、自らも支援される経験を積むことで、対象となる利用者にも十分な支援ができるようになる。個人的な悩み事にも丁寧な面談等を行い、しっかり対応している意義がある。



## 【事例 3-1】実習マニュアルの整備、説明会及び公開授業の開催により、実習施設と実習目標の共有を行っている取組

### 1) マニュアル整備における事前準備

学年ごとに目標等が異なるため、学年別のマニュアルを作成している。マニュアル作成に当たっては、担当教員が別の高等学校の看護科担当であった際に培われたノウハウや他校のマニュアル等を基に作成した。マニュアルは、主に学習指導要領の改訂を契機に見直しているほか、その年の実習生の特性等を鑑み、毎年、修正を加えている。

特に実習評価に関する各項目においては、実習施設が行う評価の内容、判断基準をマニュアルの項目として具現化して加えられるよう、実習施設との意見交換を行い、定期的に教員内で項目改定の必要性について検討している。教員は、巡回指導等の実習施設との交流の中で、施設職員からの生徒評価に関する情報を入手し、当該情報を教員間で共有している。例えば、実習記録において、実習記録の評価項目では、「S(subjective＝主観的情報)、O(objective＝客観的情報)から A(assessment＝評価)が導かれ、P(plan＝計画)に反映されているか」など、現場の介護実践に則した評価項目が策定されている。一方で、実習施設によって評価の尺度にばらつきがあるため、それをどう揃えていくか、さらに工夫の余地があり、今後の課題である。

表 9 マニュアルの記載内容(概要)

項目	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
介護実習の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護及び支援の実施について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする</li> <li>課題を発見し、倫理観を踏まえ、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護に関する体験的な学習を多様な介護現場において行い、知識と技術を統合させ、介護従事者としての役割を理解するとともに、適切かつ安全な介護ができる実践的な能力と態度を育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内で学んだ社会福祉や介護の学習を基礎として、介護に必要な知識・技術を統合し、対象に応じた介護の実践能力と態度を養う。</li> </ul>
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習施設（通所介護施設、介護老人福祉施設、認知症グループホーム）別の実習の目標と具体的な実践内容</li> <li>実習期間中の流れ、一日の流れの詳細</li> <li>評価方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習施設（介護老人保健施設、介護老人福祉施設）別の実習の目標と具体的な実践内容</li> <li>実習期間中の流れ、一日の流れの詳細</li> <li>評価方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習施設（選択性）別・時期（6月期と10月期）別の実習の目標と具体的な実践内容</li> <li>実習期間中の流れ、一日の流れの詳細</li> <li>評価方法</li> </ul>
事務的な留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録物の種類や書き方、持ち物</li> </ul>	同左	同左
実習の心得	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康管理、身だしなみ、通学方法、挨拶、態度マナー、報告方法、禁止事項、守秘義務、欠席遅刻等への対応、感染対策等</li> </ul>	同左	同左
実習施設一覧	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習先一覧を掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習先一覧を掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習施設一覧を掲載</li> </ul>

### 2) 実習施設向け説明会

実習の全体像を理解してもらうため、全ての実習施設を対象とした実習説明会を、年1回、開催している。自施設で受け入れている実習の内容だけではなく、学年毎にどういった姿を目指すのか、全体像を理解していただく必要があると考えている。前述の実習マニュアルを資料とし、説明会当日は、実習の目的、実習生が達成すべき実習の目標等を中心に詳しく説明を行い、質疑応答も行うことで、「実習生にここまでは到達させたい」という目標の共有を図り、実習受入れを依頼している。説明会後も、実習施設に実習内容等を理解してもらえよう、教員は積極的に各施設の実習指導者(指導責任者)に連絡し、密にコミュニケーションを取るよう努めている。

施設では、実習指導者(指導責任者)が説明会に参加する。説明会では評価項目の説明も受けるが、

細かく設定されている評価基準を理解するために積極的に質問し、その場で分からないことは、施設に戻ってから、再度電話等で問い合わせをすることもある。実習施設においては、説明会で受けた説明について、実習指導者(指導責任者)から実習担当の職員に伝達するミーティングを設ける。学校の実習にかける思いや実習目標について、実習担当者に明確に伝達するようにしている。実習開始後も、実習指導者(指導責任者)が施設の問い合わせ窓口となり、都度疑問があれば即時学校に問い合わせ、密な情報のやり取りを行っている。

### 3)実習施設向け公開授業の開催

実習施設には、高校生の特性を理解してもらう必要があると考えているため、説明会前、要望のあった実習施設を対象に公開授業を行い、日ごろの生徒の様子を見てもらう機会としている。生徒への理解が、実習中の学生のちょっとした変化に対する気づきになり、実習の充実につながることを期待している。

## 【事例 3-2】実習施設を慎重に選定している取組

### 1) 実習施設を選定するための調査

実習生が高校生であることを考慮し、自宅等から無理なく通えるエリアに絞って、実習施設の候補を選定している。さらに、実習の受入れが可能と表明いただいた施設に対し、複数の教員で訪問し、施設内の見学や受入れ方針に関する説明を聞く機会を設け、調査している。特に、介護の実習であり、実習施設にとっての人手不足を解消するための派遣ではないため、実習施設に「実習生を育てていく」という意向があるかについて、面談等で教員が十分に確認するようにしている。

### 2) 実習中における施設の実態の確認

実習施設として実習を受け入れていただいても、実習生が提出した記録がすぐ返ってくるか、生徒に対する指導の時間を毎日とってもらえるか、指導やサポートを適切にしてもらえるかについて、重点的に確認している。実習生や巡回指導の教員などから施設の実態を聞き取り、実習先として適切であったか実態を把握している。また、卒業生が就職している施設の場合、その離職の状況についても必ず確認している。

### 3) 実習施設を選定に問題が生じた際の対応

何度か養成校から実習施設への調整を行っても対応が改善されない場合、教員が実習施設を訪問し、対話の中で、問題解決を図る。それでも改善の見込みがない場合には、実習生引き上げの判断を行う。

問題となるのは、感染管理が徹底されていない場合、学校への連絡があまりに少ない場合、パワハラが認められる場合、学校が求めていることと異なる内容の指導があった場合、実習担当者が実習生に関わっておらず、現場スタッフに任せきりの場合などがあげられる。

## 【事例 3-3】円滑な実習受け入れ体制を構築し、実習の質を担保している取組

### 1) 実習前準備

実習施設が実習を受け入れる際には、養成校が作成した実習マニュアル等がある場合、実習指導者（指導責任者）がマニュアルを熟読し、養成校の実習にかける思い、実習での達成目標を理解する。養成校が実習に関する説明会を開催する場合は必ず参加し、評価方法等について詳細に確認し、理解できない場合は質問をして確認を行っている。

養成校では、実習生が、興味関心事、性格、ボランティア経験など自身の特性が分かる事項を記載した個人票（プロフィールシート）を作成し、実習前に実習施設に事前送付するようにしている。実習施設では、個人票を確認しながら、生徒の配置（ユニットの選定）を決めておく。

事前に、実習指導者（指導責任者）と、実習生を受け入れることとなる各ユニットのユニットリーダー及びユニット職員でミーティングを行い、学校の実習にかける思いや、実習目標を明確に伝達するほか、実習生のプロフィールや留意点等を全員で共有しておく。

実習施設では、施設全体で実習生を育てていくという点を最重要視している。実習指導者（指導責任者）は、実習を統括する責任のもと、養成校が定めた実習の趣旨・目的を理解し、当該内容をかみ砕いて施設職員に伝達している。また、実習指導者（指導責任者）→ユニットリーダー→ユニット職員と段階を追って情報伝達する仕組みを設けており、各自の役割を明確にすることで、実習の円滑な実施を図っている。

### 2) 実習中の取組

#### (1) オリエンテーションの実施

実習初日は、実習指導者（指導責任者）が担当し、オリエンテーションを行う。施設の概要や、実習の注意事項を説明するほか、実習目標の再確認を行い、実習生が意識して取り組むべきことのすり合わせを行う。

実習生の理解促進のため、前述の内容をオリエンテーション冊子として作成し、配付している。オリエンテーション冊子は、見た目がカラーで、実習が楽しいと思ってもらえるようイラストなどもちりばめて作成している。冊子の内容は、これまでの実習で養成校から質問を受けた事柄など適宜更新をかけており、毎年改定を行っている。

実習初日、実習指導者（指導責任者）、ユニットリーダー、ユニットの職員、実習生で、実習目標を共有・確認する時間を設けており、施設全体で、実習生を育てていくことを職員で再確認している。その際、必ず、養成校から提供された実習に関する資料を職員に共有している。

表 10 オリエンテーション冊子の掲載内容(概要)

掲載項目	内容
オリエンテーションの流れ	挨拶、施設からの説明、館内案内など、オリエンテーションで行うことの流れ
実習目標再確認シート	以下の項目欄を設けた書式「実習目標再確認シート」を掲載し、実習生から発表してもらう <ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介（趣味や特技、家族、自分の性格など）</li> <li>学校の授業でどのようなことを学んできたか</li> <li>施設での実習の目標（頑張りたいこと、知りたいこと等）</li> </ul>
実習中の留意事項	実習生の遵守事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>体調管理</li> <li>ケガがあった際の対応</li> <li>記録の提出</li> <li>実習中の心構え 等</li> </ul> 持参物の記載
実習中の1日の流れ	タイムスケジュール <sup>(表11)</sup> 参照
施設概要・理念・運営方針	施設概要、定員等一般的な施設概要、理念・運営方針
実習日誌の取り扱い	実習日誌の提出期限や記載方法、実習終了後の提出期限等を掲載

表 11 実習中の1日の流れ

タイムスケジュール	
8:00-	実習指導者（指導責任者）と実習生で、その日実施することや、目標、提出物等の確認
8:15-	始業。実習生はユニットに移動 ※実習開始数日は、実習指導者（指導責任者）も午前 1 時間程度ユニットに滞在し、様子を確認
13:00-	昼休憩 ※実習指導者（指導責任者）は各ユニットを見回り、様子を確認
14:00-	午後の実習開始
16:30	終了

## (2)実習中の指導体制

実習指導者（指導責任者）を1名配置し、全体を統括している。具体の指導は各ユニットで、ユニットリーダーが中心となって行うが、シフト勤務のため、ユニット全体で実習生を指導できるよう、実習目標や実習内容は各ユニットリーダーからユニットの職員に伝達されている。実習生が複数いた場合、実習生が1人で思考できるようにするため、また各ユニットの生徒を担当する負担軽減のため、各ユニットに1名ずつ配置し、実習生同士が同一ユニットに配置されないようにしている。

実習指導者（指導責任者）は、昼休み等、定期的に各ユニットを見回るようにしており、実習生、ユニット職員から、状況報告を受けている。何らかの問題がありそうな際は、実習生、職員双方から個別に意見を聴取する。また、職員から実習に関する不明点が出てきた際は、実習指導者（指導責任者）が窓口となり、養成校に都度問い合わせしている。

実習中は、実習生のみで業務等を行うことはなく、職員と一緒に実践している。実習生の実践する業務内容は、利用者とのコミュニケーション、食事・入浴・排泄介助などである。実習生の所属学年によって実施することは異なるが、学年が上がるにつれ実施することを増やしている。最もリスクの高い移乗介助は、必ず職員がついて一緒に行うこととなっている。

## 3)実習後の取組

実習後の評価は、実習指導者（指導責任者）が担当している。評価にあたっては、ユニットリーダー、ユニットの職員の意見を参考にしながら実施する。予め実習目標、実習の評価表について、ユニットの職員に伝達できているため、共通認識があり、評価も円滑に行うことができる。

**【事例 3-4】効果的な実習のあり方を養成校と実習施設双方で検討して実施した代替実習(※新型コロナウイルス感染症の影響による特例措置)の取組**

**表 12 実習体系(抜粋)**

学年	実習	実習目標	実習対象サービス	実習日数	実習時期
1年	I	施設の特徴を知る	通所介護	3日	6～7月
			認知症グループホーム	3日	6～7月
2年	I	利用者の個別性に応じた支援を理解する 多職種連携と施設の特徴を理解する 介護過程に必要な情報収集の視点を身に付ける	介護老人保健施設	5日	7月
			特別養護老人ホーム	15日	10～11月
3年	II	介護過程の実際を理解し、介護過程の展開の必要性を理解する(※)	特別養護老人ホーム	15日	6月
			特別養護老人ホーム	15日	10月

※ 6月の実習で受け持ち利用者を選定し、その後学校に戻り計画を立てたのち、10月の実習で同じ特養にて実習を行い、計画を実践する

**1) 代替実習の内容**

3年生の介護過程の展開にかかる実習(表 12)が、新型コロナウイルス感染症の影響により全面的に施設訪問できなくなり、養成校と施設で行った複数回の協議の結果、次のとおり、代替実習を行うこととした。

実習施設が対象となる利用者の日ごりの様子をライブカメラで撮影し、実習生が養成校の授業で当該映像を視聴後、実習生一人ひとりが介護計画を立案する。介護計画の立案のため、オンライン会議システムを活用し、利用者と実習生が直接コミュニケーションをとる機会を複数回設けた。また、利用者の日ごりの様子が見られた方が良いとの考えのもと、移動・移乗、食事介助、入浴介助、排泄介助など生活にかかるあらゆる様子をライブカメラで撮影し、学校に中継できるようにした。

立案した介護計画を発表し、実習生の投票で最も優れた介護計画を1つ選定する。当該介護計画を実習施設に送付し、実習施設の実習指導者(指導責任者)が、生徒の代わりに計画を実施した。当該計画実施の様子もライブカメラで撮影し、学校に中継した。実習生は映像を視聴し、アセスメントを行った。

**2) 代替実習を実施するにあたり養成校と実習施設とで協議した内容**

養成校では、実習施設で実施する通常の実習を代替実習に変更した場合、

- ・ 生徒の立場では、実習施設の介護職員の接し方や環境の具体的内容を確認するなど、介護現場を体験できない点
- ・ 教員の立場では、生徒の介護現場での対応能力や、介護に関する思いや考えを理解しづらい点の2点が主な違いであり、実習の効果をあげるための課題と考えた。この2点を補うための工夫をどうするかについて、実習施設に相談を持ち掛けた。

実習施設から、フェイスシート(年齢・要介護度・ADLの状況等)など利用者の基本情報はあらかじめ学校に送付したうえで、ライブカメラで何を確認するかの協議を行った。ライブカメラでの撮影について、どのような利用者を対象とするか、利用者の状態像や生活目標等を鑑み、実習施設職員と養成校教員で相談の上選定しているほか、どのような位置から撮影をすると実習生にわかりやすいか協議して決定している。

昨今は核家族で暮らしてきた実習生も増え、これまで高齢者と接する機会がなかった実習生も増えてきた。認知症の方の症状や、麻痺の状況なども、言葉では理解していても、実際に見ないと理解が深まらないため、代替実習においても、実習生には紙の記録だけではなく、実際に映像を見せることにこだわっている。また、実習生が施設に来訪しないことから、“どのような状況をライブ配信すると利用者像の理解が進むか”という点を常に意識しながら撮影するとともに、細かい撮影ポイントを常に養成校教員と議論し合っている。

### 3) 代替実習の評価方法

実習の評価は、通常の実習と同様の手法で行っている。具体的には、学校・実習施設双方でそれぞれ視点の違う評価表を作成し、実習後、一定期間を確保したうえで、評価表に基づき実習生の評価を行っている。

表 13 実習評価表記載項目

評価項目	養成校（一部抜粋）	実習施設（一部抜粋）
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻欠席早退、言葉遣いやマナー、身だしなみ等</li> <li>提出物状況</li> <li>目標に対する意識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻欠席早退、言葉遣いやマナー、身だしなみ等</li> <li>提出物状況</li> <li>指導等に対する反応・対応</li> <li>目標に対する意識</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習での学びの振り返り状況</li> <li>生活課題の探索状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援目標の実現可能性</li> <li>アセスメント結果と介護計画の関連性</li> <li>介護計画の評価状況</li> <li>介護計画の修正</li> </ul>
技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集状況</li> <li>記録の記載内容</li> <li>支援目標と利用者のニーズとの関連性</li> <li>支援方法と短期目標の関連性</li> <li>評価と短期目標の関連性</li> <li>支援目標や支援方法の修正の適切さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な介護技術の提供状況</li> <li>利用者の個別性への配慮状況</li> <li>実習記録の内容</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録の読みやすさ</li> <li>プライバシー保護と守秘義務の重要性の理解</li> <li>介護過程の意義と役割の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の理解</li> <li>プライバシー保護と守秘義務の重要性の理解</li> <li>介護過程の意義と役割の理解</li> </ul>

### 4) 効果的な代替実習を支えた養成校と実習施設の連携体制

当該実習施設は、養成校教員の「教員介護実習」対象施設としても協力をいただいている施設であったことから、養成校教員が、実習施設の職員や、実習施設の設備・利用者の状況を十分に把握できていた。このため、実習の目的に鑑みつつ、代替実習での目標達成や効果を高めるための方法に関し、実習施設職員と養成校教員とで深い意見交換を行うことができた。

養成校教員が、実習の要点を的確にとらえていたことが絶対条件ではあるが、実習施設の利用者や施設設備について深い理解があったほか、実習施設職員と対等に議論できる関係性をあらかじめ構築できていたことが、こういった議論ができる土壌となっている。

養成校は、実習施設と実習以外でも関わりを持ち、つながり続けることで非常時にも柔軟な対応をお願いしやすい関係性を築いていた。例えば、生徒が昼休みの時間などを使用して施設とオンラインで映像をつなぎ、レクリエーションに参加する機会を日常的に設けている。

また、当該施設では、利用者の入所見学時等、実習生を受け入れ、教育に力を入れていることを施設の強みとしてアピールしており、利用者は実習受入れに好意的であった。入所の際は、実習生教育のための個人情報共有についても必ず同意を取っており、今回のビデオ撮影に関しては、事例対象となった利用者以外の利用者も映り込みの可能性があるため、ユニットの全ての利用者とその家族に追加で説明を行い、同意を取って実施した。

## 【取組事例】アンケート調査自由記述より

### 1)養成校での取組

#### ① 実習前の取組

##### a. 実習施設と、実習の目的・目標を共有するために行っている取組

多くの養成校では、実習開始前に、養成校教員と実習指導者（指導責任者）の二者で事前に打合せを行っており、養成校によっては、実習生、実習担当教員及び実習指導者が一堂に会して打合せ（説明会）を行っているケースもあった。

また、実習施設の実習担当者以外の介護職員（フロアスタッフ）にも共通理解を図るための周知依頼を行っている養成校もあった。

共通理解を求める内容として、介護実習の目的や目標、実習評価基準、介護過程の展開における実施課題、学生が参加する行事、過去の好事例に加え、実習生の性格や習熟度（得意分野・不得意分野）などが挙げられた。

#### 取組例

- 養成校教員と実習指導者・実習担当者とで研修を開催し、実習に関係するテーマについて、互いに学びあう機会を設けている。近年のテーマとしては、感染対策に関する指導内容の確認や、留学生への指導方法等があげられる。（大学）
- 説明会の際にテーマを決め、実習の段階ごとや施設種別ごとにグループワークを行い、意見交換、実習の振り返り、今後にどのようにつなげるかについて議論する場を設けている。（短期大学）
- 学校独自に介護実習の手引の冊子を作成している。冊子には、共通理解を求める内容や学内での実習指導、実習評価表を含めている。（専門学校）
- 「実習施設における介護現場の様子を幅広く理解できるように、実習に先立ち、養成校教員が施設の会議や研修への参加を行っている。（福祉系高校）

##### b. 実習先と実習生のマッチングのための実習先選定における取組

多くの養成校で、過去の実習生への指導内容や指導に対する実習生の反応を考慮し、実習生の性格等にあった実習施設や実習指導者の選定を行っている事例が見られた。高校では、特に学生の居住地、交通手段を考慮している事例が多く見られた。また、実習指導体制がしっかりしていると、どのようなタイプの学生についても柔軟に指導してもらえるため、施設の指導体制を最も重視するといった回答も見られた。

#### 取組例

- 通いに要する時間や交通費に上限（目安）を設けている。既存の実習契約先施設に該当する施設がない場合は、実習生の希望などを考慮し、実習先を開拓している。（短期大学）
- 実習Ⅱについては、長期にわたるため、自宅から近い施設にしている。実習Ⅰに関しては、距離に関係なく様々な種別の施設を経験できるように選定している。（専門学校）
- 実習施設への交通費をクラス全員の徴収金から折半し、できるだけ負担がないように自宅から通える場所や、定期券範囲内の施設を選定している。（専門学校）
- 長期間の実習に関して、性格上マイペースな学生、従来型施設に馴染みにくそうな学生については、第一にユニット型の実習施設を検討している。（専門学校）
- 過去の実習指導状況と生徒の学びの過程から、実習指導が適切であったと思われる施設を優先的に選定している。（福祉系高校）



## ② 実習中の取組

### c 実習中の教員体制における体制構築の取組

学年全体を実習担当教員が中心となり、学科教員全員ですべての学年を指導する体制を採っている事例、実習施設の所在地ごとや施設ごとに指導する体制を採っている事例、一貫した指導となるよう実習生ごと1教員の担任制としている事例などが見られた。学年全体を学科教員全員で指導している事例では、連絡用紙や会議などで、定期的の実習生や実習の状況に関する情報の共有を行っている。

トラブルが発生した場合や、特別な配慮が必要な実習生に関しては、複数名で対応する、専任教員を付けるなどの工夫が見られた。

#### 取組例

- 留学生の指導体制については、具体的な実習指導をする教員と、記録や日本語などのコミュニケーションの指導を行う教員とで、専門領域ごとに担当を分けている。(専門学校)
- すべての学年を学科教員全員で指導している。すべての学年で授業を担当するように科目担当を振り分け、日頃の生徒の状況を把握している。また、定期的な学科会議を開催し、生徒や実習の状況を共有する機会を確保している。(福祉系高校)
- 実習施設が広範囲に点在しているため、教員の担当を地域で分担している。教員は一日2～3名体制をとり、日ごとに担当地域の入れ替えを行っている。実習指導や悩み相談はその日の担当の教員が行うが、内容についてはほかの教員とも共有している。(福祉系高校)
- 実習施設ごとに担当教員を決めており、巡回しやすい体制となっている。(福祉系高校)

### d 実習をよりよくするために実習中に行っている実習指導者との協議における取組

養成校教員が実習指導者から実習生の実習中の様子を詳細に伺い、実習生の実践状況等に合わせ、その後の実習内容などを調整する取組が多く見られた。その他、実習生のモチベーション維持のために個別での振り返りやカンファレンスの実施、多職種連携や地域との関わり等の理解のための他職種教員からの説明、介護技術の根拠についても伝えるよう依頼する事例も見られた。

#### 取組例

- 夜勤実習や他職種が参加する会議、地域とのつながりや役割を理解できるよう運営推進会議などに学生を参加できるよう依頼している。(専門学校)
- 生活支援技術の実践について、見学を中心に行うティーチングの期間、職員の見守りの中で実践するコーチングの期間、一人で実践する独り立ちの期間など、段階的に生活支援技術の実践ができるように依頼している。(専門学校)
- 現場でしか体験できないような介護技術やコミュニケーション方法、最新のロボット介護などを体験できるように教育プログラムを計画してもらえるよう依頼している。(専門学校)
- 生徒の将来の進路と照らし合わせ、必要に応じて、多職種(看護師、ケアマネジャー、社会福祉士)と話す機会を設けている。(福祉系高校)
- 多職種連携に関する体験(看護師、理学療法士、作業療法士、栄養士等のいずれか1職種以上)を半日以上、計画に入れてもらえるよう依頼している。(福祉系高校)

### e. 通常より訪問回数を増やすことになった理由と追加訪問時の取組

実習生の実習計画に対する進捗、メンタルヘルスを含めた健康状態、欠席を記録上で確認し、追加の指導が必要と思われる場合や実習指導者（指導責任者）から「積極性がない」「コミュニケーションが図れていない」という連絡を受けた場合に、訪問回数を増やしていた。

訪問回数を増やした場合の対応として、実習指導者との2者面談や、場合によっては本人を交えた3者面談を実施しているといった回答が見られた。

#### 取組例

- 精神的に不安定な生徒の場合、訪問回数を増やしており、訪問した際には通常より長く滞在し生徒の様子を見る時間や話を聞く時間を設けて生徒の状況を把握し、生徒の悩んでいる点を実習指導者に代弁しつつ、今後の方針を検討している。（福祉系高校）
- 通常の訪問に加え、生徒が行事などに参加する際や、介護過程の検討会が開催される際に訪問回数を増やしている。（福祉系高校）

## ③ 実習後の取組

### f. 実習の振り返り授業等を行う際の取組

実習を振り返り、実習先での経験を取りまとめた後に報告会を実施し、学びの共有を行う工夫をしている養成校が多数見られた。報告会については、上級生から下級生への経験の伝達、他施設の様子を伝えること、言語化しておくことで複数年継続する実習について、過去・現在・未来と自身の成長を評価できるようにすることなどの効果が挙げられた。その他の方法として、教員との面談や、グループワーク、資料の作成等を通じた実習効果の共有がなされていた。

#### 取組例

- KJ法を活用して付箋に実習時の出来事や思い等を書き出した後、付箋をグループ化して、改善すべき内容等について話し合い、解決策を考えさせるワークを行っている。（短期大学）
- 実習報告会では3年生は3年間の実習の総合的なまとめを下級生に発表することと3学年合同のグループワークを行い、実習に関するディスカッションを行っている。（福祉系高校）
- 実習終了後、生徒自身に自己評価をさせる。その後、実習指導者からの評価を生徒にも見せて比較し、今後の実習や学校生活に向けたアドバイスを個別に行っている。（福祉系高校）
- 振り返り項目（チェックリスト）と振り返り用紙の記載を通して、生徒は自分自身の課題を明確化する。また、グループワークでの学びの共有や、課題の共有を行っている。（福祉系高校）
- 実習施設の実習指導者や保護者などにもオンラインで実習報告会に参加してもらい、指導者からの講評や、保護者には日ごろの生徒の学びや成長を見てもらう。（福祉系高校）

## 2) 実習施設での取組

### ① 実習前の取組

#### g. 実習受入れ準備として、実習の効果を高めるために行っている取組

養成校教員と実習指導者との協議（オンラインミーティングを含む）において実習生の性格、特性や学習の進捗状況などを確認し、実習担当者や配属先のユニットを決定している施設が多く見られた。

また、前回の実習評価で挙げた課題から、期待する指導とアプローチについて事前協議を行う事例も見られた。外国人等の場合は宗教上の注意点や語学力などの特徴について丁寧に事前共有しているケースがあった。

#### 取組例

- 実習は事前訪問からスタートしているため、一方的にプログラムを提示するのではなく、学生自身が考えた行動計画を提示してもらっている。（通所介護）
- 施設独自で実習予定表を作成して養成校に事前送付し、学校から発行される「介護実習要項」と実習予定表の整合性を図っている。また、現場で実習指導に当たる職員にも目的や実習予定を周知し、目標に沿った実習指導ができるよう心がけている。（特別養護老人ホーム）
- 実習指導者研修の修了者を増やし、実習担当者会議などを随時開催している。（特別養護老人ホーム）
- 介護実習だけでなく、送迎やリハビリ見学、運営会議見学など、施設の理解や家族との関わりについても学べるような機会を設けている。（介護老人保健施設）

#### h. 実習の受入れ体制において、実習の効果を高めるために行っている取組

必ず介護福祉士資格保持の職員が技術指導を行うことにしていると回答したケース、専属の指導者を付け、実習生の相談相手とする体制を作る工夫をしているといったケースが多く見られた。

また、他部署・他職種（看護師・栄養士・PT・OT 等のリハビリ職・相談員等）から見た介護福祉士に求められることや役割を伝える機会を設けている事例や、多職種連携や地域との関わりを経験させるため、相談業務や看護業務など他職種と連携して仕事をする場面に同席させたり、地域のイベントと一緒に参加することで地域と施設との関わりを伝えたりしている事例があった。

#### 取組例

- 多職種連携が学べるように、サービス担当者会議に参加してもらう。地域との関わりがわかるように、地域貢献活動に参加してもらう。実習担当者を複数配置し、複数の実習生も対応できるように体制を整備する。（特別養護老人ホーム）
- 実習サポートセンターを立ち上げ、センター長が養成校との窓口になっている。複数の実習担当者を各養成校の担当に指名し、その指導者が実習全体の窓口となるようにしている。（特別養護老人ホーム）
- 記録指導において、質疑応答やポジティブ、ネガティブな出来事を聞く時間を設けている。また、介護・（外国人留学生の場合は）言語の習得状況に応じて通常実習より難しいことも教えることがある。（特別養護老人ホーム）
- 週に数回、実習指導者が実習生の学習に付き添うため、通常業務に入らない日を設けている。（介護老人保健施設）

## ② 実習中の取組

### I. 巡回指導時の養成校教員との協議における実習の効果を高めるための取組

実習生の学校での様子を踏まえ、実習生一人ひとりの到達レベルや悩み等に対して養成校教員と共通認識を持ちながら対応している事例、施設と学校での指導に差がないよう、学校ではどのように指導しているのか確認し、指導したい内容を共有している事例が多く見られた。実習指導者からの指導だけではなく、実習担当教員からの指導を依頼している事例も見られた。

#### 取組例

- 実習状況の報告を実習指導者から実習担当教員に行った後、教員と実習生が直接面談し、その内容を施設の実習指導者に報告している。実習指導者は引き続き実習中の指導に生かすようにしている。(特別養護老人ホーム)
- 養成校教員の巡回時には、実習指導者(指導責任者)以外に実習担当者も同席し、細かい点での学び、気づきを伝えている。(特別養護老人ホーム)
- 巡回指導時には巡回指導者、実習生、実習担当者の三者面談を行い、効率よく指導を行っている。(特別養護老人ホーム)
- 外国人留学生の場合、実習日誌への記載が困難なことがあるので、指導教員にフォローをお願いしている。(特別養護老人ホーム)
- 巡回指導において教員と協議を行い、課題が解決されずに実習が終了した場合は、不合格として再実習をお願いしている。(障害者支援施設)

## ③ 実習後の取組

### j. 実習評価における取組

客観性の担保のため、評価基準表を用いて共通認識を図ること、複数人で評価を行うこと、様々な立場の職員が評価を行うこと、現場での評価を全体の管理者が再評価すること、さらに利用者の評価も取り入れるといった工夫が多くの施設で行われていた。評価時に心がけていることとして、将来の介護職を担う人材であることを念頭に置いて評価すること、改善すべき点と良い点の割合が3対7程度となるよう意識しているといった事例が見られた。

#### 取組例

- 独自の実習連絡表を作成し毎日、実習状況を実習担当者が評価している。それらと実習担当者(主にユニットリーダー)からのヒアリングを行い総合的に評価している。(特別養護老人ホーム)
- 実習初期・中期・後期での成長を確認し、巡回指導教員に報告したうえで評価している。(特別養護老人ホーム)
- 学校によっては半分の学生が外国人留学生ということもあるため、文章力は評価対象に入れていない。(特別養護老人ホーム)
- 実際の介護現場での職員に対する評価に比べ、実習生に対する評価は基本的には甘くつけているが、甘くした点を特記事項で記載し、養成校の教員には詳しく伝えるようにしている。(特別養護老人ホーム)
- カンファレンス時に学生自身にも評価項目について質問し、理解度や実施度を確認し、評価にいかしている。(特別養護老人ホーム)

### 3)代替実習(※新型コロナウイルス感染症の影響による特例措置)

#### ① 養成校での取組

##### k. 実習目標を達成するため最も効果があったと感じる代替実習(実習Ⅰ)の取組

実習施設の利用者の協力を得て、オンラインでのコミュニケーションやグループワークで事例に関する介護計画を立案する取組を多く見られた。事前に養成校教員と実習指導者・施設職員とが打ち合わせを行い、授業目的と当日の進め方などの確認を行っていた。また、オンライン上のコミュニケーションで、施設の雰囲気や利用者の思いなどを学んでいた。

##### 取組例

- 利用者や実習施設の負担も考慮しながら、オンライン介護実習計画を立て、オンラインで交流ができるように事前に実習の調整を行い、提供された事例でのグループワークを行うことによって、実習施設での実習との差異がないようにした。(専門学校)
- オンラインで学生から利用者に対するコミュニケーションを図り、施設から提供を受けた利用者のフェイスシート等の情報も踏まえ、当該利用者に関するケアの方向性を考えるグループワークを行う。その後に実習施設からコメントをいただいた。(専門学校)
- 具体的に利用者を設定することで、実際の介護現場を想定したコミュニケーション技術や介護技術を実践できるようにした。(福祉系高校)

##### l. 実習目標を達成するため最も効果があったと感じる代替実習(実習Ⅱ)の取組

実習Ⅰと同様の取組を行っている養成校が多く見られた。

##### 取組例

- グループで事例のアセスメントと計画立案を行い、指導者からコメントをいただき、立案した計画実施をロールプレイし、実施記録の書き方や計画の修正・評価について理解できるようにした。(専門学校)
- 事前に提供してほしい場面について打合せを行い、打合せに基づいて写真を提供してもらった。(専門学校)
- クラスでの研修を2回に分けて行うことになったため、後から研修する生徒には研修内容を伝えられないよう初めに研修する生徒に指導して実施した。(福祉系高校)オンラインだけではなく対面でも介護ロボットの説明・利用などを行った。(福祉系高校)
- 利用者像を想起させるため、利用者情報の収集や観察方法、多くの情報から必要な情報を整理し統合させる方法を記録用紙上で明確にし、生徒が簡潔に記入できるようにする観点からも、記録用紙を工夫した。(福祉系高校)

## ② 実習施設での取組

### m. 実習目標を達成するため最も効果があったと感じる代替実習(実習Ⅰ)の取組

利用者と学生をオンラインでつなぎ、施設での生活などについてコミュニケーションを行っている事例が多く見られたが、事前に利用者の情報を伝え、学生による支援計画の作成やコミュニケーションについて打ち合わせを行っていた。

#### 取組例

- 固定カメラで実習施設内を撮影した動画を実習生に見せてディスカッションを行い、職員の声掛けや動きを通じて現場の声や雰囲気を感じてもらった。(特別養護老人ホーム)
- 利用者と学生をビデオ・web 会議アプリケーションでつないだ。事前に利用者の情報をプレゼンテーション資料で提示し、利用者像を膨らませたうえで、利用者とのコミュニケーションを図った。(特別養護老人ホーム)
- 利用者の基礎情報をもとに、オンラインで周辺環境(居室、共有スペース)を観察し、アプローチの仕方などの検討結果を提出させた。それをもとにカンファレンス形式のアドバイスや学びの共有を行った。(特別養護老人ホーム)
- 利用者の基本情報を事前に提示し、利用者とのコミュニケーションを図り、ニーズを抽出介護計画を立案した。その後、適時実習指導者がフォローしながら、学内でのシミュレーションを実施し、計画の修正を行った。(介護老人保健施設)

### n. 実習目標を達成するため最も効果があったと感じる代替実習(実習Ⅱ)の取組

実習Ⅰと同様に、オンラインでのコミュニケーションの取組を行っている施設が多く見られた。その他には、レクリエーションの企画を学生が考えている事例、写真で施設の様子などを見ながら介護計画を立案させている事例がみられた。

#### 取組例

- 学生が気になる点を質問し、アセスメント・課題分析を行い、分析後さらに質問を行い、グループごとに目標を決め、それに合わせてケアプランに展開し、グループ発表を行った。(特別養護老人ホーム)
- 認知症の方を知るための DVD を視聴後に、レポートで振り返り、実習生の理解を確認しながら、フィードバックを行った。(特別養護老人ホーム)
- オンラインで定期的に利用者とのコミュニケーションを行った後に、職員と学生でディスカッションやグループワークを行った。(介護老人保健施設)
- オンラインでの交流の際に、発語の状況や難聴の有無、認知症の有無や程度を確認し、フェイスシートの作成や立案につなげるようにした。(介護老人保健施設)

#### 4) 実習を受け入れた際の施設・事業所におけるメリット

最新の介護技術の再確認、職員の意識やサービスの向上、将来的な人材の確保、利用者への好影響、新任職員育成方法への応用の5点が主なメリットとして挙げられていた。「最新の介護技術の再確認」については、実習の受入れが施設職員の介護に関する考え方や技術を再確認する場となっており、養成校での介護技術の指導から新しい情報を収集できることや、施設での支援方法について、実習生の指導のために言語化することで、気づきが得られることもあった。「職員の意識の向上」については、改めて利用者ケアの初心に戻ることが多くあり、職員にとって良い刺激となっていた。「将来的な人材の確保」については、実習生が施設の方針等に共感し、就職につながっている事例があった。「利用者への好影響」については、介護を学ぶ実習生が来ることで利用者が喜んで生き生きとしていること、普段と異なる利用者の反応があり、認知症ケアに繋がるメリットが挙げられた。「新任職員育成方法への応用」については、実習生の受入れのためのマニュアルを作成したことにより、新任職員育成マニュアルの作成にも至り、新任職員への統一した指導が可能になったことや施設職員の指導力向上につながっており、新人職員の指導に反映できているといったメリットが挙げられた。

##### 取組例

- 実習生からの確かな意見や疑問(質問)をもらう場合があり、外部からの視点が入ることによって、ケアの改善や職場環境の改善にいかすことができる。(特別養護老人ホーム)
- 職員が自分の言葉で実習生に話す時に、根拠について考えるようになった。また、施設の風通しが良くなり、スタッフも実習生に見られているから頑張らないと、という気持ちになっている。(特別養護老人ホーム)
- 指導を行う中で、職員によってバラバラであった対応をルール化したことで、業務の効率化を図ることができ、新人職員にも指導しやすくなった。(特別養護老人ホーム)
- 提供するサービスの目的や支援内容の根拠を再確認したり、新人職員等への指導を考え直す機会となっている。また、利用者が、若い学生と接することで元気になり、生活意欲が向上している。(特別養護老人ホーム)
- 若年者の新人が少ない中、新卒採用時の注意点をイメージできる貴重な機会となっている。(認知症グループホーム)





**付属資料**

令和2年6月1日付文部科学省・厚生労働省通知(一部抜粋)

新型コロナウイルス感染症への対応のため、医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等における実習等の授業の弾力的な取扱いの具体的な取組事例や個々の学生等の状況に応じた学修機会の確保等についてお知らせします。

事務連絡  
令和2年6月1日

各  
都道府県教育委員会  
指定都市教育委員会  
都道府県私立高等学校担当部局  
都道府県私立特別支援学校担当部局  
国公立大学  
都道府県衛生・医務主管部局  
都道府県介護福祉士・社会福祉士養成施設主管部局  
都道府県精神保健福祉士養成施設主管部局  
地方厚生（支）局健康福祉部  
御中

文部科学省初等中等教育局  
文部科学省高等教育局  
厚生労働省医政局  
厚生労働省健康局  
厚生労働省医薬・生活衛生局  
厚生労働省社会・援護局  
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部

新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について

新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設（以下「学校養成所等」という。）に在学中の学生及び生徒（以下「学生等」という。）の修学等に不利益が生じることがないように、学校養成所の運営等については、令和2年2月28日付事務連絡により、その取扱いを周知しているところです。他方、新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成24年法律第31号）に基づく全都道府県に対する緊急事態宣言は5月14日以降順次解除され、学校養成所等でも授業等を再開される動きがあるところではありますが、引き続き慎重な対応を図っていくことが必要との観点から、学校養成所等における実習等の弾力的な運用の趣旨を改めて通知するとともに、学校再開の際にも十分に感染予防に留意しつつ進めるべきことをはじめとして、下記のとおり学校養成所等の運営等に関する留意事項をお知らせすることとしました。

つきましては、国公立大学におかれましては適切に対応いただくとともに、各都道府県及び地方厚生（支）局におかれましては、内容について御了知の上、管内の学校養成所等に対して周知いただきますようお願いいたします。

なお、都道府県教育委員会におかれましては、管内の特別支援学校を所管する指定都市を除く、市町村教育委員会に対して、本事務連絡の内容について周知を行っていただくようお願いいたします。

また、今後、各学校養成所等で行われている事例については、把握でき次第、随時紹介を行ってまいります。

なお、看護師等養成所における実習に関する追加の取扱いについては、別途、厚生労働省からお知らせいたします。

#### 【参考】

- ・新型コロナウイルス感染症について（厚生労働省ホームページ）  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html)
- ・新型コロナウイルスに関する帰国者・接触者相談センター  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/covid19-kikokusyasessyokusya.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/covid19-kikokusyasessyokusya.html)
- ・新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について（文部科学省ホームページ）  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/coronavirus/index.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html)
- ・新型コロナウイルス感染症の対応について（内閣官房ホームページ）  
[http://www.cas.go.jp/jp/influenza/novel\\_coronavirus.html](http://www.cas.go.jp/jp/influenza/novel_coronavirus.html)

#### 記

##### 1. 学校養成所等の運営に係る取扱い

(1) 学校養成所等にあつては、新型コロナウイルス感染症の対応等により、実習中止、休講等の影響を受けた学生等と影響を受けていない学生等の間に、修学の差が生じることがないように配慮するとともに学生等に対して十分な説明を行うこと。

(2) 学校養成所等にあつては、新型コロナウイルス感染症の影響により、教員の不足や施設・設備が確保できない等、十分な教育体制を整えることが困難な場合が生じることが想定される。

こうした学校養成所等においては、できる限り速やかに十分な教育体制を整備することが望ましいが、当面の間は、非常勤教員の確保や教室の転用・兼用等により、必要最低限の教育体制を整えることとして差し支えないこと。

(3) 学校養成所等にあつては、新型コロナウイルス感染症の影響により実習施設の受け入れの中止等により、実習施設の変更が必要となることが想定される。

実習施設を変更する際には、あらかじめ当該変更に係る承認を受けることとされてい

るが、今般の新型コロナウイルス感染症を受け迅速な対応が必要であることに鑑み、承認申請に係る時期については弾力的に取り扱って差し支えないこと。

実習施設の変更を検討したにもかかわらず、実習施設の確保が困難である場合には、年度をまたいで実習を行って差し支えないこと。なお、これらの方法によってもなお実習施設等の代替が困難である場合、実状を踏まえ実習に代えて演習又は学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を修得することとして差し支えないこと。その際、学校養成所等は学生等に対し、代替的な学修の趣旨や狙い、到達目標等について十分に説明するよう留意願いたいこと。

- (4) 上記(3)の取扱いについては、当面の間、医療関係職種等の国家資格の養成施設として指定する規則に示された実習内容の変更に関する承認申請・届出は不要であるが、今後、実施結果について改めて調査を行うことがあり得るので、しっかりと整理されること。

なお、看護師等養成所における取扱いについては、別途、厚生労働省からお知らせいたします。

- (5) 今後、現在の状況が続くことも想定されることも踏まえ、学校養成所等においては、各資格の本旨に鑑み、可能な限り必要な科目（課目・教育内容）が受講できるよう実習や講義の実施方法を工夫されること。例えば、実習を行うに際しては、受講人数を分散させる、受講会場には一度に入れる人数を当該会場の規模に応じた適切な人数のみに絞るなど、感染リスクに配慮すること。

## 2. 受験資格に係る取扱い

- (1) 今般の新型コロナウイルス感染症の対応により実習中止、休講等が生じ、授業の実施期間が例年に比べて短縮された場合であっても、当該学校養成所等において必要な単位もしくは時間を履修し、又は当該学校養成所等を必要な単位もしくは時間を履修して卒業（修了）した者については、従来どおり、各医療関係職種等の国家試験の受験資格が認められること。

- (2) 新型コロナウイルス感染症に関連する実習中止、休講等の対応を受けた学生等は、他の学生等より修業が遅れることが想定される。こうした場合であっても、当該学校養成所等において必要な単位もしくは時間（実習が中止の場合、当該学校養成所等において実習に替わり得る学修として各学校養成所等で配当した単位もしくは時間を含む）を履修し、又は当該学校養成所等を必要な単位もしくは時間（実習が中止の場合、当該学校養成所等において実習に替わり得る学修として各学校養成所等で配当した単位もしくは時間を含む）を履修して卒業（修了）した者については、従来どおり、各医療関係職種等の国家試験の受験資格が認められること。

- (3) (1)及び(2)の取扱いは、学校養成所等における教育内容の縮減を認めるものではないことから、学校養成所等にあつては、時間割の変更、補講授業、インターネット等を活用した学修、レポート課題の実施等により必要な教育が行われるよう、特段の配慮をお願いしたいこと。

### 3. 学校養成所等におけるICTを活用した遠隔授業等について

遠隔授業の活用や授業の弾力的な取扱い等については、「令和2年度における大学等の授業の開始等について（通知）」（令和2年3月24日付元文科高第1259号）等、「学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係るQ&A」（令和2年5月22日付事務連絡）等及び「遠隔授業等の実施に係る留意点及び実習等の授業の弾力的な取扱い等について」（令和2年5月1日付事務連絡）等において示されており、学校養成所等においてもこれらを参考にされ、実施に際しては御留意いただきたいこと。

### 4. 実習等に関する各学校養成所等での実践事例等

既にいくつかの学校養成所等においては、以下のような取組が行われている、もしくは実施が予定されている。各学校養成所等で実施に向けた環境や課題が異なることは十分に考えられるが、適宜参照の上、対応いただきたいこと。

- (1) 三密を避けた状態での、シミュレーターを用いての基本手技の実習。
- (2) オンラインによる模擬実習（カンファランス、ミニ講義、手術や手技のビデオ供覧と解説、試問、レポート提出）。
- (3) オンラインによる臨床推論能力の養成を目的とする授業。
- (4) 研究棟や講義棟での電子カルテを用いた症例検討や動画視聴、シミュレーターによる技能学習（人数制限並びに部屋の換気等感染防止措置を実施。）。
- (5) 実習の臨床実習予習ノートを用いたe-Learningによる在宅学習（各実習の指導教員がメールでの質問へ回答）。
- (6) 事例データベースを作成し、事例データベースを基に、学内においてシミュレーション教育を実施。
- (7) 臨床実習指導者参加型遠隔指導システムを活用し、書面や動画を含めて臨床推論指導を実施。
- (8) 実習先講師を招聘し、実習先での状況や実習を行った時の対応など、通常より現場に近い授業演習を実施。
- (9) 臨地（病室、在宅、居室）と大学をオンライン接続し、以下の内容の学内実習を行う。
  - ・臨床実習への協力の同意を得た患者にオンラインで聴取する。
  - ・指導教員が収集した患者の日々の様子の映像情報を用いて、計画を策定する。
  - ・リアルタイムの患者の状況を確認・評価しながら、日々の計画を策定する。
  - ・学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイを通じて技術を修得する。

### 5. 福祉系高校における教員の研修について

社会福祉士介護福祉士学校指定規則第8条第四号及び第五号に規定する文部科学大臣及び厚生労働大臣が別に定める基準第1項第二号に掲げる研修について、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度実施する研修の受入施設の確保が困難な場合等には、次年度において研修環境が整い次第、速やかに受講することも考えられること。

## 介護実習に関するアンケート調査（養成校向け）

「\*」は必須回答です

[page 1 /18]

養成校向け  
令和5年9月

厚生労働省 老人保健健康増進等事業  
「介護福祉士養成校と実習施設が連携した実習のあり方に関する調査研究事業」

### 介護実習に関するアンケート調査

#### 【本調査の目的】

介護職員の確保・専門性向上が喫緊の課題となっている中、介護福祉士養成施設等（介護福祉士養成施設および福祉系高校を指す。以下、養成校という）では、2019年度からの養成課程への新カリキュラム導入が行われ、養成校と実習先となる介護施設（以下、実習施設という）の双方に向け、介護実習におけるガイドライン（日本介護福祉士会、2019）が作成されています。また、平成24年より実習Ⅱに該当する実習施設に受講が義務付けられた実習指導者講習会により、介護実習における実習内容の質は高まってきています。

しかしながら、未だ実習施設の実習指導者によって実習指導方法や実習指導の質に差が生じているといった実態や、養成校と実習施設間の連携不足のため実習の質が担保されていないといった実態が指摘されており、質の高い実習教育の提供に向けて改善の必要性が指摘されています。

また、ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、「一部の日程を実習施設で実施できなかった」とする養成校が多かったという実態もありますが、実習施設で実習ができなかった場合、学内実習をはじめどのような代替手段が採られているか、その場合でも十分な効果が得られているのか等を明らかにした調査はこれまで見られません。

このため、本事業では、介護実習に関する養成校の教員等が行う実習準備や、実習中の巡回指導の実態、および実習施設の実習指導者が行う受入れ準備の実習対応の実態等を調査することを目的に、アンケート調査を実施します。

新型コロナウイルス感染症の流行により、利用者の生活を第一としながらの実習実施には、多くの困難があることと思えます。このような中での**介護福祉士養成に欠かせない実習実施のため、養成校と実習施設がどのように協力・連携していけば良いかを検討していく必要**があります。今回の調査結果は、厚生労働省に報告し、上記観点も踏まえ、適切な介護実習の在り方の検討にむけた基礎資料として活用されるものです。本調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力を賜りますようお願い申し上げます。

#### 【本調査の対象】

全国の養成校（介護福祉士養成施設、および福祉系高等学校）  
※各校の実習責任者の方にご回答をお願いします


#### 【回答期限】

**10月6日（金）まで**にご回答ください。

#### 【回答時の注意事項】

1. ページ内の全ての質問への回答後、「進む」をクリックして、次に進んでください。



2. ブラウザの戻るボタンは**利用できません**。画面の上下にある  をクリックしてください。
3. 最終ページの「送信」をクリックして調査は完了します。
4. 「送信」をクリックした後は、回答の変更はできませんので、ご注意ください。
5. 画面を開いてから、**20分以上経過**すると、タイムアウトが発生し、**回答結果を失ってしまう**場合がございます。回答に時間がかかる場合や、長時間離席をされる場合は、「一時保存し終了する」ボタンを押して一時保存していただきますようお願いいたします。「途中再開用のURL」が発行されます。
6. 回答を再開する場合は、「途中再開用のURL」にアクセスしてください。途中保存したページから再開することができます。

#### 【調査票の取扱いに関しまして】

ご回答いただきました内容につきましては、次のように取扱います。

- ・調査で得られた内容は、安全措置を講じてデータの漏洩がないように保管し、施設や回答者が特定できないよう統計処理をいたします。また、研究終了後は、個人情報に該当するデータを破棄いたします。
- ・調査への拒否があっても、そのことで不利益が生じることは一切ございません。

#### ■本調査に関する問合せ先

PwCコンサルティング合同会社 公共事業部（担当：安田(やすだ)・岡田(おかだ)・福村(ふくむら)）  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi Oneタワー  
E-mail : [jp\\_cons\\_jisssyurenkei2023@pwc.com](mailto:jp_cons_jisssyurenkei2023@pwc.com)

[page 2 /18]

※本調査における「代替実習」の定義は、以下の通りとします

#### 代替実習の定義

参考：「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」（令和2年6月1日付け文部科学省・厚生労働省連名事務連絡）。

■新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、実習施設の変更を検討したにもかかわらず、実習施設の確保が困難となったために、以下のいずれかで実施すること。

ア. 年度をまたいで実習を実施すること。

イ. 実習に代えて演習又は学内実習等を実施すること。

**⇒本調査においては、上記のうち「イ. 実習に代えて演習又は学内実習等を実施すること。」に該当する実習を代替実習と定義します。**

具体的な事例を確認されたい場合は以下をご覧ください。

#### ■実践事例等

参考：「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」（令和2年6月1日付け文部科学省・厚生労働省連名事務連絡）。

- (1)三密を避けた状態での、シミュレーターを用いての基本手技の実習。
- (2)オンラインによる模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、手術や手技のビデオ視聴と解説、試問、レポート 提出）。
- (3)オンラインによる臨床推論能力の養成を目的とする授業。
- (4)研究棟や講義棟での電子カルテを用いた症例検討や動画視聴、シミュレーターによる技能学習（人数制限及びに部屋の換気等感染防止措置を実施。）。
- (5)学習の臨床実習予習ノートを用いた e-Learning による在宅学習（各実習の指導教員がメールでの質問への回答）。

- (6)事例データベースを作成し、事例データベースを基に、学内においてシミュレーション教育を実施。
- (7)臨床実習指導者参加型遠隔指導システムを使用し、書面や動画を含めて臨床推論指導を実施。
- (8)実習先講師を招聘し、実習先での状況や実習を行った時の対応など、通常より現場に近い授業演習を実施。
- (9)臨地（病室、在宅、居室）と大学をオンライン接続し、以下の内容の学内実習を行う。
  - ・臨床実習への協力の同意を得た患者にオンラインで聴取する。
  - ・指導教員が収集した患者の日々の様子の映像情報を用いて、計画を策定する。
  - ・リアルタイムの患者の状況を確認・評価しながら、日々の計画を策定する。
  - ・学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイを通じて技術を習得する。

[page 3 /18]

## I. 2022年度の実習に関する基礎情報

※以下、2022年度の1年間における貴校での介護実習についてお答えください

### 問1.

2022年度1年間における、貴校の実習の履修者数を教えてください。（数値）

※学年を問わず全学年分の人数をご回答ください

※実習を履修している生徒の実人数をお答えください

（例：1名の生徒が実習Ⅰを数回履修している場合も1カウントとする）

#### 【実習Ⅰ】

*問1.1.1. 実習の履修者数	<input type="text"/>	人（半角数字、実人数）
*問1.1.2. うち通常実習のみの実施者数	<input type="text"/>	人（半角数字、実人数）
*問1.1.3. うち通常実習と代替実習の双方の実施者数	<input type="text"/>	人（半角数字、実人数）
*問1.1.4. うち代替実習のみの実施者数	<input type="text"/>	人（半角数字、実人数）

#### 【実習Ⅱ】

*問1.2.1. 実習の履修者数	<input type="text"/>	人（半角数字、実人数）
*問1.2.2. うち通常実習のみの実施者数	<input type="text"/>	人（半角数字、実人数）
*問1.2.3. うち通常実習と代替実習の双方の実施者数	<input type="text"/>	人（半角数字、実人数）
*問1.2.4. うち代替実習のみの実施者数	<input type="text"/>	人（半角数字、実人数）

### 問2.

2022年度の1年間で、貴校の実習先となった実習施設のサービス種別すべてを教えてください。（それぞれあてはまるものすべて選択）

※訪問実習・代替実習ともに、該当する実習施設のサービスすべてをお答えください

#### \*問2.1. 実習Ⅰ

<input type="checkbox"/>	1. 訪問介護
<input type="checkbox"/>	2. 通所介護
<input type="checkbox"/>	3. 通所リハビリテーション
<input type="checkbox"/>	4. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
<input type="checkbox"/>	5. 介護老人保健施設

<input type="checkbox"/>	6. 養護老人ホーム
<input type="checkbox"/>	7. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
<input type="checkbox"/>	8. 小規模多機能型居宅介護
<input type="checkbox"/>	9. 看護小規模多機能型居宅介護
<input type="checkbox"/>	10. 特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、ケアハウス等）
<input type="checkbox"/>	11. 障害者支援施設
<input type="checkbox"/>	12. その他施設・事業所
	具体的に <input type="text"/>

#### \*問2.2. 実習Ⅱ

<input type="checkbox"/>	1. 訪問介護
<input type="checkbox"/>	2. 通所介護
<input type="checkbox"/>	3. 通所リハビリテーション
<input type="checkbox"/>	4. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
<input type="checkbox"/>	5. 介護老人保健施設
<input type="checkbox"/>	6. 養護老人ホーム
<input type="checkbox"/>	7. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
<input type="checkbox"/>	8. 小規模多機能型居宅介護
<input type="checkbox"/>	9. 看護小規模多機能型居宅介護
<input type="checkbox"/>	10. 特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、ケアハウス等）
<input type="checkbox"/>	11. 障害者支援施設
<input type="checkbox"/>	12. その他施設・事業所
	具体的に <input type="text"/>

[page 4 /18]

### 問2-1.

【問2で選択されたサービス種別についてお伺いします】

問2.1または問2.2で回答した実習施設における、貴校の実習におけるサービス種別ごとの学生1人当たりの実習時間数を教えてください。（数値）

※複数人が実習に行っている場合、1人当たりの全実習日程における平均時間をご回答ください

#### 【実習Ⅰ】

*問2-1.1. 訪問介護	1人当たり <input type="text"/>	時間（半角数字、小数点第一位まで）
*問2-1.2. 通所介護	1人当たり <input type="text"/>	時間（半角数字、小数点第一位まで）
*問2-1.3. 通所リハビリテーション	1人当たり <input type="text"/>	時間（半角数字、小数点第一位まで）
*問2-1.4. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	1人当たり <input type="text"/>	時間（半角数字、小数点第一位まで）
*問2-1.5. 介護老人保健施設	1人当たり <input type="text"/>	時間（半角数字、小数点第一位まで）
*問2-1.6. 養護老人ホーム	1人当たり <input type="text"/>	時間（半角数字、小数点第一位まで）

<b>*問2-1.7.</b> 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-1.8.</b> 小規模多機能型居宅介護	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-1.9.</b> 看護小規模多機能型居宅介護	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-1.10.</b> 特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、ケアハウス等）	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-1.11.</b> 障害者支援施設	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-1.12.</b> その他施設・事業所 ※複数サービスがある場合は、1施設・事業所あたりの平均時間をご回答ください	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）

【実習Ⅱ】

<b>*問2-2.1.</b> 訪問介護	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-2.2.</b> 通所介護	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-2.3.</b> 通所リハビリテーション	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-2.4.</b> 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-2.5.</b> 介護老人保健施設	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-2.6.</b> 養護老人ホーム	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-2.7.</b> 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-2.8.</b> 小規模多機能型居宅介護	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-2.9.</b> 看護小規模多機能型居宅介護	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-2.10.</b> 特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、ケアハウス等）	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-2.11.</b> 障害者支援施設	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）
<b>*問2-2.12.</b> その他施設・事業所 ※複数サービスがある場合は、1施設・事業所あたりの平均時間をご回答ください	1人当たり <input type="text"/> 時間（半角数字、小数点第一位まで）

[page 5 /18]

Ⅱ. 実習における具体的対応および工夫点

※以下、時期を問わず、これまで貴校で行った介護実習全般についてお答えください

【実習前対応】

**\*問3.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
実習前、実習施設に対し、実習意義／実習目的を伝達するためにどのような対応をしているかを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

1. 実習計画書を共有する

2. 打ち合わせ等の機会を設けたうえでの実習計画の説明、実習内容のすり合わせ
3. 養成校教員と実習施設職員が共同で実習前研修を実施
4. 実習計画策定段階から実習施設と協議したうえでの計画策定
5. 学生の個別特性（性格や学習上の特性等）と関連付けた実習計画の説明
6. 実習評価方法や評価項目の説明
7. その他
- 

[page 6 /18]

**問3-1.**  
【問3で「3. 養成校教員と実習施設職員が共同で実習前研修を実施」～「7. その他」を選択した方】

【実習ⅠⅡ全般】  
前問で回答した実習施設への対応について、対応内容を詳しく教えてください。

何を対応したか	<input type="text"/>
(例)施設の実習担当者と養成校実習担当教員で、実習指導者会議を開催し、実習の目的と目標を共有した。また、実習評価の基準を実習施設に伝達し、評価に関する基準や評価項目の設定目的を説明した。さらに、どうしたら学生のやる気を引き出せるか、実習指導における好事例を両者で共有した。	<input type="text"/>
どの時期に対応したか	<input type="text"/>
(例)実習開始 1 か月前	<input type="text"/>
どのような方法で対応したか	<input type="text"/>
(例)養成校教員が実習施設に訪問して対応した。	<input type="text"/>

**\*問4.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
実習前、学生に対し、教員がどのような対応をしているかを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

1. 実習を行うにあたっての学生の自己分析への指導・助言
2. 学生が作成する実習目標立案への指導・助言
3. 実習日誌作成にかかる指導・助言
4. 実習施設の特性について学生に指導・助言
5. 実習評価方法や評価項目について指導・助言
6. 学生の实習前訪問の調整・準備
7. その他
- 

**\*問5.**  
【実習ⅠⅡ全般】



教員が学生の実習先を決定する際、実習先と学生のマッチング状況を考慮する上で重視する情報を教えてください。（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 学生の学習上の特性
<input type="checkbox"/>	2. 学生の性格
<input type="checkbox"/>	3. 学生の希望／要望
<input type="checkbox"/>	4. 学生の居住地と実習先住所との距離や、交通手段
<input type="checkbox"/>	5. 実習施設のサービス種別
<input type="checkbox"/>	6. 過去の実習受入れ実績（自校）
<input type="checkbox"/>	7. 過去の実習受入れ実績（他校）
<input type="checkbox"/>	8. （過去、実習の受入れがあった場合の）実習の質的成果
<input type="checkbox"/>	9. 実習受入れ可能人数
<input type="checkbox"/>	10. 実習指導体制
<input type="checkbox"/>	11. 自校卒業生の就職採用実績
<input type="checkbox"/>	12. 自校在校生のアルバイト採用実績
<input type="checkbox"/>	13. その他
	<input type="text"/>

[page 7 /18]

**問6.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
前問で回答した実習先と学生のマッチング状況を考慮する上で重視する情報について、①最も重視する事柄と、②その事柄を考慮したうえでの実習先選定における工夫点を教えてください。

**\*問6.1.**  
最も重視する事柄（1つ選択）

<input type="radio"/>	1. 学生の学習上の特性
<input type="radio"/>	2. 学生の性格
<input type="radio"/>	3. 学生の希望／要望
<input type="radio"/>	4. 学生の居住地と実習先住所との距離や、交通手段
<input type="radio"/>	5. 実習施設のサービス種別
<input type="radio"/>	6. 過去の実習受入れ実績（自校）
<input type="radio"/>	7. 過去の実習受入れ実績（他校）
<input type="radio"/>	8. （過去、実習の受入れがあった場合の）実習の質的成果
<input type="radio"/>	9. 実習受入れ可能人数
<input type="radio"/>	10. 実習指導体制
<input type="radio"/>	11. 自校卒業生の就職採用実績
<input type="radio"/>	12. 自校在校生のアルバイト採用実績
<input type="radio"/>	13. その他

**問6.2.**  
上記事柄を考慮してどのような工夫をしているか

(例)「学生の性格」を選んだ場合：  
大勢の人数の中ではうまく発言できず、思考がゆっくりの学生に対しては、利用者が多い特別養護老人ホームや介護老人保健施設ではなくグループホームを実習先にする 等

<input type="text"/>
----------------------

**\*問7.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
実習評価を行う際の評価表について、どのようなものを用いているかを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 都道府県や市区町村で作成された評価表
<input type="checkbox"/>	2. 学校独自で作成した評価表
<input type="checkbox"/>	3. その他
	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	4. 特段評価表はない／実習施設に任せている

[page 8 /18]

【実習中対応】

**\*問8.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
実習中の学生を指導するにあたり、関わる教員数について、最もあてはまる形態を教えてください。（1つ選択）

※巡回指導担当教員以外にも教員がかかわる場合、全教員の数についてお答えください

<input type="radio"/>	1. 全学生に対し、複数体制で対応
<input type="radio"/>	2. 学生によっては複数体制で対応
<input type="radio"/>	3. 学生1人に対し、担当教員は1名／学生複数に対し、担当教員は1名（教員の重複なし）

**問9.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
実習中の教員体制における貴校での体制構築の工夫点を教えてください。

(例)1人の学生につき教員2名体制を採っており、具体的な実習指導をする教員と、学生の悩み等の相談を受ける教員と担当を分けている 等

<input type="text"/>
----------------------

**\*問10.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
巡回指導時、実習内容／実習目標の到達状況に関し、実習施設の実習指導担当者とどのような項目について協議するかを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

※貴校で巡回指導時に一般的に行っている事柄についてお答えください

<input type="checkbox"/>	1. 介護福祉士の業務に対する姿勢の理解・実践状況
<input type="checkbox"/>	2. 介護現場でのコミュニケーション実践状況
<input type="checkbox"/>	3. 介護福祉士としての職業倫理の理解・実践状況
<input type="checkbox"/>	4. 介護施設・事業所の理念・基本方針・概要・役割・機能の理解状況

<input type="checkbox"/>	5. 利用者像の理解状況（利用者の思いや希望を理解できているか）
<input type="checkbox"/>	6. 利用者を観察する視点の発揮状況
<input type="checkbox"/>	7. 利用者の生活と地域との関わりについての理解状況
<input type="checkbox"/>	8. 介護の根拠の理解状況
<input type="checkbox"/>	9. 介護技術の実践状況
<input type="checkbox"/>	10. 自立支援にかかる概念の理解状況
<input type="checkbox"/>	11. 介護過程の展開に関する実施状況
<input type="checkbox"/>	12. 施設・事業所内での多職種連携の必要性の理解状況
<input type="checkbox"/>	13. 施設・事業所と、地域の他施設・事業所との多職種連携の必要性の理解状況
<input type="checkbox"/>	14. その他 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	15. 特に協議をしていない

**問11.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
実習期間中の実習指導担当者との協議に関し、実習の質を高めるために、どのような工夫をしているかを教えてください。

(例)学生の実習の状況を踏まえ、実習施設担当者との協議の上、実習目標達成のため、多職種連携に関する体験を実習計画に追加してもらう 等

**\*問12.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
巡回指導時、実習内容／実習目標の到達状況のうち、どのような項目について学生へ指導するかを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 介護福祉士の業務に対する姿勢の理解・実践状況
<input type="checkbox"/>	2. 介護現場でのコミュニケーション実践状況
<input type="checkbox"/>	3. 介護福祉士としての職業倫理の理解・実践状況
<input type="checkbox"/>	4. 介護施設・事業所の理念・基本方針・概要・役割・機能の理解状況
<input type="checkbox"/>	5. 利用者像の理解状況（利用者の思いや希望を理解できているか）
<input type="checkbox"/>	6. 利用者を観察する視点の発揮状況
<input type="checkbox"/>	7. 利用者の生活と地域との関わりについての理解状況
<input type="checkbox"/>	8. 介護の根拠の理解状況
<input type="checkbox"/>	9. 介護技術の実践状況
<input type="checkbox"/>	10. 自立支援にかかる概念の理解状況
<input type="checkbox"/>	11. 介護過程の展開に関する実施状況
<input type="checkbox"/>	12. 施設・事業所内での多職種連携の必要性の理解状況
<input type="checkbox"/>	13. 施設・事業所と、地域の他施設・事業所との多職種連携の必要性の理解状況
<input type="checkbox"/>	14. その他 <input type="text"/>

<input type="checkbox"/>	15. 特に指導をしていない
--------------------------	----------------

**\*問13.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
巡回指導時、問11及び問12の回答以外に教員が行っていることを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 実習施設の実習指導担当者へ巡回指導時の学生指導の内容を伝達
<input type="checkbox"/>	2. 実習生が自ら学びを深められるような働きかけ
<input type="checkbox"/>	3. 利用者から学生の対応に関する意見を聴取する
<input type="checkbox"/>	4. 実習生のストレスや悩みのサポート
<input type="checkbox"/>	5. 学生の健康状態の確認
<input type="checkbox"/>	6. その他 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	7. 特にない

**\*問14.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
貴校における平均的な巡回指導回数を教えてください。（1つ選択）

※1～3日間等の短期間の実習以外の一定期間以上の実習における巡回指導回数をお答えください。

<input type="radio"/>	1. 実習先によらず週1回訪問
<input type="radio"/>	2. 実習先によらず週2回以上訪問
<input type="radio"/>	3. 実習先施設によっては訪問回数を決めている
<input type="radio"/>	4. 学生によっては訪問回数を決めている

**問14-1.**  
【問14で「3. 実習先施設によっては訪問回数を決めている」「4. 学生によっては訪問回数を決めている」を選択した方】

【実習ⅠⅡ全般】  
通常より訪問回数を増やすことになったケースがあった場合、その理由と、追加の訪問時に対応している内容を教えてください。

(例)巡回指導時に、学生の実習目標の達成状況を踏まえ、追加で学生・実習施設の実習指導担当者との3者面談の時間を設けるため、通常の1回訪問に加え、追加訪問する 等

**\*問15.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
貴校における、1施設／1週間あたりの巡回指導時の平均的な実習施設滞在時間（教員の滞在時間）を教えてください。（数値）

※学生／実習先によっては訪問時間に変動がある場合、最も一般的な時間をお答えください。  
※複数回訪問の場合は合計を記載ください。

1施設あたり、合計  分（半角数字）

**\*問16.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
実習中の学生の帰校日に行っていることを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 実習内容を踏まえた講義形式の授業の実施
<input type="checkbox"/>	2. グループワーク等で学生同士の学びあいの機会を設ける
<input type="checkbox"/>	3. 実習に関する個別指導を行う
<input type="checkbox"/>	4. その他 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	5. 特に帰校日は設けていない

【実習後対応】

**\*問17.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
実習後に学内で実習の振り返りを行う際、学生が確認することとなっている項目を教えてください。（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 実習目標／実習課題の達成状況
<input type="checkbox"/>	2. 実習目標／実習課題の達成／未達成の理由
<input type="checkbox"/>	3. 実習目標／実習課題以外で新たに学んだこと
<input type="checkbox"/>	4. 実習施設の実習指導担当者からの助言・指導内容
<input type="checkbox"/>	5. 実習そのものにおける反省点
<input type="checkbox"/>	6. 実習施設の運営方針及びその実現に向けての具体的な取り組み
<input type="checkbox"/>	7. 実習施設が今後、取り組んでいこうとする課題
<input type="checkbox"/>	8. その他 <input type="text"/>

**問18.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
実習の振り返り授業等を行う際の取組上の工夫点を教えてください。

(例)達成できなかった目標について、これからの学校生活で何をすれば成長できるかの観点から、学生同士のディスカッションを行う 等

Ⅲ. 代替実習を実施した際の工夫点

※以下、時期を問わず、これまで貴校で行った代替実習全般についてお答えください

**問19.**  
実習について、自校の教員・職員のみによる代替実習を行った場合、その実施内容を教えてください。（それぞれあてはまるものすべて選択）

**\*問19.1.**  
実習Ⅰ

<input type="checkbox"/>	1. シミュレーターを用いての介護技術に関する演習
--------------------------	---------------------------

<input type="checkbox"/>	2. 模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ供覧と解説、試問、レポート提出）
<input type="checkbox"/>	3. 介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業
<input type="checkbox"/>	4. 介護記録等を用いたケーススタディ
<input type="checkbox"/>	5. 実習予習ノート等を用いた学生の在宅学習（指導教員の質問へ回答）
<input type="checkbox"/>	6. 資料等で模擬的に利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定
<input type="checkbox"/>	7. 学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイ形式での介護技術の修得
<input type="checkbox"/>	8. その他 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	9. 自校の講師のみで代替実習を行ったことはない

**\*問19.2.**  
実習Ⅱ

<input type="checkbox"/>	1. シミュレーターを用いての介護技術に関する演習
<input type="checkbox"/>	2. 模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ供覧と解説、試問、レポート提出）
<input type="checkbox"/>	3. 介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業
<input type="checkbox"/>	4. 介護記録等を用いたケーススタディ
<input type="checkbox"/>	5. 実習予習ノート等を用いた学生の在宅学習（指導教員の質問へ回答）
<input type="checkbox"/>	6. 資料等で模擬的に利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定
<input type="checkbox"/>	7. 学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイ形式での介護技術の修得
<input type="checkbox"/>	8. その他 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	9. 自校の講師のみで代替実習を行ったことはない

**問20.**  
これまで、実習施設に対し、何らかの代替実習の協力依頼をしたことがあるかについて教えてください。（それぞれ1つ選択）

**\*問20.1.**  
実習Ⅰ

<input type="radio"/>	1. あり
<input type="radio"/>	2. なし

**\*問20.2.**  
実習Ⅱ

<input type="radio"/>	1. あり
<input type="radio"/>	2. なし

【実習Ⅰ】

**問20-1.**  
【問20—実習Ⅰで「1. あり」を選択した方】

下記の代替実習（実習Ⅰ）の内容について、実習先に何らかの協力を依頼したか、また、そのとき協力いただけたかについて教えてください。（それぞれ1つ選択）

※対面／非対面形式にかかわらず、依頼したことがあるかについてご回答ください

	1. ほとんどの実習施設で協力を得られた	2. 実習施設によって、協力を得られたこともあった	3. ほとんどの施設で、協力を得られなかった	4. これまで依頼したことがない
<b>*問20-1.1.</b> 利用者とのオンラインによる交流	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-1.2.</b> オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-1.3.</b> シミュレーターを用いての介護技術に関する演習	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-1.4.</b> 模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ視聴と解説、試問、レポート提出）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-1.5.</b> 介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-1.6.</b> 介護記録等を用いたケーススタディ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-1.7.</b> 実習予習ノート等を用いた学生の在宅学習（指導教員や実習施設指導担当者の質問へ回答）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-1.8.</b> 資料等で模擬的に利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-1.9.</b> リアルタイムで利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-1.10.</b> 学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイ形式での介護技術の修得	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>問20-1.11.</b> その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

**問20-1.11.**  
「その他」を回答された方は、対応内容を入力してください。

[page 12 /18]

**\*問20-2.**  
【問20—実習 I で「1. あり」を選択した方】  
前問で回答いただいた代替実習内容（実習 I）の中で、実習目標を達成するため最も効果があったと感じる形式を教えてください。（1つ選択）

<input type="radio"/>	1. 利用者とのオンラインによる交流
<input type="radio"/>	2. オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション
<input type="radio"/>	3. シミュレーターを用いての介護技術に関する演習
<input type="radio"/>	4. 模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ視聴と解説、試問、レポート提出）
<input type="radio"/>	5. 介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業
<input type="radio"/>	6. 介護記録等を用いたケーススタディ
<input type="radio"/>	7. 実習予習ノート等を用いた学生の在宅学習（指導教員や実習施設指導担当者の質問へ回答）
<input type="radio"/>	8. 資料等で模擬的に利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定
<input type="radio"/>	9. リアルタイムで利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定

<input type="radio"/>	10. 学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイ形式での介護技術の修得
<input type="radio"/>	11. その他

**問20-3.**  
【問20—実習 I で「1. あり」を選択した方】  
前問で回答いただいた「実習目標を達成するため最も効果があったと感じる代替実習（実習 I）」について、以下の5点を教えてください。

**問20-3.1.**  
具体的な実習内容

(例)「利用者とのオンラインによる交流」選択の場合：  
利用者とはWEB会議システムを接続し、学生から利用者に対するコミュニケーションを図った。その際、施設から提供を受けた利用者のフェイスシート等の情報をも踏まえ、当該利用者に関するケアの方向性を考えるグループワークを行った。

**\*問20-3.2.**  
どのような実習目標を達成するために行ったか（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 介護福祉士の業務に対する姿勢の理解・実践
<input type="checkbox"/>	2. 介護現場でのコミュニケーション実践
<input type="checkbox"/>	3. 介護福祉士としての職業倫理の理解・実践
<input type="checkbox"/>	4. 介護施設・事業所の理念・基本方針・概要・役割・機能の理解
<input type="checkbox"/>	5. 利用者像の理解（利用者の思いや希望を理解できているか）
<input type="checkbox"/>	6. 利用者を観察する視点の発揮
<input type="checkbox"/>	7. 利用者の生活と地域との関わりについての理解
<input type="checkbox"/>	8. 介護の根拠の理解
<input type="checkbox"/>	9. 介護技術の実践
<input type="checkbox"/>	10. 自立支援にかかる概念の理解
<input type="checkbox"/>	11. 介護過程の展開に関する実施
<input type="checkbox"/>	12. 施設・事業所内での多職種連携の必要性の理解
<input type="checkbox"/>	13. 施設・事業所と、地域の他施設・事業所との多職種連携の必要性の理解
<input type="checkbox"/>	14. その他

**問20-3.3.**  
実習を行う上での工夫

(例)「利用者とのオンラインによる交流」選択の場合：  
オンラインで会話するため、利用者との距離を考え、学生の自己紹介から始まり、利用者との交流時間は短時間に分けて複数回実施する等、利用者には負担がかからず、かつできるだけ対面で交流する場合と違いが出ないような工夫を行った。

<p><b>問20-3.4.</b> 実習の効果</p> <p>(例)「利用者とのオンラインによる交流」選択の場合： 実際の利用者の状態や会話を教員も知ること、学生が立案する介護計画の方向性についての指導ができ、しやすく、有益な代替実習となった。学生の利用者像の理解状況、および利用者を観察する視点の醸成につながった。</p>	
<p><b>問20-3.5.1.</b> 実習の課題</p> <p>(例)「利用者とのオンラインによる交流」選択の場合： 実際に対面していない利用者の状態像を学生に理解してもらうのに苦心した。特に、既往症や状態像についての理解のもとに、その後の状態の変化を察知する点に関し、理解がつかない学生が多かった。</p>	
<p><b>問20-3.5.2.</b> 実習の課題に対する対応</p> <p>(例)「利用者とのオンラインによる交流」選択の場合： 利用者とのオンライン交流の前に、あらかじめ施設から提供いただいたフェイスシートの再確認を行い、どのような状態像か、どのような状態の変化が予測されるかを毎回確認したうえで、交流を行った。</p>	

[page 13 / 18]

<p>【実習Ⅱ】</p> <p><b>問20-4.</b> 【問20-実習Ⅱで「1. あり」を選択した方】</p> <p>下記の代替実習（実習Ⅱ）の内容について、実習先に何らかの協力を依頼したか、また、そのとき協力いただけたかについて教えてください。（それぞれ1つ選択）</p> <p>※対面／非対面形式にかかわらず、依頼したことがあるかについてご回答ください</p>
--

	1. ほとんどの実習施設で協力を得られた	2. 実習施設によって、協力を得られたこともあった	3. ほとんどの施設で、協力を得られなかった	4. これまで依頼したことがない
<b>*問20-4.1.</b> 利用者とのオンラインによる交流	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-4.2.</b> オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-4.3.</b> シミュレーターを用いての介護技術に関する演習	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-4.4.</b> 模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ視聴と解説、試問、レポート提出）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-4.5.</b> 介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-4.6.</b> 介護記録等を用いたケーススタディ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

<b>*問20-4.7.</b> 実習予習ノート等を用いた学生の在宅学習（指導教員や実習施設指導担当者の質問へ回答）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-4.8.</b> 資料等で模擬的に利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-4.9.</b> リアルタイムで利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問20-4.10.</b> 学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイ形式での介護技術の修得	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>問20-4.11.</b> その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

**問20-4.11.**  
「その他」を回答された方は、対応内容を入力してください。

[page 14 / 18]

<p><b>*問20-5.</b> 【問20-実習Ⅱで「1. あり」を選択した方】 前問で回答いただいた代替実習内容（実習Ⅱ）の中で、実習目標を達成するため最も効果があったと感じる形式を教えてください。（1つ選択）</p>
<input type="radio"/> 1. 利用者とのオンラインによる交流
<input type="radio"/> 2. オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション
<input type="radio"/> 3. シミュレーターを用いての介護技術に関する演習
<input type="radio"/> 4. 模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ視聴と解説、試問、レポート提出）
<input type="radio"/> 5. 介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業
<input type="radio"/> 6. 介護記録等を用いたケーススタディ
<input type="radio"/> 7. 実習予習ノート等を用いた学生の在宅学習（指導教員や実習施設指導担当者の質問へ回答）
<input type="radio"/> 8. 資料等で模擬的に利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定
<input type="radio"/> 9. リアルタイムで利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定
<input type="radio"/> 10. 学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイ形式での介護技術の修得
<input type="radio"/> 11. その他

**問20-6.**  
【問20-実習Ⅱで「1. あり」を選択した方】  
前問で回答いただいた「実習目標を達成するため最も効果があったと感じる代替実習（実習Ⅱ）」について、以下の5点を教えてください。

<p><b>問20-6.1.</b> 具体的な実習内容</p> <p>(例)「利用者とのオンラインによる交流」選択の場合： 利用者とWEB会議システムを接続し、学生から利用者に対するコミュニケーションを図った。その際、施設から提供を受けた利用者のフェイスシート等の情報をも踏まえ、当該利用者に関するケアの方向性を考えるグループワークを行った。</p>	
---	--

**\*問20-6.2.**  
どのような実習目標を達成するために行ったか（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 介護福祉士の業務に対する姿勢の理解・実践
<input type="checkbox"/>	2. 介護現場でのコミュニケーション実践
<input type="checkbox"/>	3. 介護福祉士としての職業倫理の理解・実践
<input type="checkbox"/>	4. 介護施設・事業所の理念・基本方針・概要・役割・機能の理解
<input type="checkbox"/>	5. 利用者像の理解（利用者の思いや希望を理解できているか）
<input type="checkbox"/>	6. 利用者を観察する視点の発揮
<input type="checkbox"/>	7. 利用者の生活と地域との関わりについての理解
<input type="checkbox"/>	8. 介護の根拠の理解
<input type="checkbox"/>	9. 介護技術の実践
<input type="checkbox"/>	10. 自立支援にかかる概念の理解
<input type="checkbox"/>	11. 介護過程の展開に関する実施
<input type="checkbox"/>	12. 施設・事業所内での多職種連携の必要性の理解
<input type="checkbox"/>	13. 施設・事業所と、地域の他施設・事業所との多職種連携の必要性の理解
<input type="checkbox"/>	14. その他
<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>

<p><b>問20-6.3.</b> 実習を行う上での工夫</p> <p>(例)「利用者とのオンラインによる交流」選択の場合： オンラインで会話するため、利用者との距離を考え、学生の自己紹介から始まり、利用者との交流時間は短時間に分けて複数回実施する等、利用者には負担がかからず、かつできるだけ対面で交流する場合と違いが出ないような工夫を行った。</p>	
<p><b>問20-6.4.</b> 実習の効果</p> <p>(例)「利用者とのオンラインによる交流」選択の場合： 実際の利用者の状態や会話を教員も知ること、学生が立案する介護計画の方向性についての指導ができ、しやすく、有益な代替実習となった。学生の利用者像の理解状況、および利用者を観察する視点の醸成につながった。</p>	
<p><b>問20-6.5.1.</b> 実習の課題</p> <p>(例)「利用者とのオンラインによる交流」選択の場合： 実際に対面していない利用者の状態像を学生に理解してもらうのに苦心した。特に、既往症や状態像についての理解のもとに、その後の状態の変化を察知する点に関し、理解がついていけない学生が多かった。</p>	

<p><b>問20-6.5.2.</b> 実習の課題に対する対応</p> <p>(例)「利用者とのオンラインによる交流」選択の場合： 利用者とのオンライン交流の前に、あらかじめ施設から提供いただいたフェイスシートの再確認を行い、どのような状態像か、どのような状態の変化が予測されるかを毎回確認したうえで、交流を行った。</p>	
---	--

**問21.**  
【問20. 実習Ⅰ／実習Ⅱどちらかもしくは両方で「1. あり」を選択した方】

実習Ⅰ、Ⅱいずれか、もしくは双方の通常の介護実習の効果と代替実習の効果と比べ、その差を教えてください。（それぞれ1つ選択）

※複数の代替実習を行っている場合、代替実習全体の効果についてお答えください。

	1. + (通常実習を上回る効果がみられた)	2. 同等 (通常実習と同等の効果がみられた)	3. - (通常実習と比べ、効果がみられなかった)	4. 確認不可 (効果の確認そのものができなかった)
<b>*問21.1.</b> 介護福祉士の業務に対する姿勢の理解・実践	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問21.2.</b> 介護現場でのコミュニケーション実践	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問21.3.</b> 介護福祉士としての職業倫理の理解・実践	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問21.4.</b> 介護施設・事業所の理念・基本方針・概要・役割・機能の理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問21.5.</b> 利用者像の理解（利用者の思いや希望を理解できているか）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問21.6.</b> 利用者を観察する視点の発揮	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問21.7.</b> 利用者の生活と地域との関わりについての理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

	1. + (通常実習を上回る効果がみられた)	2. 同等 (通常実習と同等の効果がみられた)	3. - (通常実習と比べ、効果がみられなかった)	4. 確認不可 (効果の確認そのものができなかった)
<b>*問21.8.</b> 介護の根拠の理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問21.9.</b> 介護技術の実践	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問21.10.</b> 自立支援にかかる概念の理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問21.11.</b> 介護過程の展開に関する実施	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問21.12.</b> 施設・事業所内での多職種連携の必要性の理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問21.13.</b> 施設・事業所と、地域の他施設・事業所との多職種	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

連携の必要性の理解				
問21.14. その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

**問21.14.**  
「その他」を回答された方は、具体的な内容を入力してください。

[page 16 /18]

#### IV. 貴校の基礎情報

**\*問22.**  
貴校の養成校の種別を教えてください。（1つ選択）

<input type="radio"/>	1. 高等学校
<input type="radio"/>	2. 専門学校
<input type="radio"/>	3. 短期大学
<input type="radio"/>	4. 大学

[page 17 /18]

**\*問22-1.**  
【問22で「1. 高等学校」を選択した方】

貴校の高校名を教えてください。

**\*問22-2.**  
【問22で「1. 高等学校」を選択した方】

貴校の介護福祉士養成課程年数を教えてください。（1つ選択）

<input type="radio"/>	1. 2年
<input type="radio"/>	2. 3年

**\*問22-3.**  
【問22で「1. 高等学校」を選択した方】

貴校の介護福祉士養成課程における学生数を教えてください。（数値）

※2023年9月1日時点の状況を記入してください。  
（全学年計、介護福祉養成課程のみ）

介護福祉養成課程の全生徒  名（半角数字）

**\*問22-4.**  
【問22で「1. 高等学校」以外を選択した方】

貴校の4桁の養成校の番号（会員番号）を教えてください。（数値）

（半角数字）

**\*問22-5.**  
【問22で「1. 高等学校」以外を選択した方】

貴校の介護福祉士養成課程年数を教えてください。（1つ選択）

<input type="radio"/>	1. 1年制
<input type="radio"/>	2. 2年制
<input type="radio"/>	3. 3年制
<input type="radio"/>	4. 4年制

**問22-6.**  
【問22で「1. 高等学校」以外を選択した方】

貴校の介護福祉士養成課程における学生数を教えてください。（数値）

※2023年9月1日時点の状況を記入してください。

<b>*問22-6.1.</b> 全校生徒（全学年計）	<input type="text"/>	名（半角数字）
<b>*問22-6.2.</b> うち留学生（全学年計）	<input type="text"/>	名（半角数字）

**問23.**  
貴校の教員数を教えてください。（数値）

※2023年9月1日時点の状況を記入してください。

<b>*問23.1.1.</b> 専任教員数	<input type="text"/>	名（半角数字）
<b>*問23.1.2.</b> うち実習担当者	<input type="text"/>	名（半角数字）
<b>*問23.2.1.</b> その他教員数	<input type="text"/>	名（半角数字）
<b>*問23.2.2.</b> うち実習担当者	<input type="text"/>	名（半角数字）

**\*問24.**  
実習における養成校内での実習指導責任者の設置状況を教えてください。（1つ選択）

<input type="radio"/>	1. 設置している
<input type="radio"/>	2. 設置していない
<input type="radio"/>	3. 実習担当教員は1名しかいない

[page 18 /18]

**問25.**  
今後、養成校と実習施設の連携についてのヒアリングをお願いする可能性があります。もし、ヒアリングをお受けしていただける場合は、弊社からご連絡する際に使用しますので、ご担当名・ご連絡先等をご教示ください。

**問25.1.**  
ご担当者名

<b>問25.2.</b> 電話番号 ※ハイフン(-)なしで入力してください	<input type="text"/>
--	----------------------

<b>問25.3.</b> メールアドレス	<input type="text"/>
<b>問25.3.</b> メールアドレス (恐れ入りますが確認のため、もう一度、ご入力をお願いいたします。)	<input type="text"/>

以上でアンケートは終了です。  
ご協力ありがとうございました。

最後に入力漏れがないかどうかの確認をしていただき、



をクリックしてください。



## 介護実習に関するアンケート調査（実習施設向け）

【\*】は必須回答です

[page 1 /15]

実習施設向け  
令和5年9月

厚生労働省 老人保健健康増進等事業  
「介護福祉士養成校と実習施設が連携した実習のあり方に関する調査研究事業」

### 介護実習に関するアンケート調査

#### 【本調査の目的】

介護職員の確保・専門性向上が喫緊の課題となっている中、介護福祉士養成施設等（介護福祉士養成施設および福祉系高校を指す。以下、養成校という）では、2019年度からの養成課程への新カリキュラムが導入され、養成校と実習先となる介護施設（以下、実習施設という）の双方に向け、介護実習におけるガイドライン（日本介護福祉士会、2019）が作成されています。また、平成24年より実習Ⅱに該当する実習施設に受講が義務付けられた実習指導者講習会により、介護実習における実習内容の質は高まってきています。しかしながら、未だ実習施設の実習指導者によって実習指導方法や実習指導の質に差が生じているといった実態や、養成校の教員と実習指導者の間の連携不足のため実習の質が担保されていないといった実態が指摘されており、質の高い実習教育の提供に向けて改善の必要性が指摘されています。

このため、本事業では、介護実習に関する養成校の教員等が行う実習準備や、実習中の巡回指導の実態、および実習施設の実習指導者が行う受け入れ準備の実習対応の実態等を調査することを目的に、アンケート調査を実施します。

新型コロナウイルス感染症の流行により、利用者の生活を第一としながらの実習受け入れには、多くの困難があることと思います。このような中での介護福祉士養成に欠かせない実習実施のため、養成校と実習施設がどのように協力・連携していけば良いかを検討していく必要があります。今回の調査結果は、厚生労働省に報告し、上記観点も踏まえ、適切な介護実習の在り方の検討にむけた基礎資料として活用されるものです。本調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力を賜りますようお願い申し上げます。

#### 【本調査の対象】


過去5年以内（2018年度～2022年度）に養成校所属学生の実習先となった全国の実習施設  
※各施設・事業所の実習指導責任者の方にご回答をお願いします

#### 【回答期限】

**10月6日（金）まで**にご回答ください。

#### 【回答時の注意事項】

1. ページ内の全ての質問への回答後、「進む」をクリックして、次に進んでください。

2. ブラウザの戻るボタンは**利用できません**。画面の上下にある  をクリックしてください。

3. 最終ページの「送信」をクリックして調査は完了します。

4. 「送信」をクリックした後は、回答の変更はできませんので、ご注意ください。

5. 画面を開いてから、**20分以上経過**すると、タイムアウトが発生し、**回答結果を失ってしまう**場合がございます。回答に時間がかかる場合や、長時間離席をされる場合は、「**一時保存し終了する**」ボタンを押して一時保存していただきますようお願いいたします。「途中再開用のURL」が発行されます。

6. 回答を再開する場合は、「途中再開用のURL」にアクセスしてください。途中保存したページから再開することができます。

#### 【調査票の取扱いに関しまして】

ご回答いただきました内容につきましては、次のように取扱います。

・調査で得られた内容は、安全措置を講じてデータの漏洩がないように保管し、施設や回答者が特定できないよう統計処理をいたします。また、研究終了後は、個人情報に該当するデータを破棄いたします。

・調査への拒否があっても、そのことで不利益が生じることは一切ございません。

#### ■本調査に関する問合せ先

PwCコンサルティング合同会社 公共事業部（担当：安田(やすだ)・岡田(おかだ)・福村(ふくむら)）  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi Oneタワー  
E-mail：##\_###@###.###

[page 2 /15]

#### I. 2022年度の実習に関する基礎情報

※以下、2022年度の1年間における貴施設・事業所での介護実習についてお答えください

##### \*問1.

2022年度1年間で受け入れた養成校（介護福祉士養成施設および福祉系高校）からの実習について、あてはまるものを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

※実習Ⅰは、利用者の生活の場である多様な介護現場において、個々の利用者の生活リズムや個性を理解した上で個別ケアを理解し、利用者及び家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解することに重点を置いた内容とすること、とされています。

※実習Ⅱは、一の施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他の科目で学習した知識及び技術等を統合し、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得することに重点を置いた内容とすること、とされています。

- |                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1. 実習Ⅰ                |
| <input type="checkbox"/> | 2. 実習Ⅱ                |
| <input type="checkbox"/> | 3. 2022年度は実習を受け入れていない |

[page 3 /15]

##### 問1-1.

【問1で「1. 実習Ⅰ」を選択した方】

実習Ⅰについて、以下の情報を教えてください。

\*

【実習Ⅰ】2022年度1年間の実習受け入れ学校総数（数値）

校（半角数字、整数）

学生1人を受け入れるにあたりかけている所要時間（数値）

※標準的な時間をお答えください

※施設全体で何時間かけているかについてお答えください

* 【実習Ⅰ】受入れ前の準備時間（合計）	<input type="text"/>	時間（半角数字、小数点第一位まで）
* 【実習Ⅰ】受入れ中の1日あたりの指導時間	<input type="text"/>	時間（半角数字、小数点第一位まで）
* 【実習Ⅰ】評価等、受入れ終了後のフォローにかかる時間（合計）	<input type="text"/>	時間（半角数字、小数点第一位まで）

#### 問1-2.

【問1で「2. 実習Ⅱ」を選択した方】

実習Ⅱについて、以下の情報を教えてください。

\*

【実習Ⅱ】2022年度1年間の実習受入れ学校総数（数値）

校（半角数字、整数）

学生1人を受け入れるにあたりかけている所要時間（数値）

※標準的な時間をお答えください

※施設全体で何時間かけているかについてお答えください

* 【実習Ⅱ】受入れ前の準備時間（合計）	<input type="text"/>	時間（半角数字、小数点第一位まで）
* 【実習Ⅱ】受入れ中の1日あたりの指導時間	<input type="text"/>	時間（半角数字、小数点第一位まで）
* 【実習Ⅱ】評価等、受入れ終了後のフォローにかかる時間（合計）	<input type="text"/>	時間（半角数字、小数点第一位まで）

[page 4 /15]

## Ⅱ. 実習の具体的な対応および工夫点

※以下、時期を問わず、これまで貴施設・事業所で行った介護実習全般についてお答えください

\*問2.

【実習ⅠⅡ全般】

貴施設・事業所が養成校（介護福祉士養成施設および福祉系高校）からの実習を受け入れている目的を教えてください。（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 人材養成・人材育成
<input type="checkbox"/>	2. 地域貢献
<input type="checkbox"/>	3. 職員教育
<input type="checkbox"/>	4. 養成校との関係性構築
<input type="checkbox"/>	5. 自施設・事業所における将来の人材確保
<input type="checkbox"/>	6. その他
<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>

【実習前対応】

\*問3.

【実習ⅠⅡ全般】

実習前、施設・事業所内でのような対応を行っているかを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 学生の個別特性や、その対応について、養成校と協議
<input type="checkbox"/>	2. 学生の個別特性や、その対応について、学生本人と協議
<input type="checkbox"/>	3. 学生の個別特性や、その対応について、施設・事業所内で協議
<input type="checkbox"/>	4. 実習計画について、養成校と協議
<input type="checkbox"/>	5. 実習計画について、学生本人と協議
<input type="checkbox"/>	6. 実習計画について、施設・事業所内で協議
<input type="checkbox"/>	7. 実習評価について、養成校と協議
<input type="checkbox"/>	8. 実習評価について、学生本人と協議
<input type="checkbox"/>	9. 実習評価について、施設・事業所内で協議
<input type="checkbox"/>	10. 学生が参加する事前のオリエンテーション等を実施
<input type="checkbox"/>	11. 養成校教員と実習施設職員が共同で実習前研修を実施
<input type="checkbox"/>	12. その他
<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>

問4.

【実習ⅠⅡ全般】

前問で回答した項目のうち、実習前に行う養成校との連携について、実習の効果を高めるため、具体的にどのような工夫をしているかを教えてください。

(例)養成校と電話し、学生の学習特性を踏まえ、どのような指導を行うべきかについて協議を行う 等

[page 5 /15]

【実習中対応】

\*問5.

【実習ⅠⅡ全般】

貴施設・事業所において、実習を受け入れるにあたってどのような体制をとっているかを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 受入れマニュアルを整備している
<input type="checkbox"/>	2. 実習に関する委員会などの組織があり、実習対応に関する事柄を検討できる
<input type="checkbox"/>	3. 施設・事業所内の各組織（委員会等）の窓口を明確にしている
<input type="checkbox"/>	4. 実習指導担当者を複数体制化している
<input type="checkbox"/>	5. 実習指導担当者内で、責任者を設置している
<input type="checkbox"/>	6. 実習受入れ担当者（マネジメント・調整、書類のやり取り）と実習指導の役割分担をしている
<input type="checkbox"/>	7. 施設・事業所内における多職種連携の実態が学べるよう、実習プログラムを工夫している
<input type="checkbox"/>	8. 施設・事業所と外部の施設・事業所等、地域での多職種連携の実態が学べるよう、実習プログラムを工夫している
<input type="checkbox"/>	9. 利用者の生活と地域とのかかわりがわかるよう、実習プログラムを工夫している
<input type="checkbox"/>	10. 地域拠点としての施設・事業所の役割がわかるよう、実習プログラムを工夫している

<input type="checkbox"/>	11. できるだけ毎日短時間でも、実習指導担当者による学生への指導時間を確保している
<input type="checkbox"/>	12. 実習指導担当者の勤務時間帯を調整している（実習期間中は日動にするなど）
<input type="checkbox"/>	13. その他 <input type="text"/>

**問6.**  
**【実習ⅠⅡ全般】**  
 前問で回答した実習を受け入れるにあたっての体制の工夫について、実習の効果を高めるため、具体的にどのような工夫をしているかを教えてください。

(例)施設長の判断のもと、実習指導担当者は業務時間を調整し、必ず毎日実習生へスーパージョブの時間を設けるようにする 等

**\*問7.**  
**【実習ⅠⅡ全般】**  
 貴施設・事業所での実習において、学生が体験する内容を教えてください。（あてはまるものすべて選択）

※新型コロナウイルス感染症の影響がない場合、通常実施する内容についてお答えください

<input type="checkbox"/>	1. 管理者・経営者等との面談・対話
<input type="checkbox"/>	2. 施設・事業所内・法人施設の見学
<input type="checkbox"/>	3. 施設・事業所内のイベント等企画への参加
<input type="checkbox"/>	4. 利用者とのコミュニケーション
<input type="checkbox"/>	5. 実習指導担当者の業務同行
<input type="checkbox"/>	6. 利用者／利用者家族に対する実習に関する説明
<input type="checkbox"/>	7. 利用者家族との面談への同席
<input type="checkbox"/>	8. 介護職種のみによる自施設・事業所／自法人内職員会議やカンファレンスへの同席
<input type="checkbox"/>	9. 多職種も交えた自施設・事業所／自法人内職員会議やカンファレンスへの同席
<input type="checkbox"/>	10. 介護職種のみによる他施設・機関／地域の会議やカンファレンスへの同席
<input type="checkbox"/>	11. 多職種も交えた他施設・機関／地域の会議やカンファレンスへの同席
<input type="checkbox"/>	12. 受け持ち利用者を通じた介護過程の実践
<input type="checkbox"/>	13. 利用者への直接介護（状態像が軽い方）
<input type="checkbox"/>	14. 利用者への直接介護（重度認知症／医療的ケア等、状態像が重い方）
<input type="checkbox"/>	15. 施設・事業所／法人内研修への参加
<input type="checkbox"/>	16. 実習まとめの報告会の実施
<input type="checkbox"/>	17. その他 <input type="text"/>

**\*問8.**  
**【実習ⅠⅡ全般】**

前問で回答した項目のうち、新型コロナウイルス感染症による影響で、実施不可となった内容、または実施制限を余儀なくされた内容があれば、教えてください。（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 管理者・経営者等との面談・対話
<input type="checkbox"/>	2. 施設・事業所内・法人施設の見学
<input type="checkbox"/>	3. 施設・事業所内のイベント等企画への参加
<input type="checkbox"/>	4. 利用者とのコミュニケーション
<input type="checkbox"/>	5. 実習指導担当者の業務同行
<input type="checkbox"/>	6. 利用者／利用者家族に対する実習に関する説明
<input type="checkbox"/>	7. 利用者家族との面談への同席
<input type="checkbox"/>	8. 介護職種のみによる自施設・事業所／自法人内職員会議やカンファレンスへの同席
<input type="checkbox"/>	9. 多職種も交えた自施設・事業所／自法人内職員会議やカンファレンスへの同席
<input type="checkbox"/>	10. 介護職種のみによる他施設・機関／地域の会議やカンファレンスへの同席
<input type="checkbox"/>	11. 多職種も交えた他施設・機関／地域の会議やカンファレンスへの同席
<input type="checkbox"/>	12. 受け持ち利用者を通じた介護過程の実践
<input type="checkbox"/>	13. 利用者への直接介護（状態像が軽い方）
<input type="checkbox"/>	14. 利用者への直接介護（重度認知症／医療的ケア等、状態像が重い方）
<input type="checkbox"/>	15. 施設・事業所／法人内研修への参加
<input type="checkbox"/>	16. 実習まとめの報告会の実施
<input type="checkbox"/>	17. その他 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	18. 特になし

**\*問9.**  
**【実習ⅠⅡ全般】**  
 貴施設・事業所にて、実習に関する実習指導担当者の対応を業務として位置付けているかについて教えてください。（1つ選択）

<input type="radio"/>	1. 業務として位置付けている
<input type="radio"/>	2. 業務として位置付けていない

**\*問10.**  
**【実習ⅠⅡ全般】**  
 貴施設・事業所における実習担当者に対する処遇について教えてください。（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 実習以外の業務負担軽減をする等、勤務体制を調整している
<input type="checkbox"/>	2. 「手当」を出している
<input type="checkbox"/>	3. 「役職」がつくなどの評価をしている
<input type="checkbox"/>	4. 残業などで業務外になると、業務外手当をつけている
<input type="checkbox"/>	5. その他 <input type="text"/>

**\*問11.**  
**【実習ⅠⅡ全般】**  
 養成校教員の巡回指導時における、教員との面談状況を教えてください。（1つ選択）

<input type="radio"/>	1. 毎回、必ず教員と面談する
-----------------------	-----------------

<input type="radio"/>	2. ほとんどの場合、教員と面談する
<input type="radio"/>	3. 教員と面談するときもあれば、しないときもある
<input type="radio"/>	4. ほとんどの場合、教員とは面談しない
<input type="radio"/>	5. 教員と面談することはない

**\*問12.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
巡回指導時に、実習内容／実習目標の到達状況に関し、教員とどのような項目について協議するかを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 介護福祉士の業務に対する姿勢の理解・実践状況
<input type="checkbox"/>	2. 介護現場でのコミュニケーション実践状況
<input type="checkbox"/>	3. 介護福祉士としての職業倫理の理解・実践状況
<input type="checkbox"/>	4. 介護施設・事業所の理念・基本方針・概要・役割・機能の理解状況
<input type="checkbox"/>	5. 利用者像の理解状況（利用者の思いや希望を理解できているか）
<input type="checkbox"/>	6. 利用者を観察する視点の発揮状況
<input type="checkbox"/>	7. 利用者の生活と地域との関わりについての理解状況
<input type="checkbox"/>	8. 介護の根拠の理解状況
<input type="checkbox"/>	9. 介護技術の実践状況
<input type="checkbox"/>	10. 自立支援にかかるとの概念の理解状況
<input type="checkbox"/>	11. 介護過程の展開に関する実施状況
<input type="checkbox"/>	12. 施設・事業所内での多職種連携の必要性の理解状況
<input type="checkbox"/>	13. 施設・事業所と、地域の他施設・事業所との多職種連携の必要性の理解状況
<input type="checkbox"/>	14. その他 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	15. 特に協議をしていない

**問13.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
巡回指導時の教員との面談に際し、実習の効果をも高めるため、具体的にどのような工夫をしているかを教えてください。

(例)実習時に学生が判断に迷った内容や理解ができていない事柄などを施設・事業所内の担当者で整理し、教員に伝える 等

**\*問14.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
養成校教員の巡回指導時における教員との面談について、実習生が同席することとなっているかを教えてください。（1つ選択）

<input type="radio"/>	1. 毎回、必ず実習生が同席する
<input type="radio"/>	2. ほとんどの場合、実習生が同席する
<input type="radio"/>	3. 実習生が同席するときもあれば、しないときもある
<input type="radio"/>	4. ほとんどの場合、実習生は同席しない

<input type="radio"/>	5. 実習生が同席することはない
-----------------------	------------------

【実習後対応】

**問15.**  
【実習ⅠⅡ全般】  
実習の評価をするうえでの工夫点を、具体的に教えてください。

(例)評価について、現場職員の複数名で確認し、評価内容に客観性を持たせる 等

Ⅲ. 代替実習を実施した際の工夫点

※以下、時期を問わず、これまで貴施設・事業所で行った代替実習全般についてお答えください

**代替実習の定義**

参考：「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」（令和2年6月1日付け文部科学省・厚生労働省連名事務連絡）。

■新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、実習施設の変更を検討したにもかかわらず、実習施設の確保が困難となったために、以下のいずれかで実施すること。

ア. 年度をまたいで実習を実施すること。  
イ. 実習に代えて演習又は学内実習等を実施すること。

**⇒本調査においては、上記のうち「イ. 実習に代えて演習又は学内実習等を実施すること。」に該当する実習を代替実習と定義します。**

具体的な事例を確認されたい場合は以下をご覧ください。

■実践事例等  
参考：「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」（令和2年6月1日付け文部科学省・厚生労働省連名事務連絡）。

- (1)三密を避けた状態での、シミュレーターを用いたの基本手技の実習。
- (2)オンラインによる模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、手術や手技のビデオ視聴と解説、試問、レポート提出）。
- (3)オンラインによる臨床推論能力の養成を目的とする授業。
- (4)研究棟や講義棟での電子カルテを用いた症例検討や動画視聴、シミュレーターによる技能学習（人数制限並びに部屋の換気等感染防止措置を実施。）。
- (5)学習の臨床実習予習ノートを用いた e-Learning による在宅学習（各実習の指導教員がメールでの質問への回答）。
- (6)事例データベースを作成し、事例データベースを基に、学内においてシミュレーション教育を実施。
- (7)臨床実習指導者参加型遠隔指導システムを使用し、書面や動画を含めて臨床推論指導を実施。
- (8)実習先講師を招聘し、実習先での状況や実習を行った時の対応など、通常より現場に近い授業演習を実施。
- (9)臨地（病室、在宅、居室）と大学をオンライン接続し、以下の内容の学内実習を行う。
  - ・臨床実習への協力の同意を得た患者にオンラインで聴取する。
  - ・指導教員が収集した患者の日々の様子の映像情報を用いて、計画を策定する。
  - ・リアルタイムの患者の状況を確認・評価しながら、日々の計画を策定する。
  - ・学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイを通じて技術を習得する。

**問16.**  
これまで、実習生を受け入れる立場で、養成校と共同して代替実習を実施したことがあるかを教えてください。（それぞれ1つ選

択)

**\*問16.1.**  
実習 I

<input type="radio"/>	1. あり
<input type="radio"/>	2. なし

**\*問16.2.**  
実習 II

<input type="radio"/>	1. あり
<input type="radio"/>	2. なし

[page 8 /15]

【実習 I】

**問16-1.**  
【問16-実習 I で「1. あり」を選択した方】

実施した代替実習（実習 I）について、具体的な対応内容と対応方法が、どのような内容であったかを教えてください。（それぞれ1つ選択）

※実習施設がなんらか協力をした代替実習についてご回答ください

	1. 完全オンライン で実施	2. オンライン/対 面併用で実施	3. 対面のみで実施	4. 実施していない
<b>*問16-1.1.</b> 利用者とのオンラインによる交流	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-1.2.</b> オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-1.3.</b> シミュレーターを用いての介護技術に関する演習	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-1.4.</b> 模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ視聴と解説、試問、レポート提出）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-1.5.</b> 介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-1.6.</b> 介護記録等を用いたケーススタディ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-1.7.</b> 実習予習ノート等を用いた学生の在宅学習（指導教員や実習施設指導担当者の質問へ回答）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-1.8.</b> 資料等で模擬的に利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-1.9.</b> リアルタイムで利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-1.10.</b> 学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイ形式での介護技術の修得	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>問16-1.11.</b> その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

**問16-1.11.**  
「その他」を回答された方は、対応内容を入力してください。

[page 9 /15]

**\*問16-2.**  
【問16-実習 I で「1. あり」を選択した方】

前問で回答いただいた代替実習（実習 I）の形式の中で、実習目標を達成するため最も効果があったと感じる形式を教えてください。（1つ選択）

<input type="radio"/>	1. 利用者とのオンラインによる交流
<input type="radio"/>	2. オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション
<input type="radio"/>	3. シミュレーターを用いての介護技術に関する演習
<input type="radio"/>	4. 模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ視聴と解説、試問、レポート提出）
<input type="radio"/>	5. 介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業
<input type="radio"/>	6. 介護記録等を用いたケーススタディ
<input type="radio"/>	7. 実習予習ノート等を用いた学生の在宅学習（指導教員や実習施設指導担当者の質問へ回答）
<input type="radio"/>	8. 資料等で模擬的に利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定
<input type="radio"/>	9. リアルタイムで利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定
<input type="radio"/>	10. 学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイ形式での介護技術の修得
<input type="radio"/>	11. その他

**問16-3.**  
【問16-実習 I で「1. あり」を選択した方】

前問で回答いただいた「実習目標を達成するため最も効果があったと感じる代替実習（実習 I）」について、以下の点を教えてください。

- ・具体的な実習内容
- ・当該実習を実施するために行った養成校教員とのやりとりに関する工夫点

<p>具体的な実習内容</p> <p>(例)「利用者とのオンラインによる交流」選択の場合： 養成校とオンライン会議形式でWEB会議システムを接続し、あらかじめ許可を得た利用者と、学生とのコミュニケーションの時間を定期的に設けた。その際、あらかじめ施設が提供した利用者のフェイスシート等の情報をふまえ、学生が当該利用者に関するケアの方向性を考えるグループワークを行った。養成校教員が利用者の状態像も把握できる環境であったため、学生がたてたケアの方向性についての指導について、実習指導担当者と養成校教員双方で指導することができ、有益な時間となった 等</p>	
<p>やり取りにおける工夫点</p> <p>(例)「利用者とのオンラインによる交流」選択の場合： どのような利用者と会話するかについて、養成校教員と事前打ち合わせを行った。打ち合わせの結果、学生が理解しやすい状態像の利用者と、理解が難しい利用者の2パターンを用意することで、学生の理解を深められるとの結論に至った。パターンに分けて利用者の状態像を深く考えてみるといった視点で指導すると、学ぶ者の理解も深まりやすい点が理解でき、自施設で職員を指導する際にも参考にできると感じた 等</p>	

【実習Ⅱ】

**問16-4.**  
【問16—実習Ⅱで「1. あり」を選択した方】

実施した代替実習（実習Ⅱ）について、具体的な対応内容と対応方法が、どのような内容であったかを教えてください。（それぞれ1つ選択）

※実習施設がなんらか協力をした代替実習についてご回答ください

	1. 完全オンライン で実施	2. オンライン/対 面併用で実施	3. 対面のみで実施	4. 実施していない
<b>*問16-4.1.</b> 利用者とのオンラインによる交流	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-4.2.</b> オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-4.3.</b> シミュレーターを用いての介護技術に関する演習	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-4.4.</b> 模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ視聴と解説、試問、レポート提出）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-4.5.</b> 介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-4.6.</b> 介護記録等を用いたケーススタディ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-4.7.</b> 実習予習ノート等を用いた学生の在宅学習（指導教員や実習施設指導担当者の質問へ回答）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-4.8.</b> 資料等で模擬的に利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-4.9.</b> リアルタイムで利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>*問16-4.10.</b> 学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイ形式での介護技術の修得	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>問16-4.11.</b> その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

**問16-4.11.**  
「その他」を回答された方は、対応内容を入力してください。

**\*問16-5.**  
【問16—実習Ⅱで「1. あり」を選択した方】

前問で回答いただいた代替実習（実習Ⅱ）の形式の中で、実習目標を達成するため最も効果があったと感じる形式を教えてください。（1つ選択）

<input type="radio"/>	1. 利用者とのオンラインによる交流
-----------------------	--------------------

<input type="radio"/>	2. オンライン又は招聘による施設・事業所職員とのディスカッション
<input type="radio"/>	3. シミュレーターを用いての介護技術に関する演習
<input type="radio"/>	4. 模擬実習（カンファレンス、ミニ講義、介護技術のビデオ視聴と解説、試問、レポート提出）
<input type="radio"/>	5. 介護現場における利用者を観察する視点の醸成を目的とする授業
<input type="radio"/>	6. 介護記録等を用いたケーススタディ
<input type="radio"/>	7. 実習予習ノート等を用いた学生の在宅学習（指導教員や実習施設指導担当者の質問へ回答）
<input type="radio"/>	8. 資料等で模擬的に利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定
<input type="radio"/>	9. リアルタイムで利用者の状況の変化を確認・評価しながらの計画策定
<input type="radio"/>	10. 学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイ形式での介護技術の修得
<input type="radio"/>	11. その他

**問16-6.**  
【問16—実習Ⅱで「1. あり」を選択した方】  
前問で回答いただいた「実習目標を達成するため最も効果があったと感じる代替実習（実習Ⅱ）」について、以下の点を教えてください。

- ・具体的な実習内容
- ・当該実習を実施するために行った養成校教員とのやりとりに関する工夫点

具体的な実習内容  (例)「利用者とのオンラインによる交流」選択の場合： 養成校とオンライン会議形式でWEB会議システムを接続し、あらかじめ許可を得た利用者と、学生とのコミュニケーションの時間を定期的に設けた。その際、あらかじめ施設が提供した利用者のフェイスシート等の情報をふまえ、学生が当該利用者に関するケアの方向性を考えるグループワークを行った。養成校教員が利用者の状態像も把握できる環境であったため、学生がたてたケアの方向性についての指導について、実習指導担当者と養成校教員双方で指導することができ、有益な時間となった 等	
やり取りにおける工夫点  (例)「利用者とのオンラインによる交流」選択の場合： どのような利用者と会話するかについて、養成校教員と事前打ち合わせを行った。打ち合わせの結果、学生が理解しやすい状態像の利用者と、理解が難しい利用者の2パターン用意することで、学生の理解を深められるとの結論に至った。パターンに分けて利用者の状態像を深く考えてみるといった視点で指導すると、学ぶ者の理解も深まりやすい点が理解でき、自施設で職員を指導する際にも参考にできると感じた 等	

**問17.**  
【問16—実習Ⅰ／実習Ⅱどちらかもしくは両方で「1. あり」を選択した方】

実習Ⅰ、Ⅱいずれか、もしくは双方の通常の介護実習の効果と代替実習の効果とを比べ、その差を教えてください。（それぞれ1つ選択）

※複数の代替実習を行っている場合、代替実習全体の効果についてお答えください。

<input type="radio"/>	1. + (通常実習を上回る効果が見られた)	<input type="radio"/>	2. 同等 (通常実習と同等の効果が見られた)	<input type="radio"/>	3. - (通常実習と比べ、効果がみられなかった)	<input type="radio"/>	4. 確認不可 (効果の確認そのものができなかった)
-----------------------	---------------------------	-----------------------	----------------------------	-----------------------	------------------------------	-----------------------	-------------------------------

*問17.1. 介護福祉士の業務に対する姿勢の理解・実践	○	○	○	○
*問17.2. 介護現場でのコミュニケーション実践	○	○	○	○
*問17.3. 介護福祉士としての職業倫理の理解・実践	○	○	○	○
*問17.4. 介護施設・事業所の理念・基本方針・概要・役割・機能の理解	○	○	○	○
*問17.5. 利用者像の理解（利用者の思いや希望を理解できているか）	○	○	○	○
*問17.6. 利用者を観察する視点の発揮	○	○	○	○
*問17.7. 利用者の生活と地域との関わりについての理解	○	○	○	○

	1. + (通常実習を上回る 効果がみられた)	2. 同等 (通常実習と同等の 効果がみられた)	3. - (通常実習と比べ、 効果がみられなかつた)	4. 確認不可 (効果の確認そのも のができなかった)
*問17.8. 介護の根拠の理解	○	○	○	○
*問17.9. 介護技術の実践	○	○	○	○
*問17.10. 自立支援にかかる概念の理解	○	○	○	○
*問17.11. 介護過程の展開に関する実施	○	○	○	○
*問17.12. 施設・事業所内での多職種連携の必要性の理解	○	○	○	○
*問17.13. 施設・事業所と、地域の他施設・事業所との多職種連携の必要性の理解	○	○	○	○
問17.14. その他	○	○	○	○

#### 問17-14.

「その他」を回答された方は、具体的な内容を入力してください。

[page 13 / 15]

## Ⅳ. 実習におけるメリット、困りごと

※以下、時期を問わず、これまで貴施設・事業所で行った介護実習全般についてお答えください

#### 問18.

【実習ⅠⅡ全般】  
実習を受け入れた際の貴施設・事業所におけるメリットがあれば、具体的に教えてください。

(例)学生に指導を行う中で、自施設におけるルールがなく職員によって対応がバラバラとなっていた事象をあぶりだすことができ、ルーブル化できたことで、介護業務の効率化が図れ、かつ新人職員にも指導しやすくなった 等

#### \*問19.

【実習ⅠⅡ全般】  
実習を受け入れる上での養成校に対する困りごとについて、該当するものを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

※ケースによって異なるかと思いますが、一般的によくあるものについてお選びください。

<input type="checkbox"/>	1. 学生の個別特性や学生対応についての協議が十分でない
<input type="checkbox"/>	2. 実習計画（実習意義・実習目的含む）についての協議が十分でない
<input type="checkbox"/>	3. 実習評価についての協議が十分でない
<input type="checkbox"/>	4. 学生への教育・指導が不十分
<input type="checkbox"/>	5. 実習時の個別指導（スーパービジョン）をどのようにするかわからない
<input type="checkbox"/>	6. 巡回指導時の教員へのフィードバックについて、何を伝えればよいかわからない
<input type="checkbox"/>	7. 巡回指導後の教員からの情報提供が十分でない
<input type="checkbox"/>	8. 養成校への連絡がなかなかつかない
<input type="checkbox"/>	9. 実習施設からの要望が、養成校に受け入れられないことがある
<input type="checkbox"/>	10. 教員との関係構築が難しい（気を使い言いたいことが言えない等）
<input type="checkbox"/>	11. その他 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	12. 特に困りごとはない

#### \*問20.

【実習ⅠⅡ全般】  
実習を受け入れる上での実習生に対する困りごとについて、該当するものを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

※ケースによって異なるかと思いますが、一般的によくあるものについてお選びください。

<input type="checkbox"/>	1. 事前学習（介護に関する知識・技術）が不十分
<input type="checkbox"/>	2. 事前学習（介護業界や介護にかかる制度等）が不十分
<input type="checkbox"/>	3. マナー（挨拶・時間管理・服装などの一般常識）が不十分
<input type="checkbox"/>	4. 利用者に対する声掛けが不十分
<input type="checkbox"/>	5. 利用者に対する気づきの観点が不十分
<input type="checkbox"/>	6. 不明点があった場合、職員に質問する姿勢がない
<input type="checkbox"/>	7. 自らの意見を発することが少ない
<input type="checkbox"/>	8. 指示した事柄を理解していない
<input type="checkbox"/>	9. 指示したこと以外の事柄を相談なく対応してしまう
<input type="checkbox"/>	10. 自発的な学びの姿勢が感じられない
<input type="checkbox"/>	11. その他 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	12. 特に困りごとはない

V. 貴施設・事業所の基礎情報

**\*問21.**  
貴施設・事業所の経営主体を教えてください。（1つ選択）

<input type="radio"/>	1. 社会福祉法人
<input type="radio"/>	2. 医療法人（財団・社団・特別・社会医療法人）
<input type="radio"/>	3. 都道府県・市区町村／財団法人（公益・一般）
<input type="radio"/>	4. 社団法人（公益・一般）
<input type="radio"/>	5. 学校法人
<input type="radio"/>	6. 特定非営利活動法人（NPO法人）
<input type="radio"/>	7. 営利法人（株式会社、有限会社、合名会社、合資会社、合同会社など）
<input type="radio"/>	8. その他

**\*問22.**  
貴施設・事業所のサービス種別を教えてください。（1つ選択）

※複数サービスを併設している場合、最もあてはまるものについてお答えください。

<input type="radio"/>	1. 訪問介護
<input type="radio"/>	2. 通所介護
<input type="radio"/>	3. 通所リハビリテーション
<input type="radio"/>	4. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
<input type="radio"/>	5. 介護老人保健施設
<input type="radio"/>	6. 養護老人ホーム
<input type="radio"/>	7. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
<input type="radio"/>	8. 小規模多機能型居宅介護
<input type="radio"/>	9. 看護小規模多機能型居宅介護
<input type="radio"/>	10. 特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、ケアハウス等）
<input type="radio"/>	11. 障害者支援施設
<input type="radio"/>	12. その他施設・事業所

**\*問23.**  
貴施設・事業所／貴法人における職員能力開発・教育等の実践状況を教えてください。（あてはまるものすべて選択）

<input type="checkbox"/>	1. 教育・研修計画の策定
<input type="checkbox"/>	2. 教育・研修担当または担当部署の明確化
<input type="checkbox"/>	3. 施設・事業所内研修の充実（内容や頻度の充実）
<input type="checkbox"/>	4. 外部研修への参加支援：参加費補助
<input type="checkbox"/>	5. 外部研修への参加支援：業務との時間調整
<input type="checkbox"/>	6. 能力開発のための休職・休暇制度
<input type="checkbox"/>	7. 資格者のキャリアアップの道筋提示
<input type="checkbox"/>	8. 有資格者がキャリアアップするための制度・仕組みの構築
<input type="checkbox"/>	9. キャリアラダーの作成・周知

<input type="checkbox"/>	10. キャリアカウンセリングの窓口の設置
<input type="checkbox"/>	11. 資格・経験を考慮した給与体系の構築
<input type="checkbox"/>	12. 人事考課の実施・評価基準の明確化
<input type="checkbox"/>	13. その他
<input type="checkbox"/>	14. 特にない

**問24.**  
貴施設・事業所の職員数を教えてください。（数値）

※2023年9月1日時点の状況を記入してください。  
※「0人」の場合は「0」と入力してください。

<b>*問24.1.1.</b> 介護福祉士資格を持つ正規職員数	<input type="text"/>	人（半角数字、実人数）
<b>*問24.1.2.</b> うち実習指導者講習会修了者数	<input type="text"/>	人（半角数字、実人数）
<b>*問24.2.1.</b> 介護福祉士資格を持たない正規職員数	<input type="text"/>	人（半角数字、実人数）
<b>*問24.2.2.</b> うち実習指導者講習会修了者数	<input type="text"/>	人（半角数字、実人数）


**問25.**  
今後、養成校と実習施設の連携についてのヒアリングをお願いする可能性があります。もし、ヒアリングをお受けいただける場合は、弊社からご連絡する際に使用しますので、ご所属・ご担当名・ご連絡先等をご教示ください。

<b>問25.1.</b> 施設・事業所名	<input type="text"/>
<b>問25.2.</b> ご担当者名	<input type="text"/>
<b>問25.3.</b> 電話番号 ※ハイフン(-)なしで入力してください	<input type="text"/> (半角数字)

<b>問25.4.</b> メールアドレス	<input type="text"/> (半角英数字)
<b>問25.4.</b> メールアドレス (恐れ入りますが確認のため、もう一度、ご入力をお願いいたします。)	<input type="text"/> (半角英数字)

以上でアンケートは終了です。  
ご協力ありがとうございました。

最後に入力漏れがないかどうかの確認をしていただき、

 をクリックしてください。



令和5年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)

介護福祉士養成校と実習施設が連携した実習のあり方に関する調査研究  
報告書

令和6年3月

PwC コンサルティング合同会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-2-1

Otemachi One タワー

TEL : 03-6257-0700(代表)

[JOB コード:Y214]

